

魚住古窯跡群

(本文編)

1983.3

兵庫県教育委員会

はじめに

兵庫県内には、現在埋蔵文化財の包蔵地として確認されている遺跡は、約15,000の多くを数えることができ、かくれた未発見の遺跡も含めるとなおその数が増えることが想像できます。

又、兵庫県内の遺跡のうちでも、須恵器の窯跡は、他府県に比べて数多く遺されております。

この報告書は、一般国道250号線（明姫幹線）建設に伴い明石市魚住町中尾において、昭和54年度に多量の土器とともに発見された須恵器窯跡の発掘調査の記録をとりまとめたものです。

本書が、中世須恵器生産の時代背景等の解明にいささかでもお役に立てればと思う次第です。

最後になりましたが、発掘調査はもちろん報告書作成にあたって、何かと御協力をいただいた方々に対し厚く御礼を申しあげます。

昭和58年3月

兵庫県教育長 森脇 隆

例　　言

1. 本書は、兵庫県明石幹線建設事務所から事業委託を受け、兵庫県教育委員会が調査主体となり実施した明石市魚住町中尾字向ノ原、字中原、国道250号線バイパス明石幹線道予定地内に所在した、古墳跡6基の発掘調査報告書【本文編】である。
2. 発掘調査は昭和54年4月16日から10月25日まで行ない、昭和55年4月1日から昭和58年3月31日までを遺物整理・報告書刊行に費した。
遺物整理は、昭和56年8月31日までを王子分館で行ない、引き続き魚住分館で報告書刊行までを行なった。
3. 発掘調査及び遺物整理は兵庫県教育委員会 大村敬通、水口富夫が担当者となり実施した。
発掘調査時の遺構実測は、二葉滋、黒田慶一、吉川啓子、遺物の検査・復元は主として、吉川、和田早弓子、森岡みゆき、山田法子、清水洋子、遺物実測は、吉川、和田、森岡、清水があたった。
4. 遺構の製図は、和田、遺物の製図は、吉川、和田、森岡、清水が行なった。
5. 本書の編集は大村、水口が行なった。執筆分担は以下の通りである。

第1章、第2章……………大村敬通
第1章 調査日誌……………吉川啓子
第3章……………水口富夫
特別研究 I……………三辻利一
特別研究 II……………中島正志、牧野智志恵、洪谷秀敏、夏原信義

6. 本書に使用した航空写真は、日本産業航空によるものである。遺構写真的撮影は、人材が行ない、遺物写真的撮影は、森昭氏にお願いした。
7. 本書で使用した水準高は、明石幹線の工事用BMであり、方位は、磁北を示す。
8. 本書を作成するにあたり、調査中、整理期間中多くの方々に指導及び助言をいただき、記して感謝の意を表わすものである。

赤松啓介・伊藤晃・今里幾次・上原真人・植山茂・大矢義明・木村捷三郎・黒田義隆・

誰原芳秀・清水芳裕・鈴木重治・千田稔・高井憲三郎・丹治康明・手塚直樹・寺島孝一
・植崎彰一・橋本久和・藤井直正・藤沢一夫・森内秀造・吉岡康暢・山下俊郎・渡辺九
一郎、明石市教育委員会、紀伊風土記の丘資料館

また、瀬あがりの片口鉢は以下の方々から借用した。

明石市教育委員会、井上繁広、多木達見店、㈱西海醤油、岩本三郎

目 次

はじめに

例 言

| | |
|---|----|
| 第 1 章 調査に至る経過..... | 1 |
| 調査日誌..... | 5 |
| 第 2 章 遺跡の位置と環境 | |
| (i) 地理的環境..... | 15 |
| (ii) 歴史的環境..... | 15 |
| (iii) 魚住古窯跡の分布..... | 18 |
| (iv) 窯跡の名称..... | 18 |
| (v) 窯跡の数と支群..... | 19 |
| (vi) 海あがりの魚住焼..... | 20 |
| (vii) 東播における古窯跡群..... | 22 |
| (viii) 魚住焼の消費地遺跡..... | 24 |
| (ix) 小 結..... | 25 |
| 第 3 章 造構と遺物 | |
| 第 1 節 造 構 | |
| (i) 29 号 窯..... | 29 |
| (ii) 38 号 窯..... | 30 |
| (iii) 33 号 窯..... | 31 |
| (iv) 32 号 窯..... | 32 |
| (v) 22 号 窯..... | 33 |
| (vi) 30 号 窯..... | 35 |
| (vii) 小 結..... | 35 |
| 第 2 節 遺 物 | |
| (i) 小 盆..... | 39 |
| (ii) 塚 | 39 |
| (iii) 体 | 41 |
| (iv) 鏊 | 43 |
| (v) 瓦 | 47 |
| (vi) 瓦 | 47 |
| (vii) 小 結..... | 54 |
| 特別研究 | |
| I 魚住古窯跡群出土須恵器の胎土分析 三辻利一..... | 66 |
| II 魚住古窯跡群の考古地磁気による年代測定 中島正志、牧野智志郎、渋谷秀敏、夏原信義..... | 78 |
| 遺物観察表..... | 85 |

挿図目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 第 1 図 調査前遺景(昭和54年4月)..... | 1 |
| 第 2 図 魚住町中尾若宮出土遺物..... | 2 |
| 第 3 図 調査後遺景(昭和58年2月)..... | 3 |
| 第 4 図 魚住古窯跡群と周辺の遺跡..... | 17 |
| 第 5 図 遺物実測図(海あがり)..... | 22 |
| 第 6 図 和歌山県大藏経塚出土甕..... | 25 |
| 第 7 図 水田盛土断面..... | 29 |
| 第 8 図 ボーリング調査風景..... | 29 |
| 第 9 図 小皿・塊鉢・形態図..... | 40 |
| 第 10 図 仔D類形態図..... | 43 |
| 第 11 図 變形態図(1)..... | 45 |
| 第 12 図 變形態図(2)..... | 46 |
| 第 13 図 變形態図(3)..... | 47 |
| 第 14 図 變形態図(4)..... | 48 |
| 第 15 図 變形態外面押印文様、綾衫文拓影..... | 49 |
| 第 16 図 軒平瓦拓影..... | 51 |
| 第 17 図 平瓦拓影..... | 53 |
| 第 18 図 平瓦拓影..... | 54 |

表目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 第 1 表 魚住古窯跡群一覧表..... | 21 |
| 第 2 表 窯体別遺構一覧表..... | 37 |
| 第 3 表 遺構別出土土器一覧表..... | 58 |
| 第 4 表 容器別小皿・塊鉢量表..... | 59 |
| 第 5 表 形態別鉢法量表..... | 60 |
| 第 6 表 38・29・22号、出土遺物器種別割合..... | 63 |
| 第 7 表 30号出土遺物器種別割合..... | 64 |
| 第 8 表 38・29・22・30号、出土遺物器種別割合..... | 64 |

第1章 調査に至る経過

昭和53年6月、明石市都市計画部の企画によって、明石市魚住町中尾地区に土地区画整理事業の計画が検討され始まるとともに、都市計画部から市教育委員会社会教育課に対して、同計画地区内に埋蔵文化財の有無について問い合わせがあった。当地区内には、地元の人達の間で古墳があると言い伝えがあるところから、市教育委員会社会教育課の埋蔵文化財担当専門職員である山下俊郎氏が、現地確認調査を実施したところ、該当する古墳は存在しないことが判明した。しかし皿池谷の踏査によって、谷の水田面に須恵器が多量に散布していることが確認され、須恵器の痕跡の可能性があるため、皿池谷全域及びその周辺部の詳しい分布調査を実施する必要が生じた。この踏査結果にもとづいて、再度都市計画部と協議を実施した結果、土地区画整理事業予定地の中央部は明姫幹線道路の建設予定地で、昭和55年度工事が実施されることも判明した。このため埋蔵文化財の取り扱いは、櫛の取り入れ後に、明石市都市計画部、同市教育委員会及び県土木部加古川土木事務所、県教育委員会の四者にて協議することで一致した。

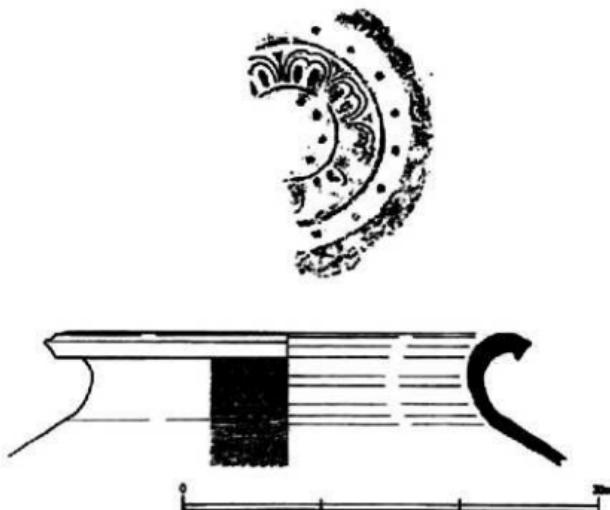


第1図 調査前遠景（昭和54年4月）

昭和54年1月23日、四者による埋蔵文化財の取り扱いについての協議において、前回の現地踏査では須恵器の痕跡であるかどうか明らかにされていないところから、改めて早急に明郷幹線道路建設予定地を含む土地区画整理予定地区全域の詳細な分布調査を市教育委員会が都市計画部の委託を受けて実施することを決定した。

土地区画整理事業予定地の周辺部では、地元の人達、また一部の研究者の間で古くから須恵器の痕跡が存在することが、知られているところであるため、当然予定地内にも痕跡の存在が考えられるので、明石市教育委員会が主体となり、県教育委員会および神戸古代史研究会の協力によって、昭和54年3月17日から同3月25日までの間、分布調査を実施した。その結果、明郷幹線道路建設予定地内において、須恵器の痕跡が三基存在することが判明するとともに、土地区画整理事業予定地内においても、同様の痕跡及び瓦、須恵器が散布することが明確にされた。（第1図）

この遺跡詳細分布調査の結果を受けて再度、四者にて埋蔵文化財の取り扱いについて協議をしたところ、明郷幹線建設予定地については、県教育委員会が加古川土木事務所と協



第2図 忠住町中尾若宮出土遺物

調の上、調査を実施することが決定した。なお、土地区画整理事業予定地内については、明石市教育委員会が窓跡の有無、窓跡の数等を把握するため都の取り入れ後に調査を実施することも決定した。（第2図）

県教育委員会と加古川土木事務所の協議の結果、明細幹線道路予定地内の発掘調査は昭和54年4月当初から分布調査によって明らかにされた三基の窓跡及び須恵器散布地を対象に開始することになった。

発掘調査は、窓跡の存在が確認されている皿池谷の東西斜面に先がけ、西丘陵地全面にわたって道路建設予定地内の確認調査を実施した。その結果、皿池谷を除いた地域においては、遺物の散布は認められるが、窓跡及び遺構の存在が認められなかつたため、この地域の工事は差し支えないとの回答を出し、皿池谷に存在する窓跡の全面調査を昭和54年5月7日から開始した。当初三基の窓跡と考えられていたが、路線幅の全面発掘調査実施の結果、皿池谷西斜面に四基及び東斜面に二基の合計六基の須恵器窓跡を検出するに至ったため、当初に調査終了を予定していた6月末から大きくずれ込み、10月末まで延長することを余儀なくされ、10月25日をもって明細幹線建設予定地内の窓跡調査を全て終了した。なお、県教育委員会の調査方法及び調査結果に基づいて、明石市教育委員会が窓跡の確認



第3図 調査後遺景（昭和58年2月）

調査を実施することとなり、今後の調査の成り行きが注目されるところである。しかし、明石市教育委員会によって実施される確認調査及び全面発掘調査により、当魚住古窯跡の中尾川支群のほぼ全域が土地区画整理事業計画地内にあることが明らかにされたため、遺跡の取り扱いによって窯跡地形が変貌する可能性があった。

その後、昭和57年皿池を中心とする地区的区画整理事業が完成した結果、中尾川支群を形成していた皿池谷の古窯跡群の地形は大きく変化し、当地区一帯が魚住古窯跡群の中尾川支群の中心部にあたることは、今となっては判別出来ないくらい地形全体が変化している（第3図）。ことは、福岡における窯業生産地の解明にとって悲しむべきことである。

遺構の取り扱い

昭和54年10月1日、現地の調査も終了に近づいたので、県文化財保護審議委員会埋蔵部会を開催し調査報告をするとともに、遺構の取り扱いについて審議した結果、六基の窯跡の内、五基については近世の水田面形成時に大々的に破壊されているため、記録保存もやむを得ないという答申を受ける。なお、第38号窯跡については、須恵器窯としては全国的に類例をみない直筒式の煙管状窯で、小屋、堀を中心に焼成された窯跡であるため、この窯跡は、路線の法面に位置することを考え合わせて、加古川土木事務所と協議の結果、窯跡全面にわたって砂を入れ、地下保存することが決定した。また、加古川土木事務所との協議では、第38号窯の位置は、区画整理事業が実施されると、道路と平面になり区画整理事業地となるので、区画整理実施後の取り扱いについて、充分注意していくことが必要であることも確認し、今後の問題として、区画整理事業組合と充分連絡を取り合うことにした。

調査日誌

- 昭和54年 4.16 現地に事務所（プレハブ）を設置。
- 4.17～20 傾斜面掘用水路内の土器採集。
- 4.23 調査前全景写真。
測量開始。
- 4.24～25 測量。
- 4.26～27 皿池谷西斜面上に20m間隔で坪掘りをするため、杭打ち。
5. 1～ 7 西斜面上の坪掘り（18ヵ所）。
(各坪とも耕作土直下が地山、黄灰色シルトで、遺構はなかった。)
5. 8 雨のため作業中止。
5. 9 西側斜面の盛土畔を垂直に削り、窓の確認を開始する。
魚住町中尾字若宮で出土した瓦と土器を見学し、現地へ案内していただく。
- 5.10～14 用水路にヒューム管理設。
2m間隔にボーリング調査を開始する。
西斜面盛土畔削る。
- 5.15 盛土畔を削る途中赤色酸化層を確認し精査した結果、窓であることが判明した。32号窓とする。
- 5.16～17 32号窓の盛土畔断面を清掃し写真撮影後、土層断面図作成。
ボーリング調査にて22・30・29・33号窓の灰原の一部を確認。
- 5.18 32号窓盛土畔を掘り下げる。
ボーリング調査を続行して灰層の確認を急ぐ。
今里幾次氏来訪。（今里氏一若宮出土の軒丸瓦は平安後期ではないか。）
- 5.20 中世土器研究会・木村謙三郎、鈴木重治、中川信作、橋本久和、川越俊一氏、その他7氏来訪。
- 5.21 32号窓南側の盛土畔を削り、灰層を確認したので33号窓とした。
ボーリング調査を続行し、22・30号窓の灰原の範囲を1m間隔におさえる。

- 5.22～25 盛土駐畔を削る。
ボーリング調査。
32号窯を検出し、33号窯の調査にとりかかる。
- 5.25 是川長、藤井直正氏来訪。
- 5.28 西側丘陵中腹の水田面を精査中、30・34号窯体の一部を確認した。
(34号窯は後に隔壁のブロックであることが判明した。)
- 5.29 西側丘陵盛土駐畔の断面、写真撮影。
- 5.30 32・33号窯の窯体、写真撮影。
横断土層断面図作成。
- 「魚住古窯ニュース」1発行。
- 5.31 33号窯、窯体上面写真撮影。
35号窯包含層にて軒平瓦(566)出土。
6. 1 22号窯、窯体の全容がほぼわかる。
藤沢一夫氏来訪。(藤沢氏一若宮出土瓦は平安前期ではないか。波辺九一郎氏から明石三本松瓦窯の瓦を借りる。同瓦が四天王寺にあります。)
6. 4 50号窯の窯体上面、写真撮影。
6. 5 32号窯、窯体内掘り下げ。
6. 6 32号窯、プラン検出。
写真撮影。
川西宏幸、植山茂、喜谷美宣氏来訪。
(三条西殿出土の片口鉢は、赤根川タイプと判明。)
6. 7 雨のため作業中止。
6. 8 22号窯の盛土駐畔を削る途中、窯体横の灰原を検出。
明石市文化財保護審議委員会員、高井悌三郎、中田興吉、五十川伸矢氏来訪。(五十川氏一若宮出土瓦は平安後期ではないか。)
- 6.11 雨のため作業中止。
- 6.12・13 32号窯～33号窯の間、盛土駐畔横断土層断面図作成。
- 6.12 今里幾次氏来訪。
- 6.14～20 西側丘陵最上段の盛土駐畔削る。

- 6.15 吉田南遺跡調査団来訪。
『魚住古窯ニュース』2発行。
- 6.20 22号窯付近から初めて塊が出土する。
- 6.21 雨のため作業中止。
- 6.22~25 32号窯、床面検出。
写真撮影。
- 6.24 中世土器研究会にて藤原宮内中世遺構で、赤板川タイプの片口鉢確認。
- 6.25 洋明石窯業、井原氏来訪。
- 6.26 32号窯実測。
- 6.27~29 雨のため作業中止。
- 6.29 清水芳裕氏来訪。
『魚住古窯ニュース』3発行。
7. 1 田辺昭三氏来訪。
7. 2 32号窯~33号窯間の盛土駐畔が雨でくずれたため土のう積み。
7. 3 雨のため作業中止。
7. 4 22号窯~32号窯間の粘土採集跡掘り下げ。
22号窯~30号窯の盛土駐畔の横断土層断面図作成。
7. 5 33号窯、灰原上面まで掘り下げ。
喜谷美宣氏来訪。
7. 6 22号窯~30号窯盛土駐畔まで掘り下げ中、22号窯の北壁を検出。
7. 9 32号窯実測。
32号窯、33号窯、灰原写真撮影。
- 7.10・11 32号窯、レベル記入。（雨のため作業中止。）
- 7.12 33号窯、窯体の一部、前庭部を北側で検出。
- 7.13 33号窯体焚口掘り下げ、33号窯の灰原を水田下に確認。（ボーリング）
八賀晋氏来訪。
- 7.16 30号窯、窯体付近掘り下げ。
33号窯、窯体内掘り下げ。（焚口直上、三巴文瓦出土）

- 荻野繁春氏来訪。（荻野氏—33号窯の段差は熱効率を良くするためではないか。）
- 7.17 32号窯の灰層を再確認するため、ボーリング調査。
- 7.18～19 33号窯、窯体内、縦断面、横断面図作成後、駐とりはずし。
- 7.19 30号窯灰層の一部確認。（30号窯盛土で鬼瓦出土）
- 7.20 33号窯実測。
- 22号窯、窯体の一部（焚口？）を検出。
- 7.23 22号窯、全景写真撮影。
- 33号窯実測。
- 植原芳秀氏来訪。
- 7.24 33号窯平面図実測。
- 22号窯～30号窯間、盛土畦畔横断土層断面図作成。
- 7.25 22号窯、焚口部（？）写真撮影。
- 7.26 22号窯、窯体内掘り下げ開始。
- 横断面図完成。
- 30号窯、窯体平面プラン確認。
- 7.27 32号窯、窯体直上の土器取りあげ。
- 藤井直正氏来訪。
- 7.30 30号窯の盛土畦畔横断、蒙斯土層断面図作成。西側丘陵、遠景写真撮影。
- 7.31～8.8 22号窯～30号窯の間、掘り下げ。
- 7.31 陶芸家 竹内毅氏来訪。（竹内氏—鉢はロクロ：メビキ成形ではないか。）
8. 5 中尾庵禪寺で説明会。
8. 6 千田紳、山中一郎氏来訪。（千田氏—魚住泊は江井ヶ島港で、魚住港は沙持ち港として存在したのではないか。）
8. 7 木村捷三郎、舟木重治、百瀬正恒、中村浩氏来訪。（木村氏—若宮出土瓦は平安後期ではないか。東寺、四天王寺に出土例あり。平安京東市で赤根川支群の片口跡出土との情報が入る。軒平瓦（594）は平等院に出土例あり。平安後期。）

8. 8 竹内賤氏引率の陶藝教室の生徒来訪。
8. 9 33号窯、平面図作成。
- 29号窯、流土掘削開始。
山崎信二氏来訪。（山崎氏—興福寺に播磨系瓦の出土例あり。）
- 8.10 22号窯、窯体内掘り進む。
今里幾次氏来訪。
- 8.12 「魚住古窯ニムース」6の取材。（水槽試験場、林崎、東二見、西二見砲取材。）
- 8.20~22 22号窯、掘り下げ。
29号窯付近、盛土掘り下げる。
- 8.21 間便忠彦氏来訪。（潮あがりの櫛前鉢は15世紀のもの。）
- 8.22 上原真人氏来訪。（軒丸瓦、軒半瓦はともに12世紀末に近い。若宮出土瓦は古い型式を模倣したもので、平安末か？）
- 8.23 22号窯、窯体内掘り下げ終了。
29号窯の窯体一部検出。
- 8.24 29号窯、窯体上面検出。
22号窯～34号窯、遠景写真、22号窯全景写真撮影。
「魚住古窯ニムース」4発行。
- 8.27 29号窯、窯体内掘り下げ。
加古川史学会来訪。
- 8.28~29 西傾斜面、平板測量。
29号窯、盛土試断土層断面図作成。
ユンボにて、水田面耕上掘り下げ。
- 8.28 木村捷三郎氏来訪。
- 8.30 29号窯、写真撮影。
割り付け、杭打ち。
波毛康宏氏来訪。
- 8.31~9.3 29号窯、窯体内掘り下げ。
30号窯、灰原掘り下げ開始。
- 8.31 明石市都市計画課課長来訪。

- 「魚住古窯ニース」5発行。
9. 3 福本遺跡調査団、森郁夫、立木修、山本忠尚氏来訪。（森氏—若宮出土瓦は12世紀後半（終末）、13世紀には入らない。東御市加木屋町社山古窯より古い。三木松瓦窯の軒平瓦は平安後期より古い。）
9. 4 雨のため、午前中にて作業中止。
9. 5 22号窯～30号窯間灰原（？）掘り下げ。
22号窯、窯体実測。
29号窯、窯体内掘り下げ、横断面実測。
9. 6 22号窯、窯体内土器実測。
29号窯、窯体内横断土層断面図作成。
38号窯の窯体の一部と灰原確認。
- 「魚住古窯ニース」6発行。
9. 7～8 29号窯、灰原掘り下げ。
38号窯、灰原掘り下げ。（38号窯の窯体下へ灰原がもぐり込む。小皿、碗をともなら灰原を38号窯と決定。）
9. 10 38号窯の窯体のほとんど全容がわかり、直邊式の平窯であることが判明。
9. 11 38号窯、灰原横断、横断土層断面図作成。
藤沢一夫氏来訪。（藤沢氏—38号窯の類例は大阪府岸部瓦窯跡、南邑にあり。）
9. 12 38・29号窯、清掃。
29号窯、灰原掘り下げ。
森昭氏来訪。
- 「魚住古窯ニース」7発行。
9. 13 29・38号窯、全景写真撮影。
赤松啓介、吉岡康輔氏来訪。
9. 14 29号窯、実測。
荻野繁春、森田稔、吉田恵二、黒澤一郎、安田龍太郎、浅岡徹夫、葛野豊氏、明石瓦組合副理事 宇野氏来訪。
9. 15 29号窯、実測。

- 松庭和人、竹内歟氏来訪。
- 9.17 航空写真撮影。
「魚住古窯ミューズ」8発行。
- 9.18 38号窯、割り付け。
29号窯、窯体内土器実測。
30号窯、灰原（A・B区）掘り下げ。
- 9.19~21 30号窯、灰原掘り下げ。
灰原を掘り下げ途中、30号窯の窯体の一部を検出。
- 9.19 B区灰原から軒平瓦（568）出土。
明石市市会議員 川崎九左衛門氏来訪。
- 9.22 30号窯、灰原を掘り進めるが土器大量に出土する。
岩本主輔、西村康氏来訪。
- 9.23~27 30号窯、灰原掘り下げ。
中世土器研究会メンバー来訪。
- 9.24 30号窯、灰原から軒丸瓦（554）出土。
- 9.26 鹿沢一大氏来訪。（藤沢氏—9.24出土の瓦は尊勝寺、平安宮内裏回廊で出土。）
- 9.28 雨のため作業中止。
藤井直正氏来訪。
- 9.29 22号窯、灰原掘り下げ。
- 9.30 田辺昭三氏来訪。
台風通過のため、灰原全面水びたしになる。
10. 1 38号窯、実測作業。
県文化財審議委員、視察。
10. 2 排水作業。
38号窯、実測作業。
10. 3 30号窯灰原、横断・縦断土層断面図作成。
22号窯、黒灰色土から下駄出土。
浪貝毅氏来訪。
10. 4 22号窯、灰原掘り下げ。

- 30号窯、窯体内横断土層断面図作成。
10. 5 30号窯、断面取りはずし後、全景写真。
10. 6 29・38号窯、全景写真。（カラー写真）
木村捷三郎、百瀬正恒氏来訪。
10. 8 22号窯、灰原の横断・横断土層断面図作成。
横断トレンチ掘り下げ開始。
10. 9 33号窯、前底部掘り下げ。
30号窯、南体平面図作成。
横断トレンチ掘り下げ完了。
福岡澄男氏来訪。
- 10.10 33号窯、前底部灰原掘り下げ終了。
22号窯、前底部灰原掘り下げ終了。
30号窯、平面図終了。
真野修氏来訪。（真野氏一堀の頭部叩き日は神出古跡出土遺物に
もあり。）
- 10.11 22号窯、前底部掘り下げ。
地磁気測定。（福井大 中島正志氏）
『魚住古窯ニュース』9・10発行。
- 10.12 33号窯、前底部土層断面図作成。
吐覆分析を行なう。（神戸大 真野茂氏）
植山茂、佐々木英夫、南博史氏来訪。
(植山氏一軒丸瓦(551)は尊勝寺、平安宮内裏回廊と同瓦と認
定。)
- 10.13 29・30号窯、窯体床面断ち割り。
遺物1,200箱、王子分館へ搬出。
藤沢一夫、殿治氏来訪。
- 10.15 33号窯、窯体断ち割り。
30号窯、灰原掘り下げ。
- 10.16 30号窯、灰原横断壁をはずす。
鶴崎彰一、荻野繁春、藤沢一夫氏来訪。

- 10.17 30号窯、灰原横断土層断面図作成。
30号窯、床面下灰層を確認する。
- 10.18～19 雨のため作業中止。
- 10.18 上原真人・中村友博氏来訪。（上原氏一軒丸瓦（551）は尊勝寺、
平安宮内裏回廊出土瓦と同形。）
- 10.20 現場の排水作業。
- 29・30・33号窯、窯体断ち割り図作成。
- 10.21 地元住民180名を対象に現地説明会。
- 10.22 30号窯、灰原横断・縱断土層図作成、写真撮影。
- 10.23 22号窯、窯体断ち割り。
38号窯、前庭部灰原掘り下げ。
- 10.24 22号窯、前庭部灰原断面掘り下げ。
東側斜面、平板測量。
- 10.25 29号窯、南灰原、30号窯、床下灰層掘り下げ。
38号窯、窯体内の石を取り上げ、砂をつめて埋めもどす。
- 10.26 遺物を王子分館に搬出、現地引上げ。
三辻利一氏に粘土分析資料を渡す。

整 理 日 誌

- 昭和55年 4. 1～ 9.30 土器洗い、キーリング。（コンテナ約2,000箱）
10. 1～10.19 塚・小皿の接合、復元。
10.20～昭和56年 1.14
30号窯、鉢の接合、復元。
1.16～昭和57年 4. 7
30号窯、甕の接合、復元。
3.16～ 3.25
30号窯、鉢・甕・瓦類写真撮影。
4. 8～ 8.31 22号窯、甕の接合、復元。
30号窯、鉢の実測。
9. 1～12. 2 22号窯、鉢の接合、復元。
22号窯、鉢・甕、30号窯、甕の実測。
11.30～12. 2
22・29・30号窯、鉢・甕・小皿・塚写真撮影。
12. 3～12.28 土器の重量計測。
昭和58年 1.15～ トレース、レイアウト、表作成、單稿執筆。
1.12～ 1.18 特殊遺物、赤根川支群の遺物写真撮影。

第2章 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

明石川と加古川に挟まれた平坦な丘陵地は、東西20km、南北15kmにわたり、西から東へ向って緩やかに高まり、神戸市西区神出町の雌岡山、雄岡山へとつながる地域一帯が印南野台地と呼ばれている。

この印南野台地は、雄岡山を中心とする高位段丘から播磨灘にいたる中位段丘で、第四期洪積層から形成された播磨層群である。^①魚住古窯跡群はこの印南野台地の東部に位置し、中位段丘が侵食によって形成された侵蝕谷の赤根川および中尾川の河口部、標高10m前後の傾斜面裾部の西八木層に築かれた古窯跡群である。

(2) 歴史的環境

印南野台地は、直良信夫氏によって日本最古の人頭と考えられる明石原人骨が発見された台地であり、この地域周辺部において人間が生活をした事を知る各時代の遺跡、および遺物が存在することが古くからよく知られている。

これらの遺跡を各時代ごとに見ると、先に述べたように直良信夫氏によって明石原人が明石市大久保町西八木の鹿岸で発見されたことは、歴史上あまりにも有名な事実である。旧石器時代のナイフ形石器が出土した遺跡として知られている大久保町大庭の喰ヶ池、野々池、大久保町西脇鳥ヶ谷、大久保町谷八木水白、松ノ内等の遺跡があり、野々池遺跡においては有舌尖頭器が知られ、明石市内における唯一の出土品である。

縄文時代の遺跡では、草創期と考えられる円形搔器、彫形削器、長脚石器、楔形石器を出土する金ヶ崎遺跡や、井島Ⅰ形のナイフ形石器、石核、刮片、井島Ⅲ形の石器、縄文早期の鐵面石器が採集された長坂寺寺山遺跡があげられる。なお大久保町大庭字高丘の丘陵中にある新築池から、縄文時代と考えられる石器が多段採集されている。しかしこの遺跡は、住宅・都市整備公団による団地造成によって消滅した。縄文土器が出土する遺跡は藤江字出の上（青電神社境内）がある。出の上遺跡は、藤江川の河口部に突き出た印南野台地の兩端部に位置し、縄文中期前半の船之元式、中期後半の里木Ⅱ式、後期の元住吉山Ⅰ式にあたる石器、楔形石器、磨石等が縄文土器とともに伴出している。

一方弥生時代の遺跡では、明石川右岸の丘陵において木葉状文のある菱形土器を出土する播磨吉田遺跡が著名である。魚住古窯跡群の周辺においては、顯著な遺跡は発見されて

いないが、藤江山王神社東丘陵地や、藤江の新池から石獅が多數発見されているにもかかわらず、両遺跡とも土器は1片も伴うことなく石獅のみであるので、遺跡の性格等は明らかでない。

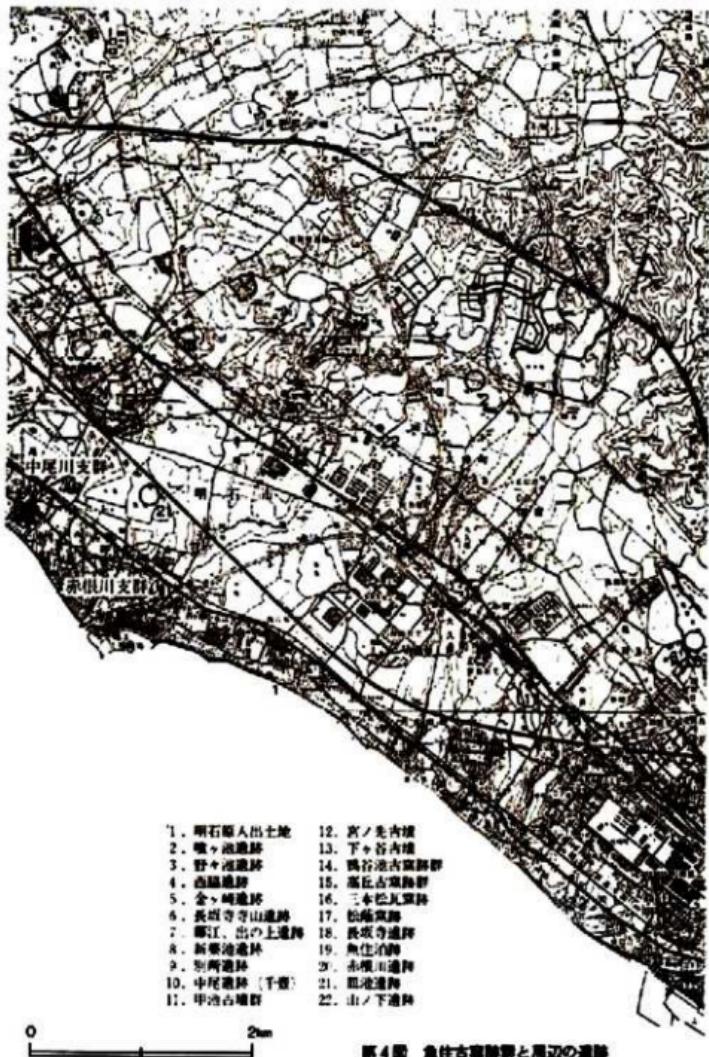
古墳時代になると明石川流域では、古墳時代中期の大塚古墳を中心に、後期の古墳群が急激に増加し、これは本遺跡の周辺部においても同様である。藤江川の上流約1.2kmの左岸、西斜面の頂上部に古くから地元の人達によって中尾千壹古墳と呼ばれていた古墳の存在が、昭和44年11月に山陽新幹線の工事により明らかになったため、明石市教育委員会によって新たに発掘調査が実施された結果、直径16~18mの円墳で、円筒埴輪、器物埴輪、須恵器の出土から木棺直葬を主体とする6世紀前半頃に築造された古墳であることが明らかにされた。この中尾千壹古墳の対岸丘陵の甲塚中ににおいても埴輪片、須恵器片の散在が認められるところから、同塚にも同時期にあたる古墳が存在したとも考えられる。さらに甲塚の北にある新池中にも、横穴式石室を主体とする円墳および木棺直葬を主体としたと思われる円墳が4基わずかに存在していたが、明石市地方卸売市場の建設に先立ち調査された。しかし横穴式石室である円墳は設計変更によって、明石市指定文化財として市場内に保存され活用されている。今日では、藤江川流域において保存存続している唯一の古墳である。

藤江川流域同様に谷八木川流域においても埴輪をもつ後期古墳は、谷八木川左岸の丘陵西斜面の突端部、大久保町宮ノ先住吉神社内の宮ノ先古墳、谷八木川右岸の南北に延びた丘陵の南端部に下ヶ谷古墳が存在していたが、神社建設ならびに大久保小学校建設によって破壊され、今日では認めることが出来ない。

古墳時代の生産遺跡として、魚住町鶴谷池に長脚二段透しを中心とする須恵器窯が4基確認されているが、この地も丘陵の開墾によって破壊が進み、窯本体の存在は認めにくいか、灰塗等の存在は認めることができる。また大久保町高丘においては、7世紀を中心とする古窯跡が20基存在していたが、住宅団地土取り工事、道路建設によって消滅したものを受け、住宅団地の公園内の5基が県指定文化財として保存されている。このうち特に高丘古窯跡から出土した鶴尾は、四天王寺から出土している鶴尾との結びつきについて、地方窯の解明にあたり重要な資料である。

さらに、魚住古窯跡を解明していくについて、上記の鶴谷池古窯跡及び高丘古窯跡は、歴史上重要な意義を示す生産遺跡である。

瓦窯跡では大久保町林崎に三本松瓦窯跡があり、平安時代後期を中心に鎌倉時代に生産



第4図 魚住古墳群と周辺の遺跡

され京都へ運ばれ使用されていることが判明している。なお江戸時代から明治にいたる露跡として大久保町松蔭新田には、登り窓が存在する。

奈良時代に入ると、魚住町長坂寺に長坂寺跡と呼ばれる寺院跡の存在が知られていたが、現在では駅東跡として長坂寺遺跡と言われている。

一方奈良時代に僧行基が西国、四国への交通の要衝として築いたといわれる播磨、揖津の5泊の1つである「魚住泊」は、長らく南港として放置されていたが、積重灘によって修復された「魚住泊」が、現代の江井ヶ島港あるいは中尾川河口部に比定されていることは、魚住焼の流通経路を解明していくにあたり、非常に重要であることは言うまでもない。大久保町江井ヶ島の赤根川遺跡では、弥生式土器、土師器、須恵器の内でも崎型が多量に出土し、須恵器は明らかに魚住古窯跡群赤根川支群の第16号窯にあたる遺物であり、赤根川遺跡中に掘入していたものと思われる。

大久保町西島の田畠の周辺において、平安時代から鎌倉時代にいたる須恵器が多量に散布しているところから、この田池遺跡は魚住古窯跡の中尾川支群の窯業生産にかかわる人達の生活跡である可能性が充分考えられるが、今日では、水田耕作地及び池の開墾によって開発されているため、遺跡の把握が出来ずことに残念なことである。大久保町大久保字山ノ下に土場、羽釜を中心とした遺物の包含地が認められ、この地域に中世社会の生活を想させる遺跡が存在しているものと思われる。

(3) 魚住古窯跡の分布

中世須恵器遺跡の分布する範囲は明石市大久保町江井ヶ島字東島から明石市魚住町西岡にいたる東西約2km、南北約1kmの地域で、中世在園の魚住莊に比定されている範囲である。

窯跡の分布は、大久保町江井ヶ島の赤根川流域および明石市魚住町中尾の中尾川流域の丘陵斜面に集中している。窯跡が分布する範囲は、播磨灘の海岸線から北へ約1.2kmまでの丘陵末端部であり、標高は海拔15m以内が予想される。今までのところ、窯跡の分布が認められるのは、赤根川および中尾川の河口部から約1km以内である。

(4) 窯跡の名称

魚住古窯跡は、我々が発掘調査を実施するまで、地元の人達および一部の研究者によっ

て、以前から赤根川河口部と中尾川河口部の周辺部において、須恵器窯跡の存在が明らかにされていたが、古窯跡群としての名称はなかった。

現在までに海岸部の侵蝕等による自然的要因と、住宅地の造成による人為的要因のため、窯跡の存在は調査・確認されることなく消滅していったが、日本各地における中世須恵器の研究が、椎崎彰一氏によって活発に進むとともに、播磨地域における魚住地区の窯跡についても、研究者の間で調査データを必要とする声がたかまってきた。

昭和53年頃になると、赤根川、中尾川流域において窯跡の数が増加したため、窯業生産地としての名称が考えられ始めた。古窯跡の分布する範囲が、中世魚住莊（住吉神社領）域にあたることから、魚住古窯跡群の名称をつけるとともに、赤根川流域に所在する窯跡を赤根川支群、また中尾川流域に所在する窯跡を中尾川支群と正式に命名した。

(5) 窯跡の数と支群

中尾川支群において窯跡として確認、発見した数は31基、また赤根川支群における窯跡は16基である。しかし、窯跡として確実に確認されている以外に、須恵器の散布地がかなり数多く認められることから、各々支群において現在確認されている以上の窯跡が存在していたことは明らかである。また今後、人為的な地形の変化等に伴ない発見される窯跡の数が増加するものと思われる。

なお分布調査の結果、今までのところ、窯跡129基が発見されているが、窯跡として確実に断定出来る基礎基準としたのは、(1)窯体及び灰原の確認 (2)焼龍片を含む須恵器の包含層および須恵器の散布地 (3)燒土、焼け割れ、焼けひずみ、なま焼けなど、焼成時の不良品を含む須恵器の包含層または散布地の3種類である。

中尾川支群

中位段丘が侵蝕によって出来た侵蝕谷である中尾川は、大久保丘陵の南端から播磨灘に流入し、北東から南西に向って出来た河幅の狭く浅い小河川である。この河川の河口部、西段丘において南北に延びた小支谷が形成され、この東西斜面を中心に、築かれた窯跡群が中尾川支群である。この支群の窯跡は、支谷の奥部に構築され、順次、支谷の入口部あるいは河口部へと移りゆく窯跡群である。

この中尾川支群の窯跡は、中位段丘の西八木層の粘土層中に集中され、魚住古窯跡群の中では、赤根川支群より先に操業された窯跡である。その操業開始は、神出古窯跡群の生産のピークが過ぎ、末期近くになった12世紀後期末頃にあたり、13世紀中頃にはすでに河

口部に移り、末期を迎えていたと思われる。この中尾川支群が河口部に移動した時期である13世紀中頃に、赤根川支群へ一部が移り、操業を開始したと考えられる。

赤根川支群

中尾川支群と同じように、中位段丘の侵蝕によって出来た侵蝕谷である赤根川は、大久保町大字高丘丘陵の支谷を源とし、東から西に向って出来た川幅の狭い河川である。

この占南跡群は、赤根川の西段丘に出来た小支谷を中心とした窓跡群である。中尾川支群の形成とは異なり、この窓跡群は海岸部の最も近い段丘の末端部に形成された小支谷の入口部に発達され、谷奥部へと順次移動したものと思われる。

中尾川支群において生産が終末を迎え、完全に生産を終了した13世紀後半から14世紀に入ると、赤根川支群の生産地は一つの限られた小支谷を中心に操業され、他の支谷に棄業されることになったと思われる。

その操業期間は、13世紀中頃から始まり14世紀末から15世紀前半頃まで続く。赤根川支群の最も生産が盛んであったと考えられる操業時期は、14世紀後半頃にあたると思われる。

中尾川支群および赤根川支群の窓跡は、近世から現在まで、水田耕作の開墾および明石瓦生産のための粘土採集として、耕地が開削されて来たため、窓跡の極く一部、または仄原の一部が僅かに残存している現況であるが、今後窓跡の増加する可能性が充分考えられる。しかし近年の住宅建設および区画整理事業に伴い、状況が変化している今日、早急に窓跡生産地としての状況把握とともに、中世須恵器研究、追求および解明のため文化財保護行政の指導が必要であろう。

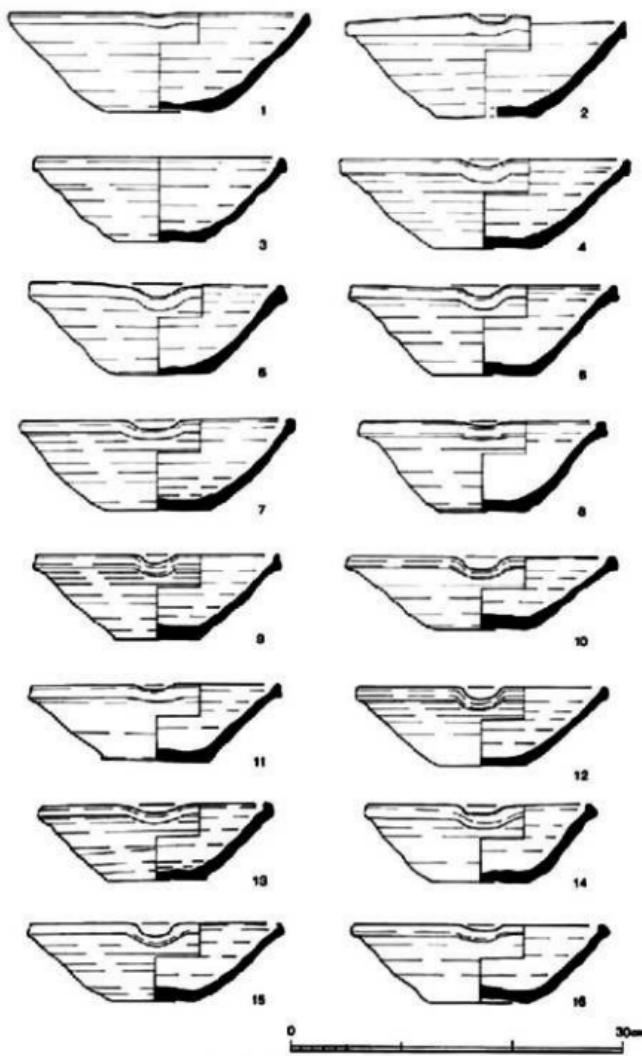
(6) 海あがりの魚住鏡

海あがりの遺物は、戰前から戰後にかけて、江井ヶ島、林崎、魚住、二見等の各漁港の漁師の人達によって、蜻蛉、鉢、スリ鉢（櫛前鏡）などがさかんに引き上げられ、漁港周辺の人達の置き物として個人の家に飾られていた。近年江井ヶ島を中心に、福島の「鹿ノ瀬」に蜻蛉とともに須恵器の片口鉢が多く引き上げられてくることが、新聞紙上で紹介されるようになり、文化遺産としての重要性も考えられる様になってきた。

その後、魚住古窓跡群の一部が道路工事および土地整理事業などとともに、文化財の発掘調査が開始されたことから、海あがりの片口鉢が考察される様になり、文化財としての価値が見直され、研究論文に紹介されるに至った。そこで今回、魚住古窓跡群調査

| 番号 | 所 在 地 | 集体灰層 | 組合瓦層 | 瓦 | 備考 |
|----|--------------|------|------|---|------------------------|
| 1 | 男石市大久保町西島字出張 | ○ | ○ | ○ | 赤根川支群 |
| 2 | タ | ○ | ○ | ○ | タ |
| 3 | ◆ 江井ヶ島字南ノ前 | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 4 | ◆ 字中スジ | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 5 | ◆ 字南ノ前 | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 6 | ◆ 字陸ノ後 | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 7 | ◆ 字谷ノ堂 | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 8 | ◆ 西島字中スジ | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 9 | ◆ 字萩ノ下 | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 10 | タ 字南ノ前 | ○ | ○ | ○ | タ |
| 11 | タ タ | ○ | ○ | ○ | タ |
| 12 | タ タ | ○ | ○ | ○ | タ |
| 13 | タ タ | ○ | ○ | ○ | タ |
| 14 | タ タ | ○ | ○ | ○ | タ |
| 15 | タ タ | ○ | ○ | ○ | タ |
| 16 | ◆ 字下カジヤ | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 17 | ◆ 角住町中尾字向4原 | ○ | ○ | ○ | 中尾川支群(区画整理予定地内) |
| 18 | タ | ○ | ○ | ○ | タ |
| 19 | タ | ○ | ○ | ○ | タ |
| 20 | タ 字中原 | ○ | ○ | ○ | (明54. 兵庫県教育委員会調査) |
| 21 | タ ◆ | ○ | ○ | ○ | (明54. 兵庫県教育委員会調査) |
| 22 | タ ◆ | ○ | ○ | ○ | (明54. 兵庫県教育委員会調査) |
| 23 | ◆ 字北ヶ市 | ○ | ○ | ○ | ◆ |
| 24 | ◆ 字社山 | ○ | ○ | ○ | ◆ (中尾庄吉神社境内) |
| 25 | ◆ ◆ | ○ | ○ | ○ | ◆ (◆ ◆) |
| 26 | ◆ ◆ | ○ | ○ | ○ | ◆ (◆ ◆) |
| 27 | ◆ タ | ○ | ○ | ○ | ◆ (◆ ◆) |
| 28 | ◆ 字中原 | ○ | ○ | ○ | (区画整理予定地内) |
| 29 | ◆ 字向4原 | ○ | ○ | ○ | (明54. 兵庫県教育委員会調査) |
| 30 | ◆ 字中原 | ○ | ○ | ○ | (明54. 兵庫県教育委員会調査) |
| 31 | ◆ 字北ヶ市 | ○ | ○ | ○ | (区画整理予定地内) |
| 32 | ◆ 字中原 | ○ | ○ | ○ | (明54. 兵庫県教育委員会調査) |
| 33 | タ ◆ | ○ | ○ | ○ | (明54. 兵庫県教育委員会調査) |
| 34 | | | | | |
| 35 | タ ◆ | ○ | ○ | ○ | 中尾川支群(区画整理予定地内) |
| 36 | ◆ 字長谷 | ○ | ○ | ○ | ◆ 79. 5. 18 新免見 |
| 37 | | | | | |
| 38 | ◆ 字向4原 | ○ | ○ | ○ | 中尾川支群(明54. 兵庫県教育委員会調査) |
| 39 | ◆ ◆ | ○ | ○ | ○ | ◆ |

第1表 魚住古窯跡調査表



第5図 遺物実測図(溝あがり)

報告書に、海あがり片口鉢として報告するものである。今まで江井ヶ島神から魚住神にかけて引き上げられた片口鉢は、おびただしい個数にあがると思われる。同様に淡路の一宮町富島神においても、魚住鉢の片口鉢が他の遺物と同じく引き上げられているので、ここにその一部を紹介しておくものである。（第5図）

(1)は、海あがりの片口鉢の中で最古の時期に比定されるもので、また器形として最大のものである。口径27.0cm、器高9.0cm、底径12.0cmのもので、底部から口径部にかけて体部が少し内凹ぎみである。口唇は丸く細めている。内外面とも横ナギによる調整仕上げにより、器壁は薄く底部は未切り仕上げである。(2)～(6)は、器高及び口径が小さくなり、器壁部は肥厚し、内部で段をつけたのち直立して端部を丸く納め、器壁の内外面ともクロ調整が顯著で、回転糸切り底である。

この種の片口鉢は、海あがりの主流を占めるもので、淡路富島神(5)(6)のものも、この片口鉢にあたり、14世紀後半に赤根川支群の窯に上って焼成されたものである。

(7)は全体的に小さく、口縁部外面において体部が大きく外反したのち内側に入りこみ、内面では大きく内側におれ曲る器形であり、魚住古窯跡群の最終末にあたるもので、赤根川支群の窯によって生産されたものである。その生産年代は14世紀末頃から15世紀初期にあたると思われる。

(7) 東播における古窯跡群

魚住古窯跡群を考察するうえで、この古窯跡群に先だつ窯業生産地の追求が重要な位置を占めることは、東目の一致するところであるので、神出古窯跡群および三木市内に所在する古窯跡群について、若干報告するものである。

神出古窯跡群は、神戸市西区神出町に所在する雄岡山および雌岡山の南斜面を中心に、高位段丘が侵蝕によってできた東西に入りこんだ支谷の斜面に築かれた窯跡である。

行政区画から言うと、神出町東、北、老ノロ、田井に広がり約70基からなり、今後調査が進むに従って窯跡の総数が増加して、100基を超えるものと思われる。

この古窯跡群は、近年各地（特に京都市内）の古代から中世にかけての発掘調査が盛んに実施されるようになってから、東播系窯跡（神出窯跡）として注目されるようになってきた。特に瓦が焼成されることは、消費地である京都の寺院跡から出土する同范瓦から、院政關係と直結する歴史資料として、一部の研究者によって追求されてきた。この窯跡の存在が広く知られる様になったのは、1971年9月に山口卓也、橋本亮一氏によって「老ノロ窯跡遺跡」として報告されたのが、神出古窯跡群の第一報であった。その後、真野修氏

によって（「龍岡山周辺の古窯址—神出古窯跡群」「神戸古代史」1-3）が報告され、神出古窯跡が全国的に広く研究者によって注目される様になったのである。

さらに、上原真人氏によって京都市内出土瓦からみた「播磨系瓦」の研究に伴い、各地の瓦屋の追求がなされ、論文としてまとめられたことが、神出古窯跡群の重要性を決定的とした。また、山口報告から今日まで神出古窯跡の発掘調査が実施されることがなかったために、窯跡の実態が把握できなかつたのであるが、農業基盤整備事業に伴つて、神戸市教育委員会が事前の発掘調査を、昭和56年から毎年実施するようになった結果、急速に古窯跡の実態が把握され、今後この調査の成果に基づいて、古代後期における窯業生産の解明が進むものと思われる。なお各々の窯跡から、須恵器生産に伴い瓦が多量に生産されていることが解明されつつある。当古窯跡群の操業期間は、11世紀末頃に開始され、少くとも13世紀前半までは存続していたと考えられているが、各地における消費地との結びつきについて過研が待たれる。

三木市内の古窯跡群が報告されたのは、是川長氏が『三木市史』の中で「三木市の古窯と経緯」として紹介されたのが最初である。この古窯跡群は、神出古窯跡群および魚住古窯跡群とは分布傾向が異なり、広範囲の中に分散的に窯が存在している。この古窯跡群によって生産された瓦は、神出、魚住古窯跡群と同様に、京都六勝寺を中心に寺院関係に伴う遺跡から出土していることが、上原真人氏によって明確にされた。今日まで発掘調査による遺物、遺構の確認はなかつたが、神戸市と同様に農業基盤整備事業に伴つて、三木市教育委員会によって調査が実施されている現在、三木市における古窯跡群の解明に重要な資料として整理、追求されることが待たれるのである。窯跡から出土する遺物は、糸切り底の小さな高台を持ち体部が内凹する壺を中心に、回転糸切り底の平底である片口鉢や壺及び小皿、瓦等があり、神出古窯跡に先行して操業が開始され、操業期間は11世紀から12世紀末にあたるものと考えられている。

(8) 魚住焼の消費地遺跡

近年日本全国各地において、古代末期から中世の遺跡を道路建設、宅地造成、ビル建設、河川改修および整備事業に伴う埋蔵文化財を、工事に先立ち事前の発掘調査が盛んに実施されて来た結果、中世遺構に伴い中世須恵器の出土が、各遺跡に多量に含まれていることが明らかにされつつある。特に京都市内においては、ビル建設等による都市改造が実施されるようになり、中世遺跡の実態が把握されつつあるなかで、遺跡に伴う各種の遺物の中に、中世須恵器も含まれていることが判明してきた。

これらの状況の中で、兵庫県教育委員会によって昭和54年4月から10月にかけて、西日本における唯一の中世須恵器窯である魚住古窯跡群の一部を、道路建設工事に先立ち発掘調査を実施した結果、西日本各地の中世遺跡で魚住焼の製品が出土していることが判明してきた。

それは私達が直接現地で確認したり、あるいは兵庫県教育委員会に持ち込まれる遺物を実見してきた結果であるが、製品の流通範囲は、実に広範囲にわたっている。今までに私達が確認したところでは、西は山口県から瀬戸内海地域一帯および大阪湾周辺、さらに淀川周辺地から京都、滋賀、奈良県橿原市内、和歌山県紀の川流域(第6図)、鎌倉市の中世遺跡までおよび、最近では船崎彰一氏の確認によると埼玉県内にまで東限が拡がっていることが明らかにされつつある。今後ますます各地の遺跡から、魚住古窯跡群で生産された片口鉢が出土することは明らかであろう。この広範囲において出土する魚住焼の生産年代は、12世紀後半から13世紀前半の時期のものは極く限られた遺跡からしか発見確認されていないが、赤

根川支群における

13世紀後半から14世紀後半の製品が
圧倒的多数を占め
ていることが明らかになつてゐる。

(b) 小 結

近年、全国各地の中世遺跡の調査によって、須恵器が発見、報告されるに従い、これらの須恵器の一部は魚住古窯跡において焼成されたことが明らかになって来た。この魚住古



第6図 和歌山県大膳経塚出土器

焼跡によって焼成された製品が中世須恵器と呼ばれる様になったのは、植崎彰一氏が「シンボジウム15、16世紀を中心とした出土陶磁」における「出土日本陶磁研究史」の表の中で、須恵器系の焼物と称したのが最初である。

平安時代後期に入ると、中国磁器が当時の社会支配層であった宮廷、寺院、両衛などで使用される一方、日常雜器である中世須恵器は民衆の間にも広く使用されるようになった。農業生産技術が向上することによって糧壠、大甕などが利用され需要がたかまり、丹波焼に依存する傾向が強くなり、丹波焼は13世紀後半に生産が大きく展開する。一方、中世須恵器は次第に壺の生産が減少し日常生活に必要な調理器具である控鉢、摺鉢の増産へと生産体制が移行していったのである。

これらの現象は、商品流通に付随する貨幣、商業資本、市場等の多くの関連した問題と深くかかわっている。さらに地方圏内の市場成立、商品交換の展開等にも関連し、社会経済史上重要な問題である。今後、魚住古窯跡群を通じて、中世社会に於ける商品流通経済史の解明に一步でも近づき研究を続けていく必要がある。

註

- ① 鹿田和夫、笠間太郎「六甲山地とその周辺の地質」 1971年。
- ② 兵庫県教育委員会「特別地域埋蔵文化財分布地図及び地名表」第2分冊 1973年。
- ③ ①と同じ。
- ④ ③と同じ。
- ⑤ ③と同じ。
- ⑥ ③と同じ。
- ⑦ 旧石器調査会「兵庫県旧石器時代遺跡分布図および地名表」「旧石器考古学」21 1980年10月。
- ⑧ 春成秀爾「男石市西脇遺跡の旧石器」「旧石器考古学」21 1980年10月。
- ⑨ ⑥と同じ。
- ⑩ 福井英治「男石高丘地区埋蔵文化財調査結果」 兵庫県教育委員会 1968年3月。
- ⑪ ⑩と同じ。
- ⑫ 「男石市史」上巻 1960年3月。
- ⑬ ⑫と同じ。
- ⑭ 大村敬通、西口和彦撰集。

- 中谷雅治「明石市中尾古墳調査報告」兵庫県教育委員会 1971年3月。
- ⑩と同じ。
- ⑪と同じ。
- 伊藤亮、大村敬通「明石高丘地区埋蔵文化財調査報告」兵庫県教育委員会 1968年3月。
- 浅間俊夫、大村敬通「高丘古墳群調査報告」Ⅱ 兵庫県教育委員会 1970年3月。
- 井内功、井内謙「高丘第三古墳発掘調査報告」明石市教育委員会。
- 島田清「播磨国東部地方に於ける出土古瓦に就いて」「夢露」第19冊 「総合古瓦研究」第2分冊 1939年。
- 鎌谷木三次「播磨上代寺院社の研究」1942年。
- 高橋英久二「古代の山陽道」「小林行雄博士古稀記念論文集」1962年7月。
- 千田松「埋もれた港」学生社 1979年5月。
- 千田松「魚住泊の位置」「魚住古窯ニュース」6 1979年9月。
- 藤井裕介、高島信之「明石市赤穂川流域の調査」「兵庫県埋蔵文化財調査報告」第3集 1976年3月。
- 井内功氏の御好意により大村敬通が実現。
- 石田善人「在阪史の研究Ⅲ、Ⅳ」「兵庫史学」26号・27号。
竹内理三編「在阪分布図」下巻 吉川弘文館。
- 「魚住村誌」 1957年9月。
赤松啓介「東播の古窯址について」「魚住古窯ニュース」9.10 1979年10月。
- 黒田義蔵「明石市史」上巻 1960年3月。
竹内理三編「在阪分布図」下巻 吉川弘文館。
- 大村敬通「魚住古窯跡」「魚住古窯ニュース」2 1979年6月。
- ⑭と同じ
- 魚住古窯跡調査事務所「魚住古窯ニュース」1~11 1979年5月~1982年6月。
大村敬通「播磨の古代窯」「日本やきもの集成」9 平凡社 1981年9月。
- 1975年9月17日の神戸新聞紙上に、江井ヶ島神から漁船の底引き網によって、蛸壺とともに片口鉢が引き上げられたことが紹介されている。
- 1977年12月22日の毎日新聞により、江井ヶ島神から水深6mから7mの所で、海底ケーブルの埋設中に、建設省の職員により蛸壺と片口鉢多腹が発見され、沈船の積み荷か住吉神社の神事に係わるものかと紹介されている。
- 井上繁広「井上コレクションの海あがり遺物」「淡河東文化資料」第28号 1981年10月。
- 淡路の北淡町歴史民俗資料館には、地元の漁師によって富島沖から引き上げられた片口鉢が、多数保管展示されている。江井ヶ島神から出土する遺物についても、地元明石市の貴

料として保管展示する必要が急がれる。

- ④ 上原真人「古代末期における瓦生産体制の変革」『古代研究』 13-14 1978年5月。
- ⑤ 神戸市教育委員会「神出古窯址群、宮ノ頭文群」現地説明会資料 1981年8月。
- ⑥ 神戸市教育委員会「神出古窯址群、釜ノ口文群」現地説明会資料 1981年12月。
- ⑦ ①に同じ。
- ⑧ 三木市教育委員会「三木市布原5号窯址確認調査概要報告」。

第3章 遺構と遺物

第1節 遺構

今回の調査に入る以前に分布調査によって確認されていた路線内の窯は畠池谷西側斜面1基と東側斜面2基の計3基であった。しかし畠斜面(特に西側)畑の用水路には夥しい量の土器片が散乱し、小一時間も採取すればコンテナ2~3箱にもなるという状況から、この窯がかなり大規模なものであり、窯数も当初考えていた数より多く存在するのではないかということが予想された。

こうした状況をふまえ、調査予定をたてるために早急に窯数の実態を把握する必要が生じたため、試掘棒を用い水田下に残る灰層の残存状況を1m間隔でチェックするとともに、水田畦畔を垂直に切り落し、盛土を除去することによって窯数を把握するという方法を用いた。

これらの調査の結果、ボーリング調査で灰層は西側斜面2カ所、東側斜面1カ所が確認でき、水田畦畔の盛土除去によって西側斜面で4基の窯が判明した。以下各窯について記述する。

(1) 29号窯(図版5)

本窯は通称畠池谷の東側丘陵に位置している。現在、木田が丘陵の上面と谷部に開発されていて、窯は煙道部と焚口・焼焼部を欠損している。窯は直上に水田が開発されていないため西側丘陵のような盛土は存在せず、約60cmの沃土を除去すると窯の上面を検出することができた。窯体の残存長5.15mで、窯体の残存レベルは8.5m~10.0mの範囲にあり、中軸線はN95°Eを測る。



第7図 水田盛土断面



第8図 ポーリング調査風景

本窓の存在する位置は微地形をし細に観察すると、29号窓の南側で若干の谷状のくぼみが認められ、北側、すなわち29号窓へ向うにつれて丘陵は張りだす。29号窓を視にして丘陵の張り出しは東へ折れ、39号窓へ連続する。したがって29号窓は、丘陵の張り出し部突端に築かれているといえる。

窓体床面の最大幅は1.6mを測り、煙道部方向へ向うにつれて狭くなる。現存する最も狭い床面幅は1.3mである。本窓の床面傾斜角は今回調査した中では最も急傾斜で焼成部下方は16°、上方は20°を測る。

窓体の縱断面も割りの際、床面下に杭痕が確認できた。確認した杭頭は6本で、窓体の中軸線に沿ってほぼ等間隔に打ち込まれている。杭頭の直徑はいずれも4~6cmで、杭間の距離は下方の杭から76cm、79cm、66cm、185cm、78cmである。下方から4本目と5本目の間隔が長いのは断ち割りの際、杭頭を掘り切ってしまった可能性が強く、本来は70~80cmの間隔で杭が打たれたのではないかと推定できる。

側壁は張り壁が1枚存在する。少くとも残存している範囲では、床面を再構築した痕跡はない。床面は青色還元層が約4cmあり、その下には約8cmの厚さで赤色酸化層が存在する。床面の約12cm下で地山である黄灰色シルト層に達する。

床面直上には、完形の平瓦2点、小型片口鉢を含む遺物が残存していた。

さて、本窓が焚口・燃焼室を欠損しているのは上記の通りであるが、中軸線に沿って断面を灰層堆積地点まで観察すると、この29号窓の存在する東側丘陵の張り出しは予想外に大きく（図版4）、下方谷筋の水田を開拓する際にかなりの範囲で灰層を削平したことわかる。したがって西側に灰層の存在する範囲は東西2.3m、南北11.0mの扇形で、厚さも13cm程にしかすぎない。一方、窓体の南側には灰がほとんどまじらない黄灰色粘土を主体とする南灰原が存在する。29号窓に伴う遺物のほとんどはこの地点から出土したものである。

(ii) 38号窓（図版5）

本窓は29号窓の北側約5.5mに位置する。窓の形態は直焰式の平窓（煙管状窓）であり、焚口・燃焼室と焼成室をもっている。今回の調査では、燃焼室の上方は削平されていたものの、それ以下の部分は、良好な状態で検出できた。窓体の残存レベルは、8.9m~9.6mの間にあり、中軸線はN 55°Eになる。焚口は高さ40cmの梢円形を呈し燃焼室と連続する。燃焼室は奥行46cm、高さ40cmを測る。奥壁は焼成室へ向って外側に傾斜し、左右の張り壁

はほぼ垂直に立ち上る。焼成室の床面下は厚さ4cmの青色還元層と、厚さ2cmの赤色酸化層が認められる。焼成室は燃焼室との間を径44×50cmの椭円形に狭くしづり、大小7個の御影石の角砾で間仕切りを施している。仕切り方法は基本的には3個の大きな石（最大長約15cm）と中型の石（最大長約10cm）で仕切りを行い、2個の小さな石あるいは小皿片で空間を埋めている。石材は熱を受け、いずれもよく焼けている。

焼成室と燃焼室の間をしづり込んでいるのは間仕切り用の石材を安定させるためであろう。今回検出できた焼成室最上端の内径は63×74cmの椭円形である。間仕切り用の石材の上から熱を受け変形した小皿が出土したことから、土器の焼成は石の上に積み重ねて行ったものと推察できる。

前庭部は焚口を下方に築く必要があるため、地山である黄灰色粘土をカットしてU字形のくぼみを作っている。焼成部に灰層が堆積し排水が困難になるため、灰層を左右にかき分け、構築当初にはなかった排水溝を中心部に設けている。灰層の堆積は最も厚いところで28cmを測る。

灰原内から出土する遺物は碗と小皿が圧倒的に多い。しかし窯体内埋土あるいは灰層では、片口鉢・甕・瓦の破片が出土した。南接する29号窯出土土器と対比すると29号窯と38号窯は同時期操業と考えられ、29号窯の遺物が入り込んだ可能性もある。いずれにしても、本窯が碗と小皿を主体に焼成する窯であることはまちがいない。

(II) 33号窯(図版6)

本窯は22号窯の南約20mに位置する。現耕作面を32号窯と同じくしているが窯体は32号窯より低い位置に焚口を構築しているため、焚口と前庭部の一部が現存している。このことは32号窯でも触れるが、本窯が丘陵の張り出し部に位置しているので焚口の位置が低くなつたのではないかと推定できる。

現存する窯体は焚口・燃焼部下方と焼成部の一部である。焼成部の一部は、道路用地境界付近で検出された。現存する窯体全長は6.3mである。焚口の下端の最大幅は74cmである。焚口から上方にかけて開き気味に側壁を構築しているが、約1.2m上方で側壁をしづって幅1.0mにしている。おそらくこの側壁の張り出した地点が、焚口と燃焼部を区分する地点であろう。窯体内部の灰層の盛り上がりは、ちょうどこの地点を境にしている(第2次操業時)。焚口内で杭痕を2本確認した。1本は窯体のほぼセンターにあたり、もう1本は北側壁の下端にあった。29号窯と同じような性格をもつものかどうか、今後の検討課題である。

窓縁部から焼成部にかけては明瞭な段差があり、明らかに二者を区別している。本窯においては、断面断ち割りで、焚口灰層あるいは床面が最低2時期にわたって堆积されていることがわかる。この段差は断面觀察によって、第1回目の窓縁時にすでに存在していたことが知れる。第1次構築時の段差は比高差約40cm（傾斜角30°）であるが、第2次の窓体構築の際、窓壁の縮片をつめて比高差約50cm（傾斜角36°）にしている。床面の焼け具合は、今回調査した6基の中でこの段差上端のはば水平になった地点がもっとも堅く焼けている。

側壁の張り壁は、焚口で認められ、第2次構築の補修壁が両面にある。

焼成部の床面幅を測定できる地点はないが比較的残存状態の良い地点から推定すれば幅約1.7m前後になる。焼成部の残存状態は良くなく、水田開発時の削平のためほとんど損失している。しかし上方は盛土駐畔下にもぐり込んでいて、路線内で床面の一部を検出することができた。焚口方向からこの床面へ向う推定床面傾斜角は12°である。

窓体内の残存する範囲で床面の標高を測定すると7.8m～9.3mである。また窓体の中軸線はN68°Eの方向を示す。

窓体床面直上にはほとんど遺物がなかったが、平瓦の完形品（図版71—613）を1点検出した。焚口灰層からは三巴文軒丸瓦（図版65—561）、小皿（図版19—204）が出土した。

灰原は窓体中軸線から南に約3m、北に約4m、東は1.2mの範囲で確認できた（東限は削平されているため残存長である）。残存する灰層の堆積は、最も厚い場所で30cmを測る。

(4) 32号窯（図版7）

本窯は、2号窯の南約10mに位置している。本窯の存在は当初まったく予想しておらず、駐畔の盛土を垂直に削り、盛土断面を観察する際に窓体の一部が断面にかかっていたことから明らかにされたものである。

窓体は2度にわたる破壊を受けている。第1回の破壊は、切り合ひ関係から判断すると、窓の上方（焼成部～煙道部）を爆破されたもので、7.0×7.0mのくぼ地になっている。このくぼ地は、おそらく良質の粘土を産する当地点付近の土を充填土として採集したためにできたものと考えられる。このくぼ地は後に、暗茶灰色土を入れて埋めその上に耕作土を入れて、現在は水田として利用されている。

第2回目の破壊は水田を造成する時のもので焚口から焼成窓の一部が削り取られている。

この地点の南壁は盛土駐跡中に多く散乱していた。この水田造成は33号窯を削平した時期と同じである。したがって本窯は、これらの破壊のため、焼成部の一部が床面幅1.55m、全長1.00mの範囲で残存しているだけである。

焼成部について調査すると、側壁は、南側が15cmの高さで残存しているのに対し、北側が削り取られている。このため焼成部床面幅は不明である。しかし焼成部のまわりの赤色酸化層を精査した際、径約9cmの炭化した杭痕があり、この杭痕を29号窯と同様の窯体中軸線に打たれた構築時の杭と考えると、床面幅は約1.6mと推定できる。

窯体の中軸線は側壁の方向から判断するとN38°Wで、32号窯や22号窯に比べて南に振れている。床面の傾斜角は約11°で床面の残存標高は9.4m～9.5mである。床面は1枚しか確認できず少くとも残存状況から判断すれば、2時期にわたる構築は認めえない。

先に述べたように、本窯は33号窯と同時期の水田開発時に焚口を損失している。33号窯の焚口が残存し、32号窯の焚口が削平されているのは、32号窯が33号窯より高位に構築されていたからである。また残存する地山の等高線から判断すると32号窯は若干くぼんだ谷地形を利用した窯で、そのため焚口を谷入り方向に向かなければならなかったのではないかと推定される。

床面直上からは甕の破片が出土した。口縁の形状から判断して3個体分(図版20-211、212)である。

灰原は、下段の水田盛土中に灰を含んだ層が若干存在するが、純粹な灰層とは考えにくく遺物も少ない。このため灰層の中心部は削り取られたと考えるべきであろう。窯体南側においても灰層が存在するが、33号窯の灰層との識別は困難であった。

(4) 22号窯(図版8)

本窯は32号窯の北約10mに位置する。窯体構築時の丘陵斜面は、すべて水田開発のため削られ階段状を呈する。水田駐跡以下の盛土は約1m堆積する。窯体は水田開発のため水平に削平され、煙道部と焚口を欠損している。このため窯体の全長は不明であるが、窯体残存長は5.40m、床面最大幅は1.45mを測る。

焼成部の床面幅は、約1.4mで焼成室を通じてほとんど変化がない。床面には傾斜変換点があり、床面傾斜角は、焚口から続く斜面は12°、傾斜変換点後は9°である。傾斜変換点は、33号窯と様相が異なり焼成室内にある。

床面は4カ所で断ち割りを行った。その結果、本窯は少くとも3回の大規模な改修を行

い、操作した痕跡がある。横断面 A-A' で観察すると第 1 次の操業は赤色離化層を残しているのみで、床面は第 2 次操業の際に削り取られ現存していない。赤色離化層は 6cm の厚さである。第 2 次操業は、第 1 次の操業床面を削り取り、14cm 程の焼土層、落壁の断片で積み土を行い、床面を構築している。第 1・第 2 次の操業は、同一窓の修復の一體と考えることができるが、第 3 次操業面は大規模な修復を加えている。第 3 次操業の床面は、一部第 2 次操業床面を削り取りその上に 7cm の積み土を行って構築している。第 3 次操業は側壁の張り壁の様子がよくわかる。南側壁で 2 度、北側壁で 1 度の張り壁修理を行っている。

横断 B-B' で観察すると、床面の構築は 2 回、張り壁は南側壁で 1 回、北側壁で 2 回行っている。横断 A-A' でみられたような 3 回にわたる複雑な操業の痕跡はなかった。

焼成室床面には約 2cm の厚さで、黄灰色砂層が堆積していた。こうした床面直上の砂の堆積は他窓においても認められたが、本窓における堆積が最も厚い。

第 1 次操業時の地山の掘り込みが著しく浅いのは、第 1 次操業時の灰層の堆積が側壁下端付近まで及んでいる断面 A-A' を観察すれば明らかである。第 3 次操業時の窓の掘り方は確認できなかった。

側壁は、削平をほとんど受けていない焼成部下方が、もっとも残存状態良好で、床面から最大 60cm の高さで残っている。天井高を推定するのは困難であるが、約 1m 位と推測できる。

焚口から床面傾斜変換点付近までは天井から落下した落壁が多量に認められた。

焚口は、後世の削平と円形掘り込みによって損失しているが、灰層が床面直上に堆積することから、最終操業時にこの地点が燃焼部の一部として機能していたかも知れない。

遺物は焚口から床面傾斜変換点までの一群（図版 21-220～228）と傾斜変換点から煙道方向にかけての一群（図版 21-229～図版 26-291）とに大別できる。焚口付近のものは 20cm 程の厚さで堆積する灰層直上で出土したものであり、本窓の製品の中ではもっとも新しい時期に属する。傾斜変換点から煙道方向にかけての一群には土器が密につまっており落壁と焼土の堆積は少ない。水田耕作土直下であるところから遺物が後に遺棄された可能性もある。

灰層は二つに分類できる。一つは側壁の下へもぐり込む灰層で、第 1 次・第 2 次の操業の窓の灰層と考えることができる。この側壁の下へもぐり込む灰層には遺物は多くない。しかし最終床面の下へもぐり込むと判断できる灰層（前庭部）には遺物を多く含む。第 3 次操業の窓の灰層は窓の下方に層状に分布し、更張まで約 7m である。

(6) 30号窯(図版9)

本窯は、22号窯の北方約13.5mに位置する。本窯も32号窯と同様、水田造成と瓦粘土採集によって窓体の一部を損失している。窓上方の焼成室の床面は、削り取られているが、赤色酸化層が現存しているので窓体の復元はある程度可能である。現存する窓体の全長は10.3m、中軸線はN87°Wを測る。

本窯の位置は、今回調査を実施した窓の中では最北端にあたり、西側の丘陵は30号窯の窓口付近を境にして35号窯へ向って谷部を形成している。旧地形を復元すれば、30号窯は、22号窯から連続する張り出し部の北端にあたる。

本窯の最終床面最大幅は1.40mである。床面はなだらかな傾斜をもって連続し、推定床面傾斜角は11°を測る。床面の断ち割りは6カ所で行った。そのうちもっとも良好な断面をA-A'で示す。床面は2枚存在し、第1次操業時の床面を削り取り第2次操業時の床面を構築している。第1次床面と第2次床面の間に22号窯、33号窯でみられたような窓壁の細片は入れ子にそのまま第1次床面上に第2次床面を構築している。

第2次床面の側壁は南北ともに3~15cmの厚さで張り壁をして窓の修復を行っている。床面の下は赤色酸化層が約10cm認められ、その下は黄灰色シルトである。

横断面において觀察すると、灰礫は明らかに側壁の下へもぐり込んでいる。横断面においては、床面下に灰層がもぐり込み、第1次操業時の窓口が現存の窓口より上方にあったものであることがわかる。

最終の窓構築の際、灰礫を張り込み、窓を塞いでいる。この際北側にだけ裏込めとして緑灰色の砂をつめている。今回調査した中でこうした「裏込め」の存在する例はない。

床面上には完形品の片口鉢4点と三足付土器が1点出土した。

灰原は窓体の横からひろがりを開始し、南へ4m、北へ4m、東へ11mの範囲で厚さ最大1.2mで堆積する。灰原は大きく分類すると、床面の下へもぐり込む床面下灰層、床面下灰層から続く純灰層1~3、純灰層の上に堆積する灰褐色砂に識別できる。

(7) 小結

今回調査を実施した古窯跡6基は、魚住古窯跡群のうち中尾川支群に属するものである。中尾川支群は、中尾川流域に派生するいくつかの小谷によってグループ分けを行うことが可能である。現在までの分布調査・発掘調査結果によれば、今回の調査地点である通称Ⅱ

池谷は、中尾川支群の中でもっとも窓数の多い地点である。今後、窓数の増加可能性はあるものの、窓数19基は中尾川支群中の約60%を占める。

黒池谷は本文中でもすでに触れたように、旧地形を復元すると、谷内でいくつかの小さな丘陵張り出し地点が存在する。現在はこの丘陵あるいは谷部を水田として利用しているため地形をとらえにくいが、調査結果によれば丘陵の張り出しが顯著であるのは、30号窓と29・38号窓の間である。特に29号窓の存在する丘陵は現丘陵端より5m程西へ張り出す。この地点と22号窓の地点との谷幅は約22mで、33号窓付近の谷幅が28mであるのに対して極端に狭くなる。窓の焚口はこうした丘陵の張り出し地点に設定するのを基本としているようである。窓の焚口が確定して張り出し地点に存在している例は29・30号窓の2基だけであるが33・22号窓の焚口も張り出し部に設定していると考えられ、32号窓のみ若干くぼんだ地形に存在しているのであろう。

次に窓体横に堆積する灰層について考えてみたい。窓体横に堆積する灰層が床面下にもぐり込む例が3例ある。

灰層が窓体横に厚く堆積するのは、窓体が地上に多く露出しているためである。少くとも、22号窓横断A-A'で観察する限り、この窓の第1次操業時の地山掘り下げは25cmにしかすぎず窓体のはんどんは地上に露出していたと考える方が妥当である。もっとも、こうした灰層が窓体下へもぐり込むのは焚口付近から約4m上方までであり、それ以上の埋没方向についてはこうした事実は認められない。

完全に窓体の下にもぐり込む灰層（例えば22号・30号窓）は窓体を再構築する際に側壁外側に堆積した灰層を窓体掘り方のベースとして再利用しているためである。順序を受けているために本来の灰層の厚さは確認できないが、もっとも良好に残存している22号窓では50cmを測る。

窓体構築時の掘り方の存在が30号窓において確認できた。30号窓の最終ベースの側壁裏には通常認められる赤色酸化層は存在せず、幅24.0cm、深さ50.0cmで砂層の堆積があった。この砂層は掘り方の真込めに使用されたと考えることができる。この砂層が確認できたのは30号窓のこの地点（長さ1.86m）だけである。

以上の窓の構築方法から考えるとこれらの窓は、意識的に傾斜面の床面を構築していたのではないかと推定できる。すなわち急傾斜の床面を意識的につくりだそうとすれば、傾斜面地形を利用した当窓群では、当然、焚口から燃焼部にかけての地山を深く掘り下げねばならない。ところが積み上あるいは灰層を深掘りして焚口・燃焼部を構築した痕跡は

なく、むしろ、地山の盛り下げは少ない。こうしたことから、当古窯跡群の窯は傾斜窓でも熱効率のある構造をもっていたと推定できる。33号窯の燃焼部と焼成部の段は傾斜窓面を利用して熱効率のよい窯をつくる施設の一端ではないかと考えられる。

床面傾斜度は別窓のように、すべて9~20°の範囲にある。ただし、窓口の残存状態が良好である33号窯では燃焼部と焼成部の境に傾斜度36°の急傾斜面が存在する。こうした燃焼部と焼成部の急傾斜面が、33号窯だけに特殊につくられたものかどうかは他の窯の窓口が欠損しているため不明である。この構造が焼成室の温度を上昇させるのに効果的だとすれば、これらの傾斜窓の窯にはもっとも適した構造といえるだろう。

38号窯は「煙管状窯」で直竪式の平窯である。窯で生産される製品のはほとんどが小皿・塊の須恵器であり、焼成は他窯と比べ若干甘い。南接する同時期の29号窯と器種によって焼き分けを行っていた可能性がある。類例は、神戸市神出古窯跡群^①、龍野市大障原古窯跡群^②、相生市相生古窯跡群^③、岡山県津の店遺跡^④においても確認されている。

最後に窯体内に残存していた土器についてふれておく。本古窯跡群出土の土器は、30号窯体内床面直上に三足付上場(370)、29号窯体内床面直上に羽釜(109)、22号窯体内に塊・小皿(229・330)がある。これらの器種は窯体内、灰層の出土品の中でも特異であり、形状、器形、焼成がまったく異質で当古窯跡群で生産されたものでないことは明らかである。これらの土器はいずれも窯体内で焼成を受けた痕跡がなく、他の器種と同時に焼成したものとは考えられない。じゅうぶんな類例調査はしていないので、窯廃絶時に祭祀を行った可能性を指摘することにとどめたい。

| | 種別 | 残存長 | 床面最高大幅 | 床面枚数 | 床面内側 傾斜角度 | 窓口 | 燃焼部 | 焼成部 | 灰層 |
|----|------|------|--------|------|--------------|----|-----|-----|----|
| 38 | 煙管状窯 | 0.95 | 0.74 | 1 | 水平 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 29 | 窯窓 | 5.15 | 1.6 | 1 | 16~20° | × | × | ○ | ○ |
| 33 | + | 6.3 | 1.7 | 2 | 12° | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 32 | + | 1.0 | 1.55 | 1 | 11° | × | × | ○ | ? |
| 22 | + | 5.4 | 1.45 | 3 | 9~12° | × | ○ | ○ | ○ |
| 30 | + | 10.3 | 1.37 | 2 | 11° | × | × | ○ | ○ |

第2表 窯体別遺跡一覧表

註

- ① 「魚住古窯ニース」3 1979年。
- ② 当初、22号窯と30号窯の中間に、窯壁あるいは焼土層が堆積していたので、34号窯と考えていたが、調査が進むにつれて、焼土層が盛土によるものであることがわかった。
- ③ 「煙管状窯」という名前については越崎彰一氏に御教示を受けた。
- ④ 瓯池谷付近の路土を瓦粘土として利用していたことは、現在明石瓦の生産を行っている地元への聞き込み調査によっている。
- ⑤ この時期に、消費地で器形遺の鉢・壺の出土は数多く報告されるも、埴・小温窯の出土例はほとんどない。器種によって搬出先が違っていたと考えるならば、38・29号窯のあり方は、製品の「焼き分け」＝「搬出先の違い」ととらえることができるかも知れない。
- ⑥ 神戸市教育委員会に御教示を得た。
- ⑦ 古田昇・齋藤淳介氏に教示を得た。
- ⑧ 鹿内秀造氏に教示を得た。
- ⑨ 関山県教育委員会 「小波西・沖の店跡」「山陽自動車道建設に伴う発掘調査」2
岡山県埋蔵文化財調査報告42 1981年。

第2節 遺 物

(1) 小 盆

小盆は、3種に分類できる。

A類は底部が高台気味に突出し、内縫する体部をもつ。口縁端部は丸く納める。底部は回転糸切りのものが多い。周縁は未調整である。口径8.0cm、器高2.0cmのものが一般的である。

38号窯灰原に多い。

B₁類は、平底の底部と内縫気味の体部をもつ。体部は、外反気味に口縁部へ近くものもある。口縁端部は丸く納める。底部は回転糸切りのものが多く、周縁は未調整である。口径7.7cm、器高1.9cmのものが一般的である。

38号窯灰原、29号窯灰原に多い。

B₂類は、平底の底部と内縫気味の体部をもつ。口縁端部は丸く納める。底部は回転糸切りであり、周縁は未調整である。器高は低い。口径7.5cm、器高1.3cmのものが一般的である。

22号窯灰原、30号窯灰原に多い。

(2) 塚

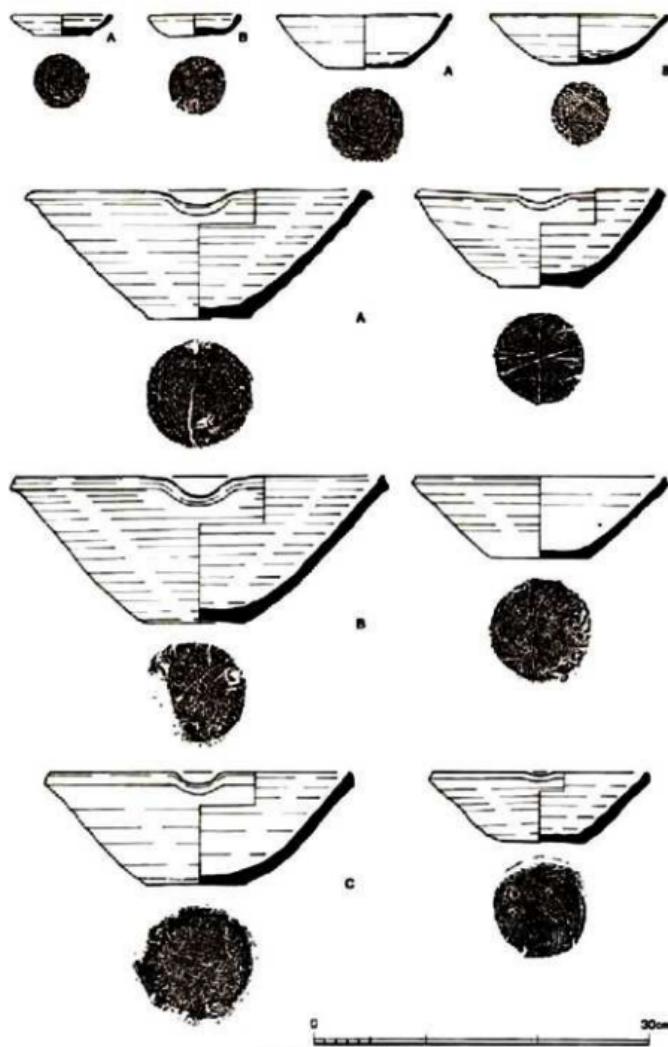
塚は、2種に分類できる。

A類は、深い器高と底部に円盤状の突出部をもつものである。体部は内縫気味に立ち上り、口縁端部は丸く納める。底部は回転糸切りであり、周縁は未調整のままである。口径15.5cm、器高5.1cmのものが一般的である。

38号窯灰原、29号窯灰原出土品に多い。

B類は、体部が内縫気味に立ち上るもの、A類に比べて外開きになり、より直線的である。口縁端部は、丸く納める。底部は回転糸切りで、周縁は未調整であるが平底である。口径15.9cm、器高4.4cmのものが一般的である。

22号窯灰原、30号窯灰原出土品に多い。



第9圖 小丘・坑・溝形態図

(1) 鈎

鉢には、口部の数によって、片口鉢・両口鉢・三口鉢に分類できる。このうち、量的にもっとも多いものは片口鉢で製品のはとんどを占める。確実に両口鉢として扱うことができたものは4点(115, 178, 431, 492)で、三口鉢は1点(339)のみである。

鉢はその形態手法によって大きく4種に分類することが可能であるが、以下の点では形態・成形手法と同じくしている。

D類を除いて、いずれのタイプにも大型品と小型品がある。

口縁部はタイプによってさまざまであるが、口部は成形後2本の指(親指と人差し指あるいは中指)で外方をつまんで突出させ内面をナデて仕上げている。口部外側に指押えの痕跡を明瞭に残すものも多い。

体部は、すべてヨコナデによって調整されており、内面の仕上げナデは胴部下方に継続に施すものがほとんどである。内面に仕上げナデを施した後、不定方向の刷毛目によって仕上げている例がごくわずかであるが存在する。

底部は、回転糸切りと静止糸切りがあり、回転糸切りであるものが大多数を占める。底部周縁は、ヘラ削りやナデによって整形している例もあるが、分類別時に詳しく述べる。底部には、高台をもつものもあるが、すべて糸切り後の貼りつけ高台である。以上が片口鉢に共通する特徴で、タイプ別に分類する規準は主に口縁部の変化を基本としている。

A類

A類は、大きく分ければ2種類ある。

A₁類は、口縁内側をつまみ出さずに端面に統く。体部内側と口縁端面とは、ほぼ直角をなしている。体部内側と口縁端部は、緩く腰をもつものと丸くゆるやかに統くものがある。口縁端面は、直線的なものと凹面をもつものがある。端面と体部外側は、端部を外側に明瞭に突出させて連続する。端部を突出させるため、体部上方は大きくくぼんで端部と連続する。

A₂類は、口縁端部外側をA₁類ほど突出させない。口縁端面は、上下とも直線的あるいは丸味をもつ。

A類に共通する特徴として、次の点をあげることができる。体部は、底部からいくぶん内側氣味に立ち上るが、口縁部にかけては、ほぼ直線的に統く。体部は、ヨコナデによって成形される際の凹凸が明瞭である。体部内側の仕上げナデは、ていねいに施されるのが

一般的であり、網目状の道具を用いている場合もある。底部は、完全な平底ではなく高台気味に突出させる。糸切りは、回転糸切りと静止糸切りとがあり、小型品のはほとんどは静止糸切りである。底部調節は、糸切り後のヘラ削り・ナデ仕上げを施すことはほとんどなく未調整のままである。

A類の器種は、片口鉢がほとんどを占めると考えられる。大型鉢の法量は、口径27.6～33.1cm・器高9.2～13.6cmの範囲にあり、口径30.6cm・器高11.4cmが一般的である。

(第5表)

A類は、29号高岡灰原出土品にもっとも多い。

B類

B類の特徴は、口縁端面を上下につまみ出すことにある。このため、口縁端面は凹面をもつものが圧倒的に多い。体部内側と口縁端面は鋭角をなす。口縁端面の外側へのつまみ出しはA類ほど著しくなく、むしろ端部を上方へつまみ出すことが特徴的で、外側へのつまみ出しがないものもある。

体部は、底部から内閣気味に立ち上り直線的に口縁部へ続くものと、そのまま内閣気味に続くものがある。体部は、ヨコナゲ成形される際の凹凸面が著しい。体部内側の仕上げナデは、A類ほどではないがついでに施される。仕上げナデは、内面下方で特に多い。底部は、高台気味に突出させる例もあるが、周縁をナデ仕上げあるいはヘラ削りして平底であるものがほとんどを占める。糸切りは回転糸切りと静止糸切りがあるが回転糸切りが圧倒的に多い。

B類は、器種が豊富である。貼り付け高台付片口鉢・両口鉢・三口鉢はいずれもこのタイプである。口径・器高も大型化し、口径34.5cm・器高13.7cm以上のものは、B類にしか存在しない。法量は、口径28.6～38.1cm・器高9.4～15.3cmの範囲にあり口径32.8cm・器高12.3cmが一般的である。

30号窓床面下灰原出土品にもっとも多い。

C類

C類の特徴は、口縁端面が丸くなり上下へのつまみ出しをほとんどしないことにある。体部内側と口縁端面は鋭角をなす。体部内面と口縁端部内側の接点は斜をなすことが多いのに対し、体部外面と端部外側との接点は丸く仕上げる。

体部は、底部から内閣気味に立ち上り、直線的に口縁部へと連続する。底部からの立ち上りは、B類に比べて内閣気味になり、内閣は体部中位まで及ぶ。体部は、ヨコナゲ成形

される窓の凹凸面があまりなく、仕上げナデも痕跡が明瞭でない。しかし、C類は、底部内面から調部中位にかけて指押えによるナデが特徴的で、上記の内窓気味の立ち上りや仕上げナデを施さないのはこの手法が原因である。底部は回転糸切りが正側的に多く、周縁はヘラ削り・ナデによって、ていねいに平底にしている。

C類の器種は、片口鉢に限定できる。大型鉢の法量は口径25.6~34.3cm・器高8.0~13.0cmの範囲にあり、口径28.8cm・器高10.7cmが一般的である。

22号窓体内、30号窓体内にもっとも多い。

D類

D類は、内窓して立ち上る体部と水平に近い口縁部をもつたを特徴とし、形態によって3種に分類できる。

D₁類は、回転糸切りの底部をもち、内窓して立ち上る体部をもつ。口縁端面はやや外傾し、端部は外方に若干つまみ出す。内外面ともヨコナデによって成形し胎上も良好である(531)。

D₂類は、内窓して立ち上る体部をもち、口縁端面をやや外傾させる点ではD₁類と共通するが、底部は丸底である。内外ともヨコナデによって成形されている(532)。

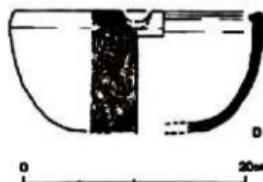
D₃類は、内窓して立ち上る体部をもち、口縁端面はやや内傾し、端部をやや内側につまみ出す。内面ヨコナデであるが、体部外面に叩きを施す。

(1) D₁類

今回調査した窓の中で、38号を除いて他の窓は、量に差はあるものの明らかに型を焼成している。

魚住吉窓跡群で生産された窓は、以下の点で同じ特徴を示す。口縁部から頭部にかけては、内外ともヨコナデ仕上げを施す。ヨコナデの際、頭部の平行条線叩きがじゅうぶんに消されずに残っている場合が多い。調部の外曲は、平行条線の叩きによって成形されるものがほとんどであるが、少量のものについては長方形の格子目叩きが認められる。調部は長胴形と丸胴形がある。底部はすべて丸底である。¹⁰

窓の成形技法は、以下の順序で行なっていると推定できる。



第10図 鉢D類形態図

- (1) 粘土盤を巻き上げて、目的に応じた形をつくる。
- (2) 頭部を平行条線印を板で叩く。
- (3) 頭部をヨコナデして、口縁部を整形する。
- (4) 脚部を叩いて成形する。
- (5) 底部を叩いて丸底にする。
- (6) 内面を仕上げる。

(1)の成形の際、底部は口縁部のヨコナデ仕上げに都合が良いため、平底のままであろうと考えられる。

(2)の頭部の平行条線印きは、口縁部のヨコナデ成形によって一部消されていることや脚部の印きが上に施されることから、これらの成形段階に先行すると考えられる。特に、頭部から外反して口縁部にいたるカーブに連続する印きが施されるのは、極めて特殊な印き具でも存在しないかぎり不可能である。このため、成形(1)の段階では、頭部は直立もしくは内傾していたと考えた方が妥当である。頭部の平行条線印きは、脚部が格子目印きの場合でも同様な印き目が施される。これは、頭部と脚部がまったく別の工程であることを示している。

(3)は、(2)で頭部に印きを施した後、口縁部をヨコナデ成形する。ヨコナデ成形は、頭部下端の内外まで施すのが通例である。この時点で口縁部の成形はすべて終了していたと考えるべきだろう。

(4)の印きは、脚部全体に施している。平行条線の印き目は粗いもの（3～4mm間隔）と細かいもの（2mm間隔）がある。平行条線印きの他には長方形の格子目印きがある。これらの印きは、頭部下端のヨコナデの上に一部重複して施されている。

(5)の底部成形は、脚部の印き跡め後底部を叩き出す。底部は丸底である。底部の器壁は、脚部に比べて厚いのが通例である。底部の印き目は重なり合い、印き目真も脚部ほど深くない。

(6)の内面の仕上げは、横位あるいは斜めのユビナデ仕上げと横位のナデ仕上げ、頭毛目仕上げがある。これらの仕上げのうち、もっとも多いものは横位のナデ仕上げである。ただし、大型壺については脚部下半をユビナデ仕上げ、上半を横位ナデによって調整しており、小型壺については、内面全体を横位ナデで仕上げている。頭毛目仕上げを内面全体に施した例はまれであり、むしろ横位ナデの後部分的につけられることが多い。

A 類(第11・12図)

口縁部は外方に開き氣味になり、上端は上方につまみ出す。頸部上半から口縁下端へは丸味をもって連続する場合が多い。頸部のヨコナデは、ていねいでなく平行条線の印き目が明瞭に残る。

胴部の印き目は、粗い(3~4mm間隔)。

29号南灰原、22号灰原出土品が多い。

A類とよく似た口縁形態をもつもので超大型のもの(363~365)がある。

B 類(第13図)

口縁部は、ほぼ垂直に立ち上り平坦面をもつ。端面は上下とも若干つまみ出す。体部は丸形容のものが多く、球形に

近い形態を示す。頸部のヨコナデはていねいにナデられ、平行条線印きは、ほぼ消されている。胴部の印き目は粗い(3mm間隔)。22号窯体内出土品が多い。

C 類(第14図)

口縁部は外傾気味の面をもち、上端はつまみ出し下端は垂下する。頸部のナデはてい



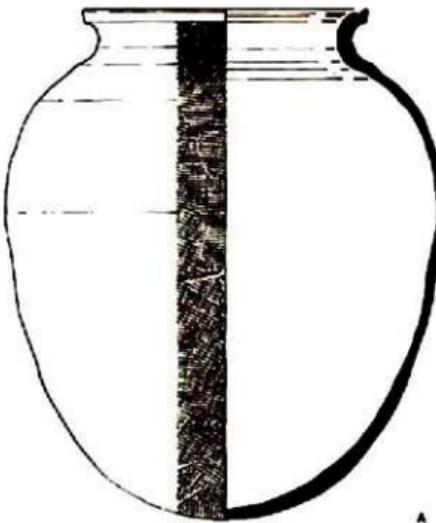
0 30cm

第13圖 覆 形 壺 図(1) 下段 底部拓影

ねいになされるが、印
き目はうすく残存す
る。中型甕、大型甕が
多い。肩部は、肩部を
大きく張りだした丸制
形である。平行条線の
印き目は細かい（2mm
以下）。

腹制部には、平行印
き目の上に押印文様を
付けているものがあ
る。第15図上段に付さ
れる文様は3種ある。
第15図第1段左2つの
押印文は文様の形状が
4ヶ葉状になったもの
で、4個の卵形文が中
心を同一にして結合し
ている。第15図第1段
右3つの押印文は文様
の形状が車輪状になっ
ている。文様は2周の
同心円を4本の直線で
8分割したものであ
る。第15図第2・3段
の押印文は卵状で卵形文を5分割したものである。

押印文様が付されている肩部の平行印き目は、いずれも印き目幅2mm前後である。こう
した平行印き目が施される例はC類に多く、これらの押印文様もC類と共に共存するのであ
る。



A

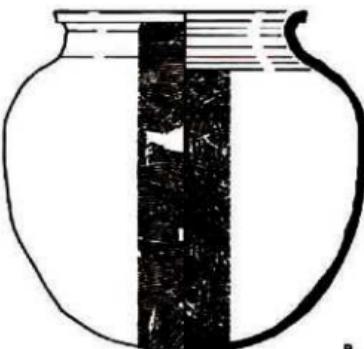


0 30mm
第15図 肩 形 甕 図(2) 下段 底部拓影

要則部には平行叩き目をもつものその他に波形叩きが施される例がある。いずれも盛土からの出土であり、共伴遺物は不明である。

(5) 壺

壺の数は、他の器種に比べて非常に少なく計6点を数えるのみである。そのうち器形の全様の知れるものはない。もっとも残りの良い22号窯体床面直上のもの(220)で形態を観察すると、口縁部は内傾して丸味をもつ。細くしづらった頸部から大きく体部、肩部で張り出す。体部には10条のヘラ沈線を横位に施すが、(457)ではナデ仕上げで沈線はない。底部(234)は平底で回転糸切りを施す。



(6) 瓦

0 30cm
第13圖 瓦 形 庫 圖 (3) 下段 底部拓影

軒 丸 瓦 (図版65)

A頭 花弁 八葉茎草文軒丸瓦

(551~557)

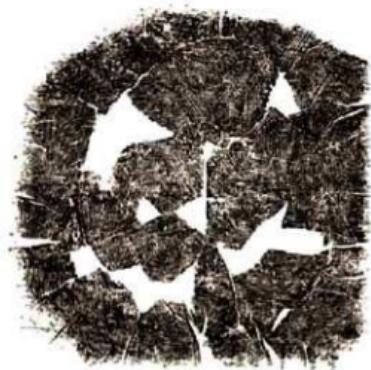
A頭は、瓦当径によって2種類に分類できる。A₁頭(551~556)は、径15.0cmである。中房内には1+Bの蓮子が配されている。花卉は中央にわずかの腰をもち弁内に形態化した子葉が配された複弁である。珠文帯には弁端に対応して8個の珠文を配する。瓦当裏面はナデ調整を行っていて丸瓦との接合部に指押えの溝が認められる。

草野寺跡、平安宮内裏回廊跡で同瓦が出土している。

A₂頭(557)は推定径12.6cmの小型品であり、文様手法はA₁頭と同様で珠文は存在しない。



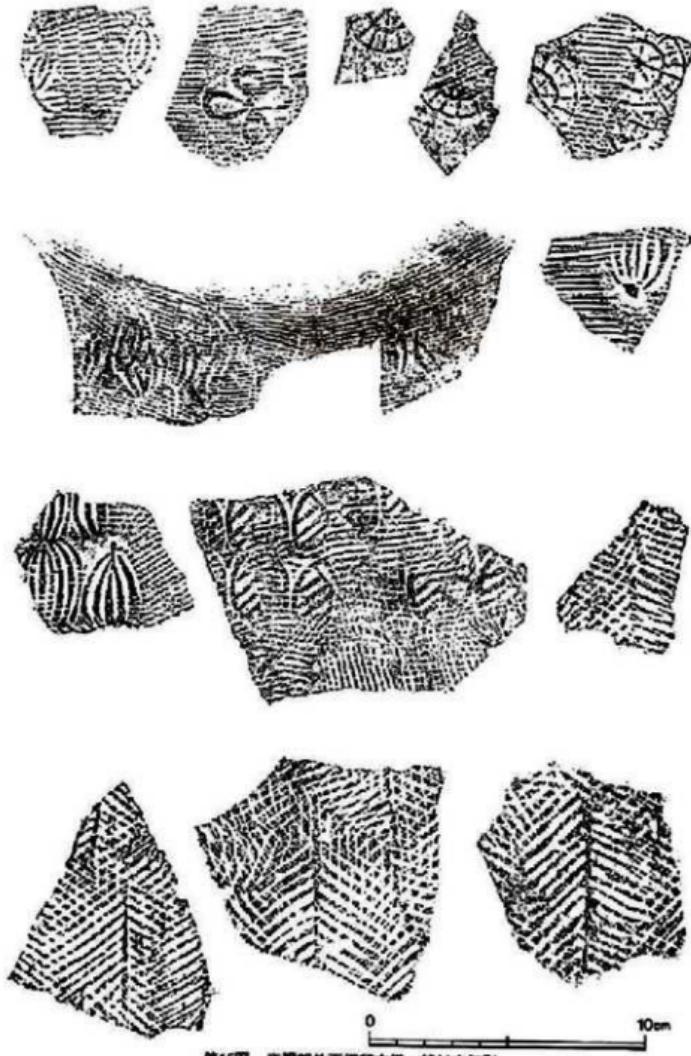
c



0 30cm

第14圖 離形器 (4)

下段 此部拓影



第15图 壶脚部外面压印文饰、纹样文拓影

A類 単介七葉軒丸瓦 (558～560)

B類は径13.0cmを測る。

中房は一段低く作り、1+(i)の蓮子を配する。中房内の蓮子は残存数以上である可能性もある。いざれも生焼けの状態で裏面はナデ調整を行っており、丸瓦との接合部に指揮えの溝をもつ。

C類 巴文軒丸瓦 (561、563)

C₁類 (561、563) は、小破片であるためあきらかでないが、おそらく右巻きの三巴文であろう。

C₂類 (562) は、小破片であるが、おそらく右巻きの三巴文であろう。残存している箇所が円弧を呈していない。推定径19.0cm。裏面はナデ仕上げされている。

軒 平 瓦 (図版66、67)

軒平瓦は瓦当面の文様によって7種に分類できる。瓦当と平瓦との接合はすべて「包み込み式」である。

A類 宝相草唐草文軒平瓦 (564、566、569、570、571)

上部に形骸化した葉手を配した宝相草の半纏花文を中心飾とした唐草文である。唐草は左右に3反転する。

瓦当面が完形で残るもののが2点あるが(565)は、平瓦の端面長より長い瓦当面をもつため瓦当面が平瓦より横に突出している。上弦幅は(564)が23.0cmであるのに対し、(565)は26.5cmと大きい。瓦当と平瓦の接合部は横方向のナデによって仕上げられているが、一部に瓦当上面から平瓦凹面にかけて不定方向のナデ仕上げが施されているものがある。

B類 宝相草唐草文軒平瓦 (566～568、573～581)

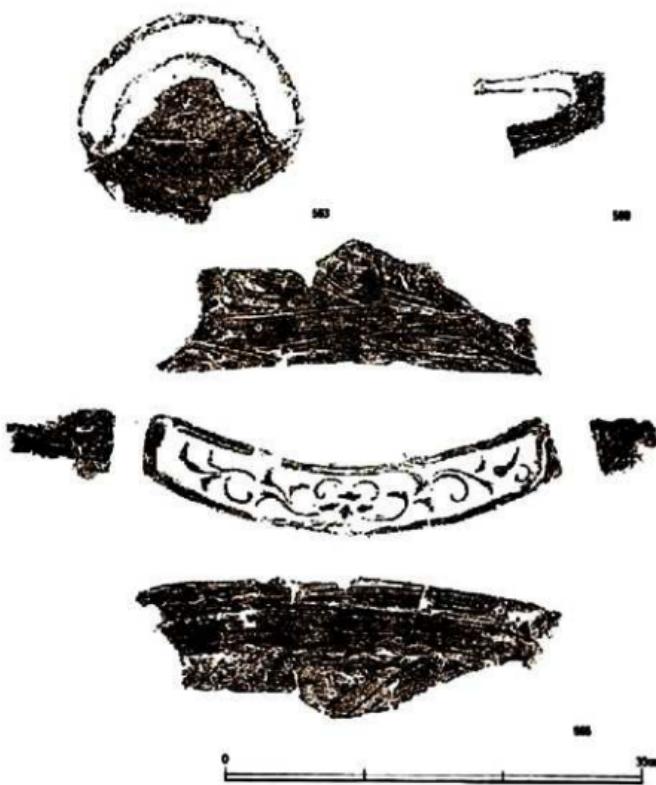
中心飾に半纏した宝相草文をおき、その脇部から唐草文が2反転するもの(B₁類)と反転後さらに左右へのびその先に子葉をつけ足すもの(B₂類)の2者がある。

B₁類は、上弦幅18.5cmであるが、B₂類はB₁類より幅広であろうと推定できる。

瓦当周縁、平瓦部との接合面は横ナデ仕上げされている。(566)は、平瓦が瓦当表面よりも下にずれて接合されているため接合部の平瓦凹面が著しくくぼんでいる。

C類 均正唐草文軒平瓦 (582～589)

唐草は左右に3反転し、さらに小葉をつけ足している。中心の巻きが下向きのものC₁類(582、583)と、上向きのものC₂類(584)がある。平瓦との接合面が剥離したものは、いざれも指揮えによる溝をつくっている。



第16図 瓦 平瓦 拓影

D類 均正唐草文軒平瓦 (590, 591)

C類を模型とするものである。中心帶には珠文をおき、その下から左右に3反転するものである。

E類 宝相華文軒平瓦 (592)

文様は、半截した宝相華文を左から上向き、下向きと交互に4個配するものであろう。

平瓦部との接合部には指押えによる溝がある。

F類 宝相草唐草文軒平瓦 (593)

力強くもり上った半截花文を中心飾とし、左右に唐草文が配されるものであろう。

G類 連巴文軒平瓦 (594)

三巴文を交差に配するものである。

京都市北野庵寺に類例がある。

九 瓦

A類 (600, 601, 603)

凸面は全面端縁と平行のナデによって仕上げられている。凹面にはすべて布目痕がみられ布目のシワや乱れが多い。凹面には糸切り痕が明顯に残る。玉縁と丸瓦部の段は回転ナデによって整形される。

B類 (602)

凸面に側縁と平行の叩きが一部残る。他の部分は端縁と平行のナデによって仕上げられており、ナデ仕上げがていねいになされればA類となるものであろう。玉縁と丸瓦部の段の整形はA類と同様である。

平 瓦

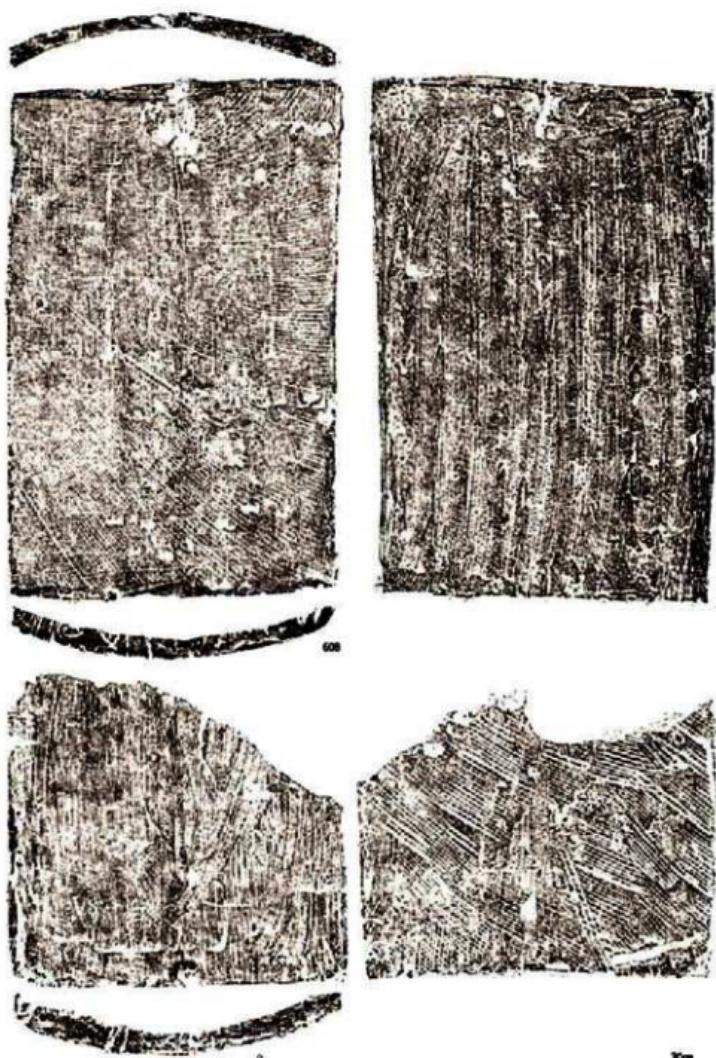
平瓦は、凹面にはすべて布目の痕跡、糸切り痕があるが凸面の仕上げの分類によって2種類ある。

A類 (605~614)

平瓦の中でもっとも多い部類で、大、小の2種類があり凸面は叩き締め後全面ナデによって調整されている。成形の順序は端側縁をハラ切りした後、叩き締めを行い内外面をナゲる。はみだした粘土は折り曲げたり、ナゲている。面取りはすべての面について行うとは限らず不規則である。端縁の一方にリラ状压痕が認められる例が多い。

B類 (第17図下段、第18図)

凸面を粗い平行条線の叩き板で叩き締めるものである。本類は叩き目の形状から2種類に分類できる。B₁類は粗い(3mm間隔)叩き目をもつもので、凸面全体に施される。凸面はA類のようていねいなナデ仕上げをすることなく、内面のナデは布目の上に側縁と平行に施される。B₂類は細かい(2mm間隔)叩き目をもつもので、厚手の瓦である。布目痕は明顯にのこり、面取りもていねいでナデ仕上げは認められない。良好な成形である。



第17圖 平瓦拓影

瓦 (595~599)

いざれも珠文帯の部分である。脚部の残る2点(597、599)から判断すると、大、小2種類があるようである。(598) 瓦、眼球、頬の一部であろうと考えられる。裏面の周囲はいざれもヘラ削りされている。



第18圖 平瓦拓影

(1) 小 瓦

遺構と出土遺物

当古窯跡群の出土遺物を遺構別に分類してみると次のようになる。すなわち、38号窯体内、38号灰原、29号窯体内、29号西灰原、29号南灰原、33号窯体内、33号灰原、32号窯体内、32号灰原、22号窯体内床面、22号窯体内、22号前庭部、22号灰原、30号窯体内床面直上、30号床面下灰層、30号黄灰色粘土、30号A・C灰層、30号B・C灰層、30号灰褐色砂層の19種である。

個々の遺構とそれに伴なり遺物について考察を加えたいが、遺構の残存状況あるいは出土地点によって資料の少ないもの(29号西灰原、33号窯体内、33号灰原、32号窯体内、32号灰原)については、補足的に説明をする。

38号窯体内出土器種(図版10)は、小皿と片口鉢である。小皿についてみれば、底部が高台気味に盛りだすものは少なく、主体は丸底のB類である。片口鉢は、口縁部外側を極端に突出させないA₂類である。

38号灰原出土の器種(図版10、11)は、小皿・碗・片口鉢・甕・瓦である。これらのうちもっとも出土量の多いものは小皿である。小皿にはA類・B類があり、両者の比率はほぼ等しい。碗はA類・B類两者があるが、その中間を量する形のものもあり、量的な把握は困難である。片口鉢はA₂類がほとんどであるが、若干口縁を内側につまみ出したB類に近いタイプ(89)もある。特徴的なものは(90)で、内面に網目状を有する。甕は量的に少なく、A類のみである。38号窯は直焰式平窯(煙管状窯)であるため、構造的に甕を焼成したかどうか疑問があり、38号窯出土の甕がいざれも小破片であり29号窯に同タイプの甕が多いことから29号窯で焼成した甕である可能性が強い。瓦についても甕と同様いざれも小破片で瓦当は認められない。38号窯では遺構には伴わないものの灰層が流れたと判断できる黃色盛土から小皿と碗が完形品に近い形で多數出土している。

29号窯体内出土器種(図版12)は、小皿・大小の片口鉢・両口鉢・甕・瓦である。小皿

は平底のB類である。小型の片口鉢は口縁部が体部に対して直角となるA₂類と、体部から口縁にかけて丸く納めるものがある。口縁端面から体部にかけてを丸く納める例は29号窯では他に認められないが、体部が外方に張りだすスタイルから判断してA類に分類すべきだろう。大型の片口鉢はあきらかに口縁内側をつまみ出す特徴がみられるB類である（112、114、115）。（112）はまだA₂類に近い口縁形態を残すが、他の2点はいずれもB類である。口径・器高とともに大型化の傾向がみとめられる。（115）は両口鉢であるが、30号窯のものに比べると小型である。窓の量は多くないが、口縁内側に凹部をつくり上方につまみ出すA類のみ存在する。窓の叩き目は粗い。瓦は小型の平瓦（605、606）である。

29号窯南灰原出土器種（図版12～18）は、壺・大小の片口鉢・両口鉢・甕・瓦である。壺はA類とB類が存在するが、38号窯灰原ほどのばらつきはなく、A類が主体を占める。小型の片口鉢はすべてA類のもので、A₁類とA₂類が共存する。大型の片口鉢は口縁部を観察すると、A₁類とA₂類がほとんどである。典型的なA類の特徴である外開きの体部をもつものが多いが、内開き気味になる場合もある。口縁部は口縁内側をつまみ出すB類の特徴を示すもの（175、176、179）もある。こうしたものの体部は、体部中央から口縁部にかけて外開きにならず、直線的に口縁へ連続する。両口鉢（178）の口縁部はB類の特徴をもつ。甕は、いざれも口縁内側に凹面をもち、口縁端部を上方につまみ出すA類である。肩部外面には粗い叩き目を施し、内面は同心円叩き目をナデにより消している。底部まで器形のうかがえるものは3点しかないが、大きく肩が張りだし肩部は丸胴に近い長胴形である（188、189）。

29号窯の焼乱土からは、鬼瓦の破片が5点（595～599）出土した。29号窯のものと考えた方が妥当であろうが、北隣の39号窯の遺物が混入したものかも知れない。平瓦は凸面に平行叩きをもつもの（604）が出土した。

22号窯床面上出土器種（図版21）は、壺・大小の片口鉢・甕である。壺は底部付近まで完全に残る。体部は大きく張りだした肩部からゆるやかな曲線を描いて底部に連続する。体部には10条の沈線が認められる。小型片口鉢はC類（223）とA類（221）が共存する。大型の片口鉢はB類とC類が共存する。甕は口縁端部外面が垂下せずに頭部と連続するB類と壺部外面を垂下させるC類が共存する。

22号窯体内（図版21～26）からは、壺・壺・土師器の小皿・壺・大小の片口鉢・甕・軒平瓦が出土する。壺は、完全な平底であり、口径に比べて器高が浅くなるのを特徴とする。

(B類)。壺は口縁部(233)と底部(234)があるが、窓体内床面のもの(220)に比べて、口縁をいくぶんシャープにつくりだす点で異なっている。小型の片口鉢は、A₁類(238)、B類(240)、C類(242)が存在するがC類が多い。大型の片口鉢はB類とC類があるが、B類の特徴である直線的に外方へ開く体部とつまみあげる口縁端面をもつものは数が少なく、C類の特徴を示すものが多い。壺は小型のもの(口径15.8cm~22.4cm・器高27.7cm~30.4cm)がほとんどを占める。こうしたタイプのものはB類の形状を示すものである。B類のタイプに属しているが、器壁が厚く特異な形状の3点(284~286)がある。ただし、変面できうるもので大型壺が1点出土していて、口縁形状はC類である。この壺(275)の頸部にはヘラ描きの沈文線が施されている。瓦当は軒平瓦B₂類(572)である。窓体内出土の片口鉢とベース直上の遺物とはほとんど同一の器種構成になっている。

22号窓前庭部瓦層出土の器種(図版27~32)は、壺・片口鉢・壺・瓦である。壺は、器高に比べて口径が大きく、外開きの体部をもつ(B類)。底部はいずれも平底である。片口鉢は、B類・C類がそれぞれ共存しているが量は多くない。壺は口縁部の形状にB類・C類があり、それぞれ大壺と小壺の2種がある。B類についてみると、頸部に残る印き目の中はナデ消し後も極めて鮮明に残り、印き目は粗い。口縁部の形状はB類を示し端部をシャープにつまみあげるものと、肥厚させながら丸くつまみあげるものとの2者がある。C類は頸部の印き目痕は残るもの、B類ほど顯著ではなく印き目は非常に細かい。器形の全容が知れるものは遺点しかないが、球形に近い丸胴のものと長胴のものがある。肩部の張り方から推定すれば概ね器高の高い大型のものほど、長胴化する傾向がみられる。瓦は軒丸瓦A類(551)、B類(559)、軒平瓦B₂類(575、577、578、579)と丸瓦(602)、平瓦(607~610)が出土した。

22号窓前庭部瓦層出土の器種(図版33~39)は、小壺・壺・大小の片口鉢・三口鉢・壺・瓦である。小壺は高台気味に底部を突出させるA類と平底のB類がある。壺は口縁の大さい底部平底のB類である。小型片口鉢はA類の特徴を備えている。大型片口鉢はA類・B類とC類の3者が共存している。A類は口縁部が外側に突出しない、A₂類である。B類は量が少ない。C類は口縁端部を丸く納め、体部が内側気味に口縁部へ連続するもので出土量は多い。瓦層中より三口鉢(339)が出土しているが、口縁部の形状、体部の特徴からB類である。壺はA類、B類が多数を占める。A類にはシャープな口縁端部をもつものと、肥厚して丸く仕上げるものがある。胴部は丸胴形と長胴形のものがあるが、丸胴形が多い。壺の中で口径の大きいB₂類が3例出土している。そのうち(363、364)は口縁内

側にヘラ書きの沈線文を描いている。瓦は軒丸瓦A類(552)、軒平瓦A類(569, 571)、B類(574)、E類(592)と丸瓦(600, 601)、平瓦(611)がある。

30号窓体内床面出土の器種(図版40)は、壺・片口鉢・三足付土器である。壺はB類(368, 369)である。片口鉢はB類(373)とC類(371, 372, 374, 375)があるが、内側する体部と丸味をもった口縁部をもつ、C類が多い。

30号窓床面下灰層(図版40~46)からは、壺・大小の片口鉢・両口鉢・貼り付け高台付片口鉢が出土している。壺(375~380)は口径が大きく、器高の低いB類である。小型片口鉢(381~383)もB類の諸特徴をもつ。大型片口鉢は、A類(424, 429)、C類(384, 385)の特徴をもつものが散点まじるものほどとんどは口縁部に凹面を持ち、端部上下をつまみ出すB類である。両口鉢・貼り付け高台付片口鉢もそれぞれ1点づつ出土しているが、いずれもB類の特徴をもつ。壺は格子状の叩き目をもつものが2点(435, 436)出土している。口縁部のつくりはいずれも端部をつまみあげるA類である。

黄色粘土出土の遺物(図版47~48)は鉢が主体で、床面下灰層と接合する破片が多いことから、两者は同一の遺構すなわち床面下灰層出土ととらえた方がよい。鉢はA類(443)、C類(437)があるが、B類が圧倒的に多い。瓦は軒丸瓦(557)が出土した。

30号窓の灰原は出土位置により2者に分類した。窓体の中軸線より西側のものと東側のもので西側のものをA・C灰層とした。A・C灰層出土遺物は床面下灰層と接合できるものもあり、出土位置も床面下灰層にもっとも近い。

A・C灰層出土遺物(図版48~58)では、壺・大小の片口鉢・両口鉢・貼り付け高台付片口鉢・壺・瓦が出土した。壺(457)は、22号窓体内出土の壺(220)より口縁部がシャープで肩部にかけてよりなだらかである。片口鉢は大小ともB類が圧倒的に多いが、A類に属するもの(461)、C類に属するもの(462)もある。両口鉢(492)・貼り付け高台付片口鉢(494, 496, 498, 500)は鉢頭の中でもっとも大きな頸いで口径38.1cmを測る。壺はA類が多く、C類の小型品(503, 504)もあるが小量である。瓦は軒平瓦F類(593)、平瓦(612, 614)が出土した。

東側の灰層をB・D灰層とした。B・D灰層は遺物量が少なく出土遺物(図版59)は、壺・小皿・壺・片口鉢である。壺(525)は口縁部のみであるが、端面を丸く仕上げる点で他の壺と形態を異なる。小皿(524)は器高の低いB類で器高はわずか1.25cmにすぎない。壺(526~530)もいずれも口径が大きく、器高の低いB類である。片口鉢はD類(531~532)とB類(533)がある。D類のものはいざれもていねいなつくりである。口縁端部

を外方につまみだす特徴は共通するが、器高は低いものと高いものとがある。

灰褐色砂層出土の器種（図版59～64）は、片口鉢・甕のみである。片口鉢は口縁部を丸く、体部を内凹させる典型的なC類（536）である。D類（534、535）のものは灰層出土のものに比べて口縁内面側につまみだすところに特徴がある。甕は大小2種あるが小型のものでB類と同様のもの（539）が若干存在するものの甕の多くはC類の大形甕である。胴部の叩きは細かいものがほとんどである。

以上みてきた代表的な遺構による器種を整理して表にすると以下のようになる。

第3表 遺構別出土土器一覧表

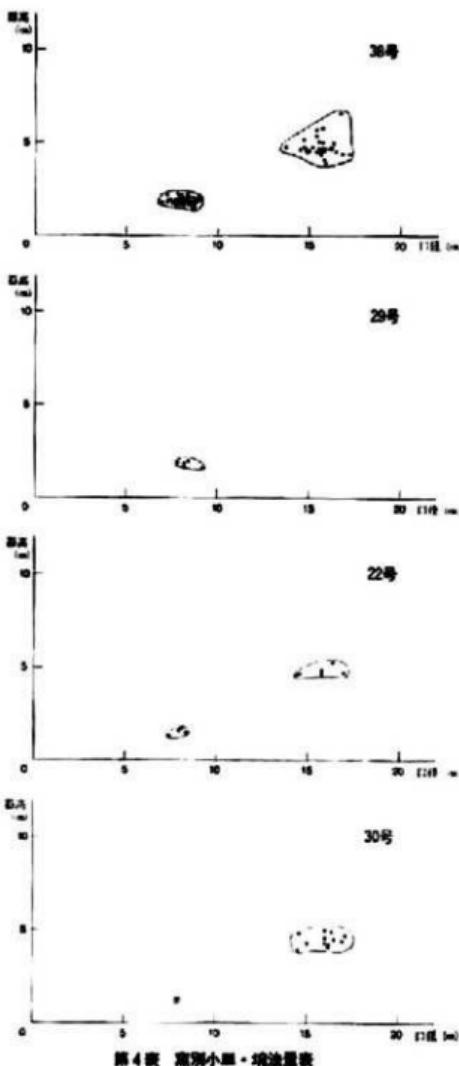
| | 小 区 | 堆 | | 鉢 | | | | 甕 | | | 壺 | 軒丸瓦 | 軒平瓦 | |
|----|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|----------------|----------------|
| | | A | B | A | B | A | B | C | D | A | B | C | | |
| 38 | 窓体内 | ◎ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | 灰原 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | ○ | | | | |
| 29 | 窓体内 | ○ | ○ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | |
| | 西灰原 | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 南灰原 | | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | ◎ | | | | |
| 33 | 窓体内 | ○ | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | |
| | 灰原 | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 32 | 窓体内 | | | | | ○ | | | | ○ | | | | |
| | 灰原 | | | | | | | | | ○ | ◎ | | | |
| | 窓体内床面 | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| 22 | 窓体内 | | | | | ○ | ◎ | ◎ | | ◎ | ○ | ○ | | B ₂ |
| | 前庭部 | | | ○ | | ◎ | | | ○ | ○ | ○ | | A・B | B ₂ |
| | 灰原 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ◎ | ◎ | | | A | A・E |
| | 窓体内床面 | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | |
| | 灰下灰層 | | | ○ | ○ | ◎ | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| 30 | 窓灰粘土 | | | ○ | ◎ | ○ | | | | | | | A ₂ | |
| | A・C区灰層 | | | ○ | ◎ | | | | | ○ | ○ | ○ | | F |
| | B・D区灰層 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | A | B ₁ |
| | 灰褐色砂 | | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | |

◎は器種ごとに主体を占めるもの。軒瓦についてはタイプ別に分類

遺物の検討

第3表遺構別出土土器一覧表によって得られた資料をもとに各窯出土遺物について考察を加えよう。

灰原出土物と窯体内残存遺物を検討すれば、各器種の時期差について次のことがいえる。もっとも形態変化がとらえやすいのは鉢である。A類とB類の関係は、29号の窯体内と南灰原の遺物を比較し、B類とC類の関係は22号窯体内床面と前施部、あるいは30号窯体内床面と床面下灰層の遺物を比較すればあきらかである。したがって鉢はA類→B類→C類の変容がたどれ、しかもこの3種は連続し、ある時期は併行して使用されていたことがわかる。要についても同じことをくりかえせば、A類→B類→C類の変容がたどれる。



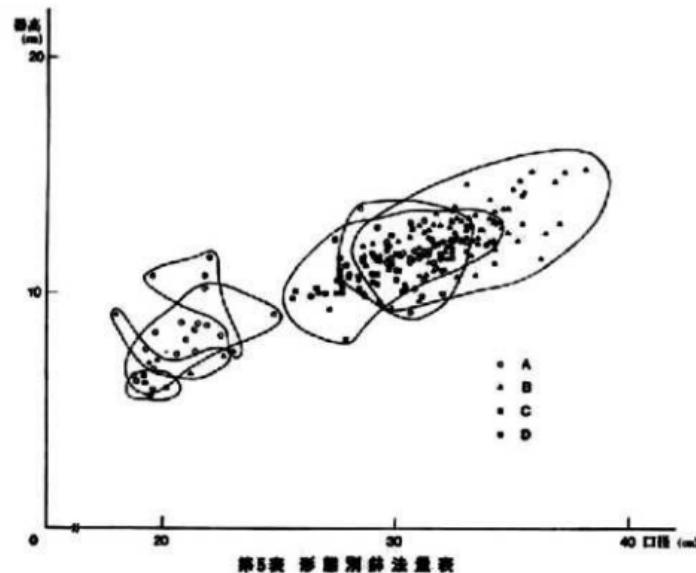
ただし、鉢の分類（A、B、C）と壺の分類（A、B、C）は記号ごとに必ずしも対応して同時併存を指しているわけではない。壺・小皿についても、A類→B類の変化がたどれる。

このことから造営別に時期をたどれば、29号窯・38号窯→22号窯（前庭部）・30号窯（床下灰層）→22号窯（窯体内）・30号窯（窯体内）のようになる。

以上の知見をもとに、各器種の消長をもう一度整理してみよう。

小皿と壺は第4表で窯別に法量表を作成した。法量表で見る限り、壺と小皿の形態は窯ごとによく似た傾向を示す。すなわち、38号窯でバラツキのみられた口徑・器高は29号窯・22号窯・30号窯となるにつれて一定化する傾向がある。いい換えれば、38号窯で認在したA類・B類が22号・30号窯となるにつれB類（口徑は大きくなり、器高は浅くなる）へと移行するということである。22号窯・30号窯では、B類が主体を占めるが22号窯・30号窯で確認した小皿・碗は小量であり、小皿・碗は、ともにこの時期を境にして生産を中止したのではないかと推定できる。

鉢は器形分類別の法量表を第5表に示す。A類の大型鉢の法量平均は口徑30.6cm・器高11.4cmであり、小型鉢の平均は口徑20.9cm・器高7.8cmである。B類の大型鉢は口徑32.8cm



第5表 形態別鉢法量表

器高12.3cm、小型鉢は口径20.2cm・器高7.4cmである。C類の大型鉢は口径28.8cm・器高10.7cm、小型鉢は口径19.6cm・器高6.1cmである。鉢の口縁部の変化は、A類（内傾、外方へのつまみだし）→B類（内傾、上下へのつまみだし）→C類（丸味をもち、つまみだしはほとんどなし）というぐあいにたどることができる。体部内面のナデはA類にもっとも顯著にみとめられ、B類では体部下方のみにナデ仕上げを施すことが多くなる。C類では内面を指押さえして整形する。したがって体部内外の凹凸面はA・B類では体部全体に著しく、C類での体部の凹凸は体部上方に限られる。一方、底感はA類では周縁が未調整であるものが多いに対し、B類・C類では周縁をナデ仕上げあるいはヘラ削りを施すことが多い。特にC類の底部周縁は未調整であることはない、底部の静止系切りはA類にもっとも多く、B類・C類ではほとんどみられない。器形別にみれば、B類にのみ両口鉢・片口鉢が存在し、貼り付け高台付片口鉢もすべてB類だけである。

法量表によって大型鉢では、B類がもっとも大型であり、C類が小型であることがわかる。大型鉢の口径・器高は、B類→A類→C類の順で小さくなり、B類を境として鉢が小型化していく傾向がある。このことは、海あがりの鉢（第5図）の法量をみててもあきらかであり、B類を生産した時期以降に大型鉢を生産した痕跡はない。B類の鉢は、神戸市神出古窯跡群・柏子池古窯跡で同様のものが確認されており小野市淨土寺創建瓦（延久6年）⁹が共伴している。

器は器高・口径の両者が測定できる資料が少ないので法量表にはしなかった。A類・B類・C類とも大型器・小型器の焼成を行っている。しかし、B類を除いて器は大型品に主体をおいて生産されたと考えられ、C類はそのほとんどが大型品である。

口縁部の変化は、A類→B類→C類へと端部下端を垂下させる傾向がつかめる。頸部の平行印き目は、A類がもっとも残りが良く、C類はついでにヨコナデ仕上げするものが多い。体部の平行印きはA類が粗く、B類・C類は細かい。格子目印きはA類・B類に多く、C類には存在しない。底部はいずれのタイプも丸底である。

丸は建物に伴うもので瓦当面の残るものについて考察してみたい。軒丸瓦A類は、22号窯前庭部（551）と灰原（552、553）で3点出土した。30号窯では、B区の灰原最下層から出土した（554）。軒丸瓦B類は、22号窯前庭部（559）、30号窯灰原（558）で出土した。これらの軒丸瓦A類・B類に伴う軒平瓦は、同地点出土の軒平瓦から判断して軒平瓦A類（569、571）、B類（573、575、577、578、579）、C類（583）、E類（592）が考えられる。これらは、半載した宝相華文を中心飾とする、宝相華唐草文軒平瓦が多く、E類は宝

相車文軒平瓦で、C類は均正唐草文である。ただし、B₂類は22号窯体内でも出土しているので、次の時期まで生産されていた可能性がある。さて、軒丸瓦C類は三巴文軒丸瓦であるが33号窯焚口灰層で出土している（563）。同時期の遺構から出土した軒平瓦はないが、30号窯の灰原東端から出土した軒平瓦D類付近に33号窯と同様の變が多く認られたことからこれを、三巴文軒丸瓦に伴う軒平瓦であると考えたい。

以上のように、各器種の消長を観察して表にまとめたものを、別紙の折り込み図版に示す。

調査生産器種の割合について

発掘調査によって出土した遺物は以下の方法によって個体数を計測した。計測した遺物は遺構に伴うものであり、盛土等から出土したものは除外した。また計測は遺物の大多数を占める小皿・壺・鉢・甕に限り行ない、壺その他の遺物は数量であるため扱っていない。

A、個体計測法（第6・7・8表左）

小皿・壺・鉢については、底部が半分以上あるものを1個として計測し、甕については個数を数え数値を4で割った。こうして得られた個体数を円グラフ化したものを資料「A」とする。

B、重量計測法（第6・7・8表右）

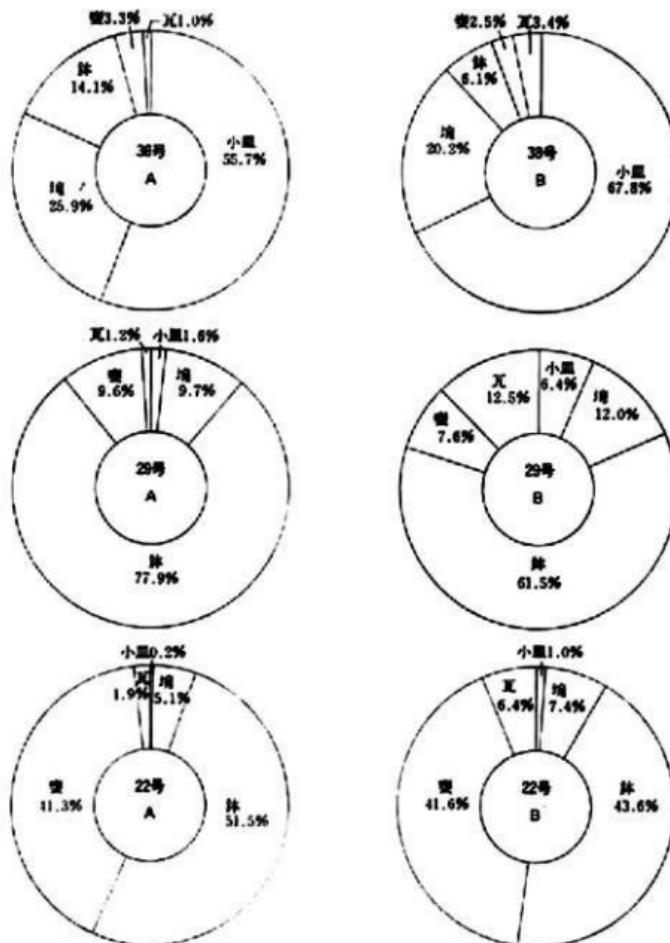
遺構に伴う各器種の総重量を計測し、総重量を完形品の平均重量で割って個体数を算出したものである。この資料は円グラフ「B」とする。

38号窯は、第3章第1節に述べたように「焼管状窯」である。焼成室の床面は径44×50cmの橢円形であるので、大型品である甕・鉢の焼成には適さない。円グラフで示すとおり（第6表上段）、製品の80～90%は小皿と壺で占められる。鉢は生産量の10%前後で、焼成を行ったかも知れないが、甕・瓦は数量であるため29号窯からの調入品である可能性が高い。

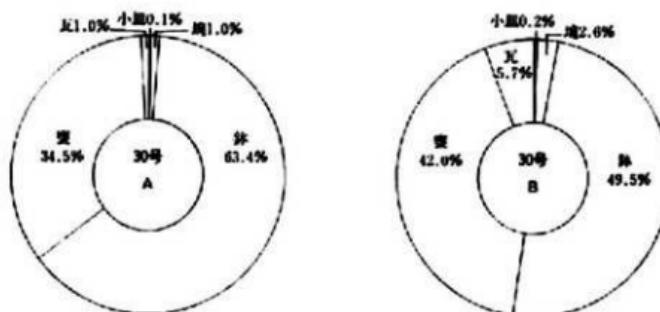
29号窯は鉢が主体を占める（第6表中段）。製品全体の60～70%は鉢である。甕の生産量は7～10%と少なく、甕の生産はまだ本格的になされていないことがわかる。瓦・小皿は計測法によって数値が異なっているが、全体量からすれば多くない。

22号窯では、鉢と甕で全生産量の80～90%を占め、両者の量はほぼ等しい（第6表下段）。29号窯に比べて甕の量が増大することが本窯の大きな特徴といえる。小皿・壺・瓦はいづれも29号窯に比べて減少する。

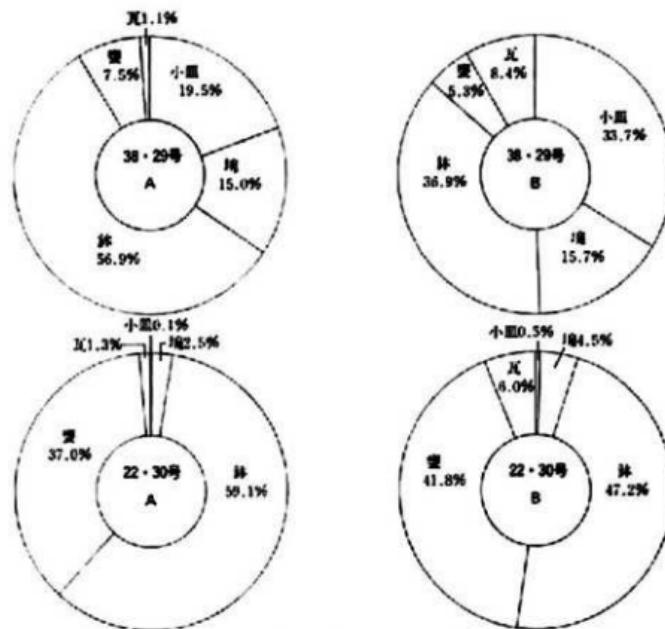
30号窯は22号窯とほぼ同様の傾向を示す(第7表)。特に鉢と壺は全生産量の90%を超えるようになる。小皿・塊・瓦は著しく減少し、製品の主体が完全に鉢・壺に移行したことがわかる。



第6表 30・29・22号出土遺物種別割合 A: 横体計測表 B: 縦型計測表



第7表 30号出土遺物器種別割合 A:個体計測表 B:重量計測表



第8表 38・29、22・30号出土遺物器種別割合 A:個体計測表 B:重量計測表

さて、各落ごとに生産量の割合についてみてきたが、これだけではじゅうぶんではない。遺物の分類では調査窓が3時期に分類できることは先に述べたが、本グラフは遺物の性格上2時期にしか分類できなかった。この2時期（38・29号窓、22・30号窓）について上記の円グラフを合体させてみると第8表のようになる。両者は跡についていえば、38・29号窓はA窓であり、22・30号窓はB・C窓の時期をあらわすことになる。

2つのグラフを比べてみると、第1に小皿・碗の生産量が減少していることがわかる。おそらく、小皿・碗の生産量は序々に減少し38・29号窓をへて、22・30号窓に至り、小皿・碗をほとんど生産しなくなる段階になるのであろう。12世紀中頃まで隆盛した福磨の焼生産は、この時期に終焉を迎えるものと推察できる。第2に小皿・碗の減少によって鉢・甕類の生産量が増大することがあげられる。鉢はすでに38・29号窓でも生産を行っているが、甕の生産は22・30号窓の時期になって飛躍的に増大する。

甕の生産はこの時期に限られるようで、赤坂川支派での実験品ではほとんど例がない。瓦の生産量も減少する傾向にある。前述で述べたように22・30号窓の新しい段階に入ると、瓦当面文様はくずれ量も減少する。

以上のように器種ごとの生産量の推移をみてみると、22号、30号窓の開始時期に生産の回期をみとめることができる。

註

- ① 甕の成形技法については、奥山浩一「須恵器の叩き目」「史研」117 1980年を参考にした。
- ② 甕内面の旋纹ユビナデは、器高がおおむね30cmを超えるものに施されるようである。
- ③ 奈良国立文化財研究所「平安京跡発掘調査報告書」 1961年。
- ④ 平安博物館蔵「平安京古瓦図録」 1977年。
- ⑤ 「同泡」の認定は上原真人、植山茂氏にお願いした。
- ⑥ 六朝寺研究会「六朝寺跡」 1976年。
- 上原真人「古代末期における瓦生産体制の変遷」「古代研究」13・14 1978年。
- ⑦ 京都市埋蔵文化財研究所 大矢義明氏に御教示を得た。
- ⑧ 真野修「魚住古窯跡群考」(1)「歴史と考古」93 1979年。
- ⑨ ⑩によれば上原真人氏は軒平瓦C窓を三巴文、軒丸瓦とセットをなすと考えておられるが、当古窯跡群ではそうしたセット関係をとらえるにいたらなかった。
- ⑪ 遺構別に縦年を行なう場合、遺構ごとにこうした円グラフを作成することが効果的である。しかし当古窯跡群では、遺構別の計測を行なったものの、遺構の現存状況等によって計測値が変動し資料としてじゅうぶんでないので遺構別の資料によるグラフを採用した。

特別研究 I

魚住窯跡群出土須恵器の胎土分析

奈良教育大学 三辻 利一

土器の産地を推定する最も客観的な方法は胎土分析による方法である。胎土分析によって土器の産地を求めるには、前以って窯跡出土須恵器を多段分析し、生産地の土器の化学特性を知っておかなければならぬ。その上で古墳や遺跡出土の須恵器を分析し、その結果を窯跡（生産地）に結びつけることである。そのため全国の窯跡出土須恵器を分析し、どの元素でどの窯が識別できるかを前以って知っておかなければならぬ。このような背景をもって兵庫県下の窯跡出土須恵器の分析が進められているのである。本報告では魚住窯跡群出土須恵器を分析し、その結果を同じ兵庫県下の加古川窯跡群、相生窯跡群、神出窯跡群の須恵器の分析結果と比較し、相互識別がどの因子によってできるかを検討したので報告する。

分析方法はニキルギー分散型蛍光X線分析法である。窯跡で採取した資料は表面を研磨して付着汚物を除去し、タンダステンカーバイド製乳鉢の中で100~200メッシュ程度に粉碎した。粉末試料は直径2cmの塩化ビニール製リングに入れ、約15トンの圧力を加えてコイン状にプレスした。こうして得られた試料にX線を照射し、その蛍光X線強度を測定した。定量分析には岩石標準試料JG-1を使用した。データは次式によって規格化された値を用いて表示された。

$$\bar{X} = \frac{\text{試料中のXの全カウント数}}{\text{岩石標準試料中のXの全カウント数}}$$

XはSi(ケイ素)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Fe(鉄)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)である。

表1には、魚住窯跡群、神出窯跡群、加古川窯跡群出土須恵器の分析結果をまとめてある。分析された試料数が多いので、ここでは各窯について各元素の平均値を示してある。表1の分析データに基づいて窯跡群間の相互識別ができるかどうかを図上で調べてみよう。図1には窯についてRb-Sr分布図を示してある。Rb-Sr分布図を描くのは、全国の窯跡出土須恵器の分析結果から、この分布図が各地の須恵器の特性をよく表わすことが分かったからである。たとえば、図1の中央には全国の窯跡出土須恵器のRb、Srの平均値をとった新座標軸を引いてある。そうすると、西日本産の多くの須恵器は新座標軸の左上、すなわ

も、第Ⅱ象限を中心とした領域に分布し、東日本の多くの須恵器は第Ⅳ象限を中心とした領域に分布する。兵庫県下の窯跡出土須恵器も西日本型であることは明らかである。図1を全体として読めると、窯跡群ごとにまとまって分布し、かつ、加古川窯跡群、相生窯跡群、魚住・神出窯跡群の3グループに分れることがわかる。すなわち、Rb量もSr量も多いのが加古川窯跡群である。相生窯跡群の中には加古川窯跡群に似た特性をもつ窯もあるが、Rb量が多くSr量が少ないのが相生グループの特性であることがわかる。また、魚住・神出窯跡群の窯はRb量も、Sr量も少ないという特性をもつことがわかる。このように3グループはRb-Sr分布図上で相互識別される可能性があることがわかった。この可能性をさらに明確にするため、全分析点を実際に図上にプロットした結果を次に示す。図2は魚住窯跡群出土須恵器の全分析点のRb-Sr分布図である。また、図3には加古川窯跡群出土須恵器の全分析点をプロットしてある。両図において、各窯跡群の全分析点の90%以上を含むようにして魚住窯跡群領域、加古川窯跡群領域を囲んである。若干、重なるところがあるものの、両グループはほぼ完全に相互識別されることが明らかとなった。次に、魚住窯跡群と神出窯跡群の須恵器の分離の可能性を確かめたのが図4である。神出窯跡群の須恵器の全分析点のRb-Sr分布図を示してある。大部分の分析点は魚住領域と神出領域の重複する領域に分布し、やはり、Rb-Sr分布図では魚住グループと神出グループの相互識別は困難であることを示した。次に、図5には各窯跡群の窯についてK-Ca分布図を示してある。この図でも、加古川グループ、魚住グループ、相生グループの3グループに大分けできることがわかる。すなわち、加古川グループはK量もCa量も多く、相生グループはK量が多くCa量は少ない。また、魚住グループはK量もCa量も少ない。これに対し神出グループはCa量がさらに少なく、魚住グループと神出グループとの識別はRb-Sr分布図よりも可能性がありそうである。そこで全分析点をプロットしてみた。図6には魚住窯跡群出土須恵器のK-Ca分布図を示す。また、図7には神出窯跡群の須恵器のK-Ca分布図を示す。そして90%以上の分析点を包含するようにして魚住領域、神出領域を決めてある。図7より神出窯跡群の須恵器の大部分は魚住領域をはずれ、神出領域に分布していることがわかる。したがって、魚住グループと神出グループの相互識別にはK-Ca分布図の方がRb-Sr分布図より有効であることがわかる。他の因子についてもみてみよう。図8には、Si量を比較してある。魚住グループ、加古川グループ、相生グループの間には殆んど差がないが、神出グループにはSi量がやや多いことがわかる。図9にはFe量を比較してある。Fe量の多い魚住グループ、神出グループと、Fe量の少ない加古川グループ、相生グループに2分

されることがわかる。

以上の結果、魚住窯跡群出土の須恵器はRb-Sr分布図により加古川窯跡群、および相生窯跡群出土の須恵器より識別され、また、K-Ca分布図によっては神出窯跡群出土の須恵器から識別されることがわかった。これらの分析データに基づいて、今後、魚住窯跡群で生産された須恵器がどこへ搬出されているか追跡が可能となる。なお、魚住窯跡群内の窯間の相互識別は胎土分析では困難である。

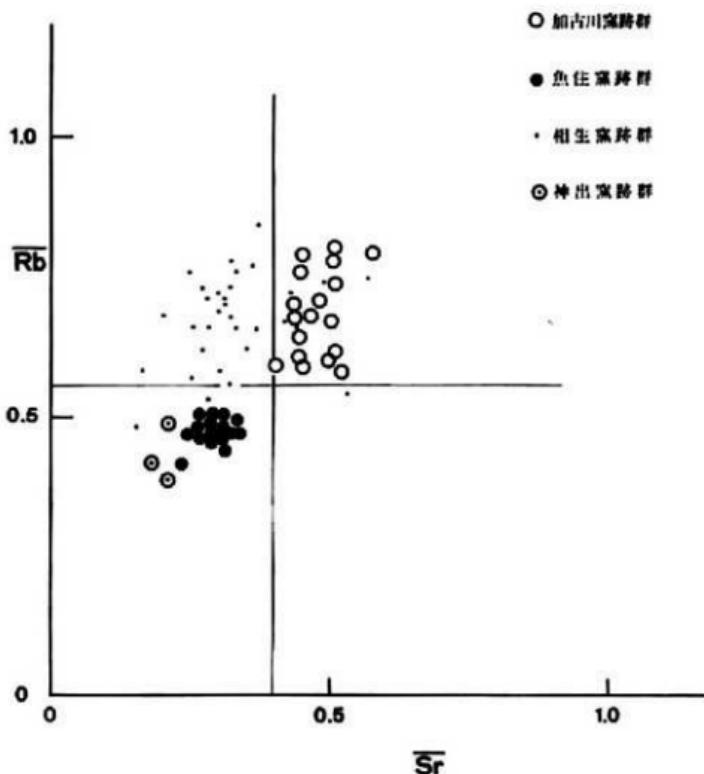


図1 兵庫県下の窯跡群出土須恵器のRb-Sr分布図

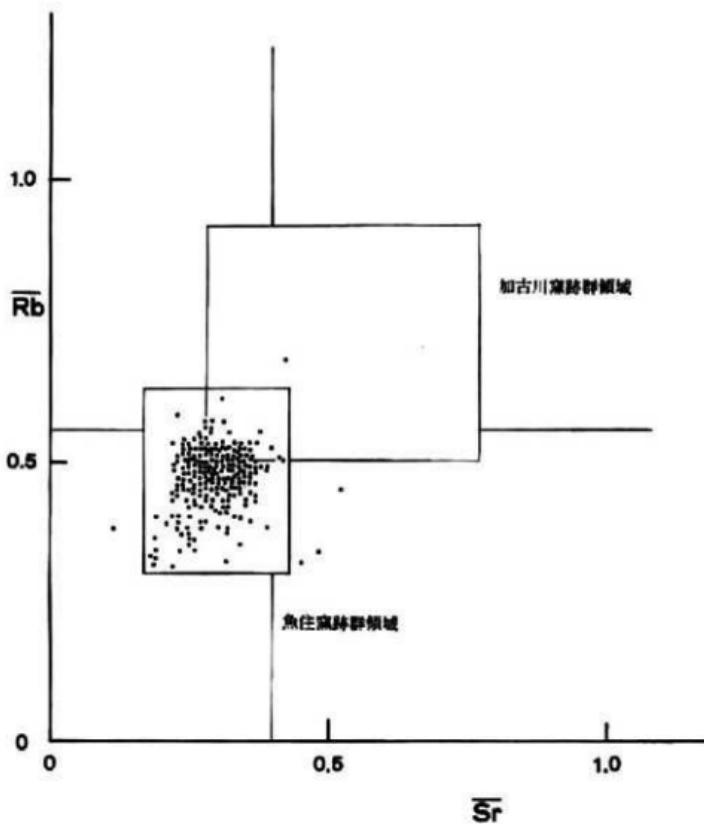


図2 魚住窯跡出土焼成器のRb-Sr分布図

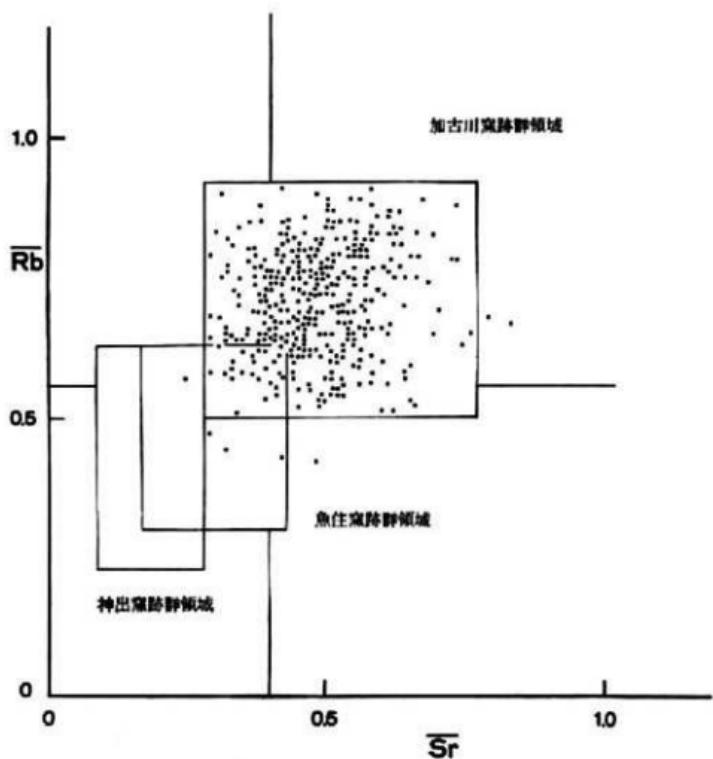


図3 加古川窯跡群出土須志器のRb-Sr分布図

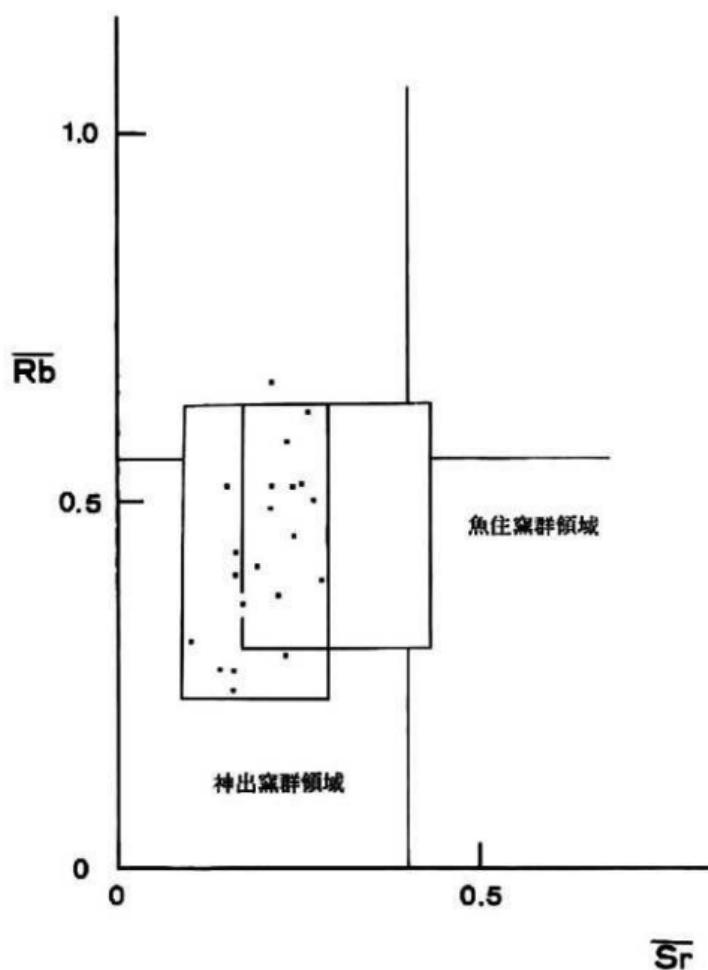


図4 神出窯群出土須恵器のRb-Sr分布図

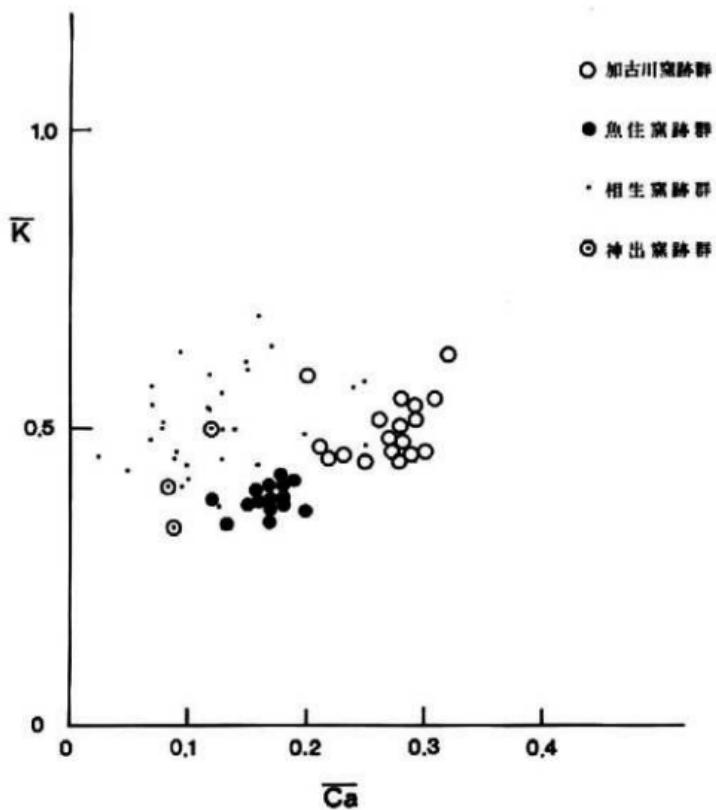


図5 兵庫県下の宮跡群出土墳窯器のK-Ca分布図

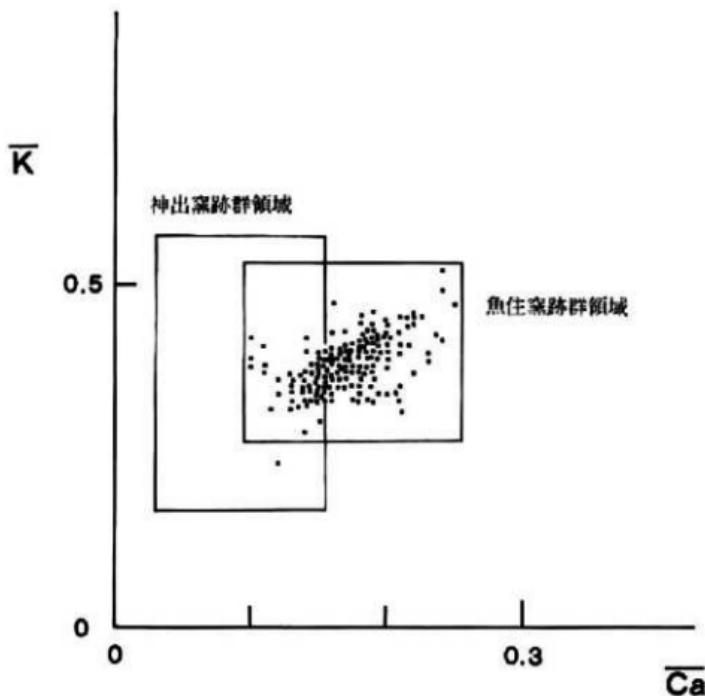


図6 魚住窯跡群出土頃窓器のK-Ca分布図

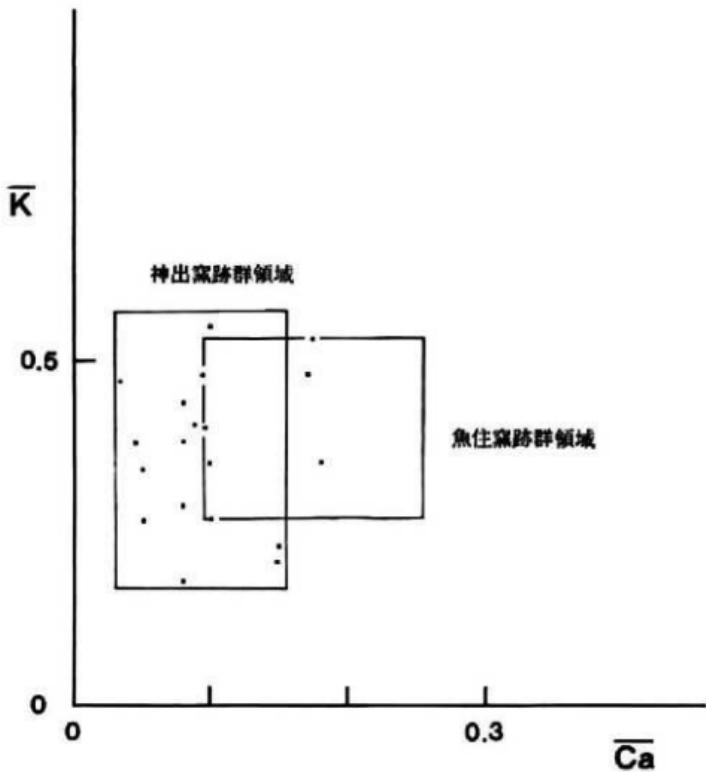


図7 神出窯跡群出土墳墓器のK-Ca分布図

図8 兵庫県下の遺跡出土陶瓦器のS/I

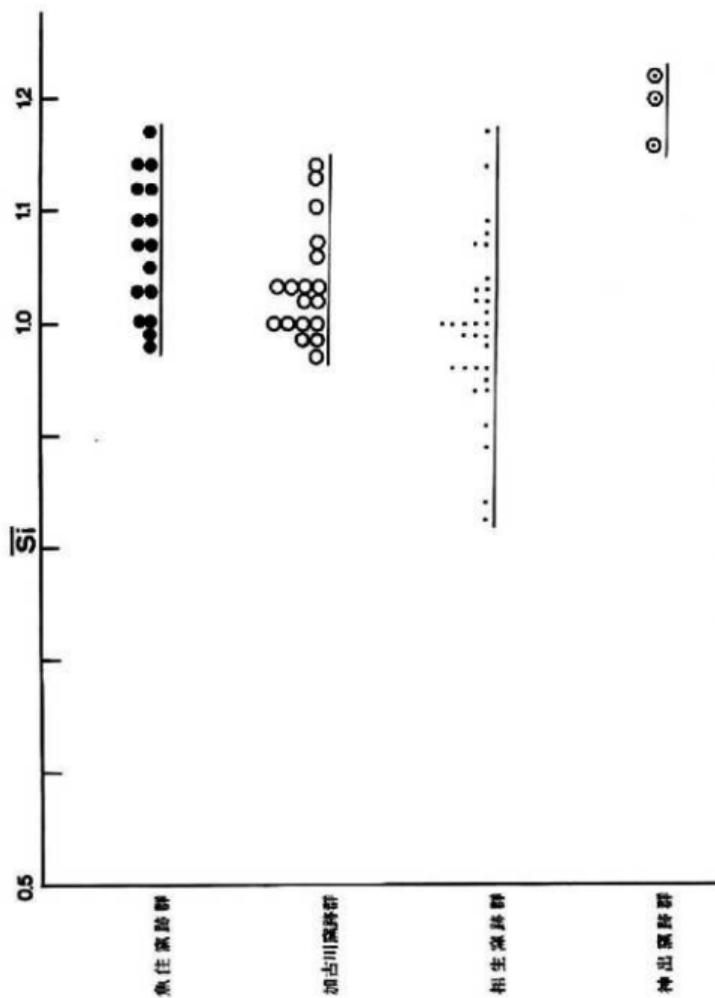
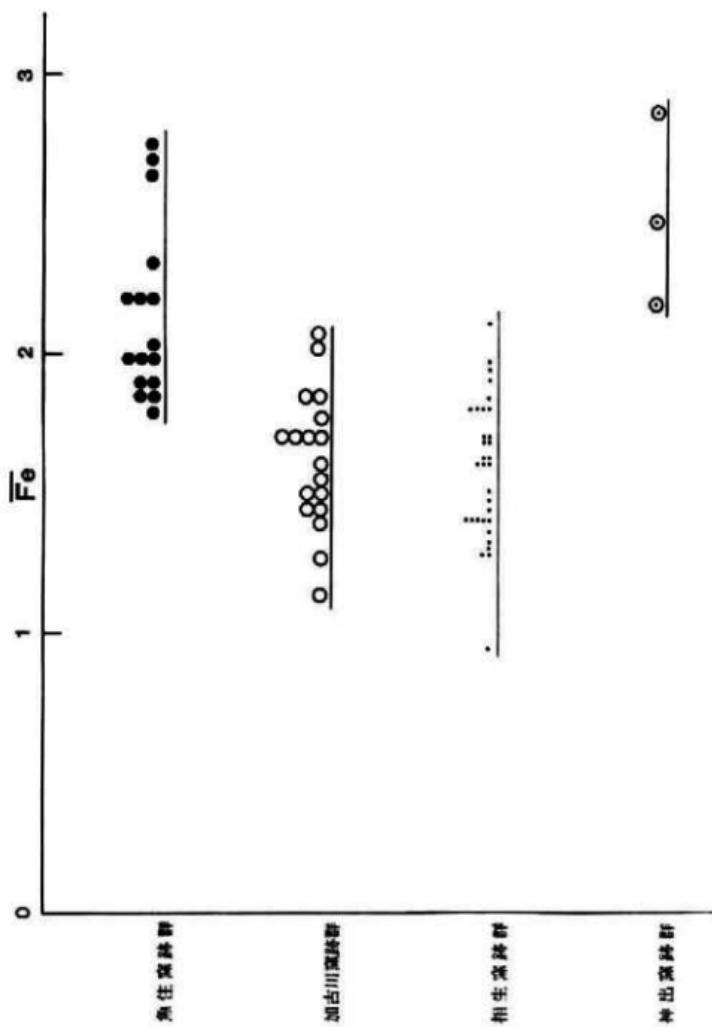


図9 大阪城下の陪葬墓出土鏡類のF₆



| | 地名 | 試料番号 | Fe | Rb | Sr | Si | K | Ca |
|------|---------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 魚住 | 5号 | 16 | 1.81 | 0.466 | 0.321 | 1.14 | 0.376 | 0.169 |
| | 6号 | 10 | 1.98 | 0.477 | 0.309 | 1.07 | 0.371 | 0.170 |
| | 10号 | 12 | 1.79 | 0.473 | 0.293 | 1.17 | 0.396 | 0.172 |
| | 11号 | 10 | 2.00 | 0.476 | 0.280 | 1.09 | 0.396 | 0.176 |
| | 12号 | 10 | 2.02 | 0.473 | 0.309 | 1.07 | 0.396 | 0.180 |
| | 13号 | 17 | 1.84 | 0.487 | 0.337 | 1.09 | 0.410 | 0.194 |
| | 14号 | 7 | 1.83 | 0.502 | 0.307 | 1.12 | 0.380 | 0.168 |
| | 15号 | 7 | 1.90 | 0.459 | 0.291 | 1.14 | 0.406 | 0.182 |
| | 17号 | 13 | 2.69 | 0.443 | 0.309 | 0.986 | 0.359 | 0.199 |
| | 19号 | 24 | 2.74 | 0.466 | 0.327 | 0.982 | 0.366 | 0.178 |
| 跡群 | 20号 | 19 | 2.19 | 0.457 | 0.284 | 1.12 | 0.367 | 0.174 |
| | 29号 | 14 | 2.32 | 0.490 | 0.288 | 1.00 | 0.392 | 0.159 |
| | 30号 | 16 | 1.97 | 0.466 | 0.287 | 1.03 | 0.375 | 0.163 |
| | 32号 | 18 | 2.64 | 0.411 | 0.231 | 1.05 | 0.340 | 0.132 |
| | 33号 | 13 | 2.20 | 0.474 | 0.250 | 1.01 | 0.383 | 0.123 |
| | 37号 | 21 | 2.22 | 0.489 | 0.287 | 1.03 | 0.395 | 0.170 |
| | 金城池 | 36 | 1.14 | 0.790 | 0.586 | 1.03 | 0.454 | 0.228 |
| 加古川実 | 白沢3号 | 43 | 1.71 | 0.665 | 0.427 | 1.10 | 0.452 | 0.223 |
| | 札馬5号 | 21 | 1.73 | 0.660 | 0.443 | 1.02 | 0.476 | 0.284 |
| | 札馬2号 | 5 | 1.49 | 0.705 | 0.477 | 1.02 | 0.514 | 0.263 |
| | 白沢2号 | 10 | 1.48 | 0.711 | 0.429 | 0.997 | 0.518 | 0.289 |
| | 札馬西ノ谷4号 | 30 | 1.41 | 0.800 | 0.512 | 1.13 | 0.547 | 0.284 |
| | 役松2号 | 35 | 1.44 | 0.743 | 0.493 | 1.03 | 0.484 | 0.276 |
| | 役松3号 | 15 | 1.53 | 0.672 | 0.495 | 1.00 | 0.526 | 0.294 |
| | 役松5号 | 34 | 1.44 | 0.791 | 0.446 | 1.03 | 0.625 | 0.319 |
| | 役松7号 | 18 | 1.71 | 0.778 | 0.506 | 1.07 | 0.551 | 0.308 |
| | 難谷3号 | 14 | 1.84 | 0.683 | 0.461 | 1.06 | 0.498 | 0.284 |
| 跡群 | 札馬41号 | 20 | 1.27 | 0.764 | 0.448 | 1.14 | 0.587 | 0.202 |
| | 札馬44号-1 | 13 | 2.07 | 0.593 | 0.452 | 1.00 | 0.444 | 0.253 |
| | 札馬44号-2 | 13 | 1.88 | 0.592 | 0.397 | 0.994 | 0.461 | 0.207 |
| | 札馬45号 | 12 | 1.59 | 0.578 | 0.521 | 0.966 | 0.457 | 0.295 |
| | 札馬47号 | 14 | 1.76 | 0.603 | 0.502 | 1.01 | 0.462 | 0.292 |
| | 札馬49号 | 6 | 2.05 | 0.586 | 0.445 | 1.04 | 0.460 | 0.289 |
| 神出群 | 神出釜ノ口窯 | 7 | 2.46 | 0.394 | 0.214 | 1.22 | 0.330 | 0.091 |
| | 神出堂ノ前窯 | 7 | 2.87 | 0.491 | 0.208 | 1.16 | 0.498 | 0.122 |
| | 神出池ノ下窯 | 7 | 2.18 | 0.418 | 0.183 | 1.20 | 0.395 | 0.066 |

表1 兵庫県下の京阪群出土須恵器の蛍光X線分析データ

特別研究 Ⅱ

魚住古窯跡群の考古地磁気による年代推定

福井大学教育学部 中島 正志・牧野智志恵

大阪大学基礎工学部 渋谷 秀敏・夏原 信義

魚住古窯跡群の22号窯、29号窯、30号窯、32号窯、33号窯、38号窯の計5基の窯床面から、考古地磁気年代推定用の試料を、昭和54年10月11日に採取した。その熱残留磁化の測定結果について報告する。

1) 考古地磁気年代推定の原理

考古地磁気学は、岩石や泥土などの残留磁化を過去の地磁気の化石として利用し、地球磁場の変動の様子を知り、地磁気に関連した諸現象を解明しようとするものである。特に、地球の歴史からみて非常に若い時代の遺跡や遺物の残留磁化を利用する場合に、考古地磁気学と呼んでいる。

土や粘土を焼くと、それに含まれる磁鉄鉱や赤鉄鉱などの強磁性鉱物が、冷却途中で、その時代の地球磁場方向に磁化する。これは熱残留磁化と呼ばれ、再び加熱されたり、化学変化や落雷等を受けたりしない限り、何億年もその磁化を頑強に保持し続けると考えられている。つまり、過去の地磁気の記録者として、その信頼性が保証されているわけである。

地球磁場の大部分は、地球の中心に小さな棒磁石を置いた時にできる磁場に近似できると考えられている。地表で観測できる地球磁場は、方向と大きさを持つベクトル量であり、一般には、地球磁場方向の真北からのずれの角度を表す傾角(declination,D)、水平面からの角度である伏角(inclination,I)、および地磁気の大きさを示す全磁力(total intensity,F)のいわゆる地磁気3要素によって規定される。

地球磁場は、観測する地点によって、偏角、伏角、全磁力が異なるだけでなく、同じ地点においても絶えず変動していることが知られている。その変動の周期は1秒くらいの短いものから数十年以上の長いものまである。地球内部に変動の原因があると考えられる数十年から数百年程度の周期の変動を地磁気永年変化と呼んでいる。わが国において、17世紀以後の傾角の永年変化は、直接的な地磁気観測から求められているが、伏角と強度については、本格的な地磁気観測が始まる明治時代までデータがなく、わずか100年足らずの

永年変化しか得られていない。そこで、さらに古い時代については、時代のよくわかつてゐる遺跡の焼土などの熱残留磁化を測定し、地磁気変動の様子を復元するという間接的な方法にたよらざるを得ない。既にWatanabe(1959)、Yukutake他(1964)、Hirooka(1971)、Shibuya(1980)ら、何人かの研究者によって人類遺跡の焼土や火山岩などの熱残留磁化の測定が実施され、過去2000年間の偏角と伏角の地磁気変動の様子がほど明らかにされ、永年変化曲線がいくつか報告されている。現在のところ、Shibuya(1980)が1978年までに発表された西南日本における考古地磁気測定結果のすべてをまとめて描いた永年変化曲線が、Hirooka(1971)の結果と大きな差はないけれど、測定データが最も豊富であり、信頼度が高いと考えられる。

地磁気永年変化の標準曲線が正しいものとするならば、逆に、年代の確かでない遺跡の焼土の残留磁化を測定し、永年変化曲線と比較することで、その年代の推定を行なうことが可能である。これが考古地磁気による年代推定である。この方法は、¹⁴C法やフィッシュン・トラック法のように、それだけで独立して年代が決定できる絶対年代決定法ではない。偏角と伏角の組から年代が独立に一つだけ決定されるということはないのである。普通、(D, I)の組み合せで永年変化曲線から二つか三つの年代が出てくる。そのいずれを取るかは、考古学的推定に頼るしかない。

2) 試料の採取と測定

地磁気の偏角と伏角を求めるためには、試料が残留磁化を獲得した時の位置（地理的緯度、経度）、および方位（試料の一つの基準面の走向、傾斜）が判っていなければならない。

位置については、2万5千分の1程度の縮尺の地形図から、その遺跡の緯度、経度を読みとればよい。方位は、焼土を遺構から切り離す前に適当な大きさにして、石膏で固め、その表面にアルミの板をあてて平面を出し、磁気コンパス（クリノメーターを考古地磁気用に改造したもの）を使って測定している。磁気コンパスでの方位は、磁北に対するものであるから、真北からの方位に直すためには、採集地点の偏角分を補正する必要がある。国土地理院の偏角補正の実験式を使ってもよいが、トランシットによる太陽方位の観測から試料採取地点の現在の偏角を実測することが望ましい。

実験室に持ち帰った試料は、ダイヤモンドカッターを用いて、冷却水をかけながら1辺3.5cmの立方体に切断する。切断面が崩れないように、一面ごとに石膏で補強し、しっかりした試料をつくる。

試料の残留磁化の測定には、無定位磁力計が用いられる。無定位磁力計は、極めて簡単な磁化を測定するのに適した磁力計であるが、その構造が簡単で、ほとんどの研究室においては自作されている。

測定にはいろいろな要因での誤差がつきものであるため、一つの薬味から10～15個程度の試料を採取している。これらの試料の個々の測定で求めた偏角(Di)、伏角(Ii)から平均値(Dm, Im)を求めるのだが、このとき用いる統計学的方法は Fisherによって確立されたものである。

まず、n組の(Di, Ii)より

$$\begin{aligned} N &= \sum_i \cos I_i \cdot \cos D_i \quad (\text{北向きの成分}) \\ E &= \sum_i \cos I_i \cdot \sin D_i \quad (\text{東向きの成分}) \\ Z &= \sum_i \sin I_i \quad (\text{鉛直の成分}) \end{aligned}$$

を求め、これより合ベクトルの長さR、およびDm, Imを

$$R = (Z^2 + N^2 + E^2)^{\frac{1}{2}}$$

$$D_m = \tan^{-1} \frac{E}{N}$$

$$I_m = \sin^{-1} \frac{Z}{R}$$

で与えられる。

この時、信頼度係数kは、

$$k = \frac{n-1}{n-R} \quad (\text{大きい程、方向の集中はよい}) \text{となる。}$$

誤差角C_{BS}は、危険率5%として

$$C_{BS} = \cos^{-1} \left(1 - \frac{n-R}{R} \left(\left(\frac{1}{0.05} \right)^{\frac{2}{n-1}} - 1 \right) \right)$$

で与えられる(小さい程、方向の集中はよい)。

これによりDm, Imのそれぞれの誤差の幅として、

$$JD = C_{BS} / \cos I_m \quad (\text{偏角誤差})$$

$$JI = C_{BS} \quad (\text{伏角誤差})$$

が求められる。

以上で一つの薬味より一組の過去のある時点での地磁気の方向が求められたことになる。

3) 測定結果

魚住22号、29号、30号、32号、33号、38号の6基の窓跡の床面から計83個の考古地磁気測定のための試料を採取した。できるだけ床面全体から試料を採取することとし、1つの窓跡から10~15個程度の個数を採取した。魚住30号は、上部と下部に分割されていたため、それぞれから11個と12個の試料を採取した。38号窓は、窓体が小さな上、天井が在り、試料採取のための作業が難しかったため、試料は5個しか得られなかった。

魚住古窓跡群での現在の地磁気傾角は、太陽方位の観測から求めた。結果は、4.8°Wであった。

熱残留磁化の測定は、福井大学の無定位磁力計で行なった。残留磁化強度は、 10^{-8} から 10^{-4} cgemu/gr程度であり、窓跡の捷土からの試料の中では、標準的なものであり、高温で焼成されたことは間違いない、考古地磁気に適した試料であった。

測定結果は第1図と第1表にまとめた。第1図は、それぞれの試料の磁化方向（偏角、伏角）をショミット・ネット上に投影したものである。円の中心と測定点を結ぶ直線の真北（円の中心とNを結ぶ方向）からの角度が偏角であり、この直線上で円周から測定点までの角度が伏角を表わしている（円周上で0度、円の中心で90度）。第1図と第1表の偏角はすべて、上述の現在の地磁気傾角（4.8°W）で補正した値である。

個々の窓についての偏角と伏角の平均値（第1表）についての信頼度係数は、すべて10以上であり、今回の測定結果は、よくまとまった信頼度の高いものといえる。

考古学からの推定年代は、6基とも12世紀後半から末ということであった。そこで今回の熱残留磁化測定結果を、Shibuya (1980)による永年変化曲線（第2図）の10世紀から15世紀の部分と比較してみた。その結果、22号、30号下部、32号の各窓は、いずれも多少伏角が深すぎるものの、12世紀末から13世紀前半、29号窓は12世紀中頃、33号窓は12世紀後半から13世紀初頭と考えられる。30号窓の上部については、下部と伏角は一致するが、偏角が大きく異なっている。強いて年代をあげるとすれば7世紀ということになる。これは單一の古窓とすれば全く矛盾する結果であり、ここではむしろ、削平された際などに動いた可能性を考えるべきであろう。また、38号窓は試料数が少なく、他のデータと比べてバラツキも大きいので、年代を推定することができなかた。以上の結果を、第2表のAGEの欄にまとめた。誤差については、誤差角とこの時代の永年変化分から判断して、±25年程度であると思われる。

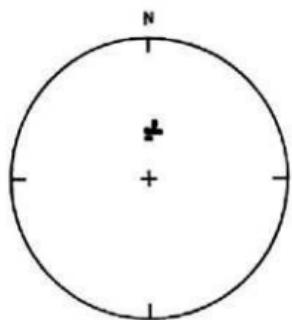
引用文獻

- Hirooka, K. (1971) Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ., Geol. and Mineral., 38, 167-207.
 Shibuya, H. (1980) "Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000 years by means of archaeomagnetism",
 大阪大学基礎工学部修士論文, 54 pp.
 Watanabe, N. (1959) J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Sect. V, 2, 1-188.
 Yukutake, T., K. Nakamura and K. Horai (1964) J. Geomag. Geoelectr., 16, 183-193.

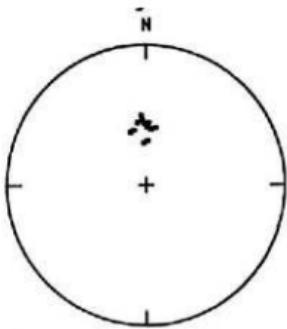
| Site | n | Dm(°E) | Im(°) | JD(°) | JI(°) =O ₆₅ | k | AGE(A.D.) |
|----------|----|--------|-------|-------|---------------------------|-------|-----------|
| No. 22 | 11 | 4.5 | 61.7 | 4.7 | 2.2 | 415.5 | 1220 |
| No. 29 | 12 | -2.1 | 56.4 | 6.0 | 3.3 | 170.2 | 1150 |
| No. 30 L | 12 | 4.1 | 62.5 | 7.1 | 3.3 | 177.1 | 1220 |
| No. 30 U | 11 | -8.7 | 62.7 | 5.9 | 2.7 | 287.1 | ? |
| No. 32 | 12 | 5.1 | 64.1 | 7.0 | 3.1 | 203.4 | 1220 |
| No. 33 | 20 | 2.9 | 59.1 | 5.9 | 3.1 | 115.2 | 1200 |
| No. 38 | 5 | -1.1 | 49.2 | 10.7 | 7.0 | 120.1 | ? |

第1表 热理古磁化测定結果と推定年代

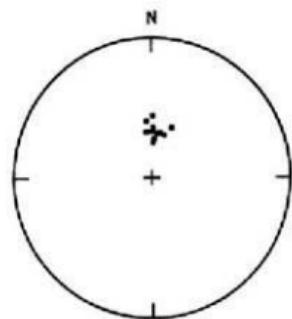
n : 試料数 Dm : 平均偏角 Im : 平均伏角
 JD : 偏角誤差 JI : 伏角誤差 k : 相似度係数
 AGE : 考古地磁気推定年代 (A.D.)



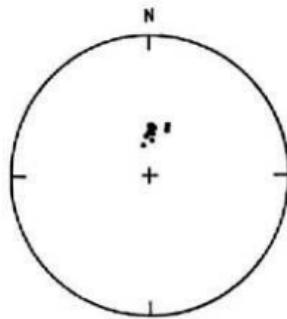
No. 22



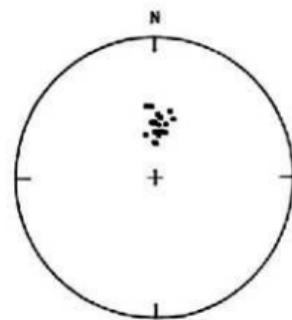
No. 29



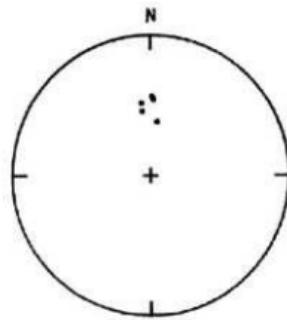
No. 30-L



No. 32

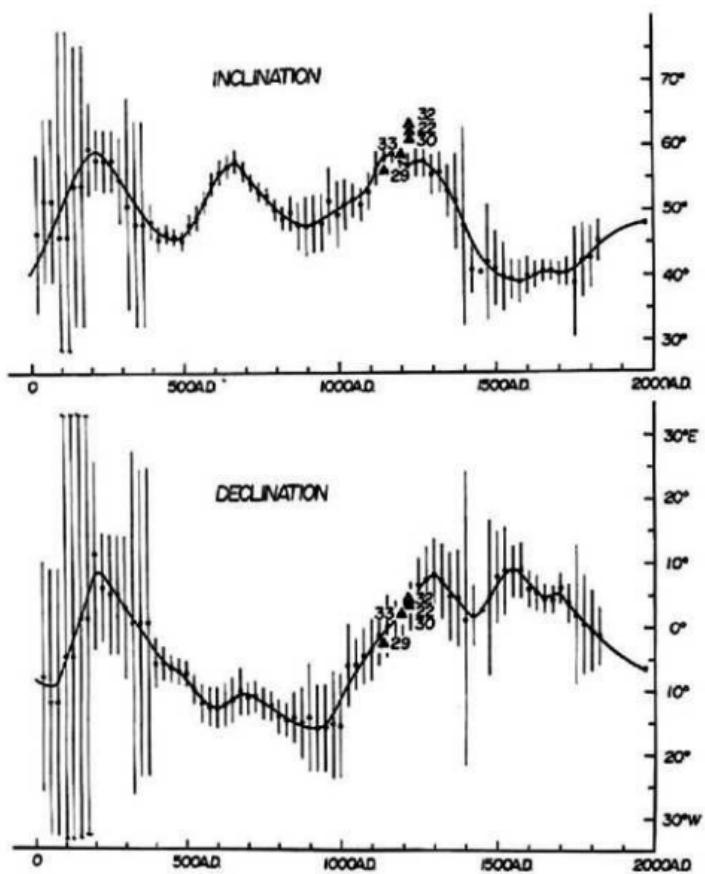


No. 33



No. 38

第1図 シュミット・ネットに投影した観察方向 (数字は底の番号)



第2図 Shibuyaによる永年変化曲線と測定結果

遺物観察表

凡 例

- 口径、胴径の計算値に関しては、推定復元によって計測したもの()を記入し、残存部3%以上のものは計測値 cm をそのまま記入した。
器高に関しては、()としたものはいずれも焼成器高 cm を示す。
- 小皿・塊・鉢・甕は、出土地層を末尾に記し、瓦・特殊遺物については、出土地点と出土土層を記入した。
- 出土地点は以下の略号で示す。

| | |
|-------|------|
| 窯体内 | [窯] |
| 窯体内床面 | [窯床] |
| 灰原 | [灰] |
| 黄色盛土 | [黄盛] |
| 南灰原 | [南灰] |
| 西灰原 | [西灰] |
| 焚口灰層 | [焚灰] |
| 前庭部 | [前] |
| 床面下灰層 | [床灰] |
| 黄灰粘土 | [黄灰] |
| 灰褐色砂 | [灰褐] |

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 納土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|------|-------|------|-----|---|---------------------------------------|--------|-----|----------------------|--|
| 10-1 | 7.8 | 1.7 | 4.9 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は薄く尖り気味である。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | 砂利を含む。 | 須毛青 | 青灰色(■) | |
| 10-2 | (7.5) | 1.7 | 4.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・厚い底部を持ち、端部は丸く仕上げる。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | [+] |
| 10-3 | 7.4 | 1.9 | 4.7 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | うの上に 重ね焼。 端部に自然 色がかかる。 [+] |
| 10-4 | 7.7 | 1.9 | 4.3 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・厚い底部を持ち、端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | 外側一部 に銀黒色 の自然色 がかかる。 [+] |
| 10-5 | 7.7 | 1.9 | 4.5 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | [+] |
| 10-6 | 7.8 | 1.85 | 4.7 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・ワラの圧痕あり。 | * | * | * | 体部外側 に自然 色がある。 [+] |
| 10-7 | (7.2) | 1.75 | 5.4 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | * | * | * | [+] |
| 10-8 | 8.0 | 1.7 | 4.6 | ・体部は直線的に口縁部にのびる。 ・端部は薄く、尖り気味である。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・ワラの圧痕あり。 | * | * | 同色 | [+] |
| 10-9 | 6.9 | 1.8 | 4.6 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | * | * | 内、青 色 外、暗 色 | 外側一部 に銀黒色 の自然色 がかかる。 [+] |

小圖(2)

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 或形技術の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-------|-------------------|-------------|---------------|---|--|------------|----|-----|------------------------------|
| 10-11 | (9.4) | 1.65 | (5.4) | * 体部は内側気泡に立ち上る。 * 離部は尖り気泡である。 * 底部 平底。 | * 内外面 ヨコナギ。 * 底部 回転条切り。 | 砂質を 含む。 | | 灰白色 | [△] |
| 10-12 | 8.0 | 1.9 | 4.9 | * 体部は内側気泡に立ち上る。口縁部で やや外反する。 * 離部は丸く納める。 * 底部 平底。 | * | * | | 青灰色 | [+] |
| 10-13 | 7.7 | 1.6 | 4.4 | * | * | * | * | | [+] |
| 10-14 | (8.4) | 2.1 | 4.9 | * 体部は内側気泡に立ち上る。 * 離部は丸く納める。 * 底部は高台気泡に立ち上る。 | * | * | | 暗灰色 | [+] |
| 10-15 | (8.0) | 1.95 | 4.7 | * 体部は内側気泡に立ち上る。 * 離部は丸く納める。 * 底部 平底。 | * | * | * | 青灰色 | [+] |
| 10-16 | (8.0) | 2.0 | 4.6 | * | * | * | * | | 体部外側 に白黒物 がかかる。 [+] |
| 10-17 | 8.4 8.8 8.8 | — — — | — — 4.4 | * 体部は内側気泡に立ち上る。 * 離部は丸く納める。 * 底部は高台気泡に立ち上る。 | * | * | * | 暗灰色 | 3枚重ね 焼。[+] |
| 10-18 | 8.1 | 1.95 | 4.7 | * 体部は内側気泡に立ち上り、口縁部で やや外反する。 * 離部は丸く納める。 * 底部 平底。 | * 内外面 ヨコナギ。 * 底部 回転条切り。 * ワタの堆积あり。 | * | * | 青灰色 | 体部内面 に白黒物 がかかる。 [+] |
| 10-19 | (8.7) | 1.95 | 4.8 | * | * 内外面 ヨコナギ。 * 底部 回転条切り。 | * | * | | [+] |

| 器番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-------|-----------------------|---------------|---------------|---|--------------------------|--------|----------------------|-----------------------------------|-----|
| 10-20 | (9.0) | 1.9 | 5.4 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | ・内外曲、ヨコナギ。 ・底部、回板条切り。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 灰白色 (A) | |
| 10-21 | (8.2) | 1.9 | 5.2 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | * | * | 泥質質 | 肉色 青色 青灰色 | (+) |
| 10-22 | 7.6 8.1 8.3 | — — 1.9 | — — 5.2 | ・体部は上2枚が内側気味に立ち上り、下1枚は口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | * | * | 内、灰 白色 青 灰色 | 3枚重ね 型 (-) | |
| 10-23 | 8.3 | 2.2 | 4.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | * | * | 灰灰色 | (+) | |
| 10-24 | 7.9 | 1.95 | 4.35 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | * | * | 青灰色 | (+) | |
| 10-25 | (8.1) | 1.95 | 4.7 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | * | * | 灰褐色 | 外表面 黒褐色の 色斑がか かる。 (+) | |
| 10-26 | (7.9) 8.5 (8.6) | — — — | — — 4.7 | ・体部は上2枚が内側しならうと口縁部でやや外反する。下1枚は内側気味に立ち上る。 ・腹部は丸く折める。 ・上1枚の底部は高台気味に立ち上がる。 | * | * | 灰白色 | 3枚重ね 型 (-) | |
| 10-27 | (7.8) | 1.95 | 4.2 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | * | * | 暗灰色 | (+) | |
| 10-28 | 7.85 | 1.85 | 5.05 | — | * | * | 青灰色 | (+) | |

| 回数 番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|----------|-------|------|-----|---|--------------------------|--------|-----|-------------------------|---------------------|
| 10-29 | 8.1 | 2.0 | 5.0 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く削める。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、リコナダ。 ・底部、切妻み切り。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 青灰色 | 口縁部に白地輪がある。 [OK] |
| 10-30 | (7.6) | 1.7 | 4.4 | ・体部は内壁気味に立ち上る。 ・端部は丸く削める。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | * | * | * | * | [+] |
| 10-31 | 7.9 | 2.1 | 4.8 | ・体部は内壁気味に立ち上る。 ・端部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 黒灰色 | [+] |
| 10-32 | 8.7 | 1.6 | 4.5 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 青灰色 | [+] |
| 10-33 | (8.9) | 2.15 | 5.2 | ・体部は内壁気味に立ち上る。 ・端部は丸く尖り気味である。 ・底部、平底。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 10-34 | 8.2 | 1.95 | 3.9 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く削める。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | * | * | * | 青灰色 | [+] |
| 10-35 | 8.0 | 1.95 | 4.6 | ・体部は内壁気味に立ち上る。 ・端部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 灰色 表面有 一層、白 色地 | [+] |
| 10-36 | (8.6) | 1.5 | 3.9 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部で外反する。 ・端部は丸く尖り気味である。 ・底部、平底。 | * | * | 生焼け | 黄灰色 | [+] |
| 10-37 | (8.0) | 1.85 | 4.5 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | 低温窯 | 黒灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-------|-------|------|------|---|--------------------------|--------|-----|-------------------|--------------------------------------|
| 10-38 | 8.0 | 2.1 | 4.75 | ・体部は内窓気味に立ち上り、口縁部はやや外反する。 ・端部は丸く削める。 ・底部は丸白気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削輪余切り。 | 砂粒を含む。 | 須毛質 | 灰白色 | (+) |
| 10-39 | 7.7 | 1.65 | 4.8 | ・体部は内窓気味に立ち上り、口縁部は外反する。 ・端部は丸く削り倒味である。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | (+) |
| 10-40 | 7.7 | 1.65 | 4.3 | ・体部は内窓気味に立ち上り、口縁部はやや外反する。 ・端部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 青灰色 | (+) |
| 10-41 | 8.3 | 2.0 | 4.4 | ・体部は内窓気味に立ち上り、口縁部はやや外反する。 ・端部は丸く削める。 ・底部は丸白気味に立ち上る | * | * | * | 灰色 | (+) |
| 10-42 | 7.9 | 2.05 | 3.65 | * | * | * | * | 青灰色 | (+) |
| 10-43 | (7.9) | 2.1 | 4.5 | ・体部は内窓気味に立ち上る。 ・端部は丸く削める。 ・底部は丸白気味に立ち上る。 | * | * | * | 内、灰 色外、黒 灰色 | 底部外側 に黒黒色 の自然釉 がかかる。 (+) |
| 10-44 | 7.3 | 1.9 | 4.4 | ・体部は内窓気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く削める。 ・底部は丸白気味に立ち上る。 | * | * | * | 青灰色 | (+) |
| 10-45 | 7.8 | 2.25 | 3.9 | * | * | * | * | 灰白色 | (+) |
| 10-46 | (8.0) | 2.15 | 4.8 | * | * | * | * | 青灰色 | (+) |

| 西版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-------------|------|------|------|---|--|--------|------------------------|--|-----------------------------|
| 10-47 (8.2) | | 1.95 | 4.8 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・縁部は丸く削める。 ・底部は馬口気味に立ち上る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ、 ・底部、四輪系切り。 | 砂粒を含む。 | 素窯質 | 灰白色 | [△] |
| 10-48 | 8.65 | 2.35 | 3.0 | * | * | * | * | * | [+] |
| 10-49 | 8.35 | 1.8 | 4.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上る。 ・縁部は薄く尖ら気味である。 ・底部、平底。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 10-50 | 8.4 | 1.8 | 5.0 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上る。 ・縁部は丸く削める。 ・底部は馬口気味に立ち上る。 | * | * | * | 青灰色 | [+] |
| 10-51 (7.9) | | 1.9 | 5.0 | * | * | * | 内、暗 火色 外、黒 灰色 | 体部外側 一部に暗 褐色の色 斑點がか かる。 [+] | |
| 10-52 (8.4) | | 1.8 | 4.8 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部はやや外反する。 ・縁部は丸く削める。 ・底部は馬口気味に立ち上る。 | * | * | * | 青灰色 | [+] |
| 10-53 (8.0) | | 1.95 | 4.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上る。 ・縁部は丸く削める。 ・底部は馬口気味に立ち上る。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 10-54 (8.2) | | 1.9 | 4.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・縁部は丸く削める。 ・底部は馬口気味に立ち上る。 | * | * | * | 青灰色 | 暗部に白 黒斑點がか かる。 [+] |
| 10-55 (8.5) | | 1.8 | 4.6 | * | * | * | 灰白色 | [+] | |

小圖(7)

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 焼土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------------|------------|----------|-----------|---|--------------------------|------------|-----|------|--------------------------------|
| 10-56 (8.0) | | 1.95 | 4.5 | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部は やや外反する。 ・腹部は丸く削める。 ・底部は高台同時に立ち上る。 | ・内外曲、ヨコナギ。 ・底部・周縁手切り。 | 砂利を 含む。 | 素燒器 | 暗灰褐色 | (1)腹部に 白無地が かかる。 (10) |
| 10-57 | 8.2 8.4 | — 4.8 | — 1.75 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸く削める。 ・底部は高台同時に立ち上る。 | * | * | * | 淡白色 | 2枚重ね 焼。(+) |
| 10-58 | 8.7 | 1.6 | 5.1 | * | * | * | * | 青灰色 | (+) |
| 11-97 (8.5) | 1.7 | 5.4 | | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | (後述) |
| 11-98 (8.4) | 1.95 | 4.2 | | * | * | * | * | * | (+) |
| 12-107 | 8.2 | 1.6 | 4.3 | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部は やや外反する。 ・腹部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 暗灰褐色 | (前) |
| 12-108 (8.2) | 1.7 | 5.4 | | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 灰色 | (+) |
| 12-119 | 8.4 | 2.6 | 4.5 | * | * | * | * | 淡白色 | (後灰) |
| 12-120 (7.6) | 1.9 | 4.5 | | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部は やや外反する。 ・腹部は丸く削める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 灰色 | (+) |

| 回数 番号 | 口径 | 歯高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|----------|-------|------|-------|---|--------------------------|--------|-----|------------------|------|
| 12-121 | (9.2) | 1.6 | (6.1) | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く約める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | 砂粒を含む。 | 素焼き | 灰色 | [西灰] |
| 19-204 | (8.2) | 1.15 | 5.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部は外反する。 ・歯高は低く、口縁部は丸く約める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 暗灰色 | [東灰] |
| 21-229 | 8.3 | 1.5 | 4.4 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は平底型を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、丸約型。 | * | 土器質 | 暗灰色 | [東] |
| 33-324 | (7.8) | 1.65 | (6.0) | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く約する。 ・底部は窓台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・平底、回転糸切り。 | * | 素焼き | 茶灰色 | [西] |
| 33-325 | (8.1) | 1.75 | (5.4) | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く約める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 33-326 | (7.4) | 1.3 | (6.0) | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く約める。 ・底部、平底。 ・歯高は低い。 | * | * | 生焼け | 暗灰色 | [+] |
| 33-327 | (8.0) | 1.7 | (6.3) | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く約める。 ・底部、平底。 | * | * | 素焼き | 灰色 | [+] |
| 59-524 | (7.8) | 1.25 | 5.6 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く約める。 ・底部、平底。 ・歯高は低い。 | * | * | 瓦質 | 内外、灰白色 口縁部、黒色 | [+] |
| 80-814 | 7.6 | 1.9 | 4.6 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部はやや外反する。 ・端部は丸く約める。 ・底部、平底。 | * | * | 素焼き | 灰色 | [東灰] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-------|-----|-----|--|--------------------------|--------|-----|-----|------|
| BD-815 | (8.9) | 1.6 | 4.5 | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部はやや外反する。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 灰色 | [共通] |
| 72-624 | 6.6 | 1.7 | - | ・体部は内側斜面に立ち上る。 | ・内外面とも手づくり。 | 砂粒を含む。 | - | 黒灰色 | [+] |

境

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-------|--------|-----|-----|---|--------------------------|--------|-----|-----|-----|
| 10-59 | 14.8 | 4.7 | 6.1 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸く折める。 ・底部は円盤状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 灰白色 | [同] |
| 10-60 | (13.7) | 4.8 | 6.7 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸く折める。 ・底部、平底。 | - | - | - | - | [+] |
| 10-61 | 15.15 | 4.8 | 6.2 | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部は円盤状に突出する。 | - | - | - | 灰白色 | [+] |
| 10-62 | 14.7 | 4.8 | 6.2 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸く折める。 ・底部は円盤状に突出する。 | - | - | 生成H | 黄灰色 | [+] |
| 10-63 | (15.5) | 4.7 | 6.9 | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | - | - | 低温窯 | 青灰色 | [+] |
| 10-64 | (15.5) | 5.1 | 7.0 | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く折める。 ・底部は円盤状に突出する。 | - | - | 生成H | 青灰色 | [+] |

| 回数 番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 粘土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------------|------|-------|-----|---|---|-------------|-----|---------|-----|
| 10-65 | 15.4 | 5.4 | 6.2 | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 | 砂粒全 身有り。 | 生焼け | 黒灰色 (灰) | |
| 10-66 | 15.7 | 5.6 | 6.1 | * | * | * | 高温窯 | 暗灰色 (+) | |
| 10-67 | 14.5 | 4.65 | 5.9 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | * | 灰白色 (-) | |
| 10-68 (16.2) | 4.7 | 6.1 | * | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・粘土引き上げの痕跡あり。 | * | * | 青灰色 (-) | |
| 10-69 (14.8) | 4.65 | (5.1) | * | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 | * | * | * | (+) |
| 10-70 | 16.2 | 4.55 | 7.6 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・粘土引き上げの痕跡あり。 | * | * | * | (+) |
| 10-71 (15.6) | 4.5 | 6.9 | * | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 | * | * | 青灰色 | (+) |
| 10-72 | 16.7 | 6.6 | 6.3 | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 ・器高は高い。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 | * | * | 暗灰色 (+) | |
| 10-73 (15.4) | 4.5 | 6.8 | * | ・体部は内側斜面に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状の突出はあるが、平坦。 | * | * | * | 灰白色 (+) | |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-----------------|----|------|-----|---|---|---------------|-----|-----|-----|
| 10-74 (15.0) | | 4.6 | 6.6 | ・体部は内輪気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | 砂松を生焼け 色む。 | 青灰色 | [灰] | |
| 10-75 16.3 | | 4.35 | 4.5 | ・体部は内輪気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部、平底。 | * | * | 淡青青 | 青灰色 | [+] |
| 10-76 14.9 | | 4.5 | 6.0 | ・体部は内輪気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | 青灰色 | [+] | |
| 10-77 16.3 | | 5.0 | 6.5 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、成形不明。 | * | 生焼け | 黒灰色 | [+] |
| 10-78 (15.8) | | 4.6 | 6.0 | ・体部は内輪気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | * | 淡青青 | 青灰色 | [+] |
| 11-79 (15.7) | | 5.9 | 5.9 | ・体部は内輪気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | * | * | [+] |
| 11-80 16.1 | | 4.7 | 5.9 | ・体部は内輪気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・粘土巻き上げの痕跡あり。 | * | * | * | [+] |
| 11-81 (15.6) | | 4.55 | 6.3 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | * | * | * | [+] |
| 11-82 16.8 | | 4.4 | 6.3 | ・体部は内輪気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | [+] |

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-----|-------|---|--|--------|-----|---------|------|
| II-83 | (16.4) | 4.5 | 6.0 | ・体部は内壁気味に立ち上り。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | ・内外輪、ヨコナデ。 ・底部、回転糸切り。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 青灰褐色(灰) | |
| II-84 | (15.6) | 4.4 | (6.2) | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | * | * | [+] |
| II-85 | (15.8) | 4.6 | 6.4 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | * | * | [+] |
| II-86 | (17.2) | 4.4 | 6.7 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | ・内外輪、ヨコナデ。 ・底部、回転糸切り。 ・粘土紐巻き上げの痕跡あり。 | * | * | * | [+] |
| II-89 | 15.8 | 4.1 | 6.0 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外輪、ヨコナデ。 ・底部、回転糸切り。 | * | * | * | [黄盛] |
| II-100 | 15.6 | 5.4 | 5.6 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | * | 灰色 | [+] |
| II-101 | 14.5 | 4.7 | 5.2 | ・体部は内壁気味に立ち上る。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | * | * | [+] |
| II-102 | (14.7) | 5.2 | 5.2 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | * | 青灰褐色 | [+] |
| II-103 | 15.5 | 4.5 | 6.4 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|------|--------|--|--|----------|-----|----------------|------|
| 11-104 | (15.4) | 5.7 | 6.3 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 ・断面は高い。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | 砂粒を含む。 | 通常質 | 青灰色 | [黄緑] |
| 11-105 | (15.7) | 4.65 | 6.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | * | * | [+] |
| 11-106 | (15.9) | 3.9 | 6.5 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く納める。 ・底部は円盤状に突出する。 | * | * | 生焼け | 黄白色 | [+] |
| 12-122 | (15.0) | 4.8 | (5.7) | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・胎土組巻き上げが痕跡あり。 | 砂粒を含み、良。 | 通常質 | 青灰色 | [青灰] |
| 12-123 | (15.6) | 5.0 | 5.0 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部で外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 灰白色 口縁部、黒灰色 | [+] |
| 12-124 | (16.2) | 3.8 | (5.6) | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部で外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 | * | 通常質 | 灰色 | [+] |
| 12-125 | 14.8 | 4.6 | 5.4 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 12-126 | (15.6) | 5.1 | (6.15) | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | * | 生焼け | 灰白色 口縁部、黒灰色 | [+] |
| 12-127 | 15.8 | 5.0 | 5.4 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含み、良。 | 通常質 | 青灰色 | [+] |

| 図版号 | 口径 | 深高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|------|-----|---|---|------------|-----|---------------------|------|
| 12-128 | (16.9) | 5.1 | 5.5 | ・体部は内側気孔に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、停止系切り。 | 砂粒を 含む。 | 墨色質 | 灰白色 | [尚可] |
| 12-129 | 16.0 | 5.25 | 5.5 | ・体部は内側気孔に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・端部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転系切り。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | * | 青灰色 | [+] |
| 12-130 | (16.0) | 5.1 | 5.5 | ・体部は内側気孔に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 黑色 | [+] |
| 12-131 | (17.8) | 5.1 | 5.5 | ・体部は内側気孔に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・端部は丸く肥厚する。 ・底部、不明。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 | * | * | 青灰色 | [+] |
| 12-132 | (15.9) | 5.4 | 5.5 | ・体部は内側気孔に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・端部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転系切り。 | * | 瓦質 | 灰白色、 口縁部、 墨灰色 | [+] |
| 12-133 | (16.6) | 5.4 | 6.0 | * | * | * | * | 墨色質 | 青灰色 |
| 12-134 | (15.5) | 5.1 | 5.6 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、停止系切り。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | * | 黑色 | [+] |
| 12-135 | (15.6) | 5.1 | 5.2 | * | * | * | * | * | (-) |
| 12-136 | 14.8 | 4.4 | 5.6 | ・体部は内側気孔に立ち上り、口縁部で やや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、停止系切り。 | * | * | 青灰色 | [+] |

| 図版号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|------|-------|---|---|--------|-----|-------------------|------|
| 13-137 | 15.6 | 5.5 | 5.2 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、圓錐形切り。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 灰白色 口縁部 黒灰色 | [陶灰] |
| 13-138 | (15.9) | 4.9 | (5.6) | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、錐形切り。 | - | 須恵質 | 灰白色 口縁部 黒灰色 | [+] |
| 21-230 | 12.2 | 2.9 | 7.3 | ・体部はゆるく外反する。 ・腹部は大きく、内側に向っておれる。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、半調整。 | - | 土器質 | 灰白色 | [灰] |
| 21-231 | 16.4 | 5.3 | 5.1 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、圓錐形切り。 ・内面、仕上げナデを施す。 | - | 瓦質 | 灰白色 口縁部 黒灰色 | [+] |
| 21-232 | 14.4 | 4.6 | 5.75 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、圓錐形切り。 | - | - | 灰白色 口縁部 黒灰色 | [+] |
| 27-292 | (14.6) | 4.7 | 5.1 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部、平底。 | - | - | 須恵質 | 暗灰色 | [前] |
| 27-293 | (15.7) | 4.65 | 5.4 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | - | - | - | - | [+] |
| 27-294 | (15.8) | 4.9 | 5.4 | ・体部は内壁気味に立ち上る。 ・腹部は丸く納める。 ・底部、平底。 | - | - | - | - | [+] |
| 33-328 | (15.2) | 4.8 | 5.1 | ・体部は内壁気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・腹部は丸く納める。 ・底部、平底。 | - | - | - | - | [灰] |

| 器 皿 番 号 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 態 の 特 徴 | 成 形 技 法 の 特 徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|------------------|--------|--------|--------|---|---------------------------------|--------|--------|------------------------|--------|
| 40-368 | 14.5 | 3.9 | 7.1 | ・体部は内腹気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く熱める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓輪系切り。 | 砂粒を含む。 | 生焼け | 黄褐色 口縁部、 底灰色 | (直) |
| 40-369 | 14.6 | 4.85 | 4.3 | ・体部は内腹気味に立ち上る。 ・端部は丸く熱める。 ・底部、平底。 | * | * | * | 灰白色 | (直) |
| 40-376 | 16.4 | 4.9 | 5.4 | ・体部は内腹気味に立ち上る。 ・端部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | * | * | 瓦質 | 内、灰 白色 外、黑 灰色 | (直) |
| 40-377 (17.1) | 4.7 | (5.2) | | ・体部は内腹気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | * | * | * | 灰白色 口縁部、 黑色 | (+) |
| 40-378 | 16.2 | 4.2 | 4.9 | ・体部は内腹気味に立ち上る。 ・端部は丸く肥厚する。 ・底部、平底。 | * | * | * | 灰白色 口縁部、 黑色 | (+) |
| 40-379 (16.0) | 5.1 | 5.4 | | * | * | * | * | 内、灰 白色 外、黑 灰色 | (+) |
| 40-380 | 15.9 | 4.4 | 5.4 | ・体部は内腹気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く熱める。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | * | * | * | 灰白色 口縁部、 底灰色 | (+) |
| 59-526 | 16.0 | 4.3 | 6.7 | ・体部は内腹気味に立ち上る。 ・端部は丸く熱める。 ・底部、平底。 | * | * | 粗底質 | 灰白色 口縁部、 黑色 | (直) |
| 59-527 (15.0) | 4.3 | (5.6) | | ・体部は内腹気味に立ち上る。 ・端部は丸く熱める。 ・底部、平底。 | * | * | | 青灰色 | (+) |

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-----|-------|--|------------------------------------|--------|-----|--------------------|------|
| 59-528 | 16.0 | 4.6 | 5.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削起み切り。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 灰白色 口縁部、 黒灰色 | (B) |
| 59-529 | (16.2) | 4.1 | (5.2) | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | * | * | 泥質質 | 暗灰色 | (+) |
| 59-530 | (16.5) | 4.5 | 5.9 | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部でやや外反する。 ・端部は丸く納める。 ・底部、平底。 | * | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、 黒灰色 | (+) |
| 80-813 | (15.4) | 3.8 | (5.1) | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸く納める。 ・底部は円錐状に突出する。 | * | * | 泥質質 | 灰色 | (赤鉄) |
| 72-627 | 14.6 | 6.2 | 10.4 | ・体部は直線的に口縁部に接ぐ。 ・端部は丸く納める。 ・底面は外反気味に貼り出し、端部は丸く納める。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、糸切り巻貼り付け ・底面。 | * | 土質器 | 暗灰色 | (B) |

鉢

表10

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-------|--------|-------|------|--|---|--------|-----|---------------------------------------|-----|
| 10-10 | (31.0) | 11.5 | 10.6 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に接ぐ。 ・端部は平底面を持ち、下方に若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削起み切り(?)。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 泥質質 | 暗灰色 | (A) |
| 11-87 | (32.0) | (6.7) | - | ・体部は直線的に口縁部に接ぐ。 ・端部は丸味を持ち、上方に若干つまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、削毛仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 内、黒 灰色 外、灰 白色 口縁部、 黒灰色 | (A) |
| 11-88 | (28.5) | (7.2) | - | ・体部は外反気味に立ち上る。 ・端部は平底面を持ち、外方に若干つまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 泥質質 | 暗灰色 | (+) |

| 器 版 番 号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形 態 の 特 徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備 考 |
|------------------|--------|--------|--------|---|---|----------|-----|----------------------|----------------------|
| II-89 | 31.03 | (10.9) | - | ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に続く。 ・端部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 油色質 | 暗灰色 | (A) |
| II-90 | (30.3) | (6.8) | - | ・体部は外反気味に立ち上る。 ・端部は平坦面を持ち、外方につまみ出す。 | * | * | * | 灰白色 | 内面に自然筋がかかる。(+) |
| II-91 | (29.6) | 11.3 | (9.1) | ・底部は外反気味に立ち上る。 ・端部は平面面を持ち、外方に若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰色 | (+) |
| II-92 | (28.9) | 10.8 | 9.4 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は丸味を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 油色質 | 暗灰色 | 口縁部に自然筋がかかる。(+) |
| II-93 | (33.2) | 12.4 | (12.2) | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に続く。 ・端部は平面面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部は丸台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 内、黒 外、灰 色 | (+) |
| II-94 | (19.6) | 12.6 | 10.4 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に続く。 ・端部は平面面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部は丸台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、一部、ハラ削り。 ・内面、網目仕上げ。 | * | * | 灰 色 | (+) |
| 12-II0 | 20.6 | 7.4 | 6.9 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は平面面を持つ。端部は外は丸みを持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 | * | * | 内、灰 色 外、黑 色 | 小型 全体に自然筋がかかる。(強) |
| 12-II1 | 19.4 | 7.9 | 7.6 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・端部は平面面を持つ。端部は外は丸みを持つ。 ・底部は丸台気味に立ち上る。 | * | 砂粒を含み、灰。 | * | 暗灰色 | 小型 (+) |
| 12-II2 | (33.1) | (9.1) | - | ・体部は直線的に口縁部に続く。 ・端部は凹面を持ち、若干上下につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | * | * | (+) |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|------|---|--|--------|-----|--------------------|------------|
| 12-113 | - | (13.0) | 11.2 | ・体部は内側気泡に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 ・底部、點付け窓台。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明、高台部、ナ ・仕上げナゲを施す。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 還原質 | 灰色 | (直) |
| 12-114 | (24.0) | (6.0) | - | ・体部は直線的に口縁部に近く。 ・底部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | (直) |
| 12-115 | 32.4 | 11.95 | 9.1 | ・体部は内側気泡に立ち上り、外反しながら口縁部に近く。 ・底部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓錐系切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 青灰色 | 直口鉢 (+) |
| 13-139 | 21.35 | 8.45 | 8.45 | ・体部は内側気泡に立ち上る。 ・底部は平頂面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部は円錐状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止系切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | 小型鉢 (直) |
| 13-140 | 21.4 | 7.5 | 7.25 | ・体部は内側気泡に立ち上り、外反しながら口縁部に近く。 ・底部は平頂面を持つ。 ・底部、平底。 | * | * | * | 灰色 | 小型鉢 (+) |
| 13-141 | 21.5 | 8.7 | 7.8 | ・体部は内側気泡に立ち上る。 ・底部は丸みを持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止系切り。 ・底部内面、ていねいな仕 ・底部内面に「X」印有り。 ・底部外面に「X」印有り。 | * | * | 暗灰色 | 小型鉢 (+) |
| 13-142 | 20.8 | 8.75 | 8.2 | ・体部は内側気泡に立ち上る。 ・底部は平頂面を持ち、外方につまみ出 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止系切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | * | 小型鉢 (+) |
| 13-143 | (21.0) | 8.1 | 7.8 | ・体部は内側気泡に立ち上る。 ・底部は平頂面を持ち、外方につまみ出 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 | * | 瓦質 | 灰白色 白褐色、 黒灰色 | 小型鉢 (直) |
| 13-144 | (22.5) | 8.2 | 9.0 | ・体部は内側気泡に立ち上る。 ・底部は平頂面を持ち、外方につまみ出 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 (直) 黑色 | 小型鉢 (直) |

| 図版号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|------|--|--|--------|-----------|------------------------|-----|
| 13-145 | 11.9 | 8.6 | 8.9 | ・体部は内側気泡に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・端部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 素窯窯 灰色 | 小型 灰灰 | |
| 13-146 | (30.6) | 11.35 | 9.5 | ・体部は内側気泡に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・端部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 内、青 灰色 外、灰 白色 | [+] |
| 13-147 | 30.3 | 10.1 | 10.6 | ・体部は内側気泡に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・端部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 灰色 | [+] |
| 13-148 | 30.6 | 13.9 | 9.2 | ・体部は内側気泡に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・端部は凹面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・底部凹面、ナギ上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦窯 | 灰白色 口縁部 黒灰色 | [+] |
| 13-149 | (30.6) | 10.2 | 9.4 | ・体部は直線的に口縁部に傾く。 ・端部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 瓦窯 | 青灰色 | [+] |
| 13-150 | 32.4 | 11.5 | 9.8 | ・体部は内側気泡に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・端部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・底部凹面、ヨコナギ。 ・底部内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | * | [+] |
| 13-151 | 31.9 | 11.7 | 9.1 | ・体部は直線的に口縁部に傾く。 ・端部は凹面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・底部内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 14-152 | 29.6 | 12.2 | 9.9 | ・体部は直線的に口縁部に傾く。 ・端部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | * | [+] |
| 13-153 | 30.0 | 10.6 | 10.8 | ・体部は内側気泡に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・端部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止糸切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | * | [+] |

| 試験番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|------|---|--|-------|-----|----------------|------|
| 14-154 | 30.4 | 10.3 | 10.3 | ・体部は直線的に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、外方につまみ出さる。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削止め切り。 ・底部端縁、ナギ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナギを施す。 | 砂粒を含む | 瓦質 | 灰白色 口縁部、黒灰色 | [南光] |
| 14-155 | 30.4 | 10.2 | 10.0 | ・体部は直線的に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は平面面を持ち、外方につまみ出さる。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削止め切り。 ・底部端縁、ナギ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナギを施す。 | * | 泥窓質 | 暗灰色 | [+] |
| 14-156 | 31.0 | 11.6 | 10.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は平面面を持ち、外方につまみ出さる。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削止め切り。 ・内面、ていねいな仕上げナギを施す。 | * | * | 灰白色 | [+] |
| 14-157 | 28.6 | 11.35 | 8.5 | ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は外方につまみ出さる。 ・底部、平底。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 14-158 | 31.7 | 11.1 | 9.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は平面面を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削止め切り。 ・内面、ていねいな仕上げナギを施す。 | * | * | * | [+] |
| 14-159 | 31.0 | 11.3 | 10.4 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は平面面を持つ。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削止め切り。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | * | * | [+] |
| 14-160 | 29.7 | 11.2 | 8.0 | ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は平面面を持ち、外方につまみ出さる。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削止め切り。 ・底部内面、仕上げナギを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、黒灰色 | [+] |
| 14-161 | 31.2 | 10.6 | 10.2 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は平底面を持ち、外方につまみ出さる。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削止め切り。 ・内面、ていねいな仕上げナギを施す。 | * | 泥窓質 | 灰白色 | [+] |
| 14-162 | (30.2) | 11.3 | 9.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は若干凹面を持ち、外方につまみ出さる。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削止め切り。 ・内面、ていねいな仕上げナギを施す。 | * | * | 青灰色 | [+] |

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|-------|---|--|--------|-----|-------------------|------|
| 14-163 | 31.1 | 9.9 | 9.9 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部に近く。 ・腹部は平底面を持ち、腹部周囲を丸く仕上げる。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉗糸切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | 妙社を含む。 | 低温窯 | 青灰色 | (開口) |
| 14-164 | 31.2 | 13.1 | 9.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口部に近く。 ・腹部は不規則面を持つ。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 瓦窯 | 灰白色 口部深 底灰色 | [+] |
| 14-165 | 31.9 | 11.5 | 10.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部に近く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉗糸切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 低温窯 | 灰色 | [+] |
| 15-166 | (29.5) | 10.6 | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口部に近く。 ・腹部は凹面を持ち、若干外方につまみ出す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 15-167 | 28.4 | (10.6) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口部に近く。 ・腹部は平底面を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | * | * | [+] |
| 15-168 | 28.4 | 10.7 | 9.0 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部に近く。 ・腹部は平底面を持ち、下方につまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉗糸切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 灰色 | [+] |
| 15-169 | 28.5 | 13.6 | 9.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は平底面を持ち、内方につまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、ナゲ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 15-170 | 29.1 | 11.4 | 9.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は平底面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉗糸切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 青灰色 | [+] |
| 15-171 | 31.1 | 21.6 | 10.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口部に近く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉗糸切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | * | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|------|-------|------|--|--|--------|----|-------------------|---------------------|
| 15-172 | 29.1 | 11.55 | 9.1 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口部部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、外方に若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、帯止め切り。 ・内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | 砂粒を含む。 | 瓦窯 | 灰褐色 | [南向] |
| 15-173 | 30.6 | 11.5 | 10.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しながら口部部に狭く。 ・腹部は凹面を持つ。 ・底部、平底。 | * | * | 瓦窯 | - | [+] |
| 15-174 | 30.1 | 11.7 | 9.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口部部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、若干外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、開口部あり。 ・内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | * | * | 青灰色 | [+] |
| 15-175 | 28.7 | 11.2 | 9.1 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口部部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、上下に若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、開口部あり。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | * | 青灰色 | [+] |
| 15-176 | 30.8 | 11.8 | 10.2 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口部部に狭く。 ・腹部は凹面を持ち、上下に若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、停止系切り。 ・内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | * | * | - | [+] |
| 15-177 | 31.2 | 11.8 | 10.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しながら口部部に狭く。 ・腹部は丸みを持ち、上方につまみ出す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | * | * | * | * | [+] |
| 15-178 | 31.7 | 13.4 | 11.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しながら口部部に狭く。 ・腹部は丸みを持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | * | * | * | 青灰色 | 両口跡 [+] |
| 15-179 | 32.3 | 12.3 | 10.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口部部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、若干上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | * | * | 瓦窯 | 灰白色 白地板 黒灰色 | [+] |
| 15-180 | 27.6 | 11.1 | 9.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口部部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、停止系切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナダを施す。 ・片口部外側、キズ有り。 | * | 瓦窯 | 灰褐色 白地板 黑色 | 内面に自然剥離がかかる。 [+] |

| 品番 番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技術の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------------|-------|-------|------|--|---|--------------|-----|---------------------|-----|
| 16-181 | 29.7 | 12.6 | 16.0 | ・底部は内面気泡に立ち上り、直線的に口端部に狭く。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、静止あ切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、ていねいな仕上げナデを施す。 ・片口部内面、ユビナデ。 | 砂粒を含む。 | 良素質 | 青灰色(肉眼) | |
| 16-182 | 29.6 | 11.5 | 9.4 | ・体部は直線的に口端部に狭く。 ・腹部は丸みを持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、回転あ切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナデを施す。 | * | 瓦質 | 青灰色、 黒灰色 | [+] |
| 16-183 | 31.25 | 11.65 | 16.4 | ・体部は内面気泡に立ち上り、直線的に口端部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、静止あ切り。 ・内面、ていねいな仕上げナデを施す。 | * | 良素質 | 灰白色 | [+] |
| 16-184 | 31.4 | 11.8 | 16.4 | ・体部は内面気泡に立ち上り、外況しながら口端部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、静止あ切り。 ・内面、ていねいな仕上げナデを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色、 口端部、 黒灰色 | [+] |
| 16-185 (13.13) | 12.85 | 9.9 | | ・体部は内面気泡に立ち上り、直線的に口端部に狭く。 ・腹部は外方につまみ出す。 ・底部は最高気泡に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、静止あ切り。 ・内面、仕上げナデを施す。 | * | 生焼け | 黒灰色、 口端部、 黒灰色 | [+] |
| 16-186 (29.2) | 12.8 | 10.4 | | ・体部は内面気泡に立ち上り、直線的に口端部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、上下につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、回転あ切り。 ・内面、ていねいな仕上げナデを施す。 | 砂粒を含む、 灰。 | 良素質 | 灰白色 | [+] |
| 16-193 (30.4) (4.1) | | | - | ・体部は直線的に口端部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、下方に若干つまみ出す。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・内面、仕上げナデを施す。 | 砂粒を含む。 | * | * | (R) |
| 16-194 (31.4) (6.7) | | | - | ・体部は直線的に口端部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、上方に若干つまみ出す。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・内面、ていねいな仕上げナデを施す。 | * | * | * | [+] |
| 16-195 (30.0) (5.4) | | | - | ・体部は直線的に口端部に狭く。 ・腹部は平底面を持ち、上下につまみ出し丸底を持つ。 | ・内面、ヨコナダ。 | * | * | 暗灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|-----|--|-----------------------------|--------|------------------|-------------------------|------------------------------------|
| 16-196 | (33.8) | (5.5) | - | ・体部は直線的に口縁部に傾く。 ・底部は平坦面を持ち、上下に若干つまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 | 砂粒を含む。 | 通常 | 灰色 | [灰] |
| 19-197 | (31.4) | (6.2) | - | ・体部は直線的に口縁部に傾く。 ・底部は凹面を持ち、上下につまみ出し、丸味を伴う。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | * | * | [+] |
| 19-198 | (33.0) | (4.6) | - | ・体部は直線的に口縁部に傾く。 ・底部は平坦面を持ち、上下に弧曲する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | 生成け | 黒灰色 | [+] |
| 19-199 | (31.7) | (6.5) | - | ・体部は直線的に口縁部に傾く。 ・底部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | * | 茶灰色 | [+] |
| 20-207 | (26.2) | (2.9) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・底部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | 通常 口縁部、 底部 | 灰色 | [金] |
| 20-208 | (28.4) | (5.1) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・底部は凹面を持ち、上下に若干つまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 生成け | 灰白色 口縁部 底部 暗灰色 | [+] |
| 20-211 | (28.0) | (4.7) | - | * | ・内外面、ヨコナギ。 | * | 通常 | 暗灰色 | [灰] |
| 20-212 | (26.0) | (5.4) | - | ・体部は外反気味に口縁部に傾く。 ・底部は丸味を持ち、上方につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 灰白色 | [+] |
| 21-221 | 19.3 | 7.6 | 8.0 | ・体部は内反気味に立ち上る。 ・底部は平坦面を持ち、若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、円錐系切り。 | * | * | 灰色 | 小型 口縁部に 自然物が かかる。 [地痕] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成色調 | 備考 |
|---------------|-------|-------|----|--|--|------------|------------------------|------------------------------------|
| 21-222 (21.8) | 10.2 | (6.3) | | ・体部は内窓気味に立ち上る。 ・端部は平底を有す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り(?)。 | 妙和モ 含む。 | 淡青質 灰色 | 小型器 (底座) |
| 21-223 18.8 | 6.5 | 7.2 | | ・体部は内窓気味に立ち上る。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | * | * | 小型器 口縁部に 自然輪が かかる。 (*) |
| 21-224 27.15 | 10.9 | 10.0 | | ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しな がら口縁部に狭く。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内底、仕上げナガを施す。 | * | * | 口縁部に 自然輪が かかる。 (*) |
| 21-225 (30.0) | (7.5) | - | | ・体部は直線的に立ち上る。 ・端部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内底、仕上げナガを施す。 | * | 瓦質 灰白色 | (*) |
| 21-226 (28.0) | 9.8 | 9.8 | | ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しな がら口縁部に狭く。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内底、仕上げナガを施す。 | * | 生焼け 黑色 一部 鐵灰色 | [底座] |
| 21-227 (18.0) | 9.1 | (7.5) | | ・体部は直線的に立ち上る。 ・端部は平底を有す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り(?)。 | * | 淡青質 暗灰色 | 小型器 (底) |
| 21-228 (19.6) | 5.9 | (7.6) | | ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しな がら口縁部に狭く。 ・端部は凹面を持ち、上方につまみ 出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・底部周縁、ナガ仕上げ。 | * | * | 小型器 (*) |
| 21-229 19.5 | 6.65 | 7.7 | | ・体部は直線的に立ち上る。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、紡止糸切り。 | * | 生焼け 内 灰 色 | 小型器 (底) |
| 21-230 (19.6) | 6.8 | (8.8) | | ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に 口縁部に狭く。 ・端部は丸底を持つ、上方につまみ 出す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・底部周縁、ナガ仕上げ。 | * | 瓦質 鐵灰色 | 小型器 (*) |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|--------|--|---|--------|-----|------------------------|------------|
| 21-239 | (18.5) | 6.25 | 7.5 | ・体部は直線的に立ち上る。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削板あ切り。 | 砂粒を含む。 | 素焼き | 暗灰色 | 小型輪(?) |
| 21-240 | 21.2 | 6.6 | 8.15 | ・体部山内斜側面に立ち上り、直線的に 門脛部に近く。 ・端部は円底を持ち、上方につまみ出す。 ・底部は円盤形に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削板あ切り。 ・底部周縁、ナギ仕上げを施す。 ・内面、ていねいな仕上げ ナギを施す。 | * | 瓦質 | 内、墨 灰色 外、灰 白色 | 小型輪 (+) |
| 21-241 | 19.3 | 6.2 | 7.5 | ・体部山内斜側面に立ち上り、直線的に 門脛部に近く。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削板あ切り。 ・底部周縁、ナギ仕上げを 施す。 | * | 素焼き | 灰色 | 小型輪 (+) |
| 21-242 | (19.2) | 6.5 | 7.15 | ・体部は直線的に立ち上る。 ・端部は丸底を持ち、上方に若干つまみ 出る。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削板あ切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 | * | 生焼け | 墨灰色 | 小型輪 (+) |
| 22-243 | (25.7) | 10.1 | 4.2 | ・体部は内斜側面に立ち上り、外反しな がら山腹側面に近く。 ・端部は四角を持ち、上方につまみ 出る。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削板あ切り(?)。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 瓦質 | 内、墨 灰色 外、灰 白色 | (+) |
| 22-244 | 23.8 | 8.5 | 9.1 | ・体部は内斜側面に立ち上る。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 生焼け | 茶褐色 口縁部 黑色 | (+) |
| 22-245 | (26.4) | 9.9 | 7.4 | ・体部は内斜側面に立ち上る。 ・端部は円底を持つ、若干上方につまみ 出る。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削板あ切り(?)。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 素焼き | * | (+) |
| 22-246 | (27.4) | 10.75 | (7.4) | ・体部は内斜側面に立ち上る。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部 暗灰色 | (+) |
| 22-247 | (27.2) | 9.3 | (10.0) | ・体部は内斜側面に立ち上る。 ・端部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削板あ切り(?)。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 生焼け | 墨灰色 口縁部 黑色 | (+) |

| 標 號 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 番 の 特 徴 | 成形技術の特徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|-------------------|-------|------|------|--|---|-----------|-----|---------------|-----|
| 22-248 | 27.7 | 10.4 | 8.5 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に近く。 底部は口縁下方を丸く削り、上方につまみ出す。 底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナダ。 底部、脚輪糸切り。 底部周縁、ナデ仕上げ。 内面、仕上げナダを施す。 | 砂粒、小石を含む。 | 瓦窯 | 灰褐色 | (+) |
| 22-249 | 28.6 | 10.0 | 8.3 | * | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナダ。 底部、脚輪糸切り。 | 砂粒を含む。 | 瓦窯 | * | (+) |
| 22-250 (27.5) | 10.5 | 10.0 | | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に近く。 底部は四面を持ち、上方につまみ出す。 底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナダ。 底部、不明。 内面、仕上げナダを施す。 | * | 生焼け | 基褐色 口縁部、黑色 | (+) |
| 22-251 | 29.0 | 12.1 | 9.3 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 底部は四面を持ち、上方につまみ出す。 底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナダ。 底部、脚輪糸切り(?)。 底部周縁、ナデ仕上げ。 内面、仕上げナダを施す。 | * | * | 黄灰色 口縁部、黑色 | (+) |
| 22-252 | 28.65 | 9.95 | 8.5 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 底部は丸底を持つ。 底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナダ。 底部、脚輪糸切り。 底部周縁、ナデ仕上げ。 内面、仕上げナダを施す。 | * | 瓦窯 | 灰白色 口縁部、黑色 | (+) |
| 22-253 (30.35) | 10.4 | 9.5 | | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 底部は四面を持ち、上下につまみ出す。 底部、平底。 | * | * | 生焼け | 基褐色 口縁部、黑色 | (+) |
| 22-254 | 28.0 | 10.7 | 8.5 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 底部は丸底を持つ。 底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナダ。 底部、脚輪糸切り(?)。 底部周縁、削れる。 内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | * | * | 黑色 一部、灰白色 | (+) |
| 22-255 | 29.2 | 10.8 | 10.3 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 底部は四面を持ち、上方につまみ出す。 底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナダ。 底部、脚輪糸切り。 内面、仕上げナダを施す。 | * | 瓦窯 | 灰色 | (+) |
| 22-256 (28.4) | 10.6 | 8.4 | | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 底部は四面を持ち、上下につまみ出す。 底部、平底。 | * | * | 生焼け | 基褐色 口縁部、黑色 | (+) |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|---------|--------|---|---|--------|-----|------------------|------------------|
| 23-257 | (27.9) | 8.0 | 8.2 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は凹面斜面で丸頭を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚部あ切り。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | 砂粒を含む。 | 須恵質 | 灰褐色 | 外側に墨色の着色層がある。(墨) |
| 23-258 | (28.4) | (10.15) | (11.0) | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸頭を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚部あ切り。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 生焼け | 墨灰色 口部部、墨灰色 | [+] |
| 23-259 | (29.3) | (9.65) | 11.8 | * | * | * | * | * | [+] |
| 23-260 | (27.7) | (10.25) | 9.6 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚部あ切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | * | 墨灰色 | [+] |
| 23-261 | 29.0 | 10.5 | 10.1 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚部あ切り。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 | [+] |
| 23-262 | (26.6) | 10.2 | 9.2 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 生焼け | 黑色 一部、灰白色 | [+] |
| 23-263 | (29.2) | 10.4 | 9.8 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚部あ切り。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 須恵質 | 墨灰色 | 外側に自然色がかかる。[+] |
| 23-264 | (26.6) | 9.8 | 10.6 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は平面曲面を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | 生焼け | 上半、灰褐色 下半、墨灰色 | [+] |
| 23-265 | 29.0 | 10.65 | 8.5 | ・体部は内側気孔に立ち上り、外反しながら口縁部に膨らむ。 ・腹部は丸頭を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚部あ切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、ていねいな仕上げナギを施す。 | * | 瓦質 | 内、墨灰色 外、墨色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|------|-------|---|---|--------|-----|------------------------|-----|
| 23-266 | (25.0) | 9.9 | (8.4) | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は平底面を持つ。 ・底部、平底(?)。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ナメ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナメを施す。 | 砂粒を含む。 | 茶褐青 | 灰色 | (+) |
| 27-295 | (28.8) | 12.5 | 10.1 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は円筒を持ち、上下に抵觸する。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓筒み切り(?)。 ・内面、仕上げナメを施す。 | * | 瓦青 | 灰白色 白底部、 黒灰色 | |
| 27-296 | (27.4) | 12.3 | (5.4) | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸底面を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓筒み切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナメを施す。 | * | 暗青青 | 灰色 | (+) |
| 27-297 | (34.3) | 13.0 | 9.5 | ・体部は内側斜面に立ち上り、外反しながら口部斜面に傾く。 ・腹部は円筒を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓筒み切り。 ・底部周縁、ナメ仕上げ。 ・内面、仕上げナメを施す。 | * | - | 暗灰色 | (+) |
| 27-298 | (28.6) | 9.4 | 9.6 | * | * | * | 灰色 | (+) | |
| 33-329 | (19.7) | 8.3 | 7.6 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は平底面を持つ。 ・底部は高台状気に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓筒み切り。 | * | 瓦青 | 内、灰 白色 外、黑 灰色 | (+) |
| 33-330 | 27.0 | 11.5 | 8.3 | ・体部は内側斜面に立ち上り、外反しながら口部斜面に傾く。 ・腹部は円筒を持ち、上方につまみ出す。 ・底部は高台状気に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、棒とみ切り。 | * | 暗青青 | 黑色 内面、黑色 | (+) |
| 33-331 | (28.6) | 11.5 | 9.6 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・腹部は丸底面を持つ。 ・底部は内盤状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓筒み切り。 ・内面、仕上げナメを施す。 | * | - | 暗灰色 | (+) |
| 33-332 | (29.0) | 11.7 | (7.5) | ・体部は内側斜面に立ち上り、直線的に口部面に傾く。 ・腹部は丸底面を持つ、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓筒み切り(?)。 ・内面、ていねいな仕上げナメを施す。 | * | - | * | (+) |

| 図版番号 | 口径 | 標高 | 底径 | 形態の特徴 | 或形核法の特徴 | 地土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|--------|--|---|--------|-----|------------|---------------------------|
| 33-333 | 32.6 | 11.0 | (12.0) | ・体部は内窓気泡に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は円曲を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開拓未切り。 ・腹部周縁、ナゲ仕上げを施す。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 適度實 | 暗灰色 | 口部部一帯に黒褐色の自然色がかかる。 〔灰〕 |
| 33-334 | (30.7) | 11.45 | 10.8 | ・体部は内窓気泡に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は円曲を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開拓未切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | - | - | 暗灰色 | 〔+〕 |
| 33-335 | 33.0 | 11.4 | 8.7 | ・体部は直線的に口部部に近く。 ・腹部は平底型を持ち、上方につまみ出 す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開拓未切り。 ・腹部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | - | 灰質 | 灰白色 灰黑色 | 〔+〕 |
| 33-336 | (31.4) | 12.5 | 10.1 | ・体部は内窓気泡に立ち上り、外反しながら口部部に近く。 ・腹部は直窓気泡の平底型を持ち、上下に反張する。 ・底部、平底。 | - | - | - | - | 〔+〕 |
| 33-337 | 33.9 | 12.1 | 10.5 | ・体部は内窓気泡に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は丸窓を持ち、上方につまみ出す。 ・腹部は高窓気泡に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開拓未切り。 ・腹部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | - | 適度實 | 暗灰色 | 〔+〕 |
| 33-338 | 32.6 | 13.3 | 10.1 | - | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開拓未切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | - | - | - | 〔+〕 |
| 33-339 | 35.8 | 15.2 | 10.1 | ・体部は内窓気泡に立ち上る。 ・腹部は丸窓を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・腹部、開拓未切り(1/2)。 ・腹部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | - | - | - | 三口窓 外観に自然色がかかる。 〔+〕 |
| 33-340 | (29.8) | 12.75 | 10.1 | ・体部は内窓気泡に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は丸窓を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開拓未切り。 ・腹部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | - | - | 暗灰色 | 〔+〕 |
| 34-341 | 32.6 | 10.7 | 11.0 | ・体部は直線的に口部部に近く。 ・腹部は円曲を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開拓未切り。 ・腹部周縁、仕上げナゲを施す。 | - | - | 暗灰色 | 〔+〕 |

| 固形番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------|------|-------|------|---|---|--------|-----|------------------------|------|
| 34-342 | 31.8 | 12.1 | 11.7 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部に近く。 ・腹部は丸味を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、回転系切り。 ・腹部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | 砂粒を含む。 | 還忠質 | 内 黒 外、灰 白色 | (R) |
| 34-343 (30.6) | 9.2 | 10.2 | | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は平底面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | * | * | 瓦質 | 灰白色 口部灰、 腹灰白 | (+) |
| 34-344 | 30.3 | 11.7 | 10.8 | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は平底面を持ち、若干外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、静止系切り(?)。 ・腹部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 還忠質 | 内、灰 白色 外、灰 黑色 | (+) |
| 34-345 (33.5) | 12.3 | (9.2) | | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は平底面を持ち、上下に若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、静止系切り。 ・腹部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 瓦質 | 内、青 灰色 外、黑 色 | (+) |
| 34-346 | 33.0 | 12.2 | 10.6 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部に近く。 ・腹部は平底面を持つ、若干外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、静止系切り。 ・腹部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口部灰、 腹灰白 | (+) |
| 31-347 | 29.6 | 11.7 | 8.35 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部に近く。 ・腹部は丸味を持つ。 ・腹部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、静止系切り。 ・内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | * | 還忠質 | 灰白色 | (+) |
| 34-348 (31.6) | 11.3 | 10.7 | | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部に近く。 ・腹部は丸味を持つ、外方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、回転系切り(?)。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 生焼け | 内、黑 色 外、灰 白色 | (+) |
| 40-371 | 27.0 | 10.8 | 8.8 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は丸味を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、回転系切り。 ・腹部周縁、ヘラ削り。 ・内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口部灰、 腹灰白 | [焼灰] |
| 40-372 | 26.7 | 10.0 | 8.6 | * | * | * | * | * | (+) |

| 器 番 号 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 態 の 特 徴 | 成 形 技 法 の 特 徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|-------------|--------|--------|--------|---|---|--------|--------|--------------------------------|-------------|
| 40-373 | (27.6) | 11.5 | (6.9) | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は凹凸を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪承切り。 ・腹部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナガを施す。 | 砂粒を含む。 | 還原窯 | 暗灰色 (黒) | |
| 40-374 | 27.7 | 10.0 | 9.3 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪承切り。 ・腹部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | 生焼け | 黑色 (墨) | |
| 40-375 | (30.3) | 9.5 | 10.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、外腹しながら口部に細く。 ・腹部は丸底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | 瓦質 | 内、灰 白色 等、黒 灰色 | (+) |
| 40-381 | (28.2) | 6.0 | (6.7) | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は底を持ち大きく鈍くなる。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪承切り。 ・内面、ていねいな仕上げ ナガを施す。 ・厚手の作り。 | * | 還原窯 | 暗灰色 | 小型器 (灰灰) |
| 40-382 | (19.8) | 7.1 | 8.2 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は底を持ち若干上方につまみ出 す。 ・底部は円錐状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪承切り。 ・内面、ていねいな仕上げ ナガを施す。 | * | * | * | 小型器 (+) |
| 40-383 | (22.6) | 7.3 | 8.6 | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪承切り。 ・内面、ていねいな仕上げ ナガを施す。 | * | * | * | 小型器 (+) |
| 40-384 | 27.9 | 11.2 | 8.7 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は平底をもち、上方につまみ出 す。 ・底部は高台気味に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪承切り。 ・底部周縁から体部下方ナ ガ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げ ナガを施す。 | * | * | 灰白色 口部底、 黒灰色 | (+) |
| 40-385 | 27.6 | 11.0 | 9.8 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は底を持つ。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、静止承切り。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口部底、 黒灰色 | (+) |
| 41-384 | 22.3 | 12.0 | 10.1 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪承切り。 ・腹部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | 生焼け | 暗灰色 口部底、 褐色上 半、黑 色 | (+) |

| 図版番号 | 口径 | 標高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|--------|--|---|--------|-----|------------------------|------|
| 41-387 | 30.0 | 10.6 | 9.8 | ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は平底部を持ち、若干外方につまり出す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉢系切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 須恵質 | 暗灰色 | [未記] |
| 41-388 | 32.4 | 13.1 | 8.6 | ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部は内窓状に突出する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉢系切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、底付合 | [+] |
| 41-389 | 30.0 | 11.7 | 9.1 | ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、若干上下につまみ出す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉢系切り(?)。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 須恵質 | 暗灰色 | [+] |
| 41-390 | (34.6) | 13.6 | 11.3 | ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉢系切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、底付合 | [+] |
| 41-391 | (31.6) | 12.9 | (18.6) | ・体部は内窓気味に立ち上る。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 須恵質 | 暗灰色 | [+] |
| 41-392 | 34.8 | 12.6 | 9.1 | ・体部は内窓気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉢系切り(?)。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 生焼け | 暗灰色 口縁部、底付合 | [+] |
| 41-393 | (32.4) | 12.35 | 10.5 | ・体部は内窓気味に立ち上る。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉢系切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 口縁部、底付合 | [+] |
| 41-394 | (36.4) | 12.6 | (10.9) | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、貼り付け高台。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・底部、不明。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 内、灰 白色 外、暗 灰色 | [+] |
| 41-395 | 32.0 | 12.2 | (8.2) | ・体部は内窓気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 | * | * | 灰白色 口縁部、底付合 | [+] |

| 品番 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技術の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|----------------------|------|-------|------|---|---|--------|-----|-------------------------|------|
| 41-396 | 36.8 | 14.75 | 9.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に狭く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、凹輪み切り。 ・底部周縁、へう切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 内、青 黄色 外、黒 色 | [序灰] |
| 41-397 (31.4) | 12.4 | | 8.7 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に狭く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、凹輪み切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 生焼け | 瓦白色 口縁部、 暗灰色 | [+] |
| 42-398 (31.2) (10.1) | | | - | ・体部は内側気味に立ち上り。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 淡青質 | 暗灰色 | [+] |
| 42-399 | 32.0 | 18.11 | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 瓦白色 口縁部、 暗灰色 | [+] |
| 42-400 | 36.2 | 11.3 | 8.8 | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、凹輪み切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 淡青質 | 暗灰色 | [+] |
| 42-401 (33.7) | 12.7 | | 9.4 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に狭く。 ・腹部は上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、凹輪み切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、下半仕上げナゲ。 | * | * | 青灰色 | [+] |
| 42-402 | 33.5 | 12.35 | 10.7 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に狭く。 ・腹部は圓を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、凹輪み切り。 ・底部周縁、へう切り。 ・底部内面に粘土をつぎ足す。 ・内面、仕上げナゲ。 | * | 生焼け | 暗灰色 口縁部、 暗灰色 | [+] |
| 42-403 (33.5) | 12.1 | | 7.4 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に狭く。 ・腹部は上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、凹輪み切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 淡青質 | 内外 瓦色 口縁部、 暗灰色 | [+] |
| 42-404 (33.6) | 12.7 | | 9.2 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に狭く。 ・腹部は圓を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、凹輪み切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 瓦白色 口縁部、 暗灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 高さ | 径径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-----------------------|------|--------|-------|---|--|------------|-----|-------------------------|------|
| 42-405 | 33.3 | 12.25 | 8.8 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、輪転糸切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 妙和を 含む。 | 生焼け | 黒灰色 白褐色 門型部 墨色 | [薄灰] |
| 42-406 | 35.4 | 13.0 | (8.0) | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、輪転糸切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 黑色 | [+] |
| 42-407 | 31.0 | 12.9 | 10.0 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に 口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | * | * | 瓦質 | 灰白色 白褐色 墨灰色 | [+] |
| 42-408 (35.3) | 14.8 | 10.3 | | * | * | * | 生焼け | 黒灰色 白褐色 黑色 | [+] |
| 42-409 (31.8) (11.85) | - | | | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に 口縁部に傾く。 ・腹部は平腹面を持ち、若干上方につま み出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、ていねいな仕上げ ナゲを施す。 | * | 須磨質 | 黑色 | [+] |
| 43-410 | 31.0 | (10.8) | - | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に 口縁部に傾く。 ・腹部は上方につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 43-411 | 32.2 | 11.5 | 8.8 | ・体部は内側気味に立ち上り、外反して 口縁部に傾く。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、輪転糸切り。 ・底部周縁、ナゲを施す。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 黑色 | [+] |
| 43-412 | 33.0 | 14.65 | 9.1 | * | * | * | * | 暗褐色 | [+] |
| 43-413 (32.6) | 32.9 | 10.4 | | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に 口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、輪転糸切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げ ナゲを施す。 | * | * | 黑色 | [+] |

| 器 番 号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-------------|--------|-------|--------|--|--|--------|-----|-------------------------|------|
| 43-414 | (34.0) | 11.6 | 10.1 | ・体部は内側斜面に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 ・端部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 生焼け | 火白色 口縁部、裏灰青 | (火紅) |
| 43-415 | 32.4 | 13.35 | 9.4 | ・体部は直線的に口縁部に近く。 ・端部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 褐紫青 | 暗灰色 | (+) |
| 43-416 | (34.2) | 12.2 | (10.2) | ・体部は内側斜面に立ち上り、外反しながら口縁部に近く。 ・端部は平底面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | (+) |
| 43-417 | (32.8) | 12.2 | (8.4) | ・体部は直線的に口縁部に近く。 ・端部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | * | (+) |
| 43-418 | (35.2) | 12.3 | 10.6 | ・体部は内側斜面に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 ・端部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ヘ？削り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、裏灰青 | (+) |
| 43-419 | (32.0) | 11.9 | 9.6 | ・体部は内側斜面に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 ・端部は凹面を持ち、上方に若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 褐紫青 | 灰青色 | (+) |
| 43-420 | 37.0 | 13.0 | 11.8 | ・体部は内側斜面に立ち上り、外反しながら口縁部に近く。 ・端部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | (+) |
| 43-421 | 29.6 | 12.1 | (9.3) | ・体部は直線的に立ち上り、口縁部で外反する。 ・端部内側を上方につまみ出す。 ・底部、不明。(平底?) | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・内面、仕上げナゲを上下に施す。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、裏灰青 | (+) |
| 44-422 | 33.0 | 12.7 | (10.4) | ・体部は直線的に立ち上り、口縁部で外反する。 ・端部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・片口部周縁に削込み切り。 ・内面、仕上げナゲを上下に施す。 | * | 褐紫青 | 上、暗 灰青色 下、灰 白色 | (+) |

| 器 版 番 号 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 態 の 特 徴 | 成 形 技 法 の 特 徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 | |
|------------------|--------|--------|--------|--|---|--------|-----------------------|------------------|-----------|--|
| 44-423 (31.4) | 12.7 | 9.8 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は平腹面を持つ。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、鋸歯糸切り。 ・底部糊脱、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | 砂粒を含む。 | 泥窓質 | 暗灰色 (朱灰) | | |
| 44-424 33.0 | 11.2 | 11.6 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、外腹しながら口底部に傾く。 ・腹部は平腹面を持つ。若干上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、鋸歯糸切り。 ・底部糊脱、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | - | 瓦質 | 黄白色 口部 黒褐色 | (+) | |
| 44-425 32.4 | 13.5 | 13.5 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上方に若干つまみ出す。 ・底部、平底。 | - | - | 泥窓質 | 暗灰色 | (+) | |
| 44-426 32.3 | 12.8 | 10.7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口底部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、貼り付け窓台。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。窓台付近ヨコナギ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | - | - | 灰色 | (+) | |
| 44-427 33.1 | 13.25 | 16.1 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口底部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、鋸歯糸切り。 ・内面、仕上げナギを施す。 | - | 瓦質 | 灰白色 | (+) | |
| 44-428 (35.5) | 14.3 | 11.3 | | - | - | - | 内、灰 白色 外、黑 色 | (+) | | |
| 44-429 31.9 | 12.9 | 10.5 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口底部に傾く。 ・腹部は平腹面を持つ。 ・底部は窓台気味に立ち上る。 | - | - | - | 暗灰色 一部、灰 色 | (+) | |
| 44-430 (36.2) | 11.5 | 9.7 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口底部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、鋸歯糸切り。 ・底部糊脱、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | - | 瓦窓質 | 暗灰色 | (+) | |
| 44-431 31.2 | 12.6 | 8.9 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口底部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | - | - | 瓦質 | - | 尚可 (+) | |

| 図版号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎上 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|--------|---|--|--------------|-----|------------------------|------|
| 67-437 | 29.0 | 11.7 | 9.3 | ・体部は内斜斜時に立ち上る。 ・腹部は平底面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 灰白色 腹部上半 黒灰色 | [黄斑] |
| 67-438 | (29.2) | 11.4 | 10.0 | ・体部は内斜斜時に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓弧形切り。 ・底部、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 灰白色 門型部、 黒灰色 | [+] |
| 67-439 | 31.0 | (9.7) | - | ・体部は内斜斜時に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は平底面を持ち、若干外方につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 墨黒質 | 黒灰色 | [+] |
| 67-440 | (29.0) | 11.2 | 9.2 | ・体部は内斜斜時に立ち上る。 ・腹部は曲を持ち、丸く仕上げる。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓弧形切り。 ・内面、仕上げナゲがお互い。 | 砂粒を含む。 瓦。 | 瓦質 | 内、灰 白色 外、黒 灰色 | [+] |
| 67-441 | (34.2) | 11.3 | (11.2) | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は曲を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓弧形切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | * | 内、灰 白色 外、黒 灰色 | [+] |
| 67-442 | 29.7 | 11.05 | 8.8 | ・体部は内斜斜時に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は平底面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部は高台乳頭に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、圓弧形切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 墨黒質 | 墨灰色 | [+] |
| 67-443 | (34.2) | 11.25 | (11.0) | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は平底面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 灰黑色 | [+] |
| 67-444 | 31.4 | 12.4 | (9.3) | ・体部は内斜斜時に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は平底面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 墨灰色 口縁部、 黒色 | [+] |
| 67-445 | 34.5 | 12.8 | 9.1 | ・体部は直線的に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は凸面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、 黒灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 或形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|------|--|---|--------|-----|------------------------|------|
| 47-446 | 31.4 | 11.3 | 10.4 | ・体部は内側斜時に立ち上り、 ・端部は内面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚軸み切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 灰白色 口縁部、底灰色 | [異次] |
| 47-447 | (36.2) | 13.5 | 9.4 | ・体部は内側斜時に立ち上り、直線的に ・口縁部に撇く。 ・端部は内面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚軸み切り。 ・底部端部、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 灰白色 口縁部、底灰色 | [+] |
| 47-448 | 33.0 | 12.4 | 9.4 | ・体部は内側斜時に立ち上り、 ・端部は内面を持ち、上下につまみ出す。 | * | * | 生焼材 | 黄灰色 口縁部、底色 | [+] |
| 48-449 | 29.2 | 11.8 | 8.4 | ・体部は内側斜時に立ち上り、直線的に ・口縁部に撇く。 ・端部は内面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚軸み切り。 ・底部端部、ナゲ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げ ナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、底灰色 | [+] |
| 48-450 | (28.0) | (9.65) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・端部は内面を持ち、上下につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、ていねいな仕上げ ナゲを施す。 | * | 須恵質 | 内、灰 白色 外、暗 灰色 | [+] |
| 48-451 | (33.2) | 11.6 | 10.4 | ・体部は内側斜時に立ち上り、 ・端部は上下につまみ出す。 ・底部は高台状部に突出する。 ・底部、網円形。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚軸み切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、底灰色 | [+] |
| 48-452 | (29.6) | 11.6 | 10.4 | ・体部は内側斜時に立ち上り、外反しながら ・口縁部に撇く。 ・端部は内面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚軸み切り。 ・内面、ていねいな仕上げ ナゲを施す。 | * | * | 内、灰 白色 外、暗 灰色 | [+] |
| 48-453 | (34.0) | 13.2 | 9.9 | ・体部は内側斜時に立ち上り、直線的に ・口縁部に撇く。 ・端部は内面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚軸み切り。 ・底部端部、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 須恵質 | 暗灰色 | [+] |
| 48-454 | 30.1 | 12.2 | 10.1 | ・体部は内側斜時に立ち上る。 ・端部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 ・内面、ていねいな仕上げ ナゲを施す。 ・外面、粘土鉢の巻き上げ の痕跡あり。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部、底灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|--------|---|--|--------|-----|----------------------|-----------------------|
| 48-455 | (34.8) | 13.6 | (11.0) | ・全体は内面気味に立ち上り、直線的に口部部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、貼り付け基部。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、不明。基部周辺、ヨコナデ。 ・内面、仕上げナデを施す。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 暗灰色 [▲] | |
| 48-456 | 31.0 | 11.85 | 9.2 | ・全体は内面気味に立ち上り、直線的に口部部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、凹切り。 ・内面、仕上げナデを施す。 | * | * | 暗灰色 [+] | |
| 48-458 | (19.6) | 4.6 | - | ・全体は直線的に立ち上る。 ・腹部は平底面を持つ。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・内面、ていねいな仕上げナデを施す。 | * | * | 暗灰色 [△] | |
| 48-459 | (22.8) | 6.7 | (9.0) | ・全体は直線的に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、不明。 ・底部周辺、ナデ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナデを施す。 | * | * | * | 小型体 (+) |
| 48-460 | 29.6 | 11.9 | 9.4 | ・全体は内面気味に立ち上り、直線的に口部部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、凹切り。 ・底部周辺、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナデを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部 暗灰色 | [+] |
| 48-461 | (24.8) | 9.1 | 8.6 | ・全体は直線的に立ち上る。 ・腹部は凹面につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、凹切り。 ・内面、仕上げナデを施す。 | * | * | 青、黒 灰色 外 白色 | [+] |
| 49-462 | (28.8) | 12.0 | 8.4 | ・全体は内面気味に立ち上り、直線的に口部部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、丸く納める。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、凹切り。 ・底部周辺、ナデ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナデを施す。 | * | * | 灰白色 口縁部 基部色 | [+] |
| 49-463 | 30.1 | 11.0 | 10.6 | ・全体は内面気味に立ち上り、直線的に口部部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、凹切り。 ・底部周辺、へう前り。 ・内面、仕上げナデを施す。 | * | 低温窯 | 灰色 | 外側に白 肌がかかる。 [+] |
| 49-464 | 30.6 | 12.4 | 10.1 | ・全体は内面気味に立ち上り、直線的に口部部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、凹切り。 ・底部周辺、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナデを施す。 | * | 瓦質 | 灰色 口縁部 暗灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|--------|--|--|--------|-----|-----------------|-----|
| 49-465 | (30.2) | 11.55 | (10.1) | ・体部は外反気味に立ち上り、直線的に口唇部に傾く。 ・腹部は腹を持ち、上方へつまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・内面、上下に仕上げナダがあおい。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 内、灰白色 外、黒灰色 | (灰) |
| 49-466 | 32.5 | 11.7 | 9.2 | ・体部は内湾気味に立ち上り、直線的に口唇部に傾く。 ・腹部は腹を持ち、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・内面、仕上げナダ。 | * | 泥窓質 | 灰白色 内湾部、黒灰色 | (+) |
| 49-467 | 31.6 | 11.0 | 9.5 | ・体部は直線的に口唇部に傾く。 ・腹部は腹を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナダ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | * | * | 暗灰色 | (+) |
| 49-468 | (32.5) | 12.3 | 9.4 | ・体部は内湾気味に立ち上り、外反しながら口唇部に傾く。 ・腹部は腹を持ち、上方へつまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 内湾部、黒灰色 | (+) |
| 49-469 | (32.8) | 12.3 | 9.5 | ・体部は内湾気味に立ち上り、直線的に口唇部に傾く。 ・腹部は腹を持ち、上方へつまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | * | * | 灰白色 内湾部、黒灰色 | (+) |
| 49-470 | 34.2 | 12.25 | 10.4 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | * | 灰白色 内湾部、黒灰色 | (+) |
| 49-471 | 32.8 | 13.1 | (9.6) | ・体部は内湾気味に立ち上り、外反して口唇部に傾く。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ロクロナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナダ仕上げ。 ・内面、上下に仕上げナダを施す。 | * | 泥窓質 | 上、黒 下、灰 色 | (+) |
| 49-472 | 35.4 | 14.2 | 10.6 | ・体部は内湾気味に立ち上り、口唇部で内や外反する。 ・腹部は上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ロクロナギ。 ・底部、削込み切り。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 内湾部、黒灰色 | (+) |
| 49-473 | 31.6 | 12.0 | 10.6 | ・体部は内湾気味に立ち上り、直線的で平底。 ・腹部は平底部を持ち、若干上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ロクロナギ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナダ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 泥窓質 | 暗灰色 | (+) |

| 器 皿 番 号 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 態 の 特 徴 | 成 形 技 法 の 特 徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|------------------|--------|--------|--------|--|--|--------|--------|--------------------------|--------|
| 50-474 | 29.2 | 11.5 | 9.4 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は四面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 窓窯窯 | 暗灰色 (灰) | |
| 50-475 | (29.3) | 11.6 | 7.7 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は四面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り (?)。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | * | (+) |
| 50-476 | (31.0) | 10.75 | 10.8 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は四面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り (?)。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 瓦窯 | 灰 口縁部 黒灰色 | (+) |
| 50-477 | 29.6 | 11.8 | 9.2 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は四面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 内、灰 外、灰 口縁部 黒灰色 | (+) |
| 50-478 | (32.1) | 11.8 | 9.2 | * | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | * | 瓦白色 口縁部 黑色 | (+) |
| 50-479 | 31.3 | 10.8 | (8.4) | ・体部は直線的に立ち上る。 ・腹部は四面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り。 ・底部周縁、ナゲ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | * | (+) |
| 50-480 | (32.2) | 12.0 | 8.2 | ・体部は内側気味に立ち上り、外腹しながら底部に近く。 ・腹部は四面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | * | (+) |
| 50-481 | 32.4 | 11.8 | 8.8 | ・体部は直線的に口部部に近く。 ・腹部は四面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 内、灰 外、暗 灰色 | (+) |
| 50-482 | (33.4) | 10.8 | (9.4) | ・体部は直線的に口部部に近く。 ・腹部は四面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、脚輪み切り。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | * | 漆窯窯 | 暗灰色 | (+) |

| 回取 番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形方法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------|------|------|------|---|--|--------|-----|----------------|---------|
| 50-483 | 32.6 | 13.2 | 8.8 | ・体部は内壁気泡に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り(?)。 ・底部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | 砂粒を含む。 | 瓦窯 | 暗灰色 口部部、黒褐色 | (+) (B) |
| 50-486 | 34.2 | 13.6 | 9.2 | * | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 墨窯窯 | 灰褐色 口部部、暗灰色 | (+) |
| 50-485 (34.0) | 32.2 | 12.2 | 9.3 | * | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | * | 灰褐色 | (+) |
| 51-484 (29.6) | 31.4 | 9.0 | * | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | * | 暗灰色 | (+) | |
| 51-487 | 33.2 | 11.6 | 10.9 | ・体部は内壁気泡に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げナダを施す。 | * | 瓦窯 | 灰白色 口部部、黒褐色 | (+) |
| 51-488 | 32.0 | 11.5 | 9.4 | ・外壁は内壁気泡に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁一部、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | * | 灰白色 口部部、暗灰色 | (+) |
| 51-489 (34.2) | 31.9 | 10.4 | * | ・体部は内壁気泡に立ち上り、直線的に口部部に近く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り。 ・底部周縁、ヘラ削り。 ・内外面、仕上げナダを施す。 | * | 生焼け | 暗灰色 口部部、暗灰色 | (+) |
| 51-490 | 32.4 | 12.2 | 9.8 | ・体部は内壁気泡に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り(?)。 ・底部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 墨窯窯 | 灰褐色 | (+) |
| 51-491 | 32.6 | 12.4 | 9.5 | ・体部は内壁気泡に立ち上り、外反しながら口部部に近く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部は円錐状に突出する。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、削込み切り(?)。 ・底部周縁、ナデ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | * | 暗灰色 | (+) |

| 図版号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|------|-------|--------|--|---|--------|-----|--------------------------------------|------------------------------------|
| SI-492 | 34.2 | 13.1 | 9.4 | ・体部は内面気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、停止あ切り？。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 通常窯 | 暗灰色 | 両口縁 口縁部に 自然筋が かかる。 [+] |
| SI-493 | 30.0 | 11.0 | 9.8 | ・体部は内面気味に立ち上り、外反しない がら口縁部に傾く。 ・腹部は平面を持ち、上下に若干つま み出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開削あ切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | * | [+] |
| SI-494 | 33.1 | 13.35 | 12.6 | ・体部は内面気味に立ち上り、直線的に 口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、貼り付け高台。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開削あ切り後、粘 り付け高台。 ・高台付近、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | * | [+] |
| SI-495 | 30.6 | 11.3 | 10.4 | ・体部は内面気味に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開削あ切り。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部 黒色 | [+] |
| SI-496 | 35.0 | 14.4 | 10.9 | ・体部は内面気味に立ち上り、直線的に 口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、貼り付け高台。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明、高台付近、 ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 通常窯 | 暗灰色 | [+] |
| SI-497 | 32.5 | 12.6 | 8.4 | ・体部は内面気味に立ち上り、直線的に 口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開削あ切り。 ・底部周縁、油削あ切り。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | * | 口縁部に 自然筋が かかる。 [+] |
| SI-498 | 37.2 | 15.2 | 11.8 | ・体部は内面気味に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 ・底部、貼り付け高台。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開削あ切り。 ・高台付近、ナギ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げ ナゲを施す。 | * | 瓦質 | 灰白色 口縁部 黒色 | [+] |
| SI-499 | 38.6 | 11.5 | 9.8 | ・体部は内面気味に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、開削あ切り。 ・底部周縁、ナギ仕上げ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 灰白色 口縁部 黒色 | [+] |
| SI-500 | 38.1 | 15.3 | (11.8) | ・体部は内面気味に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・底部、貼り付け高台。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明、高台付近、 ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 生焼け | 内面外 下平、 暗灰色 外腹上 平、黒 色 | [+] |

| 出版号 | 口径 | 画高 | 枚径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 納土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|---|--|-------------|-----|------------------------|------------------------------|
| 52-501 | 29.4 | (10.8) | - | ・体部は内側斜面に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 ・端部は平底面を持ち、外方につまり出す。 ・底部は高台斜面に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナゲ。 ・内面、ていねいな仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 内、灰 色外、灰 白色 | [R] |
| 59-531 | (23.0) | 7.5 | (12.8) | ・体部は内側して立ち上る。 ・端部は平底面を持ち、外方につまり出す。 ・底部は高台斜面に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナゲ。 ・底部、削板み切り。 ・底部端部、ハラ削り。 | 砂粒を含む 灰。 | 通常質 | 灰色 | [+] |
| 59-532 | (22.0) | (11.5) | - | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・端部は平底面を持ち、外方につまり出す。 ・底部、丸底。 | ・内外面、ヨコナゲ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 暗灰色 | 当面に自然 色がかかる。 [+] |
| 59-533 | 25.0 | 9.25 | 6.1 | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・端部は平底面を持ち、上方につまり出す。 ・底部は高台斜面に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナゲ。 ・底部、削板み切り。 | 砂粒を含む。 | 生焼け | 内、灰 色 口縁部、 黑色 | [+] |
| 59-534 | (19.6) | (10.7) | - | ・体部は内側斜面に立ち上る。 ・端部は平底面を持ち、下方につまり出す。 ・底部、丸底。 | ・内面、ヨコナゲ。 ・外面、叩き。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 瓦 | 通常質 | 瓦灰色 | 内外面に 自然色が かかる。 [灰瓦] |
| 59-535 | (21.8) | (10.7) | - | * | * | * | * | * | [+] |
| 59-536 | 28.4 | 10.65 | 9.3 | ・体部は内側斜面に立ち上り、直線的に 口縁部に近く。 ・端部は丸底を持ち、上下につまり出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナゲ。 ・底部、削板み切り。 ・底部端部、ナゲ仕上げ。 ・内面、ていねいな仕上げ ナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 瓦質 | 瓦白色 口縁部、 暗灰色 | [+] |
| 74-659 | (24.8) | (5.2) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平底面を持ち、試験する。 | ・内外面、ヨコナゲ。 | * | 生焼け | 墨灰色 口縁部、 暗灰色 | [表面] |
| 74-660 | (22.8) | (5.9) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平底面を持ち、上下に大きく 膨張する。 | ・内外面、ヨコナゲ。 | * | 通常質 | 灰色 | 口縁部に 自然色が かかる。 [表面] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 熱土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|----|---|-----------------------------|--------|-----|-------------------|-----------------------------|
| 74-661 | (26.0) | (7.3) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上方に弧度する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナガを施す。 | 砂質を含む。 | 板状質 | 灰色 | [表四] |
| 74-662 | (27.6) | (6.7) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平面を持ち、弧度する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 暗灰色 | 内外面に 自然釉が かかる。 [+] |
| 74-663 | (27.6) | (4.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、弧度する。 | * | * | * | * | [+] |
| 74-664 | (28.0) | (4.7) | - | * | * | * | * | * | [+] |
| 74-665 | (29.6) | (4.8) | - | * | * | * | * | * | [+] |
| 74-666 | (29.6) | (6.9) | - | ・体部は内斜気味に立ち上る。 ・口縁部は平面を持ち、上下に弧度する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | * | * | [+] |
| 74-667 | (30.2) | (4.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、弧度する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | * | * | [+] |
| 74-668 | (31.6) | (5.6) | - | * | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | * | [+] |
| 74-669 | (32.4) | (4.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹曲を持ち、上下に大きく弧度する。 | * | * | * | 褐色 口縁部、 暗灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口徑 | 基高 | 直径 | 形態の特徴 | 或形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|----|---|------------|--------|--------------------|---------------------|-----|
| 74-679 | (31.0) | (5.1) | - | ・体部は内側弧時に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | 砂粒を含む。 | 還青質 | 暗灰色 | [+] |
| 74-680 | (25.0) | (4.7) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | 生成け | 墨灰色、 口底部、 墨灰色 | [+] |
| 74-681 | (29.0) | (5.1) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、弧張する。 | * | * | 還青質 | 墨灰色 | [+] |
| 74-682 | (26.0) | (4.1) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | 生成け | 門、灰 色外、墨 灰色 | [+] |
| 74-683 | (30.0) | (4.6) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく膨張する。 | * | * | 還青質 | 灰色 | [+] |
| 74-684 | (30.0) | (3.0) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上方に弧張する。 | * | * | 還青質 | 墨灰色 | [+] |
| 75-681 | (28.5) | (2.8) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平底面を持ち、弧張する。 | * | * | 生成け | 灰色 | [+] |
| 75-682 | (25.0) | (4.8) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平底面を持ち、弧張する。 ・底部は丸く仕上げる。 | * | * | 還青質 | 墨灰色 | [+] |
| 75-683 | (29.6) | (3.0) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平底面を持ち、弧張する。 | * | * | 生成け 口底部、 墨灰色 | 灰色 | [+] |

| 器 器 番 号 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 態 の 特 徴 | 成形技法の特徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|------------------|--------|--------|--------|--|---|------------|--------|------------------|----------------------------|
| 75-684 | (26.2) | (3.1) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、弧曲する。 ・端部は丸く仕上げる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 | 妙技を 含む。 | 温度高 | 暗灰色 | [直線] |
| 75-685 | (29.8) | (4.2) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に弧曲する。 | * | * | * | | 内面に自 然筋がか かる。 [+] |
| 75-686 | (27.8) | (3.0) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | * | 内、外 色、墨 灰色 | 外面に自 然筋がか かる。 [+] |
| 75-687 | (31.2) | (3.7) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平底面を持ち、弧曲する。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 75-688 | (29.2) | (4.5) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上下に大きく弧 曲する。 ・端部は丸く仕上げる。 | * | * | * | | [+] |
| 75-689 | (28.8) | (4.5) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平底面を持ち、上下に大きく弧 曲する。 | * | * | * | 灰色 | [+] |
| 75-690 | (31.4) | (3.8) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平底面を持ち、上下に大きく弧 曲する。 ・端部は丸く仕上げる。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 75-691 | (31.0) | (4.9) | - | <ul style="list-style-type: none"> ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、弧曲する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | * | * | [+] |
| 75-692 | (34.8) | (4.6) | - | * | <ul style="list-style-type: none"> ・内外面、ヨコナギ。 ・口縁部上端を平坦にナギ 仕上げ。 | * | * | 灰色 | [+] |

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技術の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------------|----|----|----|--|-----------------------------|--------|-----|-----|-----------------------------|
| 75-683 (28.0) (3.9) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平滑面を持ち、上下に大きく膨張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げテグを施す。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 暗灰色 | (会話) |
| 75-686 (32.2) (3.2) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、大きく膨張する。 | * | * | * | | (+) |
| 75-697 (25.4) (4.8) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に膨張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げテグを施す。 | * | * | | 内外面に 凹凸感が かかる。 (=) |
| 75-698 (29.6) (4.5) | | | - | ・体部は外反翼輪に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上下に膨張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 灰白色 | (+) |
| 75-699 (24.8) (4.1) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上下に膨張する。 | * | * | * | 灰色 | (+) |
| 75-700 (29.2) (5.0) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、大きく膨張する。 | * | * | * | 暗灰色 | (+) |
| 75-701 (26.4) (4.7) | | | - | ・体部は外反翼輪に立ち上る。 ・口縁部は平滑面を持ち、膨張する。 ・底部は丸く往上升る。 | * | * | * | 灰白色 | (+) |
| 75-702 (29.6) (4.0) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上下に膨張する。 | * | * | * | | (+) |
| 75-703 (28.4) (5.0) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく膨張する。 | * | * | * | 灰色 | (+) |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|----|---|---------------------------------|-----|---------------|--------------------|--------------------|
| 75-704 | (35.4) | (4.5) | - | * 体部は直線的に立ち上る。 * 口縁部は凹面を持ち、上下に大きく膨張する。 | * 内外面、ヨコナギ。 * 砂粒を含む。 | 生焼け | 灰灰色 | [表記] | |
| 76-705 | (27.2) | (5.8) | - | * 体部は直線的に立ち上る。 * 口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * 内外面、ヨコナギ。 * 内面、往上げナギを施す。 | * | 素焼き | 灰白色 | [+] |
| 76-706 | (19.2) | (4.2) | - | * | * 内外面、ヨコナギ。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 76-707 | (29.0) | (4.3) | - | * 体部は直線的に立ち上る。 * 口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * | * | 灰白色 口縁部、黒色 | 内面は自然釉がかかる。 [+] | |
| 76-708 | (29.6) | (4.3) | - | * 体部は直線的に立ち上る。 * 口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * 内外面、ヨコナギ。 * 内面、ていねいな網毛仕上げ。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 76-709 | (26.8) | (6.9) | - | * 体部は直線的に立ち上る。 * 口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * 内外面、ヨコナギ。 | * | * | * | [+] |
| 76-710 | (32.8) | (7.6) | - | * 体部は直線的に立ち上る。 * 口縁部は平腹面を持ち、膨張する。 | * 内外面、ヨコナギ。 * 内面、往上げナギを施す。 | * | * | * | [+] |
| 76-711 | (31.8) | (7.0) | - | * 体部は直線的に立ち上る。 * 口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * | * | * | 灰白色 | [+] |
| 76-712 | (34.6) | (3.9) | - | * | * 内外面、ヨコナギ。 | * | * | 黒灰色 | 内面に自然釉がかかる。 [+] |

| 器 番 号 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 態 の 特 徴 | 成 形 技 法 の 特 徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|-------------|--------|--------|--------|--|---------------------------------|--------|--------|--------|----------------------|
| 76-713 | (34.0) | (8.0) | - | ・体部は内凹気味に立ち上る。 ・口縁部は平面を持ち、上下に傾張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナグを施す。 | 砂粒を含む。 | 温也質 | 暗灰色 | (良) |
| 76-717 | (21.4) | (4.6) | - | ・体部は外反気味に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に傾張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | - | - | 黑色 | 内外面に自然な凹凸がある。 [+] |
| 76-718 | (24.2) | (4.2) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は円曲を持ち、上下に傾張する。 | - | - | - | 黒灰色 | [+] |
| 76-719 | (24.6) | (4.9) | - | - | - | - | - | 暗灰色 | [+] |
| 76-720 | (32.0) | (4.6) | - | ・体部は外反気味に立ち上る。 ・口縁部は凹曲を持ち、上下に傾張する。 | - | - | - | - | [+] |
| 76-723 | (28.0) | (6.5) | - | ・体部は外反気味に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく傾張する。 | - | - | - | - | [+] |
| 76-722 | (35.0) | (4.2) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく傾張する。 | - | - | - | - | [+] |
| 76-723 | (31.8) | (5.5) | - | - | - | - | - | 黑色 | 内外面に自然な凹凸がある。 [+] |
| 76-724 | (34.0) | (5.7) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、傾張する。 | - | - | - | 暗灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|------------------|-------|-----|--|--|--------|-----|-----------------------------|---|
| 76-725 | (34.0) | (4.6) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平坦面を持ち、上方に弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | 砂粒を含む。 | 黒漆質 | 灰色 | [金属] |
| 77-726 | (18.8) | (4.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平坦面を持ち、上下に弧張する。 | * | * | * | 内 黄 灰色 外 黑 色 | 外表面に白 斑點がか かる。 [+] |
| 77-727 | (24.4) | (6.2) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | 生焼け | 黄灰色 | [+] |
| 77-728 | (34.4) | (4.8) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | 漆素質 | 内、灰 外、黒 灰色 | 外表面に白 斑點がか かる。 [+] |
| 77-729 | (22.8) (20.6) | (7.8) | 4.8 | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平坦面を持ち、上下に弧張する。 ・底部、平坦。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、削鉢余切り。 ・内面裏側付着のため不 規則。 | * | * | 灰色 | 底ねぎ、 内面、口 縁部に白 斑點がか かる。 [+] |
| 77-730 | (26.5) | (5.1) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は円錐面を持ち、上下に大きく弧 張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 内、黄 灰色 外、黒 灰色 | 背面に白 斑點がか かる。 [+] |
| 77-731 | (28.2) | (5.2) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平坦面を持ち、上下に大きく弧 張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナゲを施す。 | * | * | 黄灰色 | [+] |
| 77-732 | (25.6) | (6.0) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 灰色 | [+] |
| 77-733 | (28.2) | (4.9) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平坦面を持ち、上下に大きく弧 張する。 | * | * | * | * | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎上 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|----------------------------|----|----|----|---|-----------------------------|--------|-----|----------------|-----------------|
| 77-734 (28.2) (6.9) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平緩面を持ち、上下に拡張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、往上げナガを施す。 | 砂粒を含む。 | 通常質 | 暗灰色 [表面] | |
| 77-735 (30.0) (5.3) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平緩面を持ち、上下に大きく拡張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 茶褐色 [+] | |
| 77-736 (30.2) (4.1) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平緩面を持ち、上下に拡張する。 | * | * | * | 灰褐色 [+] | |
| 77-737 (30.2) (4.9) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平緩面を持ち、上下に拡張する。 | * | * | * | [+] | |
| 77-740 (23.3) (5.7) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に拡張する。 | * | * | * | 暗灰色 [+] | |
| 77-741 (25.2) (5.7) | | | - | * | * | * | * | 灰褐色 [+] | |
| 77-742 (22.0) (10.0) (6.2) | | | | ・体部は内斜斜坡に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく拡張する。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、不明。 | * | * | 黒灰色 | 内外面に自然筋がかかる。[*] |
| 77-743 (28.0) (6.9) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に拡張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 内、灰白色 外、暗灰色 | 外面に自然筋がかかる。[+] |
| 77-744 (29.8) (6.4) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく拡張する。 | * | * | * | 茶褐色 [+] | |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 或形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|----|--|------------|--------|-----|-----|------|
| 77-745 | (20.1) | (6.8) | - | ・体部は外反斜時に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく膨張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | 砂質を含む。 | 素燒窯 | 暗灰色 | (実測) |
| 77-746 | (29.8) | (7.2) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * | * | 生焼け | 暗灰色 | [+] |
| 77-747 | (31.6) | (3.2) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に膨張する。 | * | * | 素燒窯 | 暗灰色 | [+] |
| 78-748 | (24.0) | (5.1) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * | * | * | 灰白色 | [+] |
| 78-749 | (23.6) | (6.6) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、膨張する。 | * | * | 生焼け | * | [+] |
| 78-750 | (25.0) | (4.6) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平面面を持ち、膨張する。 | * | * | * | * | [+] |
| 78-751 | (24.0) | (4.0) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、膨張する。 ・周縁は丸く仕上げる。 | * | * | * | * | [+] |
| 78-752 | (27.4) | (3.3) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平面面を持ち、上下に大きく膨張する。 | * | * | 素燒窯 | 灰色 | [+] |
| 78-753 | (26.8) | (3.9) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * | * | 生焼け | 暗灰色 | [+] |

| 器 器 番 号 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 態 の 特 徴 | 成形技法の特徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|------------------|--------|--------|--------|---|-----------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 78-754 (21.0) | | (3.4) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平緩曲を持ち、弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナガを施す。 | 砂質を含む。 | 須惠質 | 灰白色 | (実測) |
| 78-755 (22.0) | | (3.1) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上方にへまみ出す。 | * | * | * | 暗灰色 | (+) |
| 78-756 (26.4) | (6.0) | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、弧張する。 | * | * | * | | (+) |
| 78-757 (28.4) | * | (3.6) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、弧張する。 | * | * | * | | (+) |
| 78-758 (29.6) | (4.0) | | - | ・体部は外反気味に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | * | 灰色 | (+) |
| 78-759 (32.4) | (4.2) | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 黒灰色 | (+) |
| 78-760 (21.0) | (3.8) | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に大きく弧張する。 | * | * | 生焼け | 黒灰色 | (+) |
| 78-763 (29.0) | (4.8) | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に弧張する。 | * | * | 須惠質 | 灰白色 | (+) |
| 78-764 (30.2) | (5.0) | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下に弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナガを施す。 | * | * | 暗灰色 | (+) |

| 固形番号 | 口径 | 高さ | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-------|------|--|-----------------------------|--------|-----|------------------|---|
| 78-765 | (21.0) | (6.6) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は平坦面を持ち、上下に弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | 砂粒を含む。 | 還元窯 | 暗灰色 | [会話] |
| 78-766 | (35.9) | (3.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は円面を持ち、上下に弧張する。 | * | * | * | * | [+] |
| 78-767 | (24.4) | 9.7 | 10.0 | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は円面を持ち、上下に大きく弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | * | * | 内側、青 黒色が付 着。内面 の底部に 白苔地が かかる。 [+] |
| 78-771 | (27.6) | (6.6) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は平坦面を持ち、上下に大きく弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | 内、黒 色外、灰 色 | 口唇部か ら底部に 内黒地が かかる。 [+] |
| 78-772 | (30.6) | (4.6) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は四面を持ち、上下に大きく弧張する。 | * | * | * | 灰色 | [+] |
| 78-773 | (26.4) | (3.8) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は平坦面を持ち、上下に大きく弧張する。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | * | [+] |
| 78-775 | (28.0) | (3.0) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は丸味を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | * | 青灰色 | [+] |
| 78-776 | (29.4) | (7.8) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は円面を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 78-780 | (27.6) | (3.9) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口唇部は円面を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | * | * | [+] |

| 図版 番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|----------|--------|-------|----|--|-------------|---------|-----|---------------|------|
| 79-781 | (25.2) | (3.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸縁を持ち、上方につまみ出す。 | * 内外面、ヨコナギ、 | 砂質セラミック | 暗赤 | 灰色 | [表記] |
| 79-782 | (27.2) | (3.7) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸縁を持つ。 | * | * | 生焼け | 内、黄褐色 外、黑色 | [+] |
| 79-783 | (28.6) | (4.4) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸縁を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | 暗赤 | 暗灰色 | [+] |
| 79-784 | (29.4) | (4.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平削面を持ち、凹陷する。 | * | * | 瓦 | * | [+] |
| 79-785 | (30.0) | (3.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸縁を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | 暗赤 | * | [+] |
| 79-786 | (30.0) | (3.6) | - | ・体部は外反削面に立ち上る。 ・口縁部は円錐を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | * | * | [+] |
| 79-787 | (30.6) | (3.0) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸縁を持つ。 | * | * | * | * | [+] |
| 79-788 | (29.8) | (6.1) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平削面を持つ。 | * | * | 生焼け | 内、黄褐色 外、黑色 | [+] |
| 79-789 | (29.1) | (2.5) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸縁を持つ。 | * | * | 暗赤 | 暗灰色 | [+] |

| 品番 | 口径 | 高さ | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------------|----|----|----|--|-----------------------------|--------|-----|-----------------------------|-----|
| 80-798 (17.0) (4.5) | | | - | ・体部は内凹気味に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、内方に若干つまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 | 砂粒を含む。 | 素面質 | 暗灰色 | [探] |
| 80-799 (21.2) (4.3) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上下につまみ出す。 | * | * | 瓦質 | 灰灰色 口縁部、 底灰色 | [+] |
| 80-800 (22.4) (3.4) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、膨張する。 | * | * | 素面質 | 灰白色 口縁部、 底灰色 | [+] |
| 80-801 (32.0) (5.0) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上下に大きく膨張する。 | * | * | 瓦質 | 灰白色 | [+] |
| 80-802 (14.0) (3.0) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持つ。 | * | * | * | * | [+] |
| 80-803 (27.0) (7.4) | | | - | ・体部は内凹気味に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 80-804 (21.7) (6.8) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は平面面を持ち、上方につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、仕上げナギを施す。 | * | * | * | [+] |
| 80-805 (26.4) (4.7) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | * | [+] |
| 80-806 (28.7) (4.8) | | | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、上下には膨張する。 | * | * | 暗灰色 | 内外面に 自然釉が かかる。 [+] | |

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|-------|--|---|--------|-----|-------------------|----------------|
| 80-807 | (30.4) | (4.2) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、弧張する。 | ・内外面、ヨコナダ。 | 砂粒を含む。 | 須恵質 | 暗灰色 | [素面] |
| 80-808 | (30.6) | (4.7) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は丸味を持ち、弧張する。 | * | * | * | * | [+] |
| 80-809 | (32.6) | (3.7) | - | ・体部は直線的に立ち上る。 ・口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出 | * | * | * | * | [+] |
| 80-810 | (32.4) | (3.5) | - | * | * | * | * | * | [+] |
| 80-816 | (25.0) | 9.4 | 9.2 | ・体部は内斜斜面に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 ・腹部は丸味を持ち、下方に若干つまみ出 す。 ・底部は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、圓錐尖切口(?)。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 瓦質 | 褐色 口縁部、 底灰色 | [+] |
| 80-817 | (32.0) | (30.0) | (9.8) | ・体部は内斜斜面に立ち上る。 ・腹部は凹面を持ち、上方につまみ出 | ・内外面、ヨコナダ。 ・底部、圓錐尖切口。 ・底部周縁、ナダ仕上げ。 ・内面、仕上げナダを施す。 | * | 須恵質 | 内、暗 灰色 外、灰色 | [+] |
| 72-634 | - | - | - | ・体部は内斜斜面に立ち上る。 ・腹部は丸く仕上げる。 ・底(?)。 | ・外曲、平行叩き。 ・腹部、内外面本削面。 ・内面、ていねいなナダ仕上げ。 | * | * | 灰色 | 内面に自 然跡がある。 |

海あがり鉢

海あがり鉢(1)

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|------|------|-----|-----|---|------------|--------|-----|----|------------------------|
| 1 | 26.5 | 8.6 | 9.1 | ・体部は内斜斜面に立ち上り、直線的に口縁部に近く。 ・腹部は平緩面を持ち、上方につまみ出 | ・内外面、ヨコナダ。 | 砂粒を含む。 | 須恵質 | 灰色 | 井上翠庵 氏蔵 江戸作 押 |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|----------|------|------|-----|--|--|--------|-----|-----|--|
| 2 | 25.3 | 9.0 | 9.6 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は平形面を持ち弧張し、上下につき出る。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・内面、ユビ押えによる仕上げナガを施す。 | 砂粒を含む。 | 窯窓開 | 暗灰色 | 多木櫻具 史丹 山井ケ島 沖 |
| 3 (22.1) | | 7.6 | 8.3 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は丸味を持ち弧張する。 ・底部、平底。 | * | * | * | 灰色 | 明石市教 育委員会 蔵 |
| 4 | 25.7 | 8.0 | 9.7 | ・体部は内側気味に立ち上り、直線的に口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち弧張し、上下につき出る。 ・底部、平底。 | * | * | * | * | 口縁部外 面に自然 輪がかかる。 |
| 5 | 22.5 | 8.1 | 9.0 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は平形面を持ち弧張し、上端は内方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・内面、ユビ押えによる仕上げナガを施す。 | * | * | * | 北浜町櫻 史丹 野賀 阿彌 島中 口縁部に 黒色輪が かかる。 |
| 6 | 23.6 | 8.0 | 8.9 | ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は凹面を持ち弧張し、上端は内方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・内面、ユビ押えによる仕上げナガを施す。 | * | * | * | |
| 7 | 24.5 | 8.2 | 9.4 | ・体部は内側気味に立ち上る。 ・腹部は丸味を持ち弧張し、上下につき出る。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 ・内面、ユビ押えによる仕上げナガを施す。 ・底部内面中央、胎土巻き上げ痕有り。 | * | * | * | 井上賀佐 氏藏 口縁部に 自然輪が かかる。 |
| 8 | 21.8 | 8.1 | 8.5 | ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は平形面を持ち弧張し、上端は内方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 | * | * | * | 明石市教 育委員会 蔵 |
| 9 | 21.8 | 7.65 | 7.7 | ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は平形面を持ち弧張し、上端は内方につまみ出す。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 ・底部、回転糸切り。 | * | * | * | 井上賀佐 氏藏 口縁部に 自然輪が かかる。 |
| 10 | 23.3 | 6.5 | 7.9 | ・体部は内側気味に立ち上り、外反しながら口縁部に傾く。 ・腹部は平形面を持ち弧張し、上下につき出る。 ・底部、平底。 | ・内外面、ヨコナギ。 | 砂粒を含む。 | 暗灰色 | | 明石市教 育委員会 蔵 |

| 断版番号 | 口径 | 胴高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|------|------|------|-----|---|--|--------|-----|---------------------|---------------------------------|
| 11 | 22.0 | 6.8 | 9.7 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は直線的に立ち上る。 端部は内側を持ち弧張し、上端は内方ににつまみ出す。 底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナギ | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 灰白色 | * |
| 12 | 22.2 | 7.05 | 7.9 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側弧形に立ち上る。 端部は丸味を持ち弧張し、上下につまみ出す。 底部、平底。 | * | * | 暗灰色 | 井上製造 氏蔵 | |
| 13 | 23.1 | 6.3 | 9.0 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側弧形に立ち上る。 端部は丸味を持ち弧張し、上端は内方ににつまみ出す。 底部、平底。 | * | * | 灰白色 | 井上製造 氏蔵 | |
| 14 | 23.0 | 6.9 | 8.7 | * | * | * | 暗灰色 | 兵庫県立 有田窓口 美術館 | |
| 15 | 22.4 | 6.9 | 7.2 | <ul style="list-style-type: none"> 体部は内側弧形に立ち上り、外反しながら口部側に傾く。 端部は丸味を持ち弧張し、上端は内方ににつまみ出す。 底部、平底。 | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナギ。 底部、回転赤切り。 | * | * | 暗灰色 | 西海織物 株式会社 監修 江戸ヶ島 沖 |
| 16 | 22.0 | 7.0 | 8.6 | * | <ul style="list-style-type: none"> 内外面、ヨコナギ。 | * | * | 灰白色 | 吉本三郎 氏蔵 |

発

図11

| 断版番号 | 口径 | 胴径 | 高さ | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-------|--------|----|--------|---|--|--------|-----|-----|---------------------|
| II-95 | 26.2 | - | (5.8) | <ul style="list-style-type: none"> 口部は平底面を持ち、上方につまみ出る。 | <ul style="list-style-type: none"> 口部から腹部は内外ともヨコナギ。 腹部、重い(3mm)平行叩き。 腹部内面、ナゲ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 暗灰色 | 外壁に自然筋がかかる。 (JK) |
| II-96 | (27.0) | - | (10.4) | * | <ul style="list-style-type: none"> 口部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上りの平行叩きが施る。 腹部、重い(4.5mm)平行叩き。 腹部内面、ていねいなナゲ仕上げ。 | * | * | * | [+] |

| 器 器 番 号 | 口 径 | 胴 径 | 器 高 | 形 態 の 特 徴 | 成 形 技 法 の 特 徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|-------------------------|--------|--------|--------|---|--|--------|--------|---------------------------|----------------------|
| 12-116 (29.2) | — | (4.8) | | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・胴部、組い(3mm)平行叩き。 ・胴部内面、ナガ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | 妙板を含む。 | 生焼け | 青灰色 | [底味] |
| 12-117 (26.4) | — | (3.8) | | ・口縁部は丸底を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・胴部、組い(3mm)平行叩き。 ・胴部内面、ナガ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | * | 素燒窯 | 青灰色 | [+] |
| 12-118 (32.4) | — | (7.8) | | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・組い(3mm)平行叩き。 | * | 瓦窯 | * | [+] |
| 16-187 26.9 44.6 (29.6) | | | | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・胴部、長脚(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上りの平行叩きが残る。 ・胴部、組い(4mm)平行叩き。 ・腹部内面、ていねいなナガ仕上げ。 | * | 素燒窯 | 青灰色 | 外側に自然剥がれがある。 [底味] |
| 17-188 26.0 36.6 40.6 | | | | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・胴部、長脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・腹部、組い(3mm)平行叩き。 ・腹部内面、組合のユビナギ。 ・腹部上下へナガ仕上げ。 | * | * | * | [+] |
| 17-189 24.7 41.4 43.4 | | | | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・胴部、組い(4mm)平行叩き。 ・腹部内面、組合のユビナギ。 ・腹部内面上半ナガ仕上げ。 | * | 瓦窯 | * | [+] |
| 18-190 (26.4) | — | (17.9) | | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上りの平行叩きが残る。 ・胴部、組い(4mm)平行叩き。 ・胴部内面、ナガ仕上げ。 | * | 生焼け | 内、茶 灰 色 外、青 色 | [+] |
| 18-191 25.0 43.7 (21.3) | | | | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・胴部、長脚(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともていねいなヨコナギ。 ・胴部、組い(4mm)平行叩きが盛り合つ。 | * | * | 青灰色 | [+] |
| 18-192 25.55 45.8 34.6 | | | | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・胴部、不明。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともていねいなヨコナギ。 ・胴部、組い(4mm)平行叩き。 ・底部叩き目が腹部に合つ。 ・腹部内面から腹部上半にかけて底部のナガ仕上げ。 | * | 素燒窯 | 灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 肩径 | 器高 | 形態の特徴 | 或形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|--|--|---------|-----|-------------------|------|
| 19-200 | (22.0) | — | (8.8) | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、幅1~1.3 mm)平行叩き。 ・腹部内面、ナダ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 暗灰色 (D) | |
| 19-201 | (21.0) | — | (7.4) | ・口縁部は円面を持ち、試験する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、平行叩き。 ・腹部内面、ナダ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | * | * | 内、灰 色外、暗 灰色 | [+] |
| 19-202 | (36.0) | — | (8.0) | * | * | * | * | * | [+] |
| 19-203 | (31.0) | — | (7.4) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、平行叩き。 ・腹部内面、ナダ仕上げ。 | * | * | * | [+] |
| 19-205 | (18.2) | — | (8.0) | * | * | * | * | 内、灰 色外、暗 灰色 | [+] |
| 19-206 | (30.0) | (42.8) | (20.5) | ・口縁部は平坦面を持ち、試験する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・肩部、丸頭(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、平行叩き。 ・腹部内面、ナダ仕上げ後も同心円叩きが残り、肩も仕上げ。 | 砂粒を含む、灰 | * | 暗灰色 | [+] |
| 20-209 | (17.6) | — | (6.8) | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・肩部、幅1~1.3 mm)平行叩き。 ・腹部内面、ナダ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | 砂粒を含む。 | * | * | [自然] |
| 20-210 | (23.9) | — | (6.2) | ・口縁部は平坦面を持ち、上下につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・肩部、平行叩き。 ・腹部内面、ナダ仕上げ。 | * | * | * | [+] |
| 20-213 | (25.6) | (35.6) | (15.2) | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、幅1~1.3 mm)平行叩き。 ・腹部内面、ナダ仕上げ。 | * | * | 灰色 | (H) |

| 図版番号 | 口径 | 側径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技術の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|--|--|--------|-----|---------------|---------------------|
| 20-214 | (15.0) | - | (15.0) | ・口縁部は平面面を持ち、弧張り、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 | 砂粒を含む。 | 通常窯 | 黄灰色 | [R] |
| 20-215 | (28.0) | - | (8.2) | ・口縁部は平面面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上方の平行叩きが残る。 ・側部、低い(3mm)平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げも側心内叩きが残る。 | * | 生焼け | 灰色 | (+) |
| 20-216 | 26.4 | (19.2) | (13.2) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、高い(3.5mm)平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ。 | * | 蒸窯窯 | 暗灰色 | (+) |
| 20-217 | (17.0) | (24.4) | (13.5) | ・口縁部は上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、低い(2.5mm)平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ。 | * | * | 灰色 | 外側に自然釉がかかる。 [+] |
| 20-218 | (27.2) | (36.2) | (25.8) | ・口縁部は平面面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上方の平行叩きが残る。 ・側部、低い(3mm)平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ。 | * | * | * | (+) |
| 20-219 | (12.4) | (25.2) | (20.4) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩き。 ・側部内面、腰部のナデ仕上げ。 | * | * | * | [+] |
| 21-227 | (24.0) | - | (12.6) | ・口縁部は平面面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ。 | * | * | 黒灰色 | 内外面に自然釉がかかる。 [+] |
| 21-228 | (21.6) | - | (9.6) | ・口縁部は平面面を持ち、弧張り。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | * | * | * | 暗灰色 | 口縁部に自然釉がかかる。 [+] |
| 22-267 | (19.0) | (29.0) | (31.3) | ・口縁部は平面面を持ち、上下につまみ出す。 ・側部、丸脚。 ・底部、丸底(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・底部、平らが盛り合わせ。 ・側部内面、ナデ仕上げも側心内叩きが残る。 | * | * | 内、墨灰 外、高褐色 | [R] |

| 図版番号 | 口径 | 肩径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|------|--------|---|--|--------|------------------|------------------|-----|
| 23-268 | 19.2 | 30.2 | (26.5) | ・口縁部は平直面を持ち、上下につまみ出す。 ・腹部、丸腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部、ナデ削し後も同心円叩きが残る。 | 砂物を含む。 | 全焼け | 内、褐色 外、黄褐色 | (3) |
| 24-269 | 21.0 | 31.8 | 29.0 | ・口縁部は平直面を持ち、上下につまみ出す。 ・腹部、丸腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部、不規則。 ・腹部内面、ていねいなナデ仕上げ。 | - | - | 内、褐色 外、青褐色 | (+) |
| 24-270 | 20.8 | 28.5 | (31.1) | ・口縁部は平直面を持ち、上下につまみ出す。 ・腹部、丸腹。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部内面、ていねいなナデ仕上げ。 | - | - | 内、褐色 外、青褐色 | (+) |
| 24-271 | 21.0 | 32.6 | 28.8 | ・口縁部は平直面を持ち、上下につまみ出す。 ・腹部、丸腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ナデ削し後も同心円叩きが残る。 | - | - | 内、褐色 外、青褐色 | (+) |
| 24-272 | 20.9 | 31.2 | 28.2 | - | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ナデ削し後も同心円叩きが残る。 | - | - | 青灰色 | (+) |
| 24-273 | 21.4 | 30.8 | (30.0) | - | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ていねいなナデ仕上げ。 | - | - | - | (+) |
| 24-274 | 22.4 | 32.8 | 30.4 | ・口縁部は平直面を持ち、上下につまみ出す。 ・腹部、丸腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ナデ削し後も同心円叩きが残る。 | 粗面質 | 内、灰 外、青 褐色 | (+) | |
| 25-275 | (39.4) | - | (8.4) | ・口縁部は円面を持ち、大きく膨張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部内面、ナデ削し後も同心円叩きが残る。 | - | - | 褐色外側、 ヘラ削き | (+) |
| 25-276 | 19.8 | 31.1 | (22.5) | ・口縁部は平直面を持ち、上下につまみ出す。 ・腹部、丸腹(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・腹部内面、ナデ削し後も同心円叩きが残る。 | - | - | 内、基 外、青 褐色 | (+) |

| 器 版 番 号 | 口 径 | 胴 径 | 器 高 | 形 態 の 特 徴 | 威 形 技 法 の 特 徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 | |
|------------------|--------|--------|--------|---|---|--------|-------------------------|------------------------|--------|--|
| 25-277 | 30.0 | 31.6 | (20.8) | ・口縁部は平底面を持ち、上下につまみ出る。 ・胴部、丸腹(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・腹部、平行叩き。 ・腹部内面、ナデ消し後も同心円叩きが残る。 | 砂粒を含む。 | 泥炭質 内、茶 外、茶 褐色 | [+] | | |
| 25-278 | 16.7 | 27.6 | 27.7 | ・口縁部は平底面を持ち、下下につまみ出る。 ・胴部、丸腹。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・腹部、平行叩き。 ・腹部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ナデ消し後も同心円叩きが残る。 | * | * | 内、暗 灰色 外、茶 褐色 | [+] | |
| 25-279 | 21.8 | 32.6 | (23.5) | ・口縁部は平底面を持ち、上下につまみ出る。 ・胴部、丸腹。 | * | * | 内、暗 灰色 外、茶 褐色 | [+] | | |
| 25-280 (19.6) | 30.7 | (26.9) | | ・口縁部は平底面を持ち、上下につまみ出る。 ・胴部、丸腹。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・腹部、平行叩き。 ・腹部内面、ナデ消し後も同心円叩きが残る。 | * | * | 灰褐色 | [+] | |
| 25-281 | 21.4 | 33.8 | (25.5) | ・口縁部は平底面を持ち、上下につまみ出る。 ・胴部、丸腹(?)。 | * | * | 生焼け | 黄褐色 | [+] | |
| 25-282 | 21.0 | (30.0) | (8.4) | ・口縁部は平底面を持ち、上下につまみ出る。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・腹部、平行叩き。 ・腹部内面、ナデ仕上げ。 | * | * | 茶褐色 | [+] | |
| 26-283 | 18.4 | (29.8) | (9.6) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 | * | * | 内、暗 灰色 外、茶 褐色 | [+] | |
| 26-284 (19.2) | 27.8 | (26.5) | | ・口縁部は平底面を持ち、上下につまみ出る。 ・胴部、長腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・腹部、平行叩き。 ・腹部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ナデ仕上げ。 ・手すのつくり。 | * | * | 黑色 | [+] | |
| 26-285 | 15.8 | 26.0 | (26.0) | * | * | * | * | * | [+] | |

| 図版番号 | 口径 | 胴径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|---------|--------|---|--|----------|-------------------------|-----|--------------------|
| 26-286 | 17.8 | (26.6) | (25.2) | ・口縁部は丸頭を持ち、上方につまみ出す。 ・胴部、長脚。 ・底部、丸底(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・胴部、平行叩き。 ・底部、叩き目が餘り合う。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。 ・厚手のつくり。 | 砂粒を含む。 | 生焼け 内、灰 色外、黒 色 | (黒) | |
| 26-287 | 21.2 | (32.4) | (12.3) | ・口縁部は平面曲を待ち、上下につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | 茶褐色 | (+) |
| 26-288 | 30.8 | (31.6) | (11.9) | * | * | * | * | | (+) |
| 26-289 | 18.8 | (31.0) | (11.0) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、ナガ削し後も同心円叩きが残る。 | * | * | 黄褐色 | (+) |
| 26-290 | 21.7 | (31.35) | (14.4) | * | * | 胎土質 | 内、灰 色外、茶 褐色 | [+] | |
| 26-291 | 21.8 | (34.6) | (15.0) | ・口縁部は平面曲を持ち、上下につまみ出す。 ・胴部、丸底(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・胴部、平行叩き。 | * | * | | (+) |
| 27-299 | (16.5) | (29.4) | (17.9) | ・口縁部は上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・胴部、低い(3mm)平行叩き。 ・腹部内面、窓位のナガ仕上げ。 ・腹部内面、上半部分のナガ仕上げ。 | * | * | 淡白色 | 外由に自然色がかかる。 (白) |
| 27-300 | (19.7) | (31.5) | (15.2) | ・口縁部は平面曲を持ち、上下につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 腹部は平行叩きが残る。 ・胴部、低い(3mm)平行叩き。 ・腹部内面、ナガ削し後も同心円叩きが残る。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 27-301 | 18.2 | (27.2) | (19.2) | ・口縁部は平面曲を持ち、上下に拡張する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、窓位のナガ仕上げ。 | 砂粒を含む、黒。 | * | 灰白色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 調径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|--|---|--------|-----|----------------|--------------------|
| 27-302 | 30.1 | (34.3) | (16.4) | * 口縁部は凹面を持ち、延張する。上端はつまみ出し、下端は舌千層下する。 | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ、腹部は平行叩きが残る。 * 調整、低い(4mm)平行叩き。 | 砂粒を含む。 | 真青 | 内、灰白色 外、暗灰色 | (+) |
| 27-303 | 21.0 | 31.6 | (30.7) | * 口縁部は平頂面を持ち、上方につまみ出す。 * 調整、丸削。 * 腹部、丸底。 | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ、腹部は平行叩きが残る。 * 調整、低い(4mm)平行叩き。 * 腹部叩き日が重なり合む。 * 腹部内面、ナデ仕上げも同心内叩きが残る。 | * | 真青 | 内、灰白色 外、暗灰色 | (+) |
| 28-304 | (21.9) | (36.2) | (11.2) | * 口縁部は平頂面を持ち、上方につまみ出す。 | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。 * 調整、平行叩き。 * 腹部内面、ナデ仕上げ。 | * | * | 灰色 | 口縁部内面、ヘラ叩き。 (+) |
| 28-305 | 25.0 | (39.1) | (13.4) | * | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ、腹部は平行叩きが残る。 * 調整、平行叩き。 * 腹部内面、ナデ仕上げ。 | * | 生焼け | 内、黄灰色 外、灰色 | (+) |
| 28-306 | (29.1) | (37.0) | (14.1) | * | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ、腹部は平行叩きが残る。 * 調整、低い(3mm)平行叩き。 * 腹部内面、ナデ仕上げ。 | * | * | 内、茶褐色 外、褐色 | (+) |
| 28-307 | 24.6 | (35.2) | (22.5) | * 口縁部は平頂面を持ち、上方につまみ出す。 * 調整、丸削。 | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ、腹部は平行叩きが残る。 * 調整、低い(3.5mm)平行叩き。 * 腹部内面、ナデ仕上げ。 | * | 真青 | 暗灰色 | (+) |
| 28-308 | (25.9) | (38.4) | (23.4) | * 口縁部は平頂面を持ち、上方につまみ出す。 | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ、腹部は平行叩きが残る。 * 調整、低い(4mm)平行叩き。 * 腹部内面、窓位のナデ仕上げ。 | * | 真青 | 内、灰白色 外、暗灰色 | (+) |
| 29-309 | 31.7 | (42.4) | (25.5) | * 口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 * 調整、丸削(?)。 | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ、腹部は平行叩きが残る。 * 調整、低い(4mm)平行叩き。 * 腹部内面、窓位のナデ仕上げ。 | * | * | 灰色 | (+) |
| 28-310 | (30.0) | (40.2) | (28.7) | * 口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 * 調整、長削(?)。 | * 口縁部から腹部は内外ともヨコナデ、腹部は平行叩きが残る。 * 調整、低い(3mm)平行叩き。 * 腹部内面、ていねいなナデ仕上げ。 | * | * | 内、灰白色 外、暗灰色 | (+) |

| 固有番号 | 口径 | 脚径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|--|--|--------|-----|------------------------|-------------------------|
| 20-311 | 28.0 | (36.6) | (41.8) | ・口縁部は平直面を持ち、上方につまみ出る。 ・脚部、長脚。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(4 mm)平行叩き。 ・底部、叩き目が僅なり合う。 ・脚部内面、ナガ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 生焼け | 内、灰 色外、黒 灰色 | [+] |
| 30-312 | (27.0) | (38.4) | (25.7) | ・口縁部は上方につまみ出る。 ・脚部、長脚。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(3 mm)平行叩き。 ・脚部内面、ナガ仕上げ後も同心円叩きが現る。 | * | 瓦質 | 黒灰色 | [+] |
| 30-313 | (25.9) | (41.5) | (23.8) | ・口縁部は平直面を持ち、上方につまみ出る。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上がりの平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(3 mm)平行叩き。 ・脚部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | 灰色 | [+] |
| 30-314 | 29.2 | 41.9 | (42.3) | ・口縁部は平直面を持ち、上方につまみ出る。 ・脚部、丸脚。 ・底部、丸底(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(4 mm)平行叩き。 ・底部、叩き目が僅なり合う。 ・脚部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | 内、灰 白色 外、黒 色 | [+] |
| 31-315 | (26.9) | (41.2) | (13.6) | ・口縁部は平直面を持ち、上方につまみ出る。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(4 mm)平行叩き。 ・脚部内面、ナガ仕上げ後、網毛仕上げ。 | * | 瓦質 | 灰色 | 外側に白 然地がか かる。 [+] |
| 31-316 | (26.7) | (41.6) | (16.9) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(3 mm)平行叩き。 ・脚部内面、ナガ仕上げ。 | * | 生焼け | 黒灰色 | [+] |
| 31-317 | 30.7 | (49.6) | (18.0) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(4 mm)平行叩き。 ・脚部内面、ナガ焼し後も同心円叩きが現る。 | * | 瓦質 | 内、暗 灰色 外、灰 白色 | [+] |
| 31-318 | 29.4 | (44.2) | (32.5) | ・口縁部は丸底を持ち、上方につまみ出す。 ・脚部、長脚。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(2-4 mm)平行叩き。 ・脚部内面、ナガ焼し後も同心円叩きが現る。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 32-319 | 28.8 | (41.8) | (17.1) | ・口縁部は丸底を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが現る。 ・脚部、黒い(4 mm)平行叩き。 ・脚部内面、ナガ焼し後も同心円叩きが現る。 | * | * | - | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 側径 | 高さ | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|---|--|--------|-----|-----|----------------|
| 32-320 | (26.4) | (40.4) | (16.1) | ・口縁部は凹面を持ち、上下に大きく張り出す。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・側部、平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ後も平行叩きが残る。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 灰白色 | 外面に自然釉がかかる。(A) |
| 32-321 | (32.0) | (45.6) | (16.5) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・側部、平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 生焼け | * | (+) |
| 31-322 | (27.0) | (47.8) | (20.2) | ・口縁部は平凹面を持つ。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・側部、平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ。 | * | 高温 | 灰色 | (+) |
| 32-323 | (38.8) | (43.1) | (14.9) | ・口縁部は凹面を持ち、上下に大きく張り出す。下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・側部、平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ。 | * | 低温窯 | * | (+) |
| 34-349 | (22.1) | 30.3 | 33.0 | ・口縁部は丸味を持ち、上方につまみ出す。 ・側部、長脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上方に平行叩きが残る。 ・側部、短い(1 cm)平行叩き。 ・側部内面、ナデ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | 砂粒を含む。 | * | 暗灰色 | 外面は自然釉がかかる。(B) |
| 34-350 | (24.0) | (33.2) | (21.6) | ・口縁部は凹面を持ち、張り出す。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・側部、平行叩き。 ・側部内面、ていねいな擦りのナデ仕上げ。 | * | * | * | (+) |
| 34-351 | (23.6) | (32.0) | (18.6) | ・口縁部は平凹面を持つ。上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・側部、平行叩き。 ・側部内面、ていねいな擦りのナデ仕上げ。 | * | * | * | (+) |
| 35-352 | (25.4) | (30.4) | 36.5 | ・口縁部は平凹面を持つ。上方につまみ出す。 ・側部、長脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上方の平行叩きが残る。 ・側部、短い(1 cm)平行叩き。 ・側部、叩き目が並なり合う。 ・側部内面、ナデ仕上げ。 | * | * | * | (+) |
| 35-353 | (33.8) | (46.0) | (16.2) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・側部、短い(1 cm)平行叩きが並なり合う。 ・底部、叩き目が並なり合う。 ・側部内面、ナデ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | * | * | * | (+) |

| 器皿番号 | 口径 | 胸径 | 脚高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|---|--|--------|-----|--------------------|---------------------|
| 36-354 | 29.7 | (40.3) | (12.2) | ・口縁部は上方につまみ出す。 ・ | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・胸部、長胴。 ・底部、丸底。 | 砂粒を含む。 | 素窯質 | 暗灰色 | (+) |
| 36-355 | (25.4) | 37.8 | 39.7 | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・胸部、長胴。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・胸部、低い(3mm)平行叩き。 ・底部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ナデ仕上げも同心円叩きが残る。 | * | * | * | [+] |
| 36-356 | (24.5) | (40.9) | (30.9) | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・胸部、長胴。 ・底部、丸底(?)。 | * | * | 瓦質 | 黒灰色 底部 丸く灰白色 | [+] |
| 37-357 | 29.3 | (39.6) | (14.9) | ・口縁部は弧状で平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・胸部、低い(4mm)平行叩き。 ・底部、叩き目が盛なり合う。 | * | 素窯質 | 暗灰色 | (+) |
| 37-358 | 22.4 | 35.2 | 40.2 | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・胸部、長胴。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・胸部、低い(4mm)平行叩き。 ・底部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ナデ仕上げも同心円叩きが残る。 | * | * | 灰白色 | [+] |
| 37-359 | 28.5 | 38.2 | (38.0) | ・口縁部は平平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・胸部、長胴。 ・底部、丸底(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・胸部、低い(3mm)平行叩き。 ・底部、叩き目が盛なり合う。 ・腹部内面、ナデ仕上げ。 | * | 瓦質 | 黒灰色 | [+] |
| 36-360 | (16.6) | 36.8 | (28.2) | ・口縁部は平平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・胸部、長胴。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は平行叩きが残る。 ・胸部、低い(4mm)平行叩き。 ・底部内面、ナデ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | * | 素窯質 | 暗灰色 | [+] |
| 36-361 | 28.8 | (40.5) | (29.3) | ・口縁部は平平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・胸部、長胴。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上りの平行叩きが残る。 ・胸部、低い(3mm)平行叩き。 ・腹部内面、ナデ仕上げ。 | * | * | 灰色 | 背面に自然剥離がかかる。 [+] |
| 38-362 | (22.6) | (40.6) | (36.6) | ・口縁部は平平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・胸部、長胴。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。腹部は左上りの平行叩きが残る。 ・胸部、低い(4mm)平行叩き。 ・腹部内面、ナデ仕上げ。 | * | 瓦質 | 黒灰色 | [+] |

| 回数 番号 | 口径 | 耐性 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|-----------------------------|----|----|----|---|---|--------|-----|----------------|---------------------|
| 39-363 (50.1) | - | - | - | ・口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部外側は輪位の叩きが残る。 | 砂粒を含む。 | 窯窓面 | 暗灰色 (灰) | 内面にヘラ焼き。(灰) |
| 39-364 (53.2) | - | - | - | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部外側は輪位の叩きが残る。 | * | * | * | [+] |
| 39-365 (45.7) | - | - | - | * | * | * | * | * | [+] |
| 39-366 (28.4) (34.6) (18.1) | | | | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・輪位、平行叩き。 ・輪位内面、ナダ仕上げ。 | * | * | * | 外側に自然乾燥がかかる。 [+] |
| 39-367 27.2 41.6 39.0 | | | | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・腹部、丸腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・輪位、低い(3mm)平行叩き。 ・輪位、叩き目が残り合う。 ・輪位内面、下半輪位のナダ。 ・上半輪位のナダ仕上げ。 | * | * | * | [+] |
| 44-432 (22.6) (30.3) (33.8) | | | | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・輪位、低い(3mm)平行叩き。 ・輪位内面、ていねいなナダ仕上げ。 | * | 瓦窓 | 内、灰白色 外、暗灰色 | [灰灰] |
| 45-433 (29.4) (43.6) 132.31 | | | | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・輪位、低い(4mm)平行叩き。 ・輪位内面、輪位のていねいなナダ仕上げ。 | * | 窯窓面 | 暗灰色 | [+] |
| 45-434 (28.8) 43.2 (43.3) | | | | ・口縁部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・腹部、丸腹。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・輪位、低い(3mm)平行叩きが残る。 ・輪位、叩き目が残り合う。 ・輪位内面、下半輪位のエビナダ。 ・上半輪位のナダ仕上げ。 | * | * | 内、灰白色 外、暗灰色 | [+] |
| 46-435 (35.1) (52.0) (40.4) | | | | ・口縁部は丸腹を持ち、上方につまみ出す。 ・腹部、丸腹(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・輪位、低い(3mm)平行叩き。 ・輪位内面、ナダ仕上げ。 | * | * | * | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 軸径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|--|--|--------|-----|------------|----------------|
| 46-136 | 29.6 | 43.2 | 47.0 | ・口縁部は丸味を持ち、上方につまみ出る。 ・腹部、長脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は上りの平行叩きが残る。 ・胴部、椅子目叩き(12×3mm)。 ・脚部内面、ナガ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 瓦窯 | 褐灰色 | [解説] |
| 52-502 | (17.0) | (27.5) | (25.0) | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出る。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・胴部、平行叩き。 ・脚部、平行叩き。 | * | 瓦窯窯 | * | [解説] |
| 52-503 | (18.0) | (27.2) | 28.1 | ・口縁部は平凹面を持ち、底張りも、上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・腹部、大脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・脚部、重い(3mm)平行叩き。 ・底部、叩き目が量なり合む。 ・脚部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | * | 外表面自然風がかかる。[+] |
| 52-504 | 17.5 | 29.8 | 32.2 | ・口縁部は平凹面を持ち、鼓腹する、上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・腹部、長脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・脚部、平行叩き。 ・底部、叩き目が量なり合む。 ・脚部内面、ナガ仕上げ。 ・脚部上端、叩き目跡が残る。 | * | * | * | [+] |
| 52-505 | 17.7 | 30.8 | (28.4) | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出る。 ・腹部、丸脚。 ・底部、不明。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・脚部、椅子目叩き(18×3mm)。 ・底部、叩き目が量なり合む。 ・脚部内面、ていねいなナガ仕上げ。 | * | * | * | [+] |
| 53-506 | (22.6) | (33.8) | (29.5) | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出る。 ・腹部、丸脚。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・脚部、椅子目叩き(18×3mm)。 ・腹部内面、ていねいなナガ仕上げを施すが、同心内叩きも残る。 | * | * | * | [+] |
| 53-507 | (23.5) | (35.7) | (29.0) | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出る。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・脚部、平行叩き。 ・脚部内面、ナガ仕上げ。 | * | 瓦窯 | 内白色 外褐色 | [+] |
| 53-508 | 21.8 | 25.0 | (31.5) | ・口縁部は平凹面を持ち、上方につまみ出る。 ・腹部、丸脚。 | * | * | 褐灰色 | 褐灰色 | [+] |
| 53-509 | 19.0 | (30.5) | (27.1) | ・口縁部は丸味を持ち、上方につまみ出る。 ・腹部、丸脚(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・脚部、平行叩き。 ・脚部内面、ていねいなナガ仕上げ。 | * | * | * | [+] |

| 器皿番号 | 口径 | 脚径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|--|---|--------|-----|-----------------|--------------------|
| 53-510 | 39.5 | 32.9 | (31.6) | ・口縁部は平底面を持ち、上方につまみ出る。 ・肩部、丸腹。 ・底部、丸底(?)。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、底い(3mm)平行叩き。 ・腹部内面、ていねいなナガ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 素窯窯 | 暗灰色(灰) | |
| 53-511 | 34.15 | 35.5 | (35.7) | ・口縁部は平底面を持ち、上方につまみ出る。 ・肩部、丸腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、底い(3mm)平行叩き。 ・腹部、底子目叩き(9×3mm)が並なり合う。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | ■板色 腹部外面、灰白色 | [+] |
| 54-512 | 29.1 | 42.7 | 40.45 | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、底い(4mm)平行叩き。 ・底部、底子目叩きが並なり合う。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | 暗灰色 | 外側に自然色がかかる。 [+] |
| 54-513 | 37.6 | 48.8 | (35.2) | ・口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、底い(3mm)平行叩き。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | * | [+] |
| 55-514 | 25.4 | 39.7 | 45.4 | ・口縁部は平底面を持ち、上方につまみ出る。 ・肩部、浅腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・底子目叩き(9×3mm)が並なり合う。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | 内、灰白色 外、暗灰色 | [+] |
| 55-515 | 29.0 | 41.4 | 42.2 | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、底子目叩き(9×3mm)が並なり合う。 ・腹部、底子目叩きが並なり合う。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 56-516 | 35.0 | 39.9 | 41.95 | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、底い(4mm)平行叩き。 ・底部、底子目叩きが並なり合う。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。底も開心円窓が残る。 | * | * | ■板色 腹部外面、灰白色 | [+] |
| 56-517 | (34.8) | (53.2) | 48.0 | ・口縁部は平底面を持ち、上方につまみ出る。 ・肩部、丸腹。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・底子目叩き(9×3mm)が並なり合う。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。底も開心円窓が残る。 | * | * | 内、灰白色 外、暗灰色 | [+] |
| 57-518 | (30.5) | (40.4) | (22.7) | ・口縁部は平底面を持ち、上方につまみ出る。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・肩部、底い(13.5mm)平行叩き。 ・腹部内面、ナガ仕上げ。 | * | * | 暗灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 胴径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|---------|-------------------------------------|---|----------|-----|-----|-----------------|
| 57-519 | (27.9) | (40.4) | (22.4) | ・口端部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口端部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・胴部、低い(4mm)平行叩き。 ・胴部内面、ナデ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 | 暗灰色 | 外側に自然乾燥がかかる。(例) |
| 57-520 | (29.3) | (41.7) | (27.7) | ・口端部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 ・胴部、長脚(?)。 | ・口端部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、ていねいなナデ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | * | * | * | (+) |
| 58-521 | (28.0) | (43.0) | (26.2) | ・口端部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口端部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・胴部、高い(3.5mm)平行叩き。 ・腹部内面、中辺は上下のナデ仕上げ。 ・腹部上半、横位のナデ仕上げ。 | * | * | * | (+) |
| 58-522 | (28.6) | (40.6) | (22.2) | * | ・口端部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、ナデ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | * | * | * | (+) |
| 58-523 | (31.9) | (46.2) | (29.3) | ・口端部は丸味を持ち、上方につまみ出す。 | ・口端部から腹部内外ともヨコナデ。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、ナデ仕上げ。 ・腹部内面上半、刷毛仕上げ。 | * | * | 黒灰色 | (+) |
| 59-537 | 18.0 | 28.4 | (14.0) | ・口端部は平坦面を持ち、垂下する。 ・胴部、丸脚(?)。 | ・口端部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、ていねいなナデ仕上げ後も同心円叩きが残る。 | 砂粒を含む、黄。 | * | 黄色 | (灰黒) |
| 59-538 | (17.9) | (27.5) | (27.65) | ・口端部は平坦面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口端部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・胴部、平行叩き。 ・胴部内面、横位のナデ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | * | 黒灰色 | (+) |
| 59-539 | (18.1) | (26.8) | (24.0) | ・口端部は丸味を持ち、上方につまみ出す。 ・胴部、丸脚(?)。 | ・口端部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、ていねいなナデ仕上げ。 | * | * | 暗灰色 | (+) |
| 59-540 | (20.8) | (32.5) | (21.6) | ・口端部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 ・胴部、丸脚。 | ・口端部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが残る。 ・胴部、平行叩き。 ・腹部内面、ナデ仕上げ後も一層同心円叩きが残る。 | * | * | * | (+) |

| 図版番号 | 口径 | 胴径 | 器高 | 形態の特徴 | 或形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|---|--|--------|-----|------------------|-------------------|
| 60-541 | 38.0 | 41.0 | 37.7 | ・口縁部は丸脚を持ち弧張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・肩部、丸脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが現る。 ・肩部、平行叩き。 ・底部、叩き目が重なり合う。 ・側部内面ナガ仕上げ後側毛上げ。 | 砂粒を含む。 | 還原窯 | 暗灰色 | 側部外側に白痕跡がかかる。(灰面) |
| 60-542 | 38.2 | (43.0) | 50.5 | ・口縁部は平坦面を持ち弧張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・肩部、丸脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが現る。 ・肩部、平行叩き。 ・底部、叩き目が重なり合う。 ・側部内面、ナガ仕上げ。 | - | 生焼け | 内、青 外、黒色 | [+] |
| 61-543 | 39.0 | 39.0 | 38.4 | ・口縁部は四面を持ち弧張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・肩部、丸脚。 ・底部、丸底。 | - | - | 丸底 | 内、灰 外、暗 灰色 | [+] |
| 61-544 | (46.4) | (58.0) | 52.0 | ・口縁部は四面を持ち弧張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・肩部、丸脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが現る。 ・肩部、平行叩き。 ・底部、叩き目が重なり合う。 ・側部内面、下手造のナガ仕上げ。 ・側部もナガ仕上げ後同心円叩きが残る。 | - | 還原窯 | 暗灰色 | [+] |
| 62-545 | (38.6) | (43.2) | (31.8) | ・口縁部は四面を持ち弧張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・肩部、丸脚。 | ・口縁部から腹部内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが現る。 ・肩部、平行叩き。 ・側部内面、ナガ削し後も同心円叩きが残る。 | - | 瓦窯 | 内、青 外、黒色 | [+] |
| 62-546 | 39.6 | 54.7 | 55.9 | ・口縁部は平坦面を持ち弧張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・肩部、丸脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが現る。 ・肩部、平行叩き。 ・底部、叩き目が重なり合う。 ・側部内面、下手造のナガ仕上げ。 ・側部、内面削毛仕上げ。 | - | 還原窯 | 暗褐色 底部、灰色 | [+] |
| 63-547 | (35.2) | (53.0) | (41.6) | ・口縁部は四面を持ち弧張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが現る。 ・肩部、平行叩き。 ・側部内面、ナガ仕上げ。 | - | 瓦窯 | 内、灰 外、暗 灰色 | [+] |
| 63-548 | 36.0 | (50.0) | 50.1 | ・口縁部は四面を持ち弧張する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 ・肩部、丸脚。 ・底部、丸底。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが現る。 ・肩部、平行叩き。 ・底部、叩き目が重なり合う。 ・側部内面、底位のナガ仕上げ。 | - | 還原窯 | 暗灰色 | [+] |
| 64-549 | (30.0) | (53.2) | (42.3) | ・口縁部は平坦面を持ち弧張する。下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。腹部は平行叩きが現る。 ・肩部、平行叩き。 ・側部内面、ナガ仕上げ後も同心円叩きが現る。 | - | - | 内、青 外、暗 灰色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 側径 | 標高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------|----|------|-------|-----------------------------------|--|--------|-----|----------|------------------|
| 64-550 (40.6) | | 51.5 | 146.1 | ・口縁部は平滑面を持ち延長する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・腹部平行叩き。 ・腹部内面、ナガ削し跡も同心円叩きが残る。 | 砂粒を含む。 | 還原窯 | 暗灰色 (灰黒) | |
| 74-671 (28.4) | - | - | (4.2) | ・上縁部は平滑面を持ち、上下につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部、平行叩き。 | 砂粒を含む。 | - | 灰色 (灰黒) | |
| 74-672 (21.8) | - | - | (6.6) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は、平行叩きが残る。 ・腹部、平行叩き。 | 砂粒を含む。 | - | 暗灰色 (+) | |
| 76-714 (26.4) | - | - | (4.3) | ・口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は左上よりの平行叩きが残る。 | - | - | - | (+) |
| 79-776 (28.6) | - | - | (4.5) | ・口縁部は平滑面を持ち延長する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・腹部、平行叩き。 | 砂粒を含む。 | - | 灰白色 | 外表面に自然剥がかかる。(+) |
| 79-777 (27.0) | - | - | (4.2) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 | 砂粒を含む。 | - | 灰色 | (+) |
| 79-778 (31.0) | - | - | (1.6) | ・口縁部は平滑面を持ち、上方につまみ出す。 | * | 砂粒を含む。 | - | - | (+) |
| 79-779 (29.0) | - | - | (3.2) | * | ・口縁部は平滑面を持ち、腹部下部、上端は丸く、下端は垂下する。 | 砂粒を含む。 | - | 暗灰色 | 口縁部に自然剥がかかる。(灰黒) |
| 79-799 (20.7) | - | - | (5.2) | * | * | * | * | 灰白色 | 外表面に自然剥がかかる。(+) |

| 図版番号 | 口径 | 網径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------|----|-------|----|------------------------------------|---|----|-----|----------------|---------------------|
| 79-790 (24.2) | — | (5.9) | | ・口縁部は平緩面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・砂輪を含む。 | | 最高質 | 灰白色 | [鉄鋼] |
| 79-791 (29.5) | — | (4.2) | | ・口縁部は平緩面を持ち、試掘する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 79-792 (31.1) | — | (5.2) | | ・口縁部は凸面を持ち、試掘する。上端はつまみ出し、下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・窓部、平行叩き。 | * | * | 灰白色 | [+] |
| 79-793 (29.6) | — | (6.6) | | ・口縁部は平緩面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 ・窓部、平行叩き。 | * | * | 暗灰色 | 内外面に自然塗装がある。 [+] |
| 79-795 (28.9) | — | (4.4) | | ・口縁部は平緩面を持ち、試掘する。下端は垂下する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 | * | * | 灰白色 | [+] |
| 80-797 (21.6) | — | (5.0) | | ・口縁部は丸頭を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 | * | 生焼け | 黑色 | [+] |
| 80-811 (28.5) | — | (5.6) | | ・口縁部は凹面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は平行叩きが残る。 ・窓部、窓(14mm)平行叩き。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 80-812 (28.6) | — | (5.8) | | * | * | * | 瓦質 | 灰、灰白色 外、暗灰色 | [金剛] |
| 80-818 (30.8) | — | (6.8) | | ・口縁部は平緩面を持ち、上方につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ、腹部は左上端に平行叩きが残る。 ・窓部、平行叩き。 | * | 最高質 | 暗灰色 | 外面に自然塗装がある。 [+] |

釜・鍋類

表10

| 図版番号 | 口径 | 胴径 | 器高 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|------|--------|------|--|--|--------|---------|-----|----------------------------|
| 32-109 | - | (22.8) | - | ・口縁部は内側に立ち上る。 ・底部は内側する。 | ・体部内外面、削毛目。 ・体部外面、平行印または削毛仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 土器面 | 褐色 | 釜(?) |
| 40-370 | 24.0 | - | 15.4 | ・口縁部は底部から内側斜面に立ち上る。 ・底部は丸く約めらる。 ・体部は内側し、底部は丸底。 | ・体部外面、平行印等。 ・口縁部内外面、ヨコナデ。 ・体部内面上面、削毛仕上げ。 ・体部内面下半から底部ナダ。 | * | * | * | 二重付耳 体部外側にスヌ付 壁。(底床) |
| 72-631 | - | - | - | ・口縁部は平底面を持つ。 ・体部外面、つば有り。 | | 陶石 | | 灰褐色 | 石器 |
| 72-632 | - | - | - | ・体部外面、つば有り。 | ・底部内外面、ナダ仕上げ 後づはを付ける。 | 砂粒を含む。 | 泥窓質(硬質) | 灰色 | 場(?) |

壺

表11

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-------|--------|-----|--|---------------------------------|--------|-----|-------------------|------|
| 21-220 | 9.9 | (21.0) | - | ・底部は外方に内側斜面に立ち上り、肩部を張り出す。 ・底部から外反し口縁部に至る。 ・底部は内側して丸底を持つ。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部外側、10条のヘラ沈割有り。 | 砂粒を含む。 | 生成け | 内、青 灰色 外、黑色 | [底床] |
| 21-233 | (9.3) | - | - | ・底部から外反し口縁部に至る。 ・底部は内側して丸底を持つ。 | ・内外面、ヨコナデ。 | * | 土器面 | 褐色 | [底] |
| 21-234 | - | (6.5) | 9.5 | ・底部は底部から外方に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、細部余切り。 | * | 生成け | 褐色 | [+] |
| 40-457 | 11.1 | (12.7) | - | ・底部は内側斜面に立ち上り、肩部を張り出す。 ・底部から外反し口縁部に至る。 ・底部は内側して丸底を持つ。 | ・内外面、ヨコナデ。 | * | 泥窓質 | 褐色 | [底] |

| 図版号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 黏土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-------|-------|----|-----------------------------------|--------------------|----------|-----|-----|-----|
| 59-825 | 12.3 | - | - | ・腹部から外反し口縁部に至る。 ・腹部は内傾して丸く削める。 | * | 砂粒を含む。 | 通常質 | 暗灰色 | [A] |
| 72-628 | 10.8 | - | - | ・腹部から外反し口縁部に至る。 ・腹部は内傾して丸味を持つ。 | * | * | * | * | [B] |
| 79-794 | (8.6) | (4.8) | - | ・口縁部は外方に突き出し、丸く削める。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナギ。 | 砂粒を含み、瓦。 | * | 青灰色 | [C] |

軒丸瓦

軒丸瓦(1)

| 図版号 | 天地幅 | 左右幅 | 文様 | 甲房研磨子 | 特殊文様 | 形態及び成形技法の特徴 | 黏土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-----|-----|-----|-------|-------|-------------|----------|-----|-----|--------------------------|
| 65-551 | 150 | 152 | 119 | 52 | 1 + 8 | * | 砂粒を含み、瓦。 | 通常質 | 暗灰色 | 22-[A] |
| 65-552 | 148 | - | 122 | 53 | 1 + 8 | (4) | * | * | 灰色 | 22-[B] |
| 65-553 | - | 156 | 124 | 56 | 1 + 8 | (4) | * | 瓦質 | 墨灰色 | 22-[C] |
| 65-554 | - | - | - | 53 | 1 + 8 | (4) | * | 通常質 | 灰色 | 30-[A] |
| 65-555 | - | - | - | - | - | - | * | * | * | 瓦当面には墨灰色の陶風輪がかかる。 [B] |

| 番号 | 天 | 地 | 左 | 右 | 幅 | 丈 | 甲 | 房 | 漆 | 子 | 漆 | 文 | 款 | 形態及び成形技法の特徴 | 粘土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-----|-----|-----|----|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|--|----------|-----|-----|-------------------------------------|
| 65-556 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ・瓦当と丸瓦は詰み込み式で接合。 ・陶面半月状の空隙有り。 ・裏面ナゲ方向不明。 | 砂物を含み、黄。 | 墨黒質 | 灰色 | 瓦当面に は縦筋の 目盛線 がかかる。 (墨) |
| 65-557 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ・瓦当の半分は欠損。 ・裏面ナゲ方向不明。 | * | * | * | 瓦当の下端から背面にかけて自然筋。 30-(墨) |
| 65-558 | 129 | 134 | 107 | 51 | 1+(4) | - | - | - | - | - | - | - | - | ・瓦当裏面に筋有り。 ・裏面倒産のためナゲ方向不明。 | * | 光沢無 | 墨灰色 | 30-(墨) |
| 65-559 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ・瓦当裏面に筋有り。 ・瓦当下半分欠損のためナゲ方向不明。 | * | * | * | 22-(墨) |
| 65-560 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ・瓦当上半分は欠損。 ・裏面倒産・欠損のためナゲ方向不明。 | * | * | * | (墨) |
| 65-561 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ・瓦当裏面に筋有り。 ・瓦当下半分欠損のため裏面ナゲ方向不明。 | * | 墨黒質 | 灰色 | 33-(黄灰) |
| 65-562 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ・瓦当の上半分以上欠損。 ・瓦当裏面に筋ナゲ。 ・ナゲ方向不明。 ・下端部にワラ状压痕土有り。 | * | * | 墨灰色 | (墨) |
| 65-563 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ・瓦当の上半分以上欠損。 ・裏面、不定方向のナゲ仕上げ。 | * | * | 暗褐色 | 22-(墨) |

軒平瓦

軒平瓦(1)

| 固 形 番 号 | 上弦幅 | 下弦幅 | 弦 高 | 瓦当面 厚 3 | 文端区 厚 3 | 文端区 厚 3 | 形態及び成形技法の特徴 | 熟土 | 焼成 | 色 調 | 備考 |
|------------------|-----|-----|-----|------------|------------|------------|--|------------------|-----|-----|--------|
| 66-564 | 230 | 250 | 28 | 45 | 236 | 29 | ・瓦当と平瓦は組み込み式で接合。 ・組合付近の瓦当上面から平瓦凹面にかけて は不定方向のナゲ。 ・瓦当左右端は平瓦面端にかけてナゲ仕上 げ。 | 砂粒を 含み、 角。 | 板状質 | 暗灰色 | [A] |
| 66-565 | 265 | 285 | 37 | 47 | 259 | 32 | * | * | * | | [+] |
| 66-566 | 185 | 199 | 20 | 48 | 179 | 30 | * | * | | 灰白色 | [+] |
| 66-567 | 185 | 199 | 26 | 50 | 179 | 30 | * | * | | 暗灰色 | 30-[B] |
| 66-568 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当左端を残す小破片。 | * | * | 灰 色 | [B] |
| 66-569 | - | - | - | 46 | - | 34 | ・瓦当左側を残す破片。 ・瓦当表面に平瓦を組みさせるために施 行ったと思われる施有り。 ・穀部は組ナゲ。 | * | * | 暗灰色 | 22-[B] |
| 66-570 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当中央よりやや左側を残す小破片。 ・瓦当表面に施有り。 ・穀部は組ナゲ。 | * | * | * | [B] |
| 66-571 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当中央から右側にかけて残る破片。 ・瓦当表面に施有り。 ・穀部は組ナゲ。 | * | * | * | [B] |
| 66-572 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当左側の一端を残す小破片。 ・瓦当表面に施有り。 ・穀部は組ナゲ。 | * | 瓦面 | 暗灰色 | 22-[B] |

| 固 形 番 号 | 上弦幅 | 下弦幅 | 弦 深 | 瓦当面 厚さ | 文様区 厚さ | 文様区 厚さ | 形 異 及 び 成 形 技 法 の 特 徴 | 地 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|------------------|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----------|---|-------------------|-----|--------|--------|
| 66-573 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当右端を残す破片。 ・瓦当の裏面に筋有り。 ・ナデは剥落のため不明。 | 砂粒を 含み、 風化。 | 瓦質 | 黄灰色 | [固] |
| 66-574 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当左端部を残す破片。 ・瓦当と平瓦は含み込み式で結合。 ・輪郭半周状の空隙有り。 ・瓦当上面から平瓦底面にかけては不定方向のナデ化上げ。 | * | 陶器質 | 灰色 | 22-[固] |
| 66-575 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当中央上部を残す破片。 ・瓦当と平瓦は含み込み式で結合。 ・輪郭半周状の空隙有り。 ・瓦当上面から平瓦底面にかけては不定方向のナデ化上げ。 | * | 瓦質 | 灰白色 | 22-[固] |
| 66-576 | - | - | - | 52 | - | 32 | ・瓦当中央から右端にかけて残す破片。 ・瓦当の裏面に筋有り。 ・壁部は横ナデ。 | * | * | * | [固] |
| 66-577 | - | - | - | 53 | - | 33 | ・瓦当中央から右端まで残す破片。 ・瓦当裏面に筋有り。 ・ナデは剥落のため不明。 | * | 陶器質 | 灰色 | 22-[固] |
| 66-578 | - | - | - | 54 | - | 34 | ・瓦当中央部から左端にかけて残る破片。 ・瓦当と平瓦は含み込み式で結合。 ・接合部分は空隙なし。 ・瓦当上面から平瓦底面にかけてのナデは不定方向。 ・壁から凸面にかけては横ナデ。 ・瓦当左端から平瓦にかけては横ナデ上げ。 | * | * | 暗灰色 | 22-[+] |
| 66-579 | - | - | - | 53 | - | 32 | * | * | * | 22-[+] | |
| 66-580 | - | - | - | 44 | - | - | ・瓦当左端を残す破片。 ・瓦当裏面に筋有り。 ・壁部は横ナデ。 | * | * | * | [固] |
| 66-581 | - | - | - | 58 | - | 39 | ・瓦当中央から左端にかけて残す破片。 ・瓦当と平瓦は含み込み式で結合。 ・接合部分は空隙なし。 ・ナデは剥落のため不明。 | * | 生焼け | 黄灰色 | 22-[固] |

| 固形番号 | 上弦幅 | 下弦幅 | 弦深 | 瓦当面厚さ | 文様品厚さ | 文様区厚さ | 形態及び成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-----|-----|----|-------|-------|-------|--|----------|-----|-----|-------------------------|
| 67-582 | - | - | - | 56 | - | 36 | <ul style="list-style-type: none"> ・瓦当は右側を欠損。 ・瓦当と平瓦は包み込み式で組合。 ・組合部分に空隙なし。 ・瓦当上面から平瓦凹面にかけては不定方向のナゲ。 ・窓端から平瓦にかけては窓ナゲ。 ・瓦当左右端から平瓦にかけては欠損のため不明。 | 砂粒を含み、糞。 | 生焼け | 青灰色 | (底) |
| 67-583 | - | - | - | 55 | - | 37 | <ul style="list-style-type: none"> ・瓦当左半分を残す。 ・瓦当と平瓦は包み込み式で組合。 ・ナゲは倒壊のため不明。 | * | * | 黒灰色 | 22-(R) |
| 67-584 | - | - | - | - | - | - | <ul style="list-style-type: none"> ・瓦当左半分の下端を残す。 ・瓦当右端に空隙有り。 ・窓端は窓ナゲ。 | * | 瓦窓部 | 暗灰色 | 30-(R) |
| 67-585 | - | - | - | 62 | - | 41 | <ul style="list-style-type: none"> ・瓦当左側を残す。 ・瓦当と平瓦は包み込み式で組合。 ・組合部分に空隙なし。 ・瓦当上面から四隅にかけては不定方向のナゲ。 ・窓端から平瓦凸面にかけては窓ナゲ。 ・瓦当左端から平瓦窓端にかけてはナゲ仕上げ。 | * | * | 青灰色 | (底) |
| 67-586 | - | - | - | 55 | - | 38 | <ul style="list-style-type: none"> ・瓦当中央部を残す断片。 ・瓦当と平瓦は包み込み式により組合。 ・窓端は窓ナゲ。 | * | * | 灰色 | [+] |
| 67-587 | - | - | - | - | - | - | <ul style="list-style-type: none"> ・瓦当右端下を残す断片。 ・瓦当と平瓦は包み込み式により組合。 ・窓端は不定方向のナゲ。 ・窓は欠損のため不明。 | * | * | * | [+] |
| 67-588 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当中央下端部を残す小断片。 | * | * | * | [+] |
| 67-589 | - | - | - | 58 | - | 39 | <ul style="list-style-type: none"> ・瓦当右側半分を残す断片。 ・瓦当と平瓦は包み込み式で組合。 ・組合部分に空隙有り。 ・瓦当上面から平瓦凹面にかけて、窓端から平瓦凸面にかけてはミコナゲ。 ・窓端は窓ナゲ仕上げ。 | * | * | * | 瓦当から平瓦凹面にかけて白模様。 [+] |
| 67-590 | 196 | 195 | 16 | 46 | 189 | 33 | <ul style="list-style-type: none"> ・瓦当と平瓦は包み込み式で組合。 ・組合部分の入出上面から平瓦凹面にかけて、窓端から平瓦凸面にかけては窓ナゲ。 ・窓端は窓ナゲ仕上げ。 | * | * | 暗灰色 | 瓦当面に白模様がかかる。 30-(R) |

| 品番 | 上弦幅 | 下弦幅 | 弦厚 | 瓦当面厚さ | 文様区隔 | 文様区隔厚さ | 形態及び成形技法の特徴 | 納土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-----|-----|----|-------|------|--------|--|----------|-----|-----|--------|
| 67-581 | - | 196 | 9 | 43 | 197 | 32 | ・瓦当と平瓦は嵌み込み式で組合。 ・聯合付近の瓦当上面から平瓦四面にかけて、最部から平瓦凸面にかけてはラコナ。 ・粗面なナギ仕上げ。 | 砂粒を含み、瓦。 | 低温窯 | 暗灰色 | 30-(A) |
| 67-582 | - | - | - | - | - | - | ・瓦当の左側下部を残す破片。 ・瓦当裏面に筋有り。 ・筋部は削ナギ。 | - | * | * | 22-(B) |
| 67-583 | - | - | - | 55 | - | 29 | ・瓦当中央部を残す破片。 ・瓦当と平瓦は嵌み込み式で組合。 ・右端部分に少し空隙有り。 ・瓦当上面から四面にかけて、最部から凸面にかけては削ナギ。 | - | * | 灰色 | 30-(B) |
| 67-594 | - | - | - | 52 | - | 31 | ・瓦当左側を残す破片。 ・瓦当裏面に筋有り。 ・ナギは剥落のため不明。 | * | 瓦質 | 黄灰色 | (B) |

丸瓦・平瓦

丸瓦・平瓦(1)

| 品番 | 全長 | 最大幅 | 厚さ | 布目 | 形態及び成形技法の特徴 | 納土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-----|-----|----|-----------|---|----------|-----|-----|--------|
| 68-600 | 328 | 139 | 18 | 織6 横6 | ・凸面は織模と平行ナギ。 ・凹面の布目は乱れ、シワが多い。 ・織模とその内側、輪縁の凸面部、輪縁、その内側の車輪でハラ削りをする。 ・凹面に細切痕有り。 ・瓦当と丸瓦部の接は削脱ナギ。 | 砂粒を含み、瓦。 | 低温窯 | 暗灰色 | 22-(A) |
| 68-601 | 329 | 135 | 17 | 織5 横5 | * | - | * | * | 22-(A) |
| 68-602 | 325 | 140 | 18 | 織6 横10 | ・輪縁は布目の上に斜め筋が付る。 ・凸面は3条の筋をもつ車輪板により輪縁と平行叩き、輪縁と平行ナギ。 ・凹面の布目は整い、シワも少ない。 ・輪縁のハラ削りは6000番と同じ。 ・凹面は細切痕有り。 ・瓦当と丸瓦部の接は削脱ナギ。 ・輪縁二辺にワラ状注脂有り。 | - | * | 灰白色 | 22-(B) |
| 68-603 | 327 | 121 | 12 | 織7 横4 | ・凸面は織模と平行ナギ。 ・凹面の布目は整い、シワが少ない。 ・輪縁のハラ削りは6000番と同じ。 ・凹面に細切痕有り。 ・瓦当と丸瓦部の接は削脱ナギ。 | - | * | * | 30-(A) |

| 図版号 | 全長 | 最大幅 | 厚さ | 番号 | 形態及び成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|-----|-----|----|-------------|---|--------------|-----|-----|--------|
| 60-604 | 335 | 215 | 22 | ■■9 ■■9 | ・凸面全体にまろい押をもつ叩き面により、端部のはば中央を基点として右から左への叩き目を有す。 ・端部、側面凹凸の番号と叩きの様式で識別。 ・端部の辺に、発達さる節に付いたと思われるワラ状圧痕有り。 ・凹面には余切痕有り。 | 砂粘土 含み、灰。 | 須磨質 | 灰白色 | 29-(無) |
| 60-605 | 321 | 222 | 25 | ■■7 ■■11 | ・端部等をヘラ削り後、凸面を叩き不定方向のナデ仕上げ、ほみ出した胎土を側面に折り曲げる。 ・端部の一边にワラ状圧痕有り。 ・余切痕不明。 ・番号は不定方向のナデによりほとんど消されている。 | * | * | 黄灰色 | 29-(無) |
| 60-606 | 330 | 219 | 26 | ■■7 ■■10 | ・端、側面をへう削り。 ・凸面を側面に平行叩き、同じ方向にナデ仕上げ、ほみ出した胎土を側面に折り曲げる。 ・端部の一边にワラ状圧痕有り。 ・凹面に余切痕有り。 | * | * | * | 29-(+) |
| 70-607 | 325 | 238 | 25 | ■■6 ■■7 | ・凹凸面には番号、ナデの上に砂が付着。 ・端、側面をへう削り。 ・凸面を叩き、ナデの後、凹凸面の八辺をヘラで彫取り。 ・端部の辺にワラ状圧痕有り。 ・凹面に余切痕有り。 | * | * | 灰色 | 22-(無) |
| 70-608 | 340 | 235 | 22 | ■■6 ■■8 | ・凹面にはナデの上に砂が付着。 ・端、側面をへう削り。 ・凸面を側面に平行叩き、同じ方向にナデ仕上げ。 ・余切痕不明。 ・端部の一边にワラ状圧痕有り。 ・凹面の側面と端部の二辺に凹面の端縁をヘラで彫取り。 | * | * | * | 22-(+) |
| 70-609 | 280 | 254 | 28 | ■■7 ■■7 | ・凹凸面には各目、ナデ後の砂が付着。 ・端、側面をへう削りし、凸面を叩き、ナデ仕上げ後、端、側面をナデ仕上げ。 ・凹面の端縁と凸面の両辺をヘラで彫取り。 ・余切痕不明。 | * | 生成け | 黒灰色 | 22-(+) |
| 70-610 | 366 | 248 | 23 | ■■7 ■■9 | ・端、側面をへう削りし、端縁のはば中央を基点に叩き、不定方向のナデ仕上げ。 ・端、側面をナデ仕上げ。 ・凸面には端縁有り。 ・余切痕不明。 ・端部の一边にワラ状圧痕有り。 | * | 須磨質 | 暗灰色 | 22-(+) |
| 71-611 | 329 | 220 | 25 | ■■3 ■■6 | ・端、側面をへう削りし、端縁の右角から左に筋状に叩き、ナデ仕上げ。 ・凹面には余切痕有り。 ・凹面の一辺にナデ跡有る。 ・端縁の一边にワラ状圧痕有り。 | * | 真實 | 暗灰色 | 22-(無) |
| 71-612 | 290 | 188 | 22 | ■■5 ■■11 | ・端、側面をへう削りし、端縁の右角から左に筋状に叩き、ほみ出した胎土を側面に折り曲げナデ仕上げ。 ・凹面に余切痕有り。 ・端縁の一边にワラ状圧痕有り。 | * | 須磨質 | * | 30-(無) |

| 図版 番号 | 全 長 | 幅 | 厚さ | 布目/㎡ | 形態及び成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|----------|--------|-----|----|-----------|--|----------|-----|-----|--------|
| 71-613 | 378 | 241 | 23 | 面8 面11 | ・凸凹面全体は多目。ナメの上に砂が付着。 ・端、側縁をヘラ削り、凸面を削き、ナメ仕上げ。 ・凸面芯辺と凹面の側縁を削取りしている。 ・凹面に糸切痕有り。 ・端縁の一辺にフラット状压痕有り。 | 砂粒を含み、良。 | 生焼け | 墨灰色 | 30-(墨) |
| 71-614 | 364 | 233 | 35 | 面8 面5 | ・端、側縁をヘラ削りし、端縁の各角から左に崩状に叩き、ナメ仕上げ。 ・凹面には、糸切痕有り。 ・端縁2辺にフラット状压痕有り。 ・凹面のほぼ中央部に昔による「×」印を付ける。 | * | 瓦質 | * | 30-(墨) |

鬼瓦

鬼瓦

| 図版 番号 | 形態及び成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|----------|--|----------|-----|-----|---------------------|
| 67-595 | ・周縁の一部が残る破片。 ・側縁、裏面にかけて、ていねいなヘラ削り。 ・焼成高、52.5mm。 ・底文から裏面までの厚みは31.5mm。 | 砂粒を含み、良。 | 陶器質 | 墨灰色 | (墨) |
| 67-596 | ・周縁の一部が残る破片。 ・側縁、裏面にていねいなヘラ削り。 ・裏面には、その上側ナメ仕上げを施す。 ・焼成高、39.5mm。 ・底文から裏面までの厚みは30.5mm。 | * | * | 瓦白色 | 瓦文側に自然施がかかる。 [+] |
| 67-597 | ・周縁の左下底部を残す破片。 ・側縁から裏面にかけて、ていねいなヘラ削り。 ・下底部高、35.5mm。 ・底文から裏面までの厚みは33mm。 | * | * | 灰色 | [+] |
| 67-598 | ・目・縁と思われる部分から周縁にかけて一部残る破片。 ・焼成高、66mm。 ・底文から裏面までの厚み38.5mm。 | * | * | 墨灰色 | [+] |
| 67-599 | ・周縁の右下底部を残す破片。 ・下底部高、48.5mm。 ・底文から裏面までの厚み28mm。 | * | * | * | 全体的に自然施がかかる。 [+] |

焼き台

焼き台(1)

| 図版号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|---|---|--------|-----|-------------------|---------------------|
| 73-635 | (6.7) | 3.5 | (10.2) | ・体部は内側気味に立ち上り、腹部は丸く折める。 ・底盤は高台気味に立ち上る。 | ・内外面、ヨコナデ。 ・底部、糸切り。 | 砂質を含む。 | 低窓質 | 黒褐色 | 内外面に自然釉がかかる。 [+] |
| 73-636 | (16.0) | 5.75 | (13.2) | ・体部は直立気味に立ち上り、口縁部で外反する。 ・底盤、平底。 | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 73-637 | (13.5) | (5.7) | - | ・体部は直立気味に立ち上り、口縁部で外反する。 | ・口縁部から腹部はヨコナデ。 ・腹部は平行叩きが残る。 ・体部外面、平行叩き。 ・内面、ナデ仕上げ。 | * | * | 内、灰 色外、暗 灰色 | 外外面に自然釉がかかる。 [+] |
| 73-638 | (13.8) | (7.9) | - | * | ・内外面、ヨコナデ。 | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 73-639 | (13.0) | (8.45) | - | * | * | * | * | 内、灰 色外、青 灰色 | 外外面に自然釉がかかる。 [+] |
| 73-640 | (13.6) | (7.55) | - | * | * | * | * | 暗灰色 | [+] |
| 73-641 | (15.0) | (10.7) | - | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・体部外面、平行叩き。 ・内面、ヨコナデ。 | * | * | 灰色 | [+] |
| 73-642 | (11.4) | (8.95) | (9.9) | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・体部外面、腹位のナデ仕上げ。 ・内面、胎土網の巻き上げ痕有り。 | * | * | * | 外外面に自然釉がかかる。 [+] |
| 73-643 | (15.5) | (7.25) | - | * | ・内外面、ヨコナデ。 | * | * | 灰白色 | [+] |

| 図版番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形 種 の 特 徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色 調 | 備考 |
|--------|--------|--------|--------|------------------------------------|--|--------|-----|-----|-----------------|
| 73-644 | (18.5) | (6.8) | - | ・体部は直立気味に立ち上り、口縁部は平緩面を持ち、上下につまみ出す。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・体部外曲、腹段のナデ仕上げ。 ・体部内面、ナデ仕上げ。 | 砂利を含む。 | 素窯質 | 灰色 | 外表面に自然施がかかる。[+] |
| 73-645 | (16.0) | (6.7) | - | ・体部は内傾気味に立ち上り、口縁部で外反する。 | ・口縁部から腹部は、内外ともヨコナデ。 ・体部外曲、腹段のナデ仕上げ。 ・体部内面、ナデ仕上げ。 | - | 素窯質 | [+] | |
| 73-646 | (13.5) | (4.4) | - | ・体部は内傾気味に立ち上り、底盤的に底盤に接く。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。 | - | 素窯質 | 黑色 | 外表面に自然施がかかる。[+] |
| 73-647 | (12.4) | (6.9) | - | * | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・内腹、胎土筋の巻き上げ痕有り。 | - | - | * | 外表面に自然施がかかる。[+] |
| 73-648 | (18.4) | 8.5 | (16.1) | ・体部は直立気味に立ち上り、口縁部で外反する。 | ・口縁部から腹部は内外ともヨコナデ。 ・体部内外面、ヨコナデ。 ・底部、系切り。 | - | 素窯質 | 素窯色 | [+] |
| 73-649 | (13.6) | 7.6 | (15.0) | * | * | - | 生焼け | 素窯色 | [+] |
| 73-650 | - | (10.4) | (10.5) | ・体部は直立気味に立ち上る。 | ・体部内外面、ヨコナデ。 ・底部、系切り。 | - | 素窯質 | 黑色 | 外表面に底盤施がかかる。[+] |
| 73-651 | - | (7.4) | (19.8) | ・体部は内傾気味に立ち上る。 | ・体部内外面、ナデ。 ・体部内外面、胎土筋の巻き上げ痕有り。 | - | - | 灰色 | 外表面に自然施がかかる。[+] |
| 73-652 | - | (7.45) | (14.0) | * | * | - | - | * | [+] |

焼き台(3)

| 器 皿 番 号 | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 形 態 の 特 徴 | 成 形 技 法 の 特 徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色 調 | 備 考 |
|------------------|--------|--------|--------|-----------------------------|--|--------|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 73-653 | - | (4.1) | (6.0) | ・体部は内側気味に立ち上る。 | ・体部内外面、ヨコナデ。 ・底部、余切り。 | 砂粒を含む。 | 低温窯 内、暗 灰色 外、黑 灰色 | 外表面に白 斑點がか かる。 (*) | |
| 73-654 | - | (6.2) | (24.5) | ・体部は直立気味に立ち上る。 | ・体部内面、ナデ仕上げ。 ・体部外面、平行叩き織一 巻ナデ仕上げ。 | * | * | 灰褐色 | (*) |
| 73-655 | - | (6.7) | (18.5) | ・体部は内傾して立ち上る。 | ・体部内面、ナデ仕上げ。 ・体部外面、施位のヘラ削 り。 | * | * | * | 外表面に白 斑點がか かる。 (*) |
| 73-656 | - | (7.9) | (19.7) | * | ・体部内面、ナデ仕上げ。 ・体部外面、平行叩き。 ・体部、黏土紐の巻き上げ 痕有り。 | * | * | 暗灰色 | (*) |
| 73-657 | - | (6.2) | (16.0) | * | ・体部内面、ナデ仕上げ。 ・体部外面、施位のヘラ削 り。 | * | * | * | (*) |
| 73-658 | - | (7.9) | (17.6) | ・体部は直立気味に立ち上る。 | ・体部内外面、ヨコナデ。 ・底部、余切り。 | * | * | * | (*) |
| 74-673 | (20.0) | 8.7 | (12.6) | ・体部は内側気味に立ち上り、口縁部で 外傾する。 | * | * | * | * | [復原] |
| 74-674 | (10.4) | 8.7 | (14.2) | * | * | * | * | * | 外表面に白 斑點がか かる。 (*) |
| 74-675 | (16.0) | 13.0 | (24.4) | ・体部は内傾して立ち上り、口縁部で外 傾する。 | ・口縁部から底部はヨコナ デ。 ・体部内面、ヨコナデ。 ・体部外面、平行叩き。 ・底部、余切り。 | * | * | 灰褐色 | (*) |

| 器皿番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------|-------|--------|----|-------------------------|---|-----|-----|-----------------|-----------------|
| 75-694 (12.4) | 6.3 | (10.9) | | ・体部は直立倒錐に立ち上る。 | ・体部内外面、ヨコナギ。 ・底部を含む。 | 灰褐色 | 灰褐色 | 灰色 | (表記) |
| 76-695 (13.4) | 6.8 | (16.2) | | ・体部は内傾して立ち上り、口縁部で外反する。 | * | * | * | 暗灰色 | (+) |
| 76-715 (14.8) | (6.8) | (14.8) | | ・体部は直立倒錐に立ち上り、口縁部で外反する。 | ・体部内外面、ヨコナギ。 ・底部、糸切り。 ・体部中央に穿孔有り。 | * | * | 暗灰色 | 内外面に白濁筋がかかる。(+) |
| 76-716 (14.6) | (6.5) | (14.8) | | ・体部は内傾倒錐に立ち上り、口縁部で外反する。 | ・体部内外面、ヨコナギ。 ・底部、糸切り。 | * | * | * | (+) |
| 77-720 (12.8) | 6.0 | (13.2) | | ・体部は直立して立ち上り、口縁部で外反する。 | ・体部内外面、ヨコナギ。 | * | 生成け | 暗灰色 | (+) |
| 77-729 (13.4) | (6.5) | (13.6) | | * | * | * | 灰褐色 | 灰色 | (+) |
| 78-761 (14.7) | 6.3 | (15.9) | | ・体部は直立して立ち上る。 | * | * | * | 暗灰色 | 内外面に白濁筋がかかる。(+) |
| 78-762 (14.6) | 8.1 | (19.2) | | ・体部は直立して立ち上り、口縁部で外反する。 | ・体部内外面、ヨコナギ。 ・底部、糸切り。 | * | * | 灰色 | 外外面に白濁筋がかかる。(+) |
| 78-768 (14.4) | 6.3 | 16.5 | | * | * | * | * | 内外面に白濁筋がかかる。(+) | |

| 西番号 | 口径 | 脚高 | 底径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 粘土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|--------|-----|--------|------------------------|---|--------|-----|-----|------|
| 78-789 | (9.6) | 6.0 | 14.0 | ・体部は内側して立ち上り、口唇部で外反する。 | ・体部内外面、ヨコナデ。 ・平底、余切り。 | 砂粒を含む。 | 通常質 | 暗灰色 | [会話] |
| 78-770 | (10.6) | 7.0 | (13.4) | * | ・体部内外面、ヨコナデ。 ・底部、余切り。 ・体部中央に朱守孔模が有る | * | * | * | [+] |

土器・その他

土器・その他(1)

| 西番号 | 長さ | 脚径 | 形態の特徴 | 成形技法の特徴 | 粘土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|--------|------|-------|---------------|--|--------|-----|-------------|--------|
| 72-615 | 5.9 | 11.9 | ・中心部に孔をあけ、管状。 | ・管状のものに粘土を巻き付ける。 ・外縁、平行叩き。 ・外縁叩き後、ヘラで「×」印。 ・内面開窓、ナギ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 通常質 | 灰色 | 30-[灰] |
| 72-616 | 6.1 | 11.7 | * | * | * | * | * | 30-[+] |
| 72-617 | 5.6 | 11.3 | * | * | * | * | * | 30-[+] |
| 72-618 | 10.5 | (5.3) | * | ・管状のものに粘土を巻き付ける。 ・外縁、ナギ仕上げ。 ・内面開窓、ナギ仕上げ。 | * | * | * | 22-[+] |
| 72-619 | 10.8 | 5.6 | * | * | * | * | * | [会話] |
| 72-620 | 12.2 | 8.0 | * | ・管状のものに粘土を巻き付ける。 ・外縁平行叩き後、ナギ仕上げ。 ・内面開窓、ナギ仕上げ。 | * | 暗灰色 | 外縁に自然剥がかかる。 | 22-[+] |

| 図版番号 | 長さ | 幅 | 形態の特徴 | 成形挙法の特徴 | 粘土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---------------|-----|------|-------------------------|--|--------|-----|-----|----------------|
| 72-621 | 9.2 | 5.9 | ・中心部に孔をあけ、管状。 | ・棒状のものに粘土を巻きつける。 ・外側、ナゲ仕上げ。 ・内面面端、ナゲ仕上げ。 | 砂粒を含む。 | 直立 | 灰白色 | (直) |
| 72-622 | 7.7 | 3.5 | * | * | * | 直立 | 灰白色 | 外側に自然色がかかる。(直) |
| 72-623 | 5.2 | 2.3 | * | ・棒状のものに粘土を巻きつける。 ・外側、ナゲ仕上げ。 | * | 生焼け | 黒灰色 | (直) |
| 72-624 | 5.6 | 2.25 | * | ・棒状のものに粘土を巻きつける。 ・外側、ナゲ仕上げ。 | * | * | 黄褐色 | (直) |
| 72-625 (7.75) | 2.3 | | ・上端に穿孔有り。 | ・断面、四角形にナゲ仕上げ。 | * | 直立 | 暗灰色 | 22-(直) |
| 72-626 (6.0) | 3.2 | | ・断面、円形。 ・下方を若干ふくらます。 | ・ナゲ仕上げ。 | * | * | * | (直) |
| 72-630 (4.4) | 3.7 | | * | * | * | * | * | (直) |

下部

下部

| 図版番号 | 長さ | 幅 | 高さ | 形態の特徴 | 材質 | 水取り | 備考 |
|--------|------|-----|-----|---|----|-----|--------|
| 72-633 | 30.8 | 8.3 | 2.0 | ・自は長円形。 ・周辺は上側あり、1側欠損。 ・断面は側で切り出し窓有り。 ・断面部は欠損。 | 板目 | | 22-(直) |

魚住古窯跡群

(本文編)

昭和58年3月31日発行

編集発行 兵庫県教育委員会
印 刷 三ツ輪印刷工業株式会社

兵庫県文化財調査報告第19冊

魚住古窯跡群

(図版編)

1983. 3

兵庫県教育委員会



調査区航空写真



38・29号窯全景

例　　言

1. 本書は、兵庫県明姫幹線建設事務所から事業委託を受け、兵庫県教育委員会が調査主体となり実施した明石市魚住町中尾字向ノ原字中原、国道250号線バイパス明姫幹線道予定地内に所在した、古墳跡6基の発掘調査報告書〔図版編〕である。
2. 図版のうち、遺構実測図に関するものは縮尺不統一であるが、遺物実測図は、特殊遺物・瓦を除いて $\frac{1}{2}$ に統一してある。
3. 遺物写真は、おおむね以下の縮尺で統一してある。

| | | | |
|------|---------------------------------|------|---------------|
| 小　　里 | $\frac{1}{2}$ | 亞 | $\frac{1}{2}$ |
| 塙 | $\frac{1}{2}$ | 瓦 | $\frac{1}{2}$ |
| 鉢 | $\frac{1}{2}$ | 特殊遺物 | $\frac{1}{2}$ |
| 更 | $\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{4}$ | 帶鐵写真 | $\frac{1}{2}$ |

4. 遺構実測図のうち~~斜線~~で表示してある部分は地山（黄灰色シルト）であり、~~■~~で表示してある部分は赤色酸化層、~~■~~で表示してある部分は灰層をあらわす。
5. 遺構実測図で用いてある標高は、明姫幹線道の工事用 B.M. からの海拔絶対高 (T.P.) である。
6. 遺構実測図等の方位は、磁北である。

圖 版 目 次

卷頭圖版 1 調查區航空写真

卷頭圖版 2 38・29号面全景

- 図版 1 魚住古窯跡群分布図
- 図版 2 魚住古窯跡群 等高線図
- 図版 3 遺構全体図 (調査前)
- 図版 4 遺構全体図 (調査後)
- 図版 5 遺構実測図 (38号・29号)
- 図版 6 遺構実測図 (33号)
- 図版 7 遺構実測図 (32号)
- 図版 8 遺構実測図 (22号)
- 図版 9 遺構実測図 (30号)
- 図版 10 遺物実測図 (38号)
- 図版 11 遺物実測図 (38号)
- 図版 12 遺物実測図 (29号)
- 図版 13 遺物実測図 (29号)
- 図版 14 遺物実測図 (29号)
- 図版 15 遺物実測図 (29号)
- 図版 16 遺物実測図 (29号)
- 図版 17 遺物実測図 (29号)
- 図版 18 遺物実測図 (29号)
- 図版 19 遺物実測図 (33号)
- 図版 20 遺物実測図 (32号)
- 図版 21 遺物実測図 (22号)
- 図版 22 遺物実測図 (22号)
- 図版 23 遺物実測図 (22号)
- 図版 24 遺物実測図 (22号)
- 図版 25 遺物実測図 (22号)
- 図版 26 遺物実測図 (22号)
- 図版 27 遺物実測図 (22号)

- 图版 28 遗物实测图 (22号)
图版 29 遗物实测图 (22号)
图版 30 遗物实测图 (22号)
图版 31 遗物实测图 (22号)
图版 32 遗物实测图 (22号)
图版 33 遗物实测图 (22号)
图版 34 遗物实测图 (22号)
图版 35 遗物实测图 (22号)
图版 36 遗物实测图 (22号)
图版 37 遗物实测图 (22号)
图版 38 遗物实测图 (22号)
图版 39 遗物实测图 (22号)
图版 40 遗物实测图 (30号)
图版 41 遗物实测图 (30号)
图版 42 遗物实测图 (30号)
图版 43 遗物实测图 (30号)
图版 44 遗物实测图 (30号)
图版 45 遗物实测图 (30号)
图版 46 遗物实测图 (30号)
图版 47 遗物实测图 (30号)
图版 48 遗物实测图 (30号)
图版 49 遗物实测图 (30号)
图版 50 遗物实测图 (30号)
图版 51 遗物实测图 (30号)
图版 52 遗物实测图 (30号)
图版 53 遗物实测图 (30号)
图版 54 遗物实测图 (30号)
图版 55 遗物实测图 (30号)
图版 56 遗物实测图 (30号)
图版 57 遗物实测图 (30号)
图版 58 遗物实测图 (30号)
图版 59 遗物实测图 (30号)

- 図版 60 遺物実測図 (30号)
- 図版 61 遺物実測図 (30号)
- 図版 62 遺物実測図 (30号)
- 図版 63 遺物実測図 (30号)
- 図版 64 遺物実測図 (30号)
- 図版 65 遺物実測図 (瓦1)
- 図版 66 遺物実測図 (瓦2)
- 図版 67 遺物実測図 (瓦3)
- 図版 68 遺物実測図 (瓦4)
- 図版 69 遺物実測図 (瓦5)
- 図版 70 遺物実測図 (瓦6)
- 図版 71 遺物実測図 (瓦7)
- 図版 72 遺物実測図 (土舎・その他)
- 図版 73 遺物実測図 (焼き台)
- 図版 74 遺物実測図 (1号・2号)
- 図版 75 遺物実測図 (3号・4号・5号)
- 図版 76 遺物実測図 (6号・7号・8号)
- 図版 77 遺物実測図 (10号・11号)
- 図版 78 遺物実測図 (12号・13号・14号・15号)
- 図版 79 遺物実測図 (17号・18号・19号・20号)
- 図版 80 遺物実測図 (21号・23号・24号・27号・39号)
- 図版 81 調査区遠景 (上) 調査区(重池から)
(下) 調査前 西側斜面(東から)
- 図版 82 調査区遠景 (上) 調査前 東側斜面(西から)
(下) 調査後 西側斜面(東から)
- 図版 83 遺構写真 (上) 38号・29号窓全景(西から)
(下) 29号窓近景(西から)
- 図版 84 遺構写真 (上) 32号窓全景(東から)
(下) 33号窓全景(東から)
- 図版 85 遺構写真 (上) 22号窓全景(東から)
(下) 22号窓全景(東から)
- 図版 86 遺構写真 (上) 30号窓全景(東から)

(下) 30号断近景(東から)

- 図版 87 遺物写真 (38号)
図版 88 遺物写真 (38号・29号・33号)
図版 89 遺物写真 (38号)
図版 90 遺物写真 (38号)
図版 91 遺物写真 (29号)
図版 92 遺物写真 (29号)
図版 93 遺物写真 (29号)
図版 94 遺物写真 (29号)
図版 95 遺物写真 (29号)
図版 96 遺物写真 (32号・33号)
図版 97 遺物写真 (32号・33号)
図版 98 遺物写真 (22号)
図版 99 遺物写真 (22号)
図版 100 遺物写真 (22号)
図版 101 遺物写真 (22号)
図版 102 遺物写真 (22号)
図版 103 遺物写真 (22号)
図版 104 遺物写真 (22号)
図版 105 遺物写真 (22号)
図版 106 遺物写真 (22号)
図版 107 遺物写真 (30号)
図版 108 遺物写真 (30号)
図版 109 遺物写真 (30号)
図版 110 遺物写真 (30号)
図版 111 遺物写真 (30号)
図版 112 遺物写真 (30号)
図版 113 遺物写真 (30号)
図版 114 遺物写真 (30号)
図版 115 遺物写真 (30号)
図版 116 遺物写真 (30号)
図版 117 遺物写真 (30号)

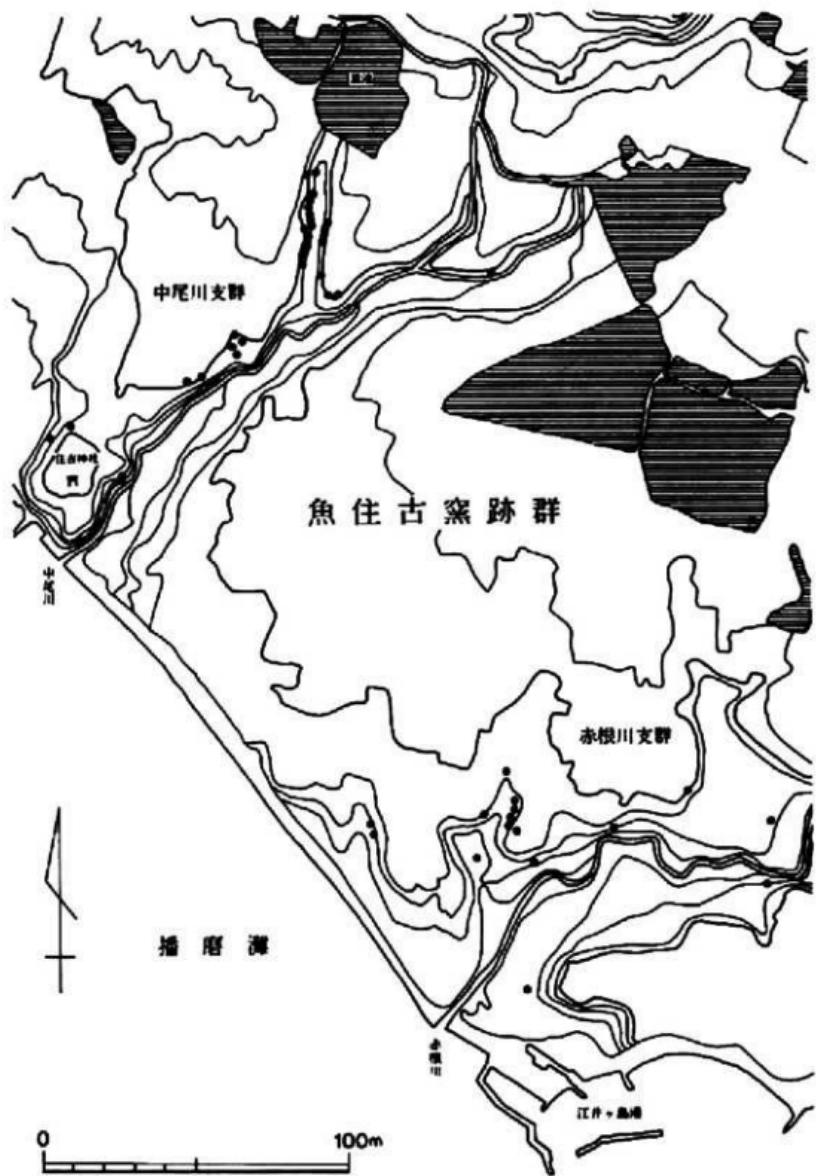
- 図版 118 遺物写真 (30号)
- 図版 119 遺物写真 (元1)
- 図版 120 遺物写真 (元2)
- 図版 121 遺物写真 (元3)
- 図版 122 遺物写真 (元4)
- 図版 123 遺物写真 (元5)
- 図版 124 遺物写真 (元6)
- 図版 125 遺物写真 (元7)
- 図版 126 遺物写真 (元8)
- 図版 127 遺物写真 (元9)
- 図版 128 遺物写真 (元10)
- 図版 129 遺物写真 (元11)
- 図版 130 遺物写真 (洗き台)
- 図版 131 遺物写真 左 358 (上から頸部・胸部・底部)
右 514 (◇ ◇)
- 図版 132 遺物写真 左 274 (◇ ◇)
右 544 (◇ ◇)
- 図版 133 遺物写真 (壓押印文)
- 図版 134 遺物写真 (壓押印文・土器)
- 図版 135 遺物写真 (特殊遺物・10号・14号)
- 図版 136 遺物写真 (1号・2号)
- 図版 137 遺物写真 (3号・4号・5号)
- 図版 138 遺物写真 (6号・7号・8号)
- 図版 139 遺物写真 (10号・11号)
- 図版 140 遺物写真 (12号・13号)
- 図版 141 遺物写真 (14号・15号・16号)
- 図版 142 遺物写真 (18号・19号・20号・21号・23号)
- 図版 143 遺物写真 (24号・27号・39号)
- 図版 144 遺物写真 (海あがり鉢)

図 版

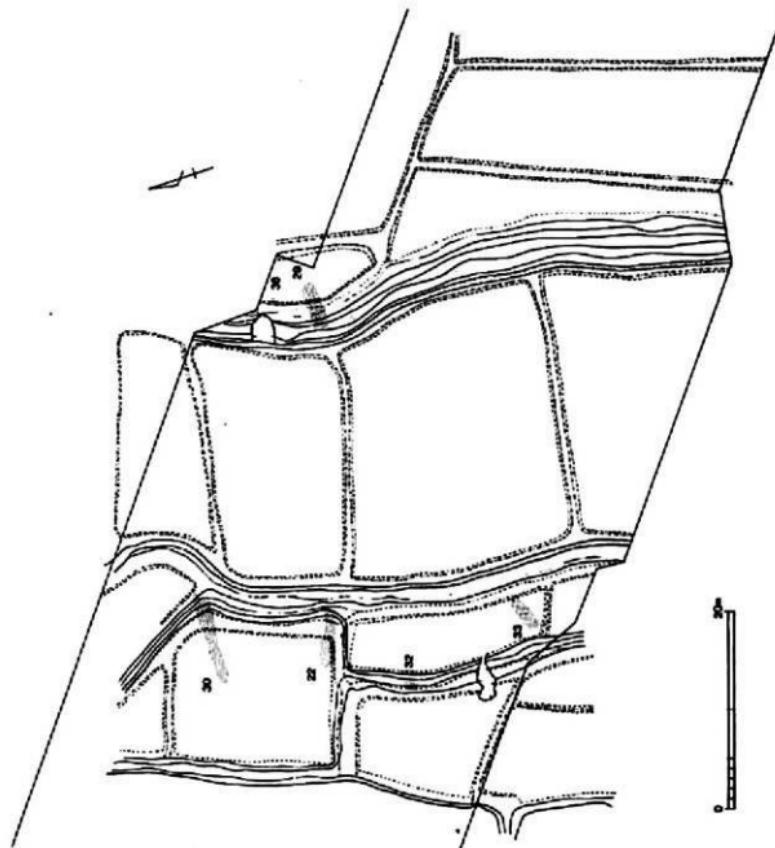
図版一 魚住古窯跡群分布図

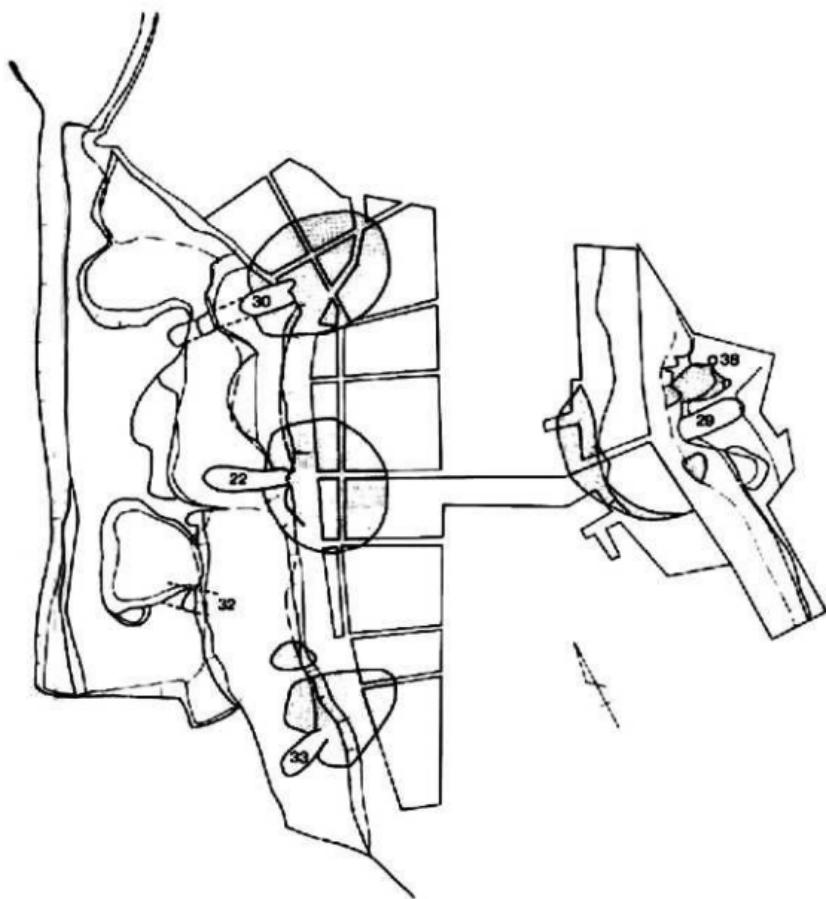


図版二 魚住古窯跡群 等高線図



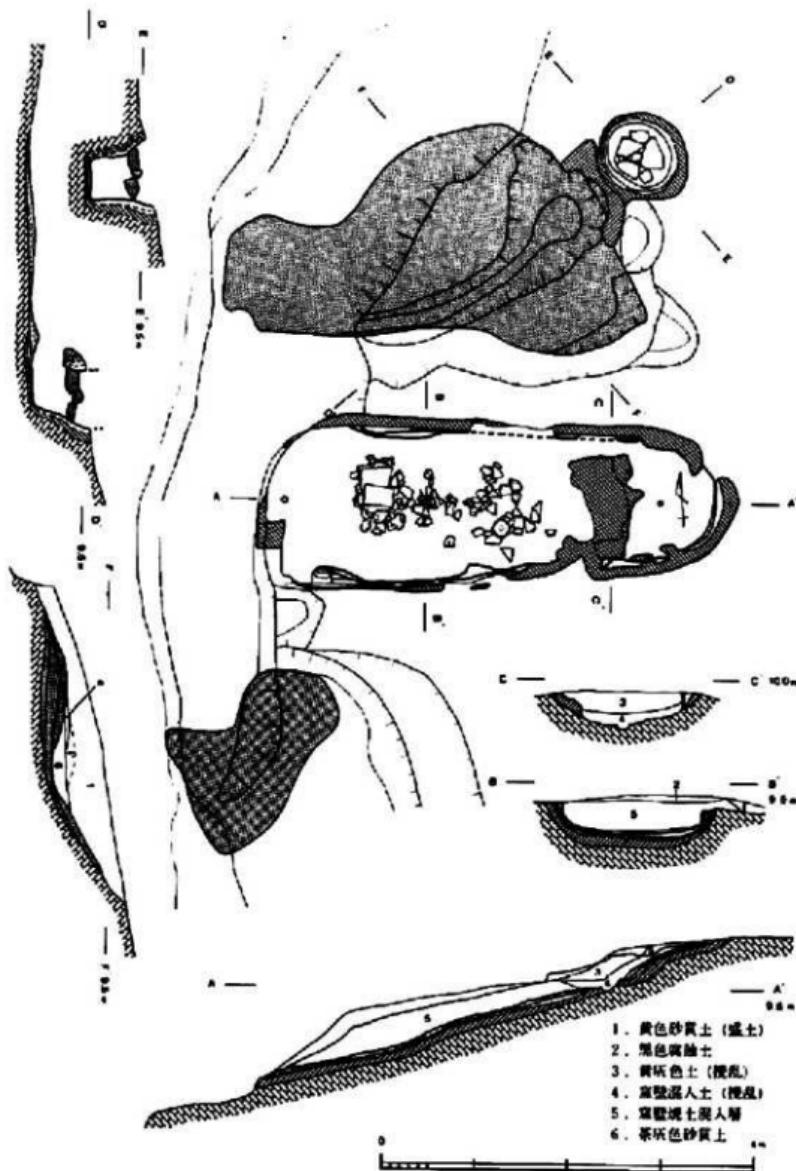
図四
新穂小社圖(西側面)



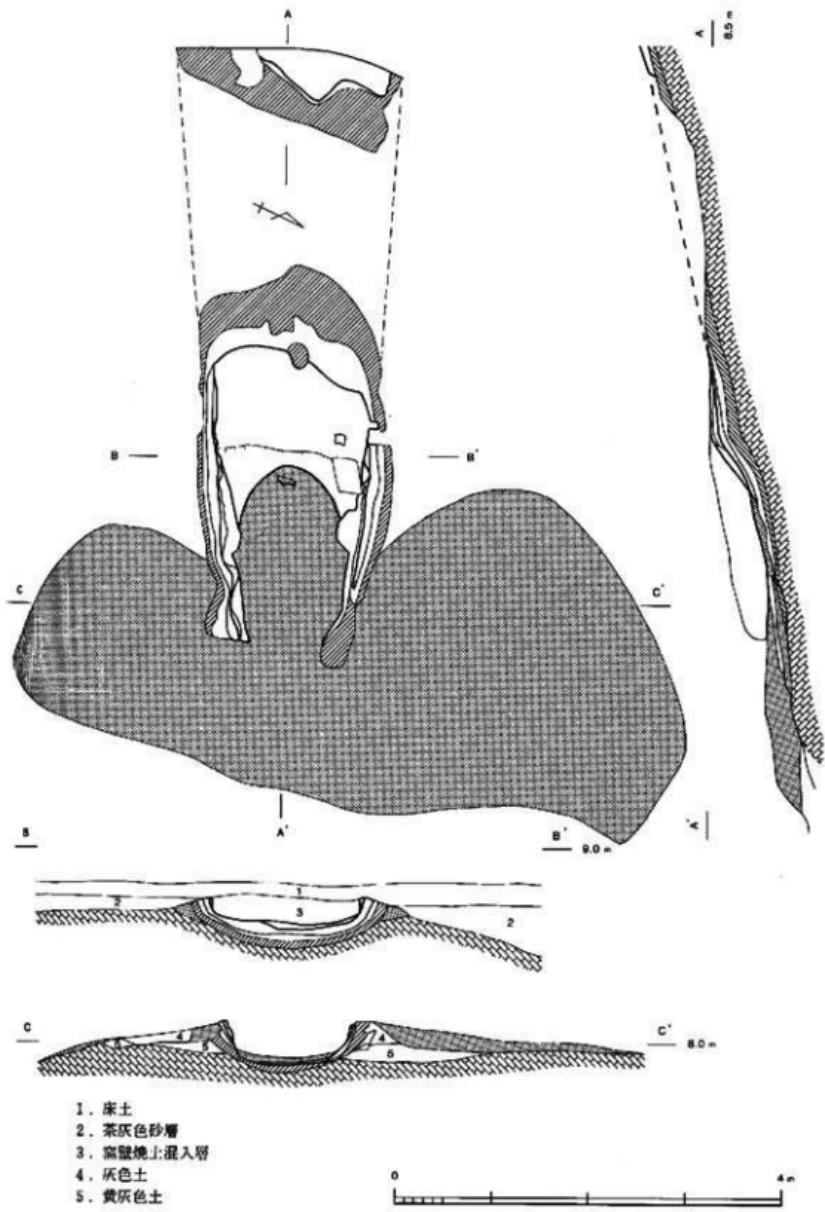


0 20m

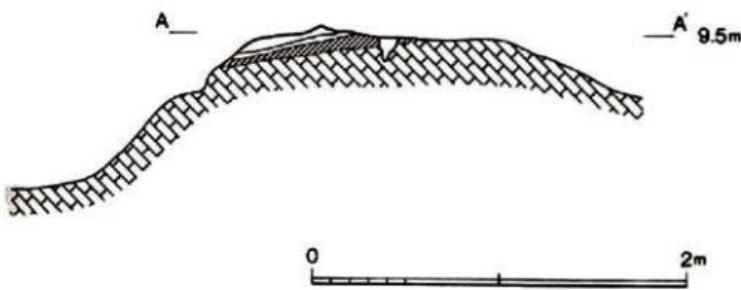
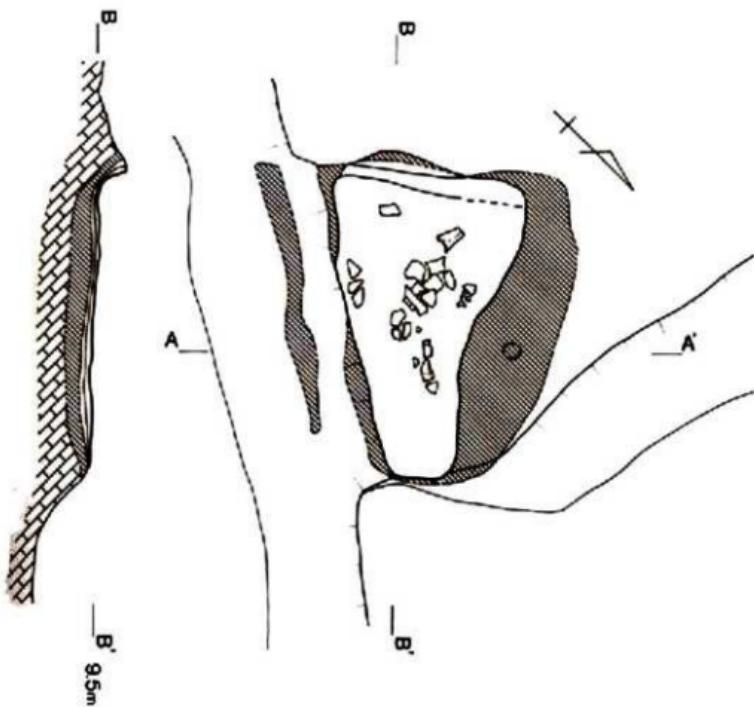
図版五 遺構実測図（38号・29号）

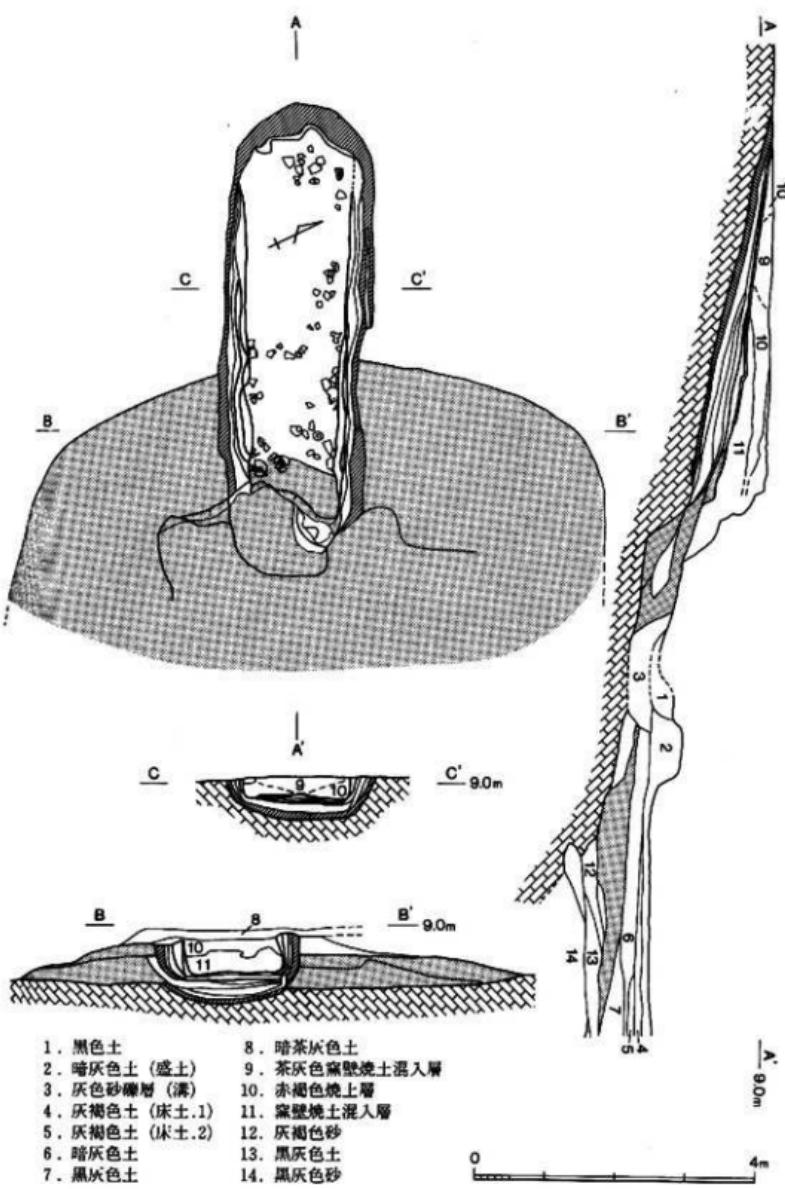


図版六 遺構実測図（33号）

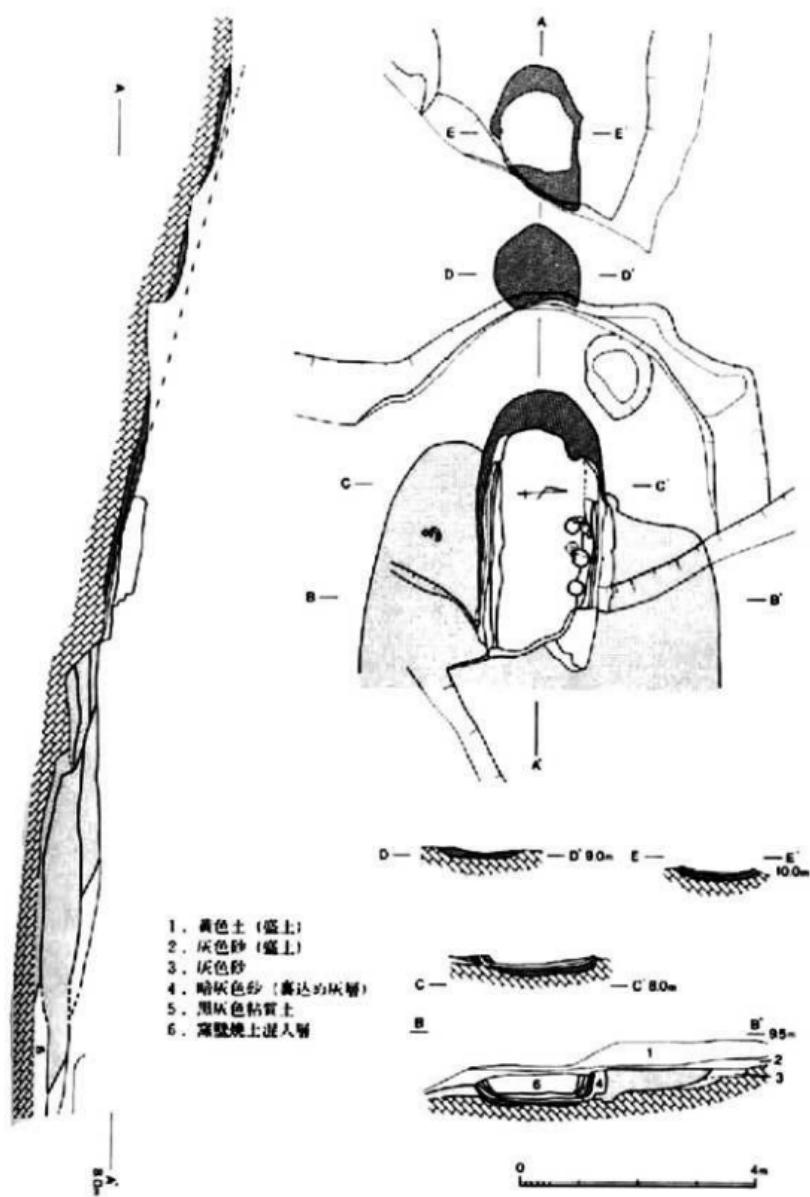


図版七 遺構実測図（32号）

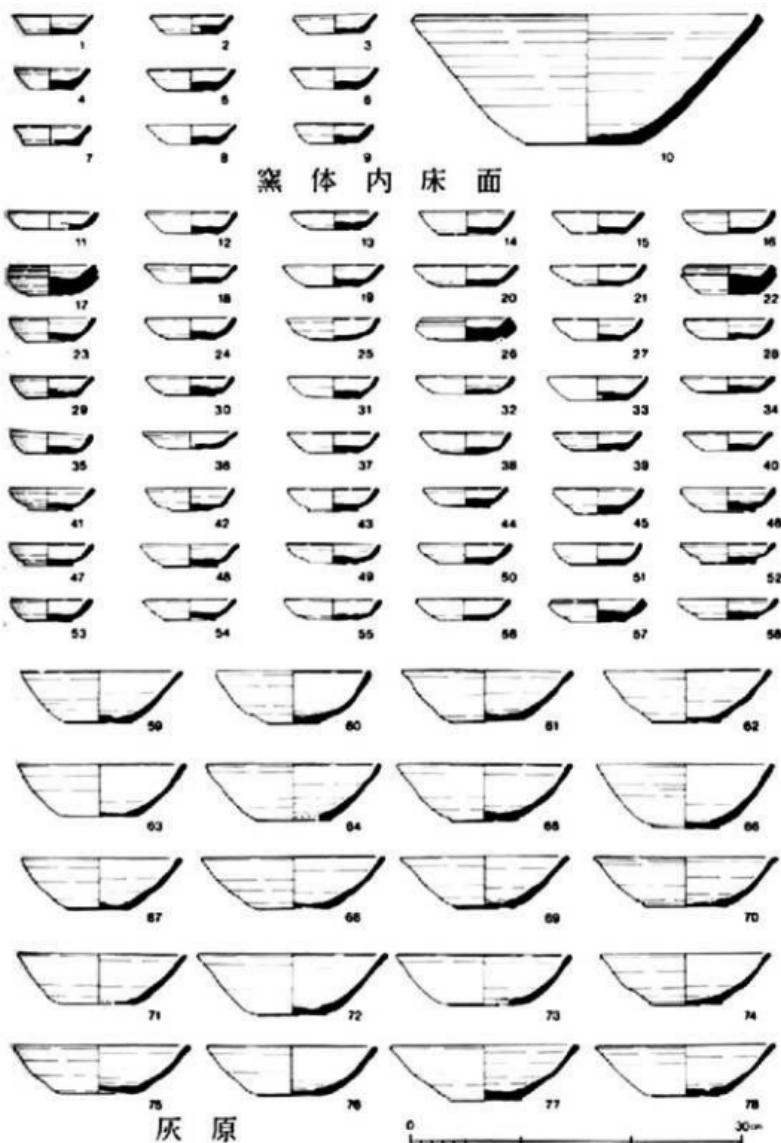




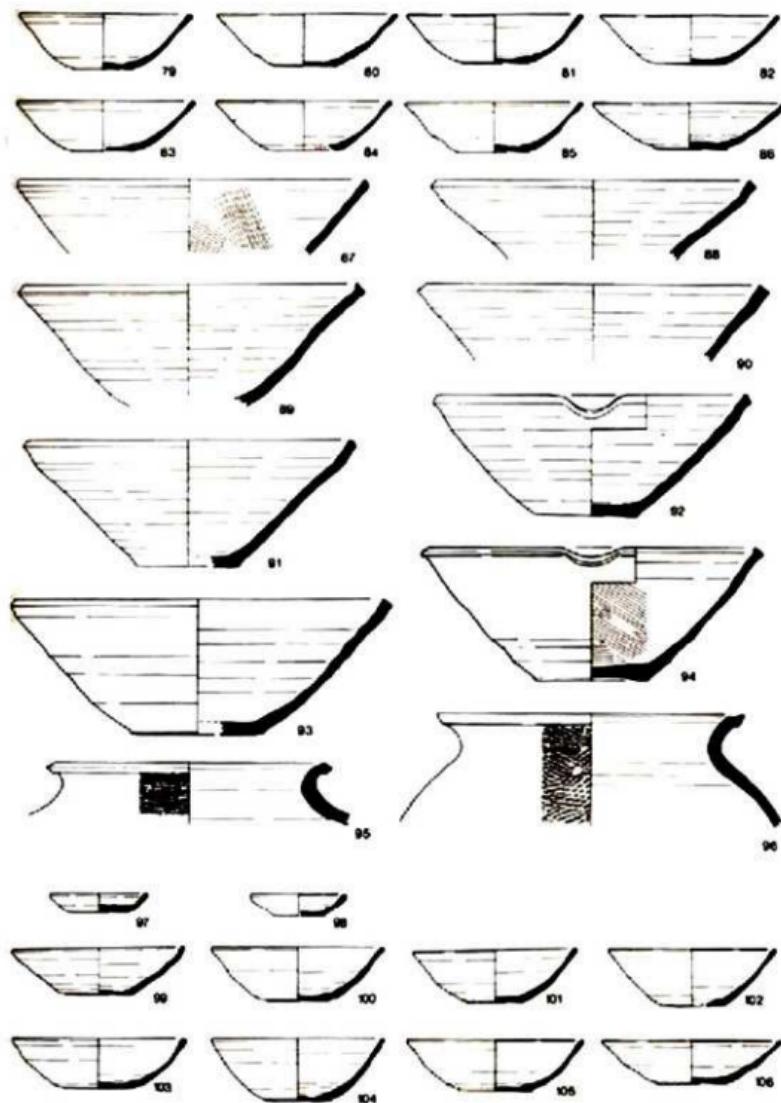
図版九 遺構実測図（30号）



図版一〇 遺物実測図 (38号)



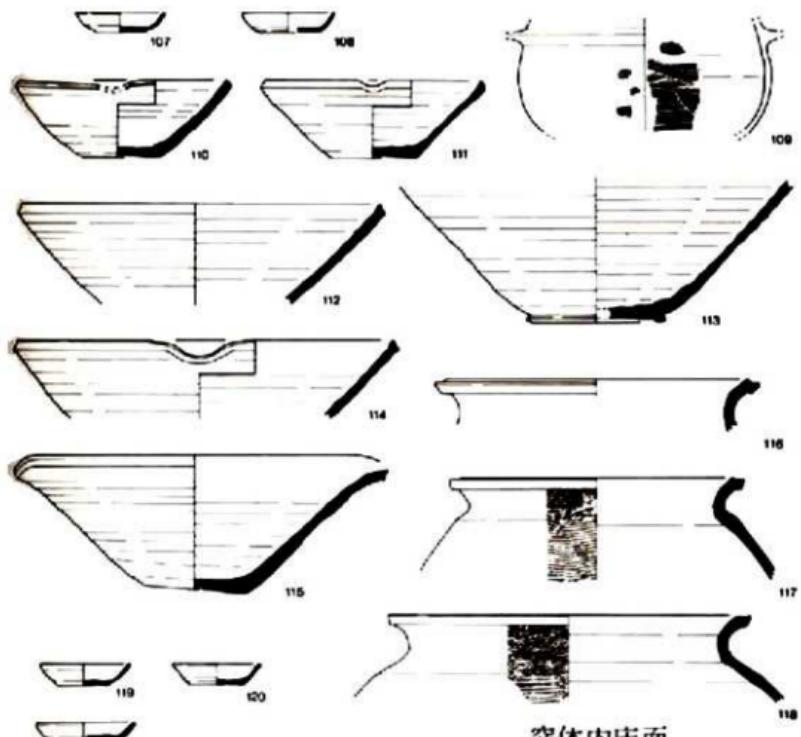
図版一 遺物実測図 (38号)



灰原

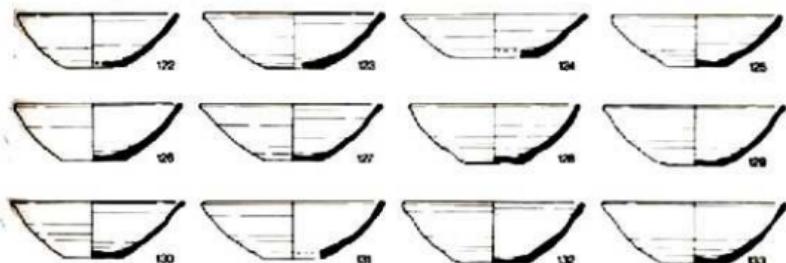
0 30mm

図版一二 遺物実測図 (29号)



窯体内床面

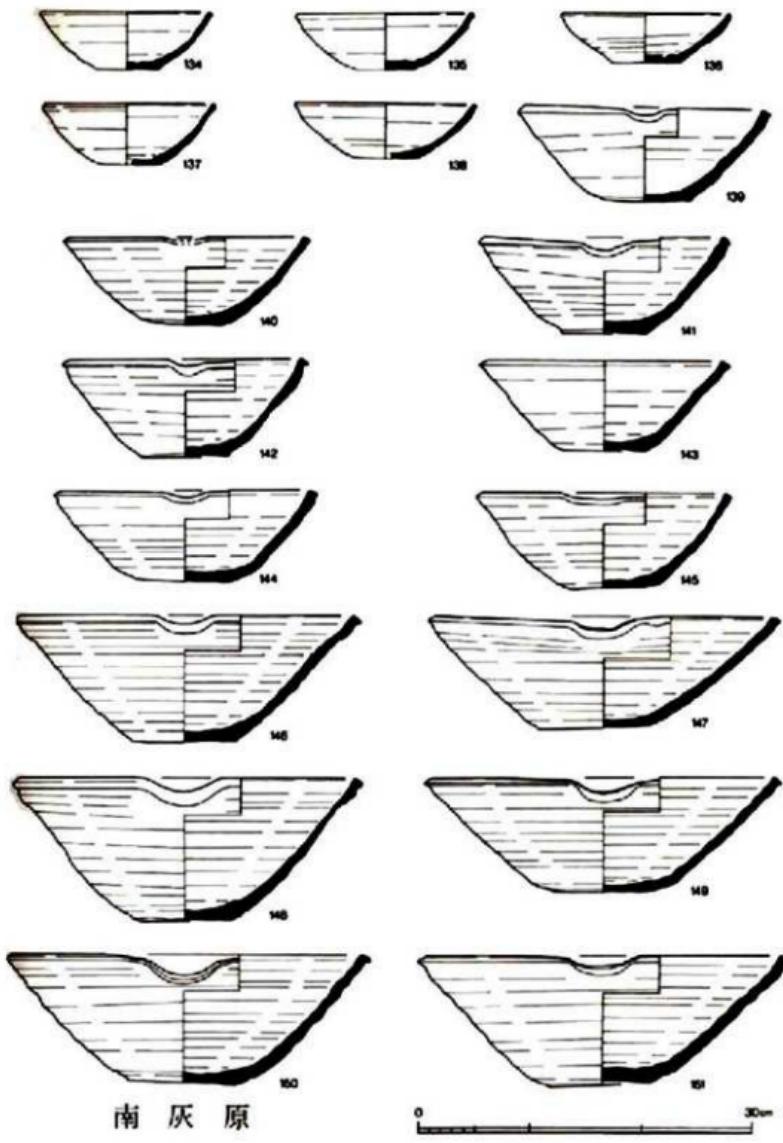
西 灰 原



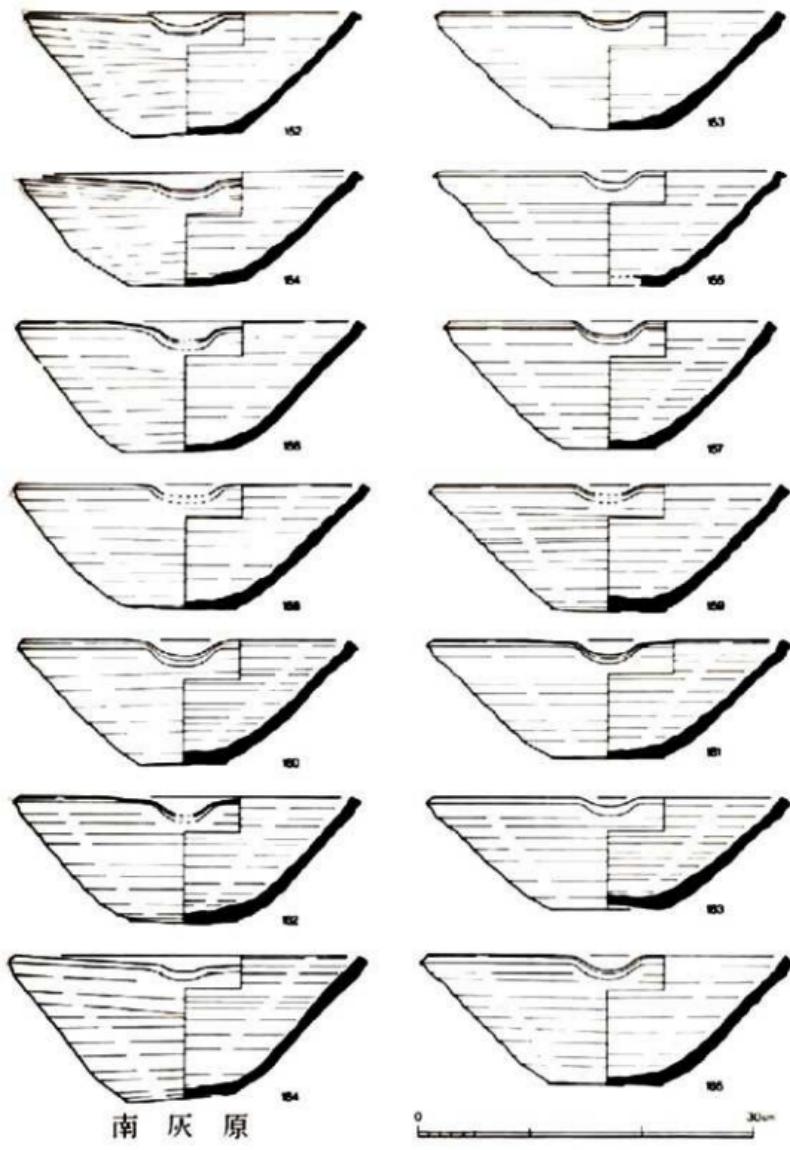
南 灰 原



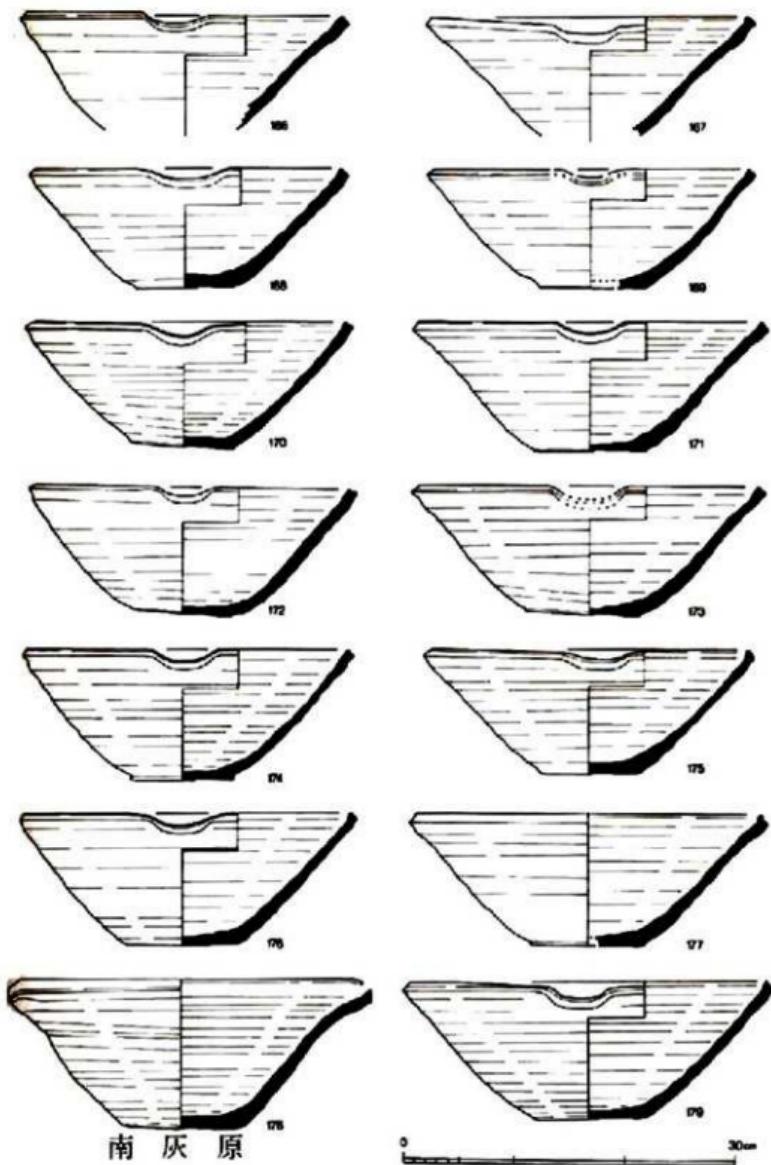
図版一三 遺物実測図（29号）



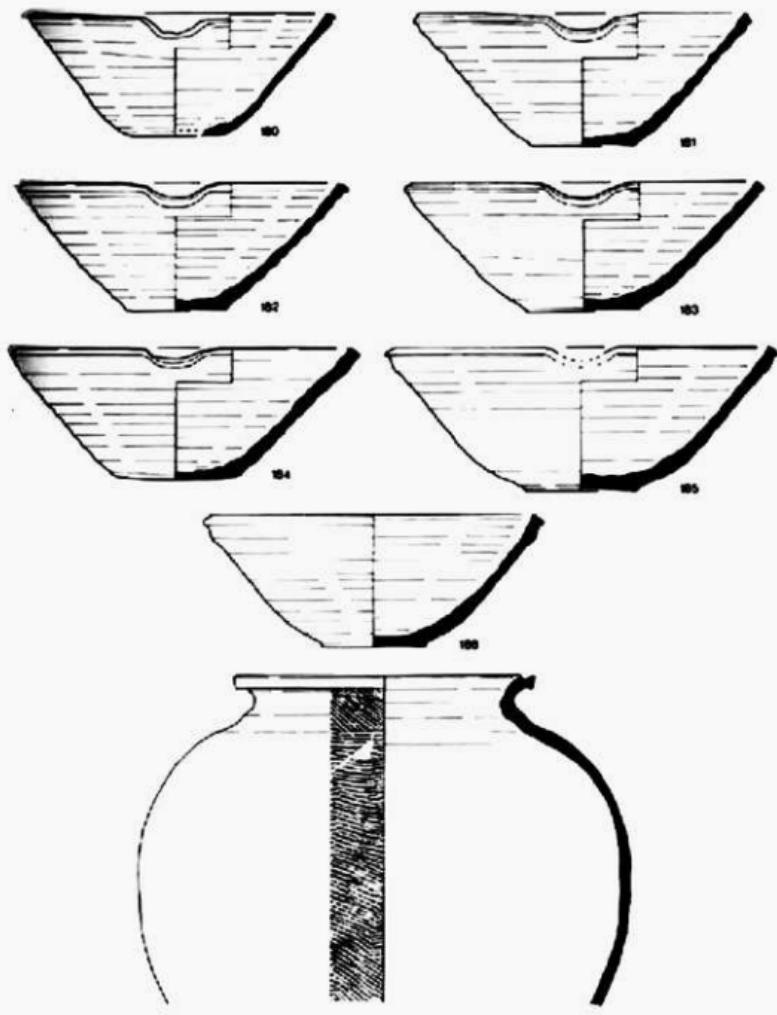
図版一四 遺物実測図（29号）



図版一五 遺物実測図（29号）



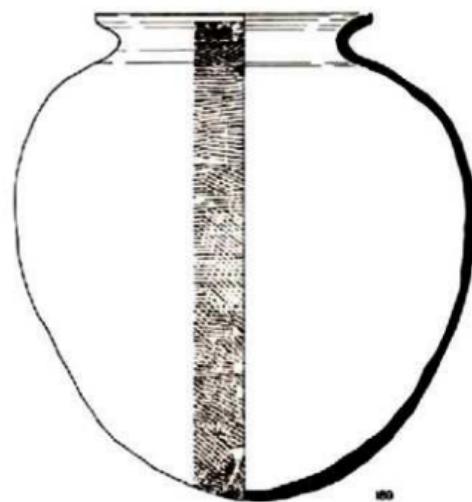
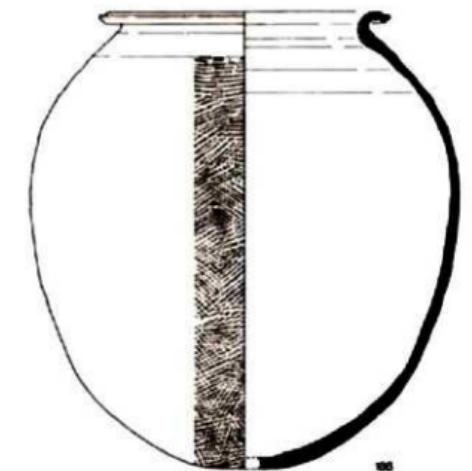
図版一六 遺物実測図（29号）



南灰原

0 30cm

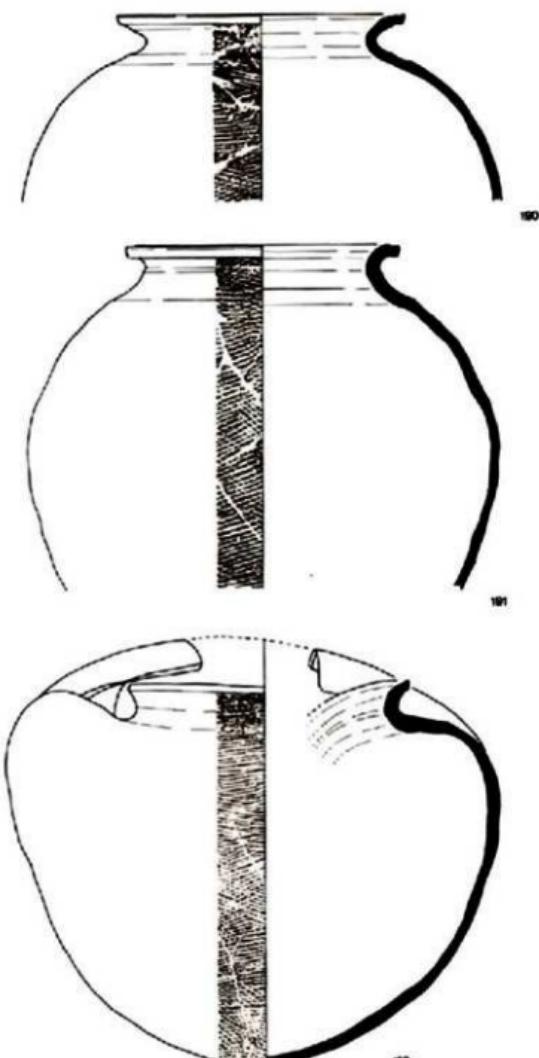
図版一七 遺物実測図（29号）



南灰原



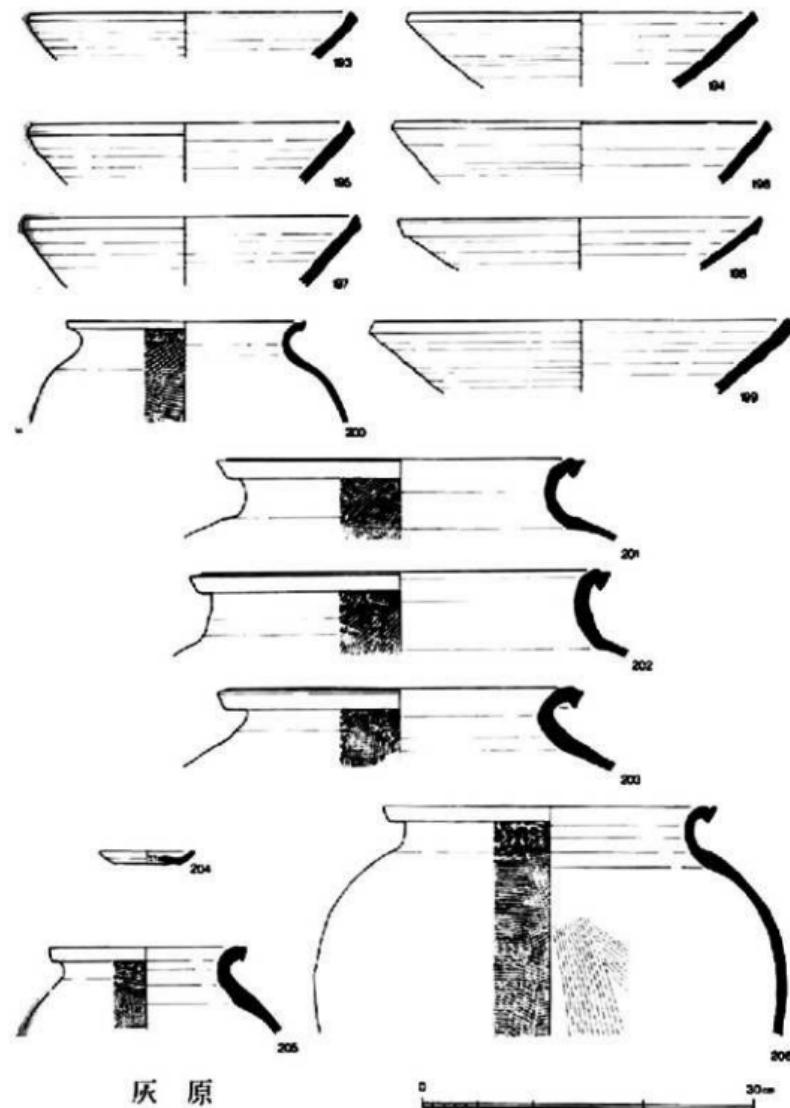
図版一八 遺物実測図（29号）



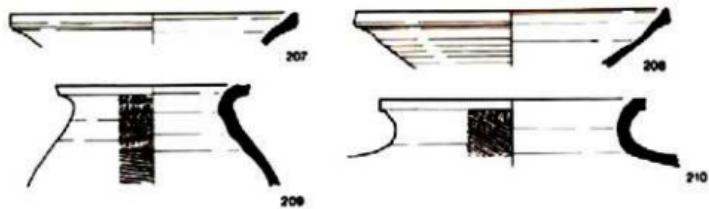
南 原

0 30cm

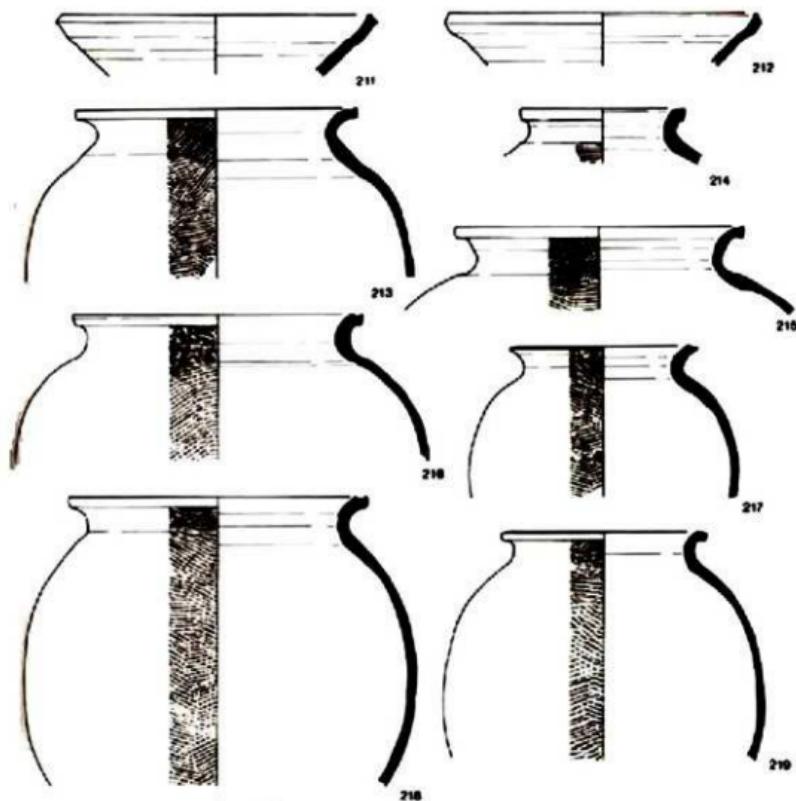
図版一九 遺物実測図（33号）



灰原



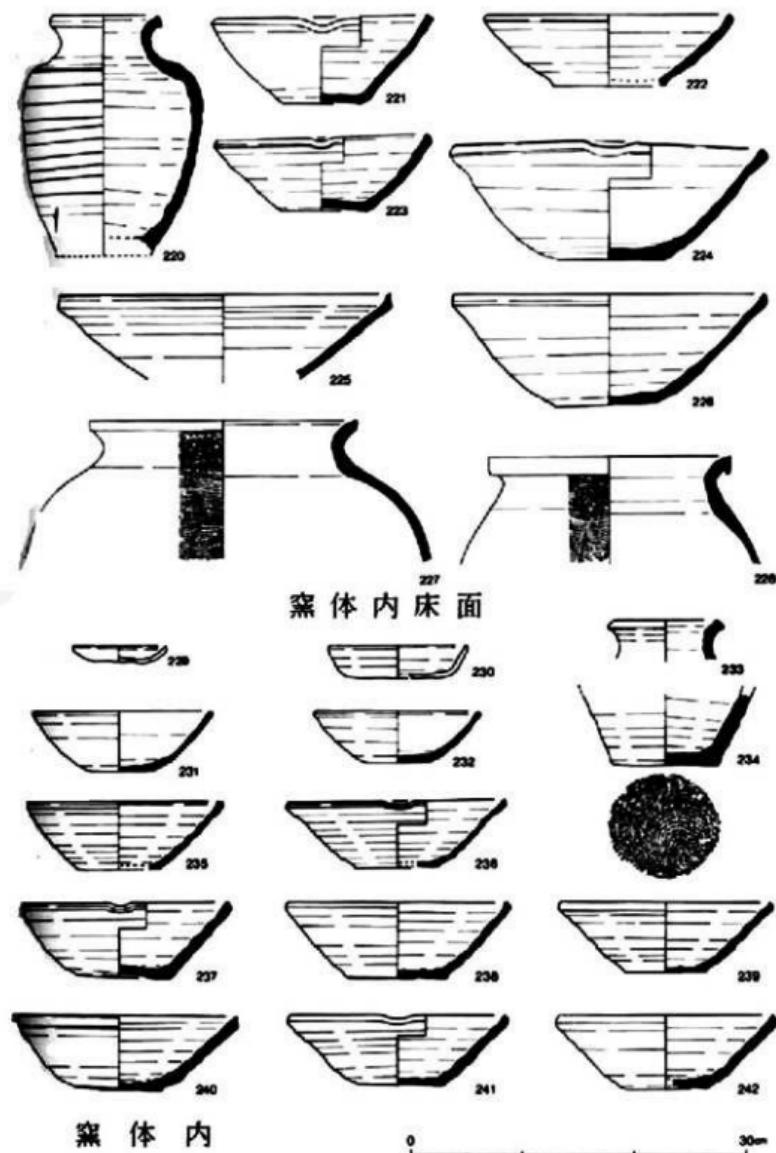
窯体内床面

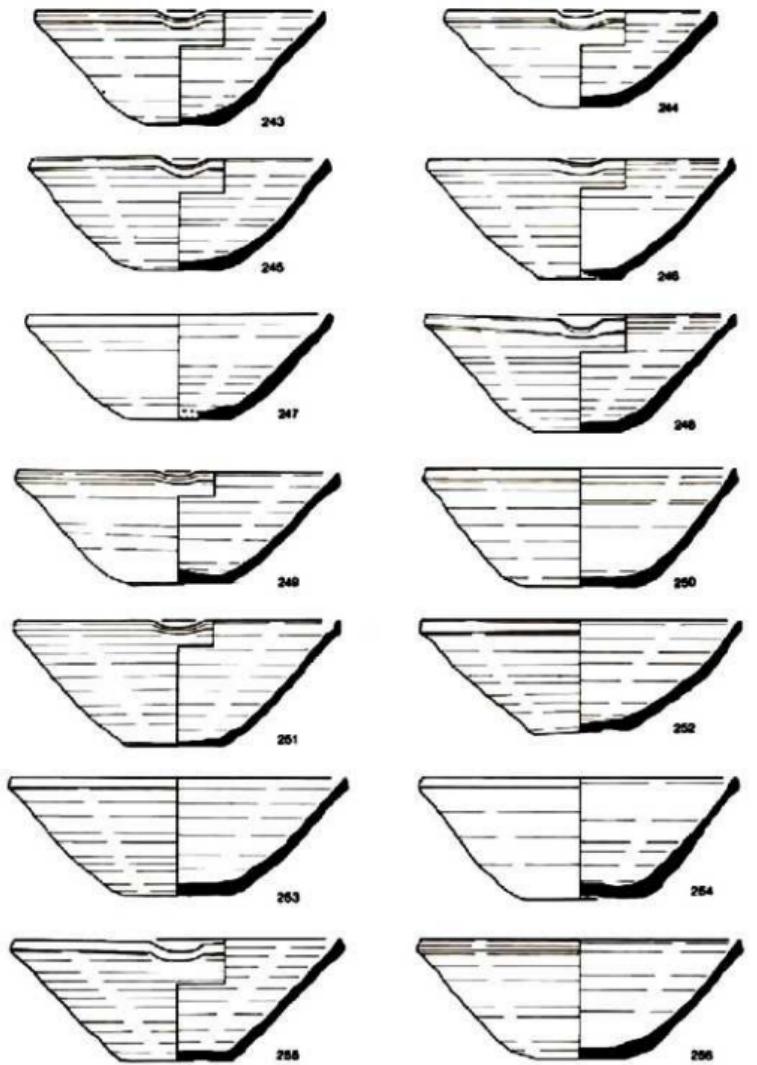


灰原



圖版二一 遺物実測図（22号）

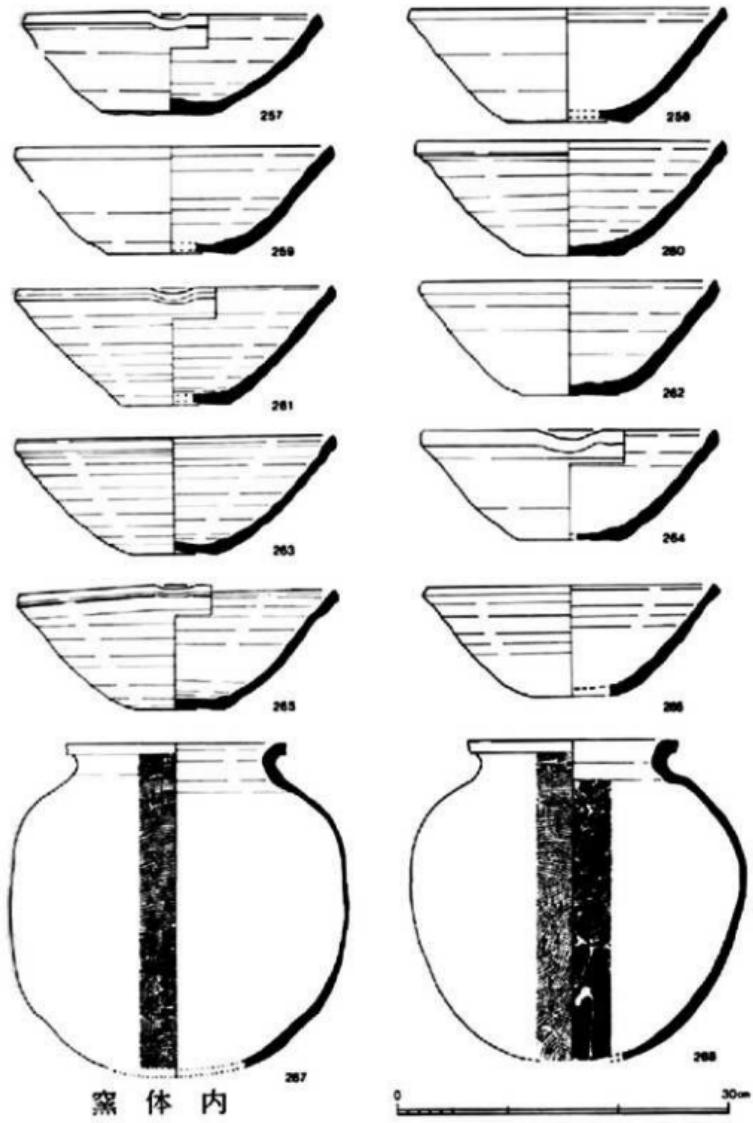




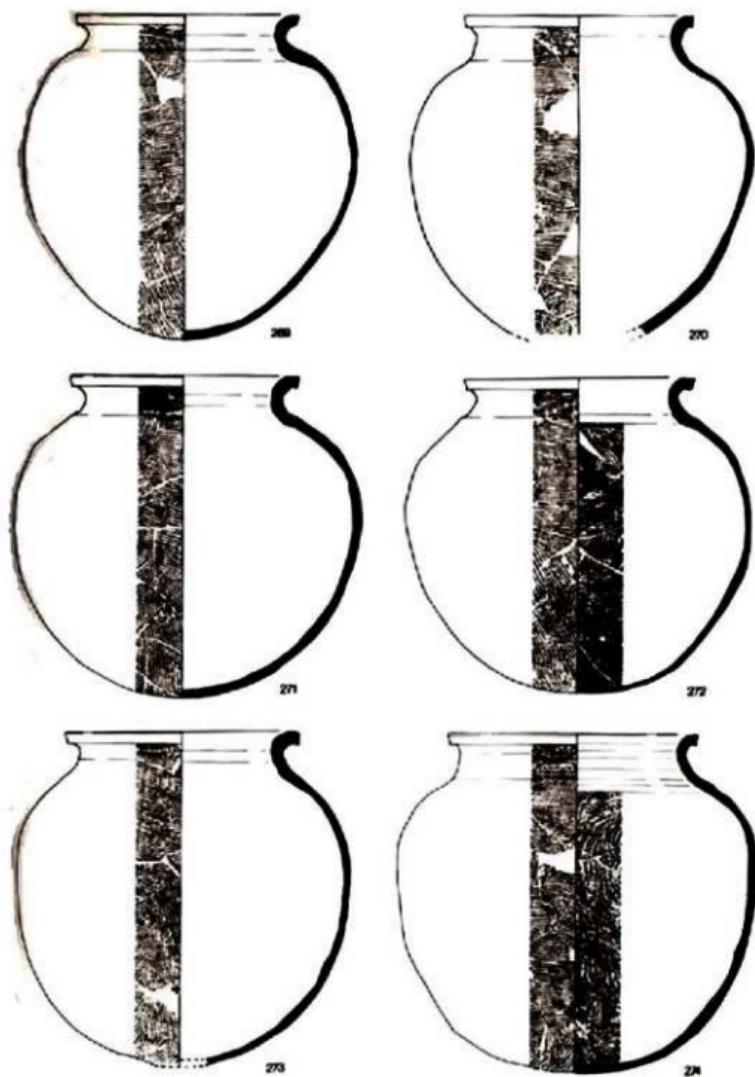
窯体内

0 30cm

図版二三 遺物実測図（22号）



図版二四 遺物実測図（22号）



窯体内

0 30-m

図版二五 遺物実測図（22号）

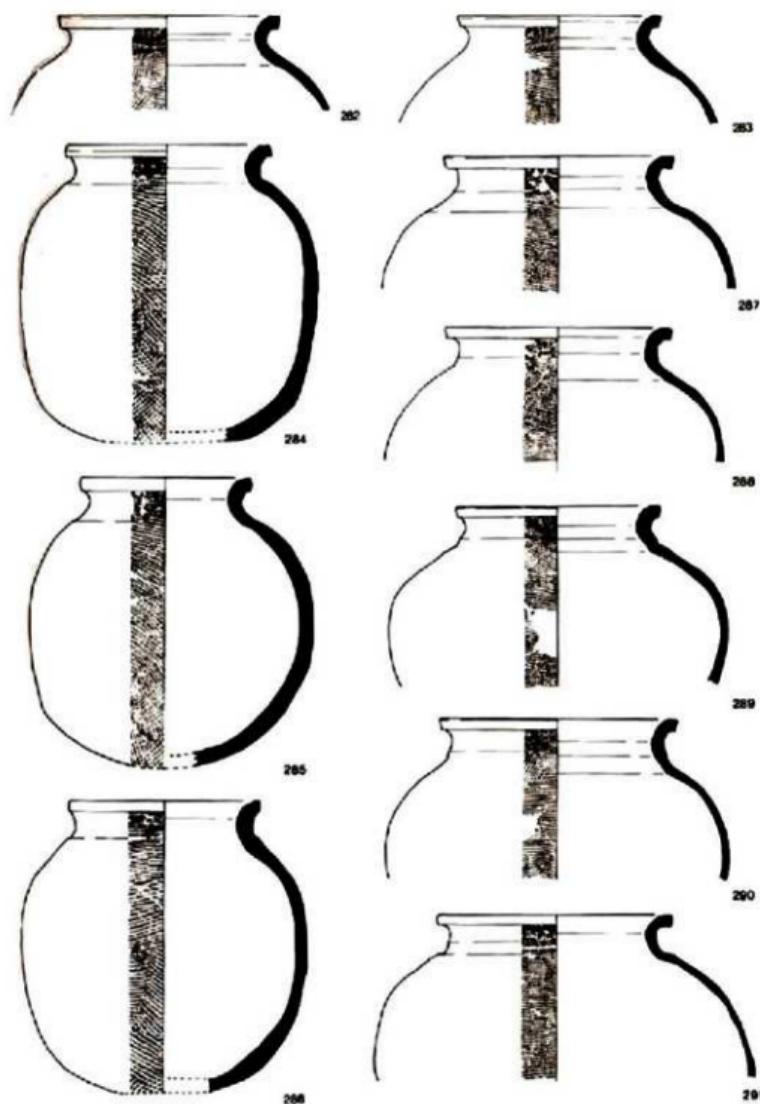


窯体内

0 30cm

図版二六

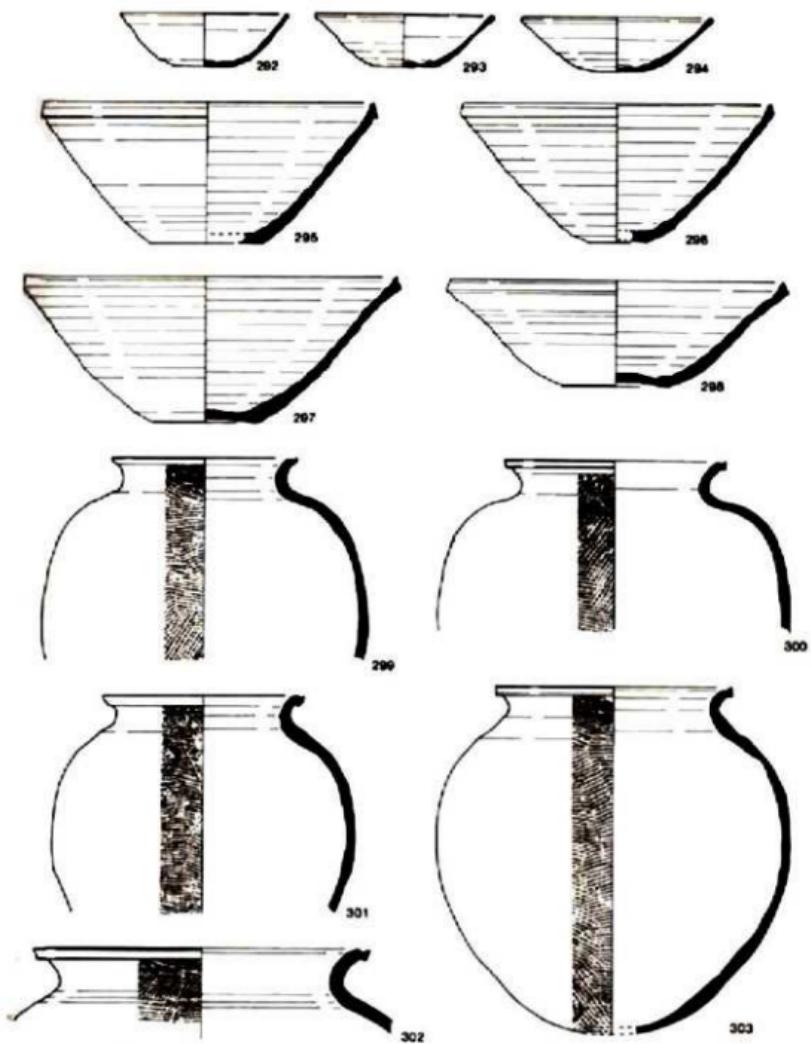
遺物実測図（22号）



窯体内

0 30

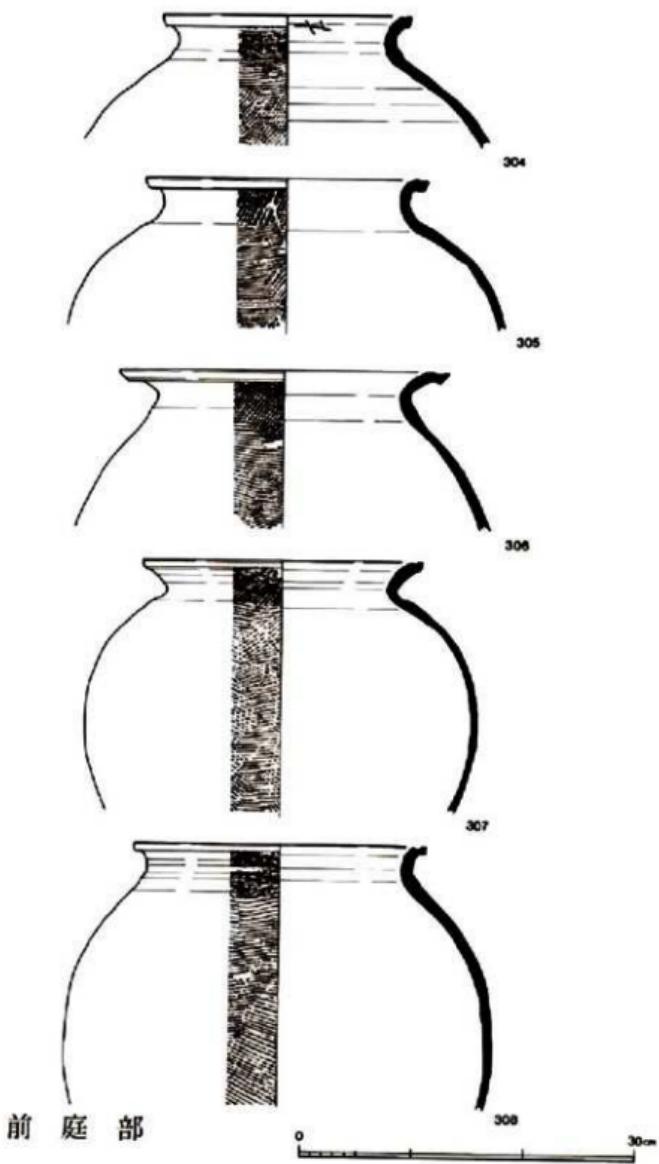
図版二七 遺物実測図（22号）



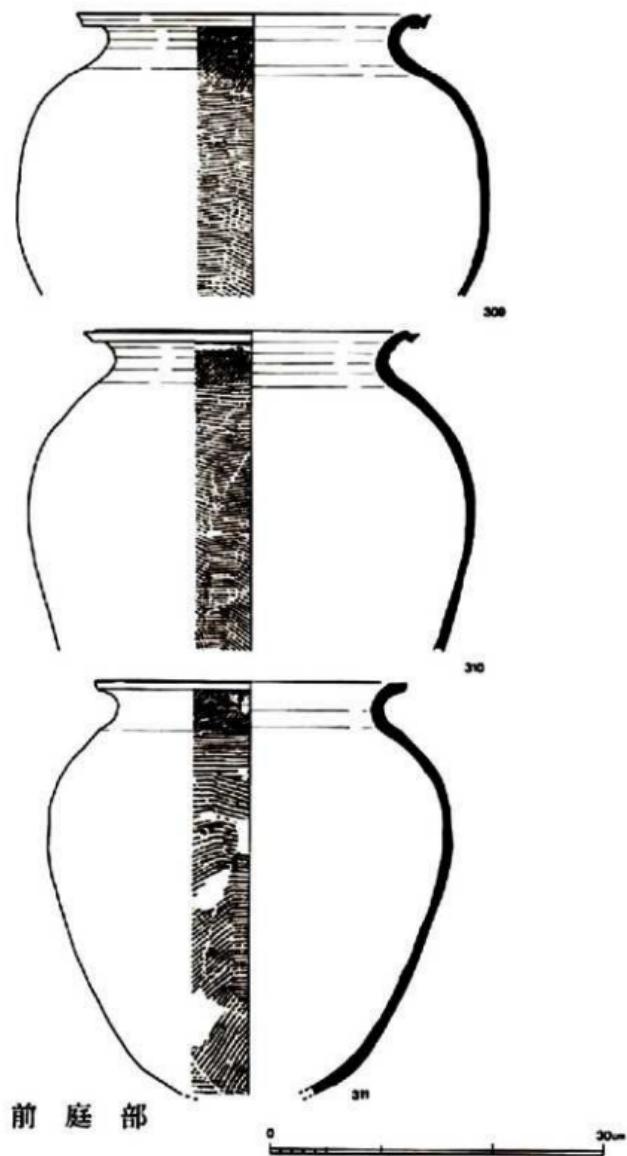
前庭部

0 30mm

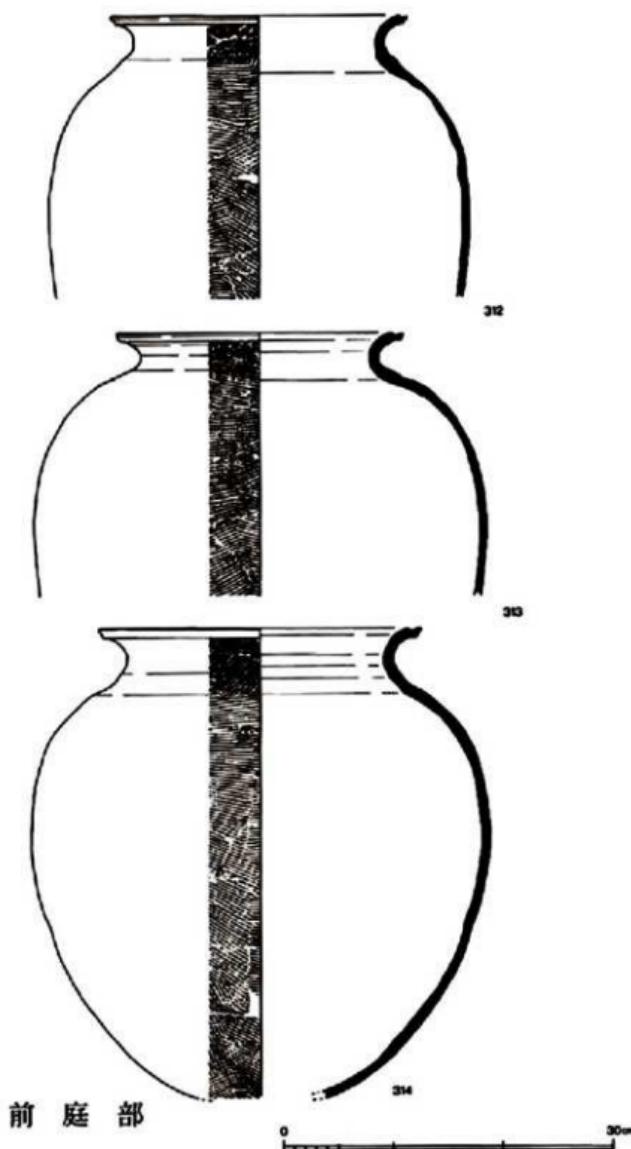
圖版二八 遺物実測図（22号）



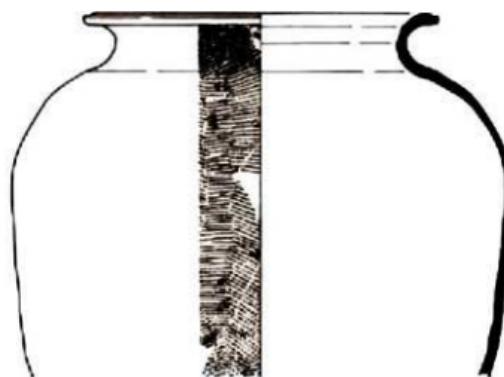
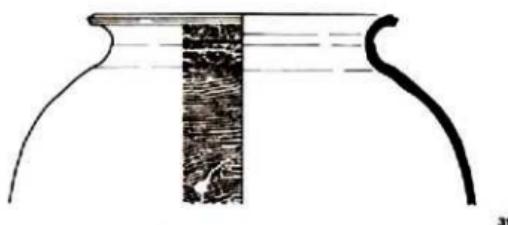
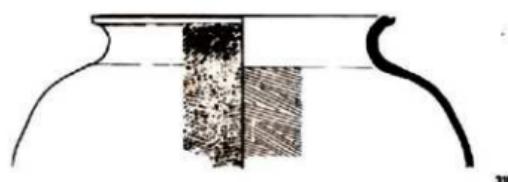
図版二九　遺物実測図（22号）



図版三〇 遺物実測図（22号）



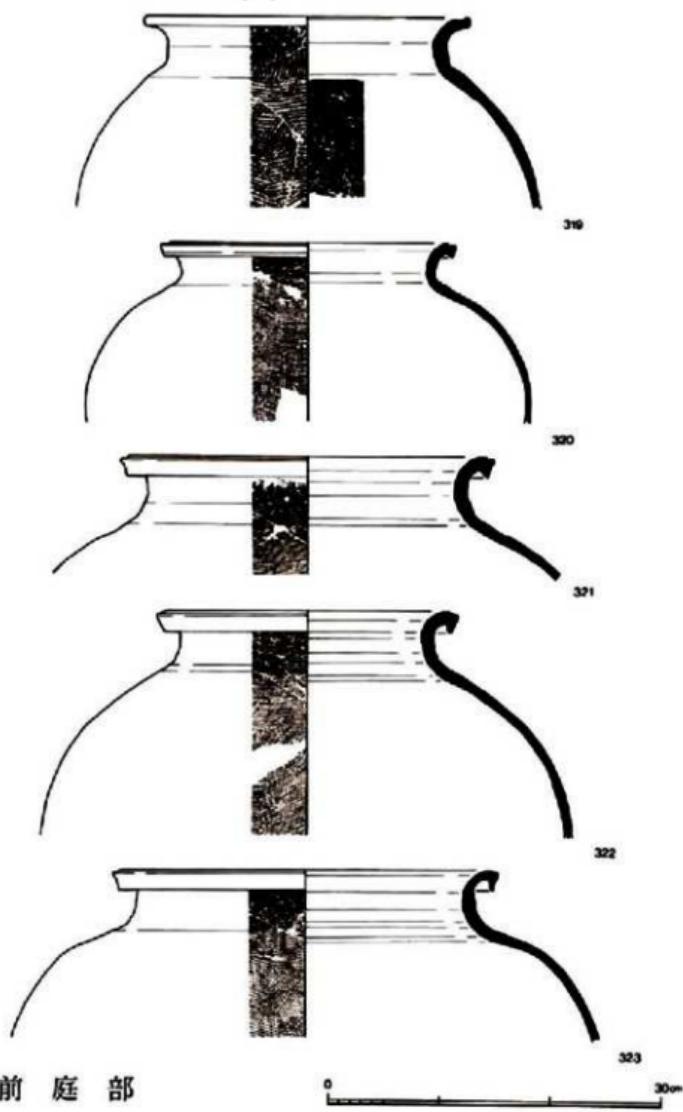
図版三一 遺物実測図（22号）



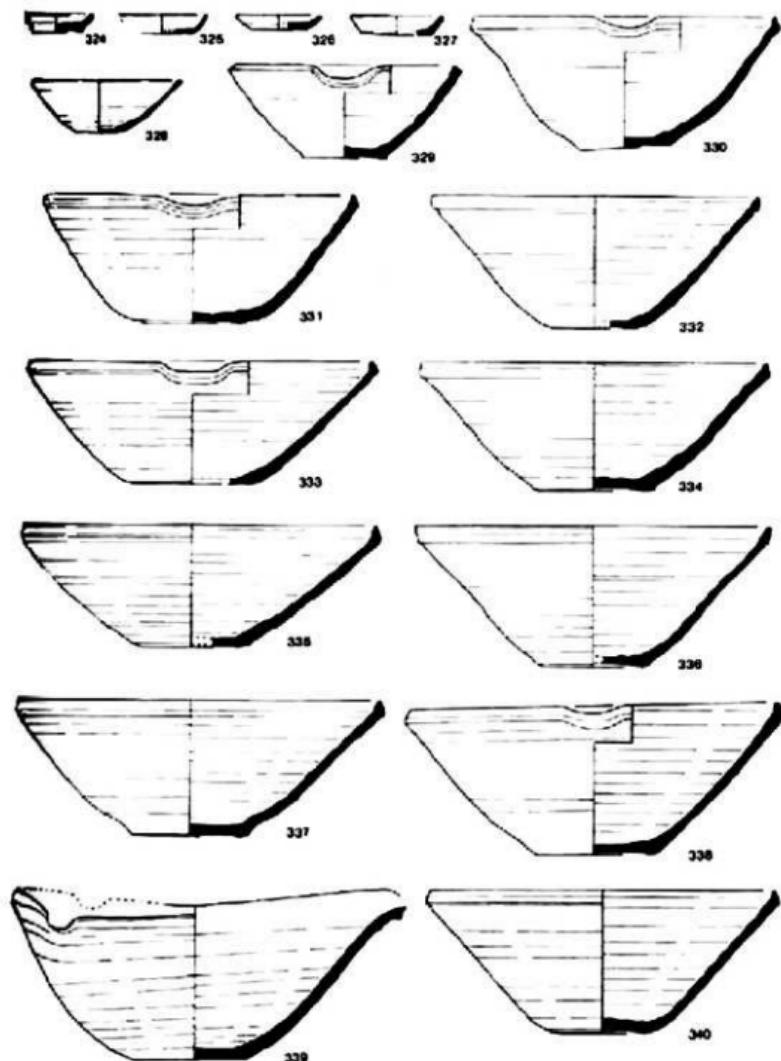
前庭部

0 1 2 30cm

図版三三 遺物実測図（22号）



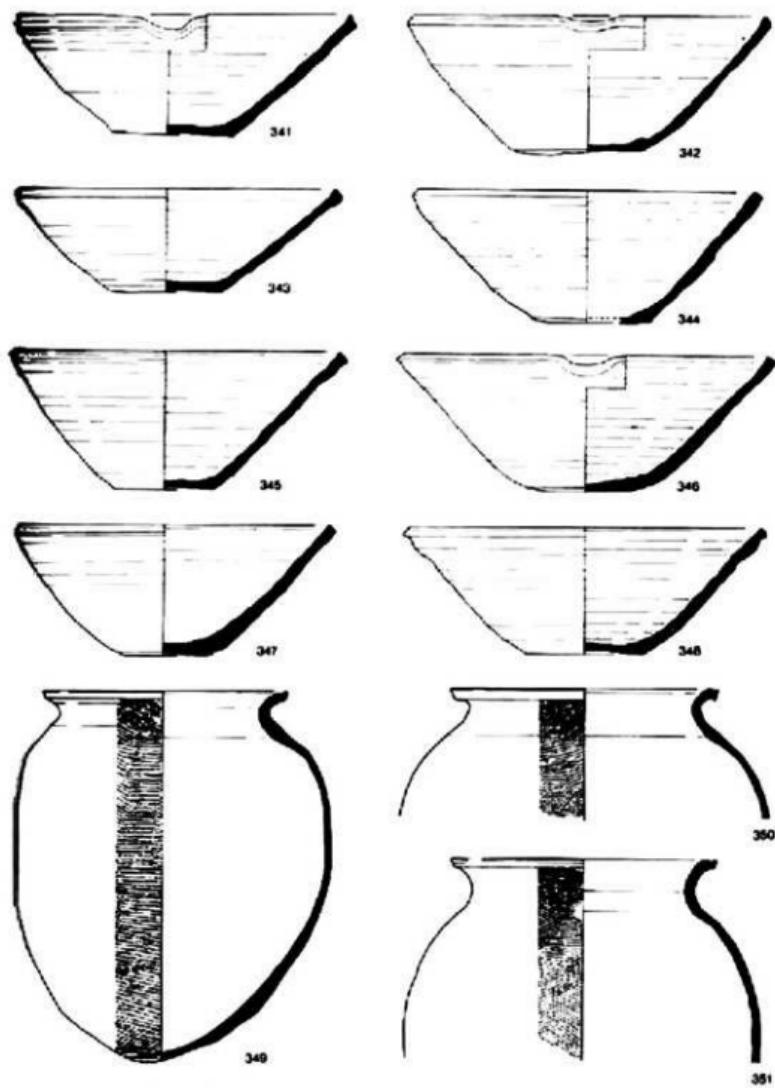
図版三三
遺物実測図（22号）



灰原

0 20mm

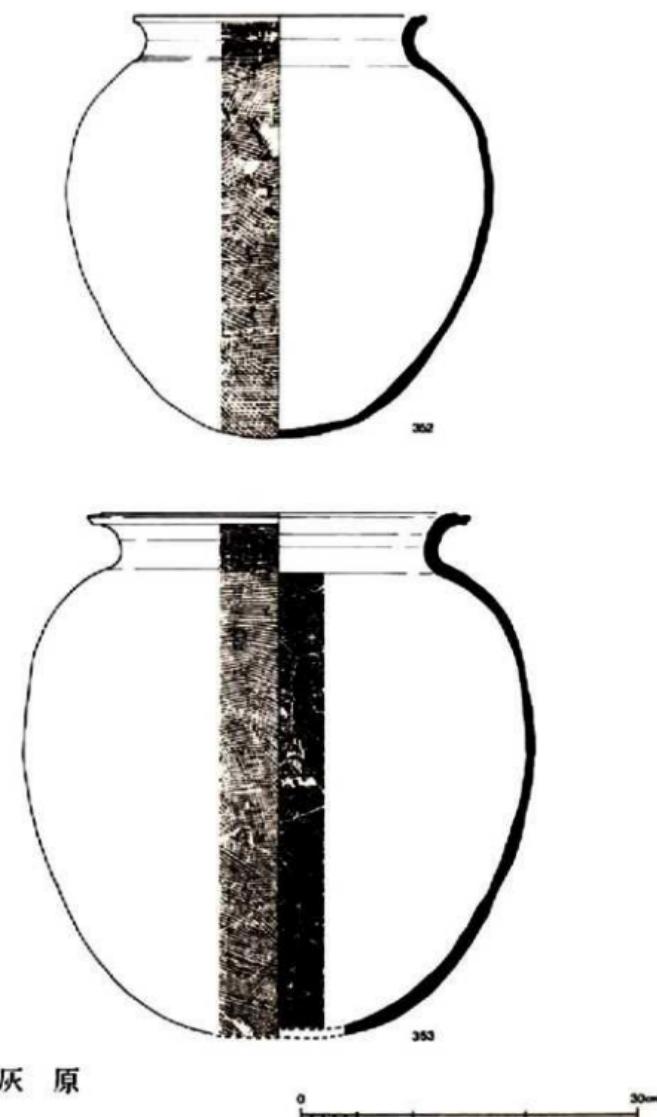
図版三四 遺物実測図 (22号)



灰原

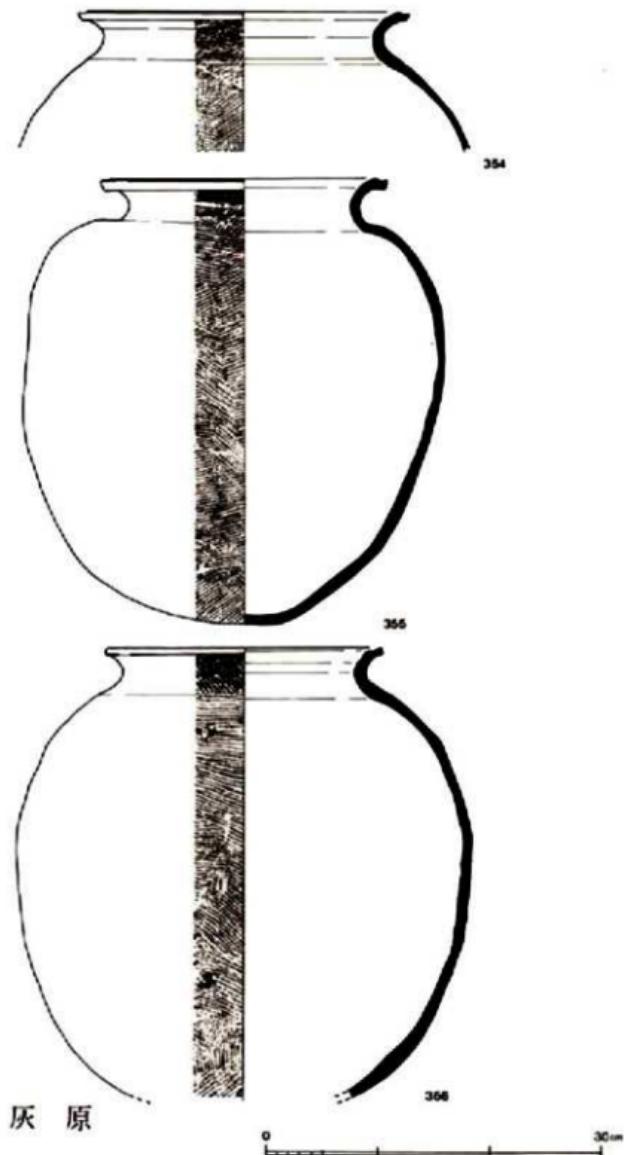
0 30mm

図版三五 遺物実測図（22号）



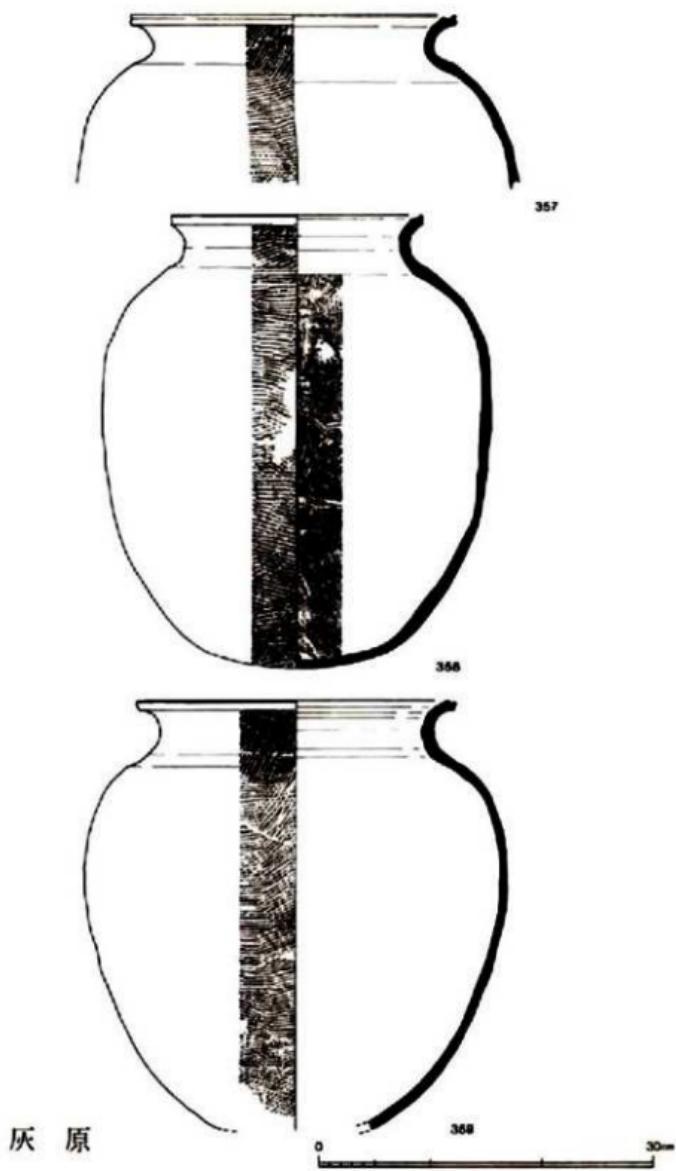
灰原

図版三六 遺物実測図（22号）

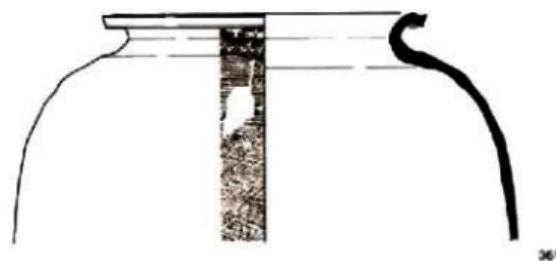


0 30cm

図版三七 遺物実測図（22号）



図版三八 遺物実測図（22号）



灰原

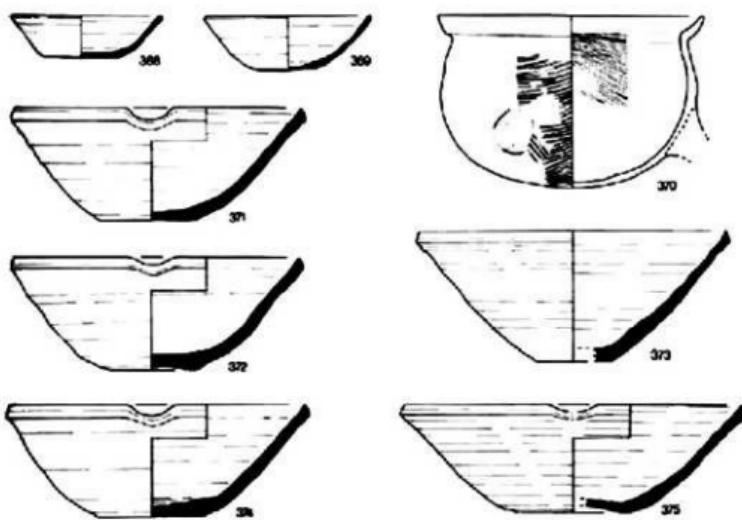


図版三九 遺物実測図 (22号)

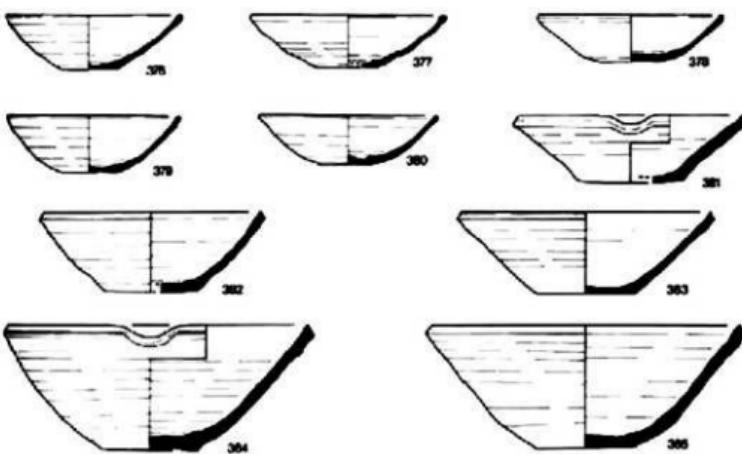


灰原

図版四〇 遺物実測図（30号）



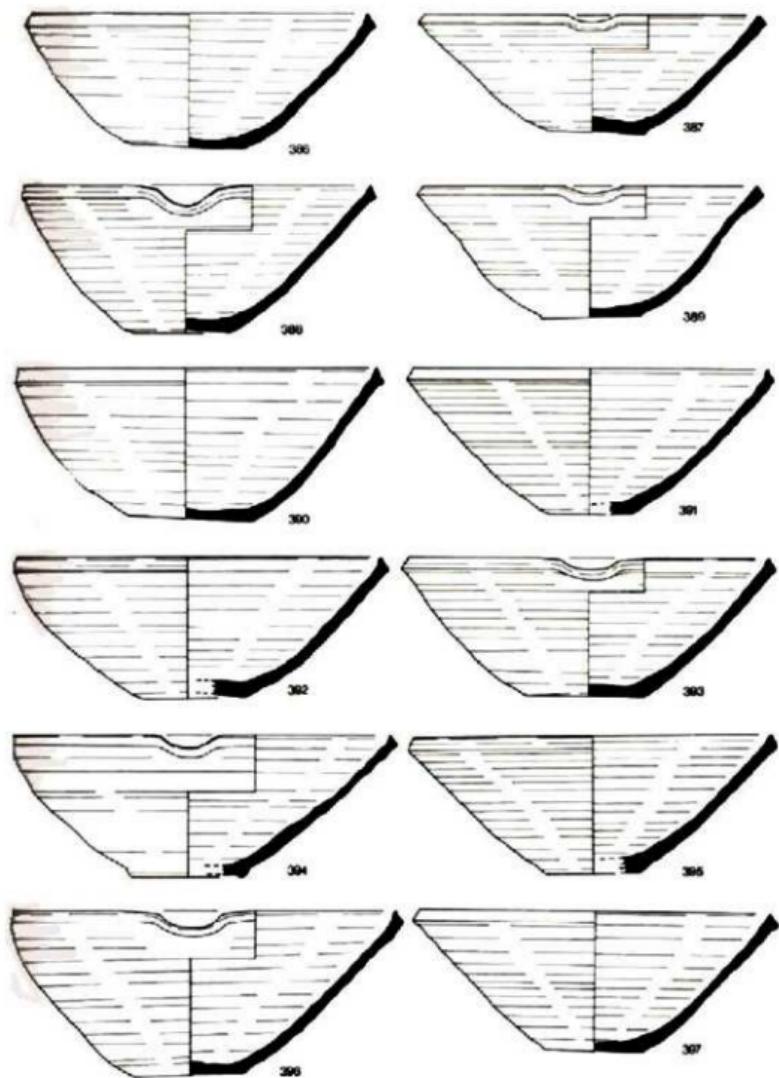
窓体内床面



床面下灰層



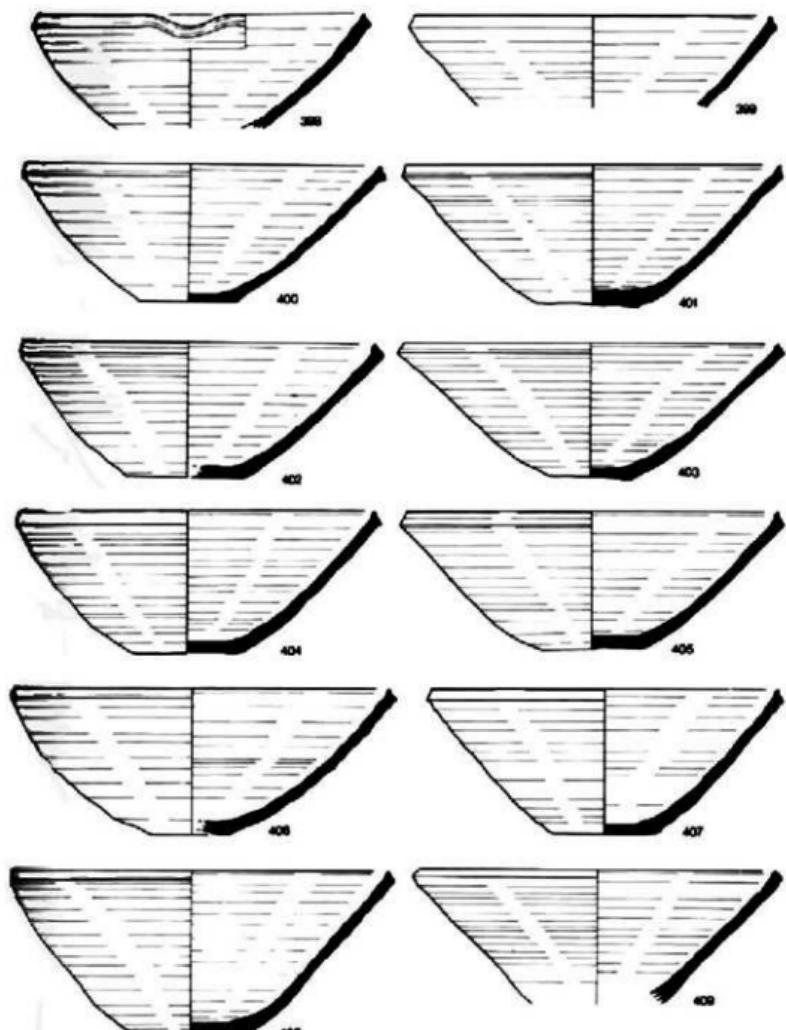
図版四一 遺物実測図（30号）



床面下灰層

0 30cm

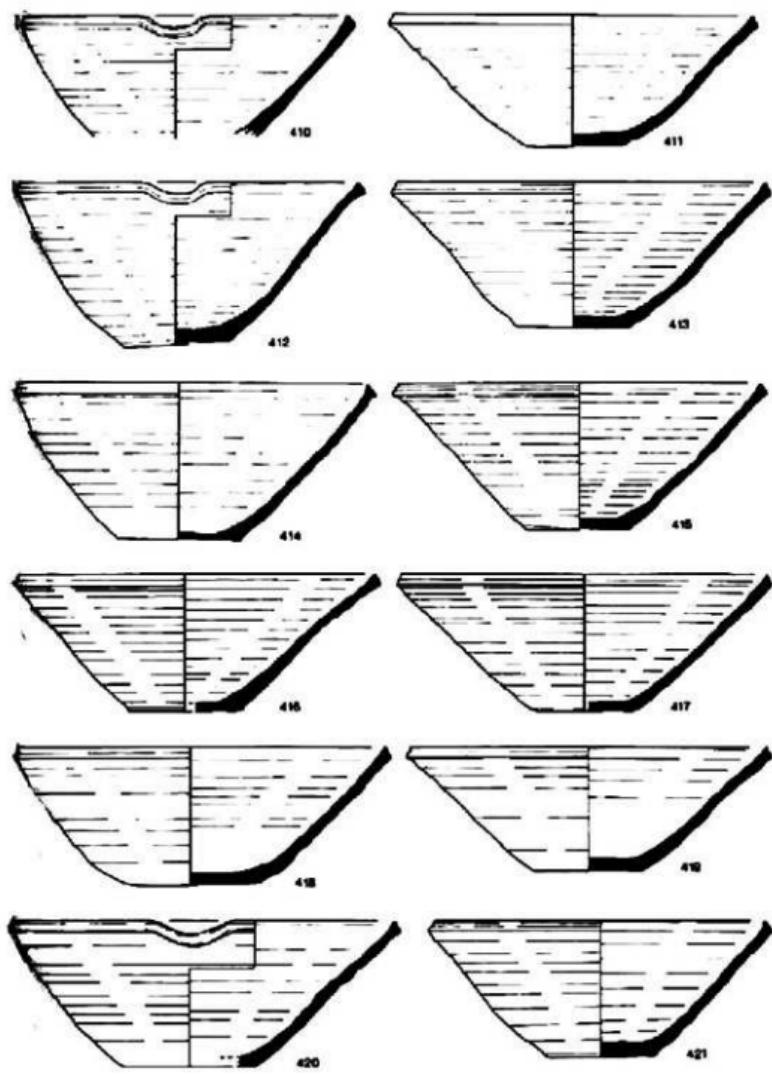
図版四二
遺物実測図
(30号)



床面下灰層

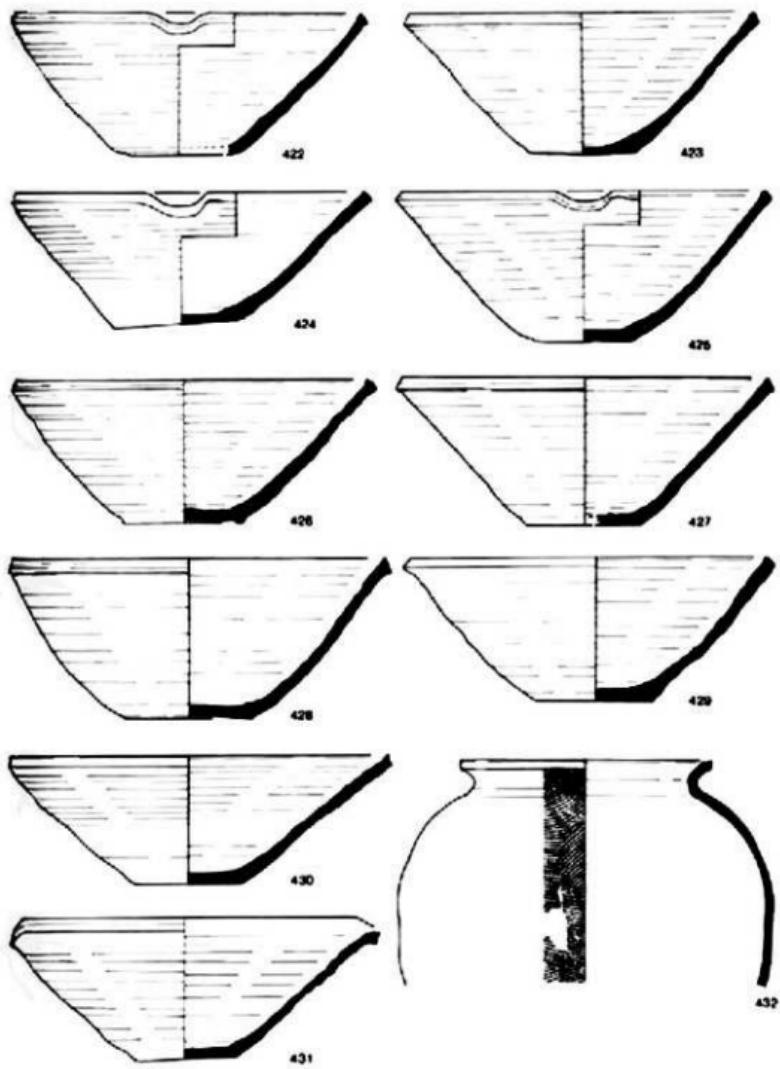
0 30-mm

図版四三 遺物実測図 (30号)



床面下灰層

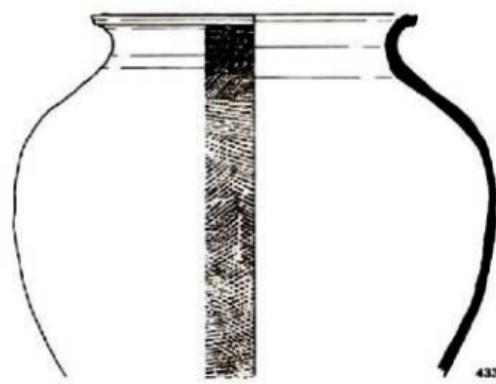
0 30cm



床面下灰層

0 30cm

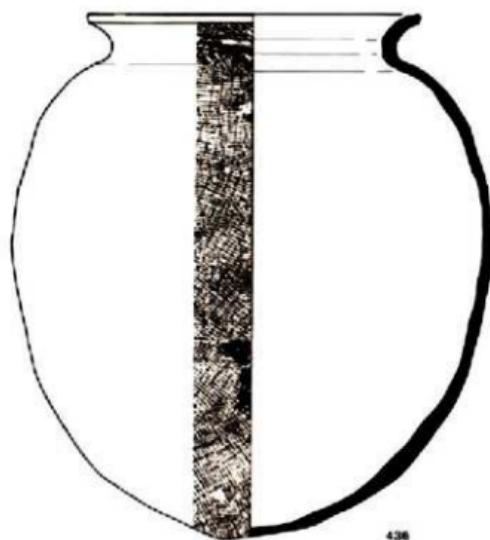
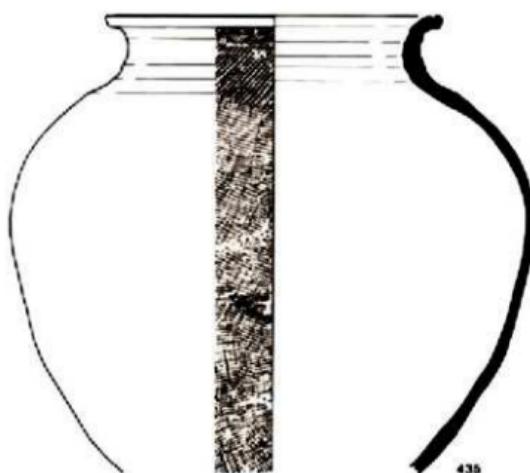
圖版四五 遺物実測図（30号）



床面下灰層

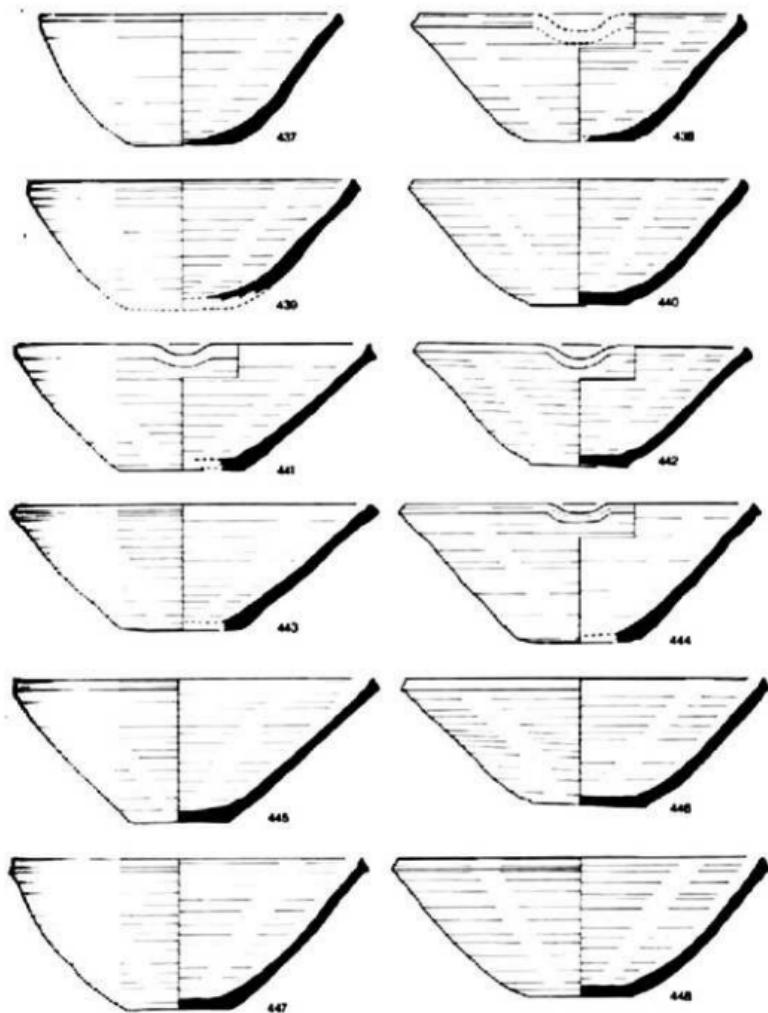
30cm

図版四六 遺物実測図（30号）



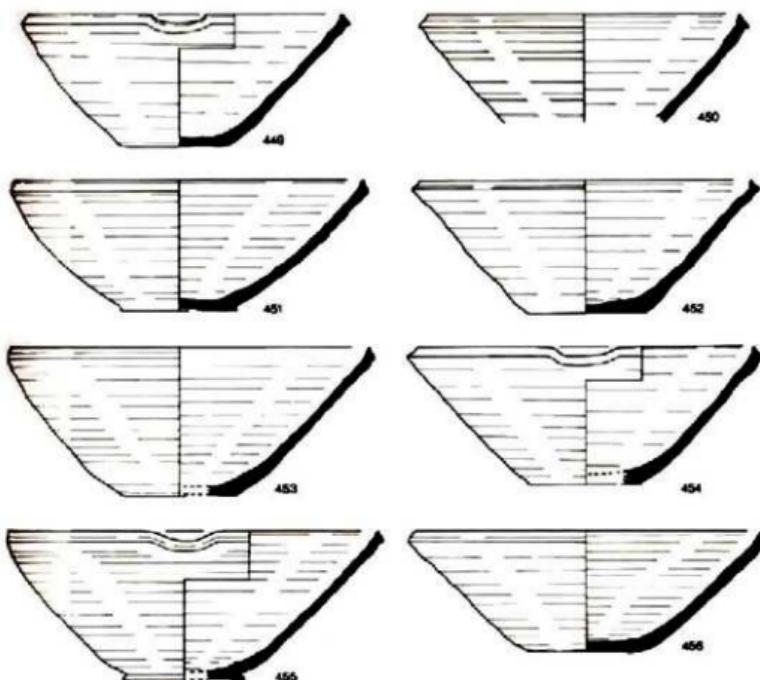
床面下灰層



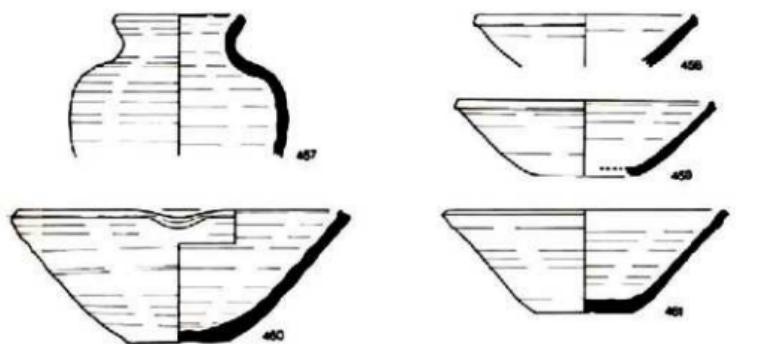


黄灰色粘土

0 30cm



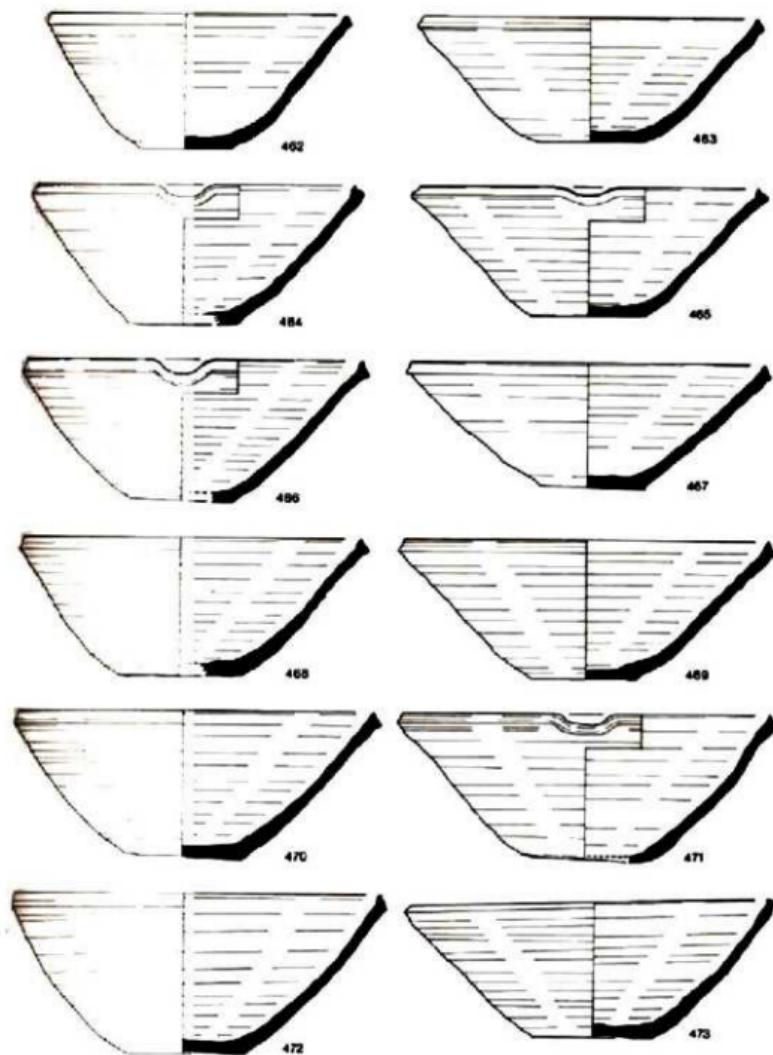
黄灰色粘土



灰原（A・C区）

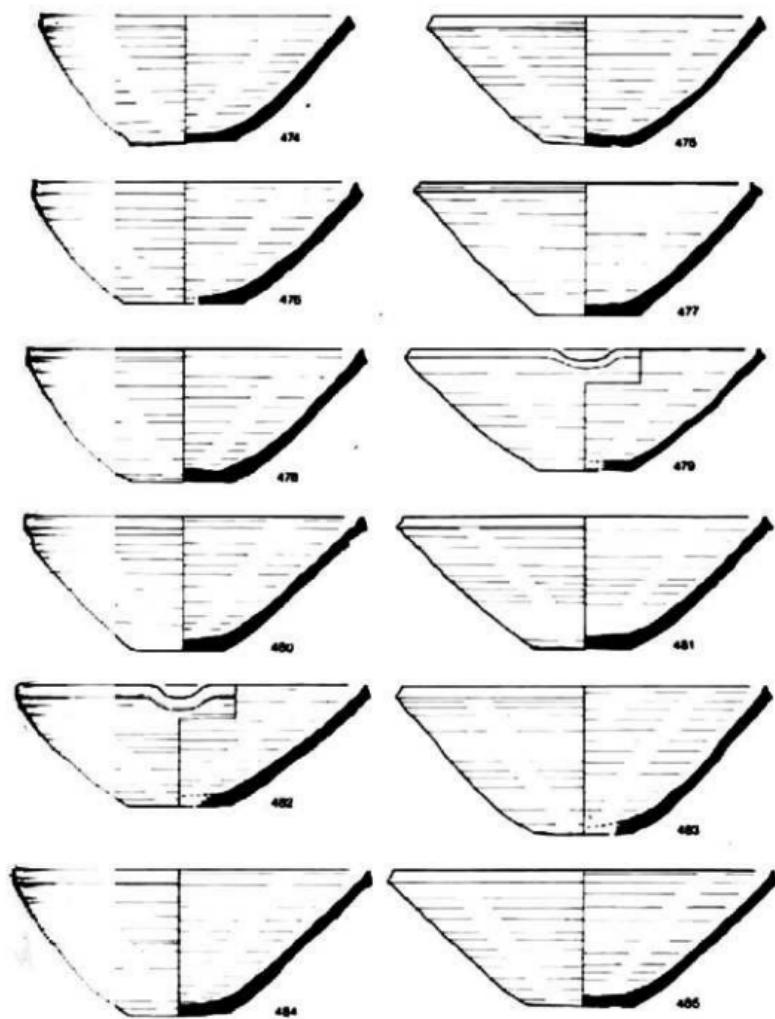
0 20cm

図版四九 遺物実測図（30号）



灰原（A・C区）

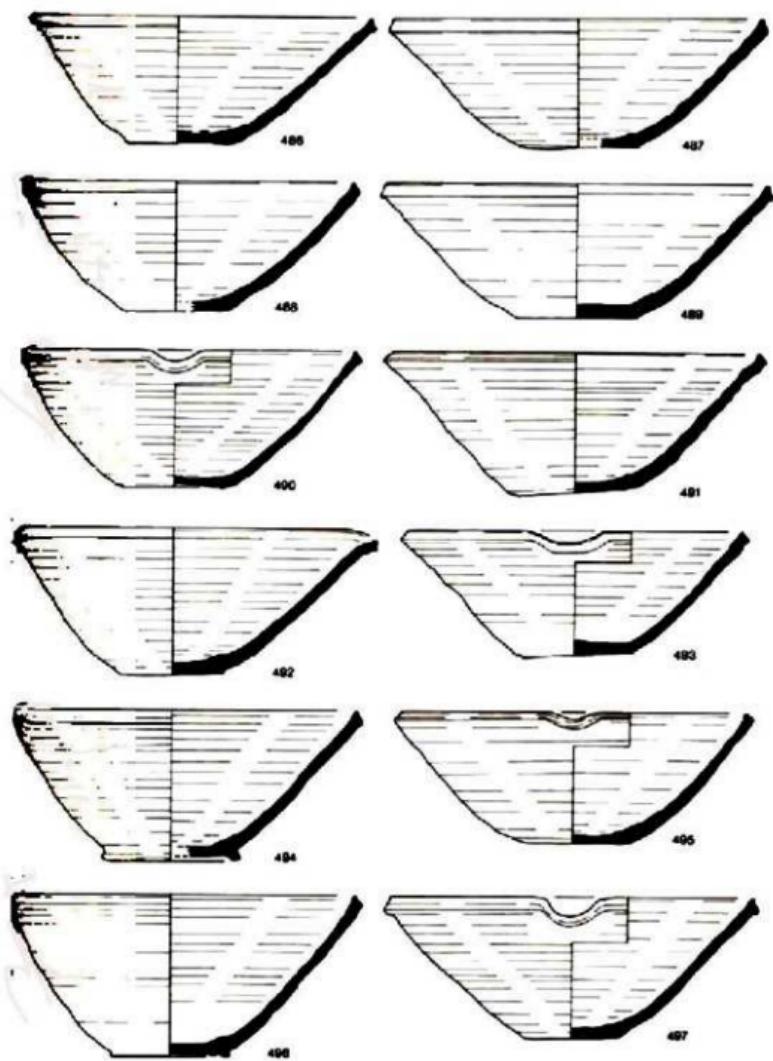
0 30cm



灰原 (A・C区)

30-

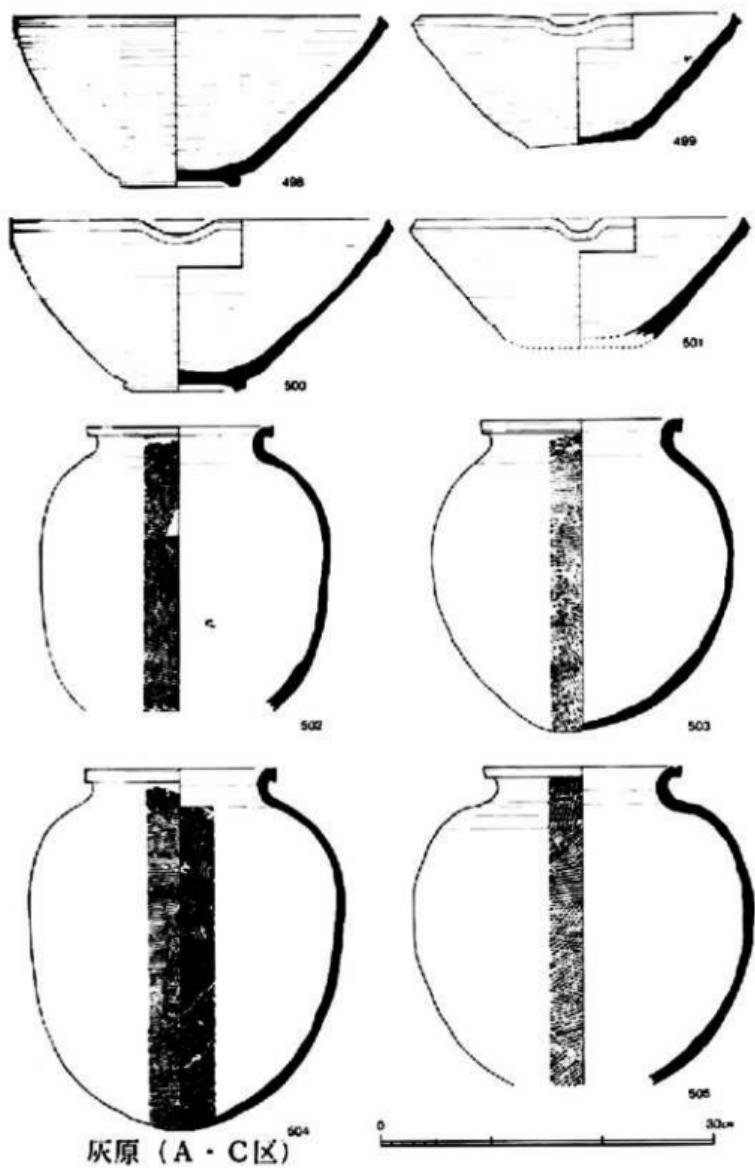
図版五一
遺物実測図
(30号)



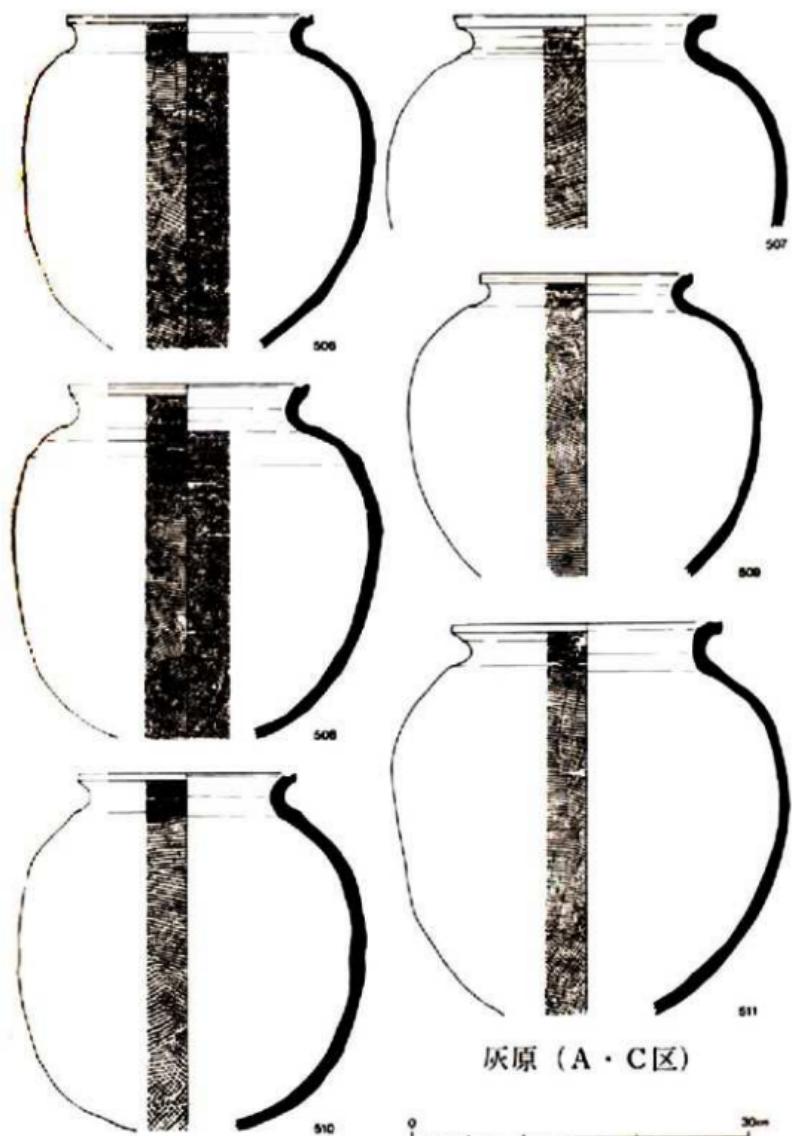
灰原 (A・C区)

0 30mm

図版五二 遺物実測図（30号）



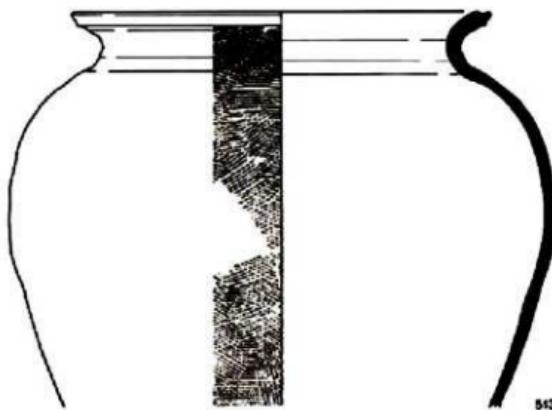
図版五三 遺物実測図（30号）



図版五四 遺物実測図（30号）



512

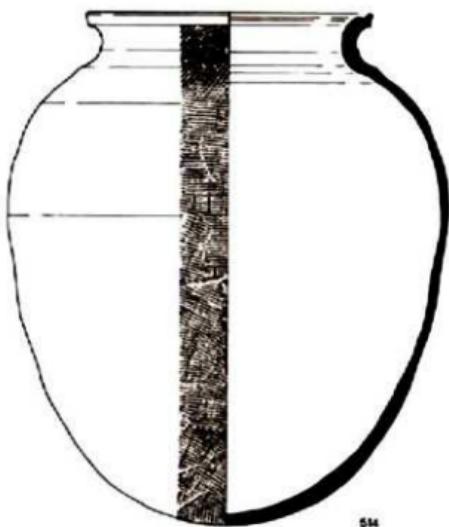


513

灰原（A・C区）

0 30cm

図版五五 遺物実測図（30号）



54

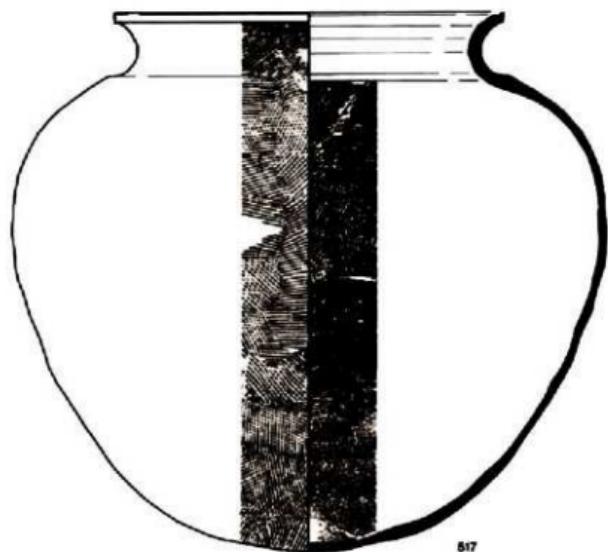
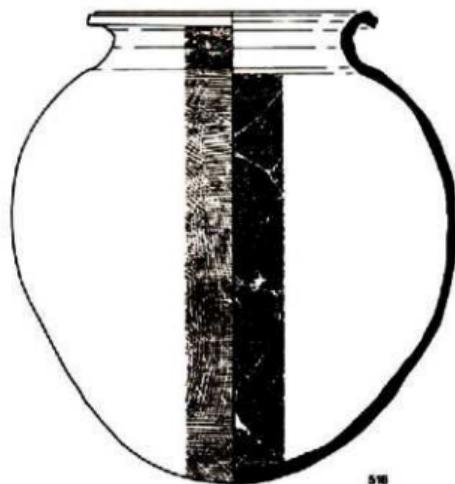


55

灰原（A・C区）

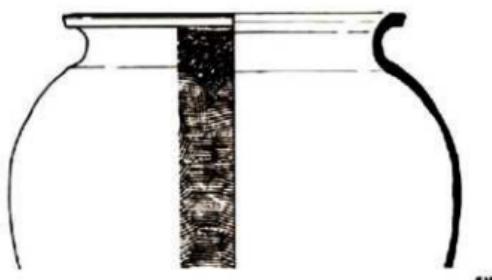


図版五六 遺物実測図（30号）

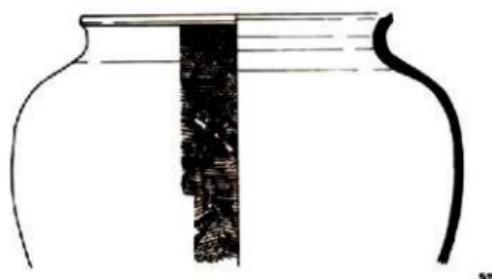


灰原（A・C区）

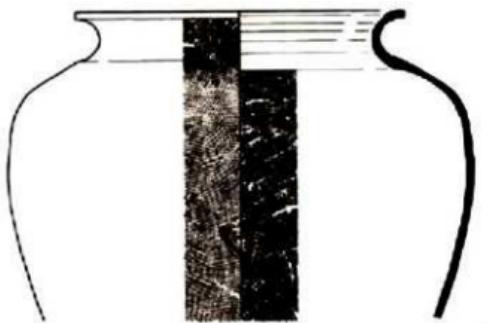
0 30cm



518



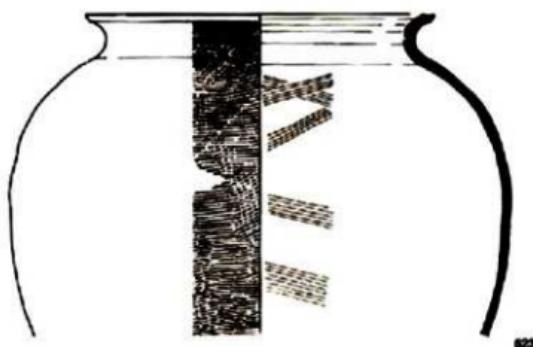
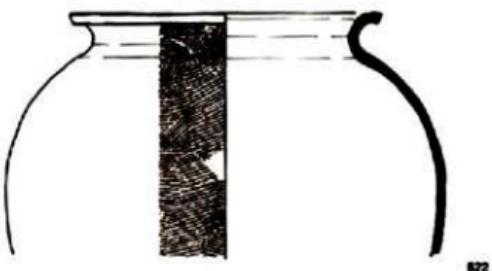
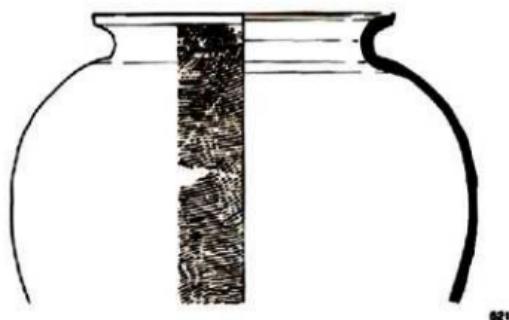
519



520

灰原(A・C区)

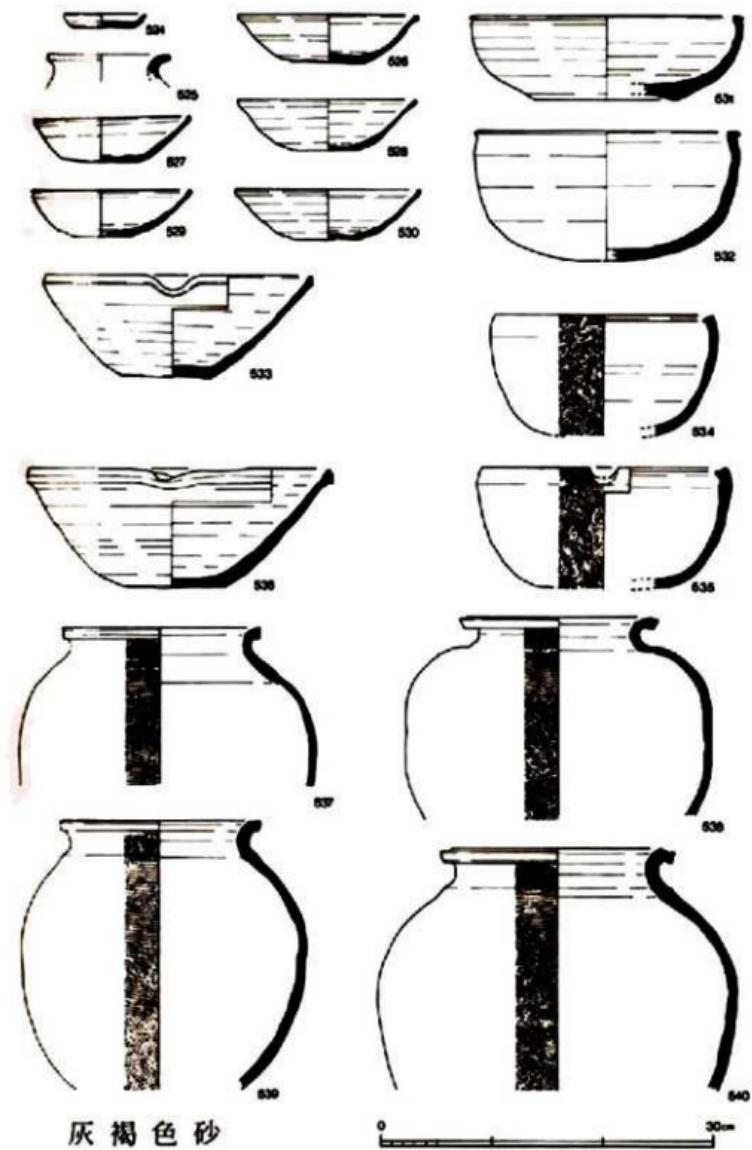
0 30cm



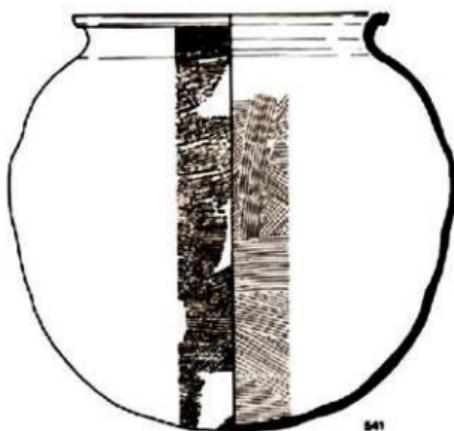
灰原（A・C区）

0 30-

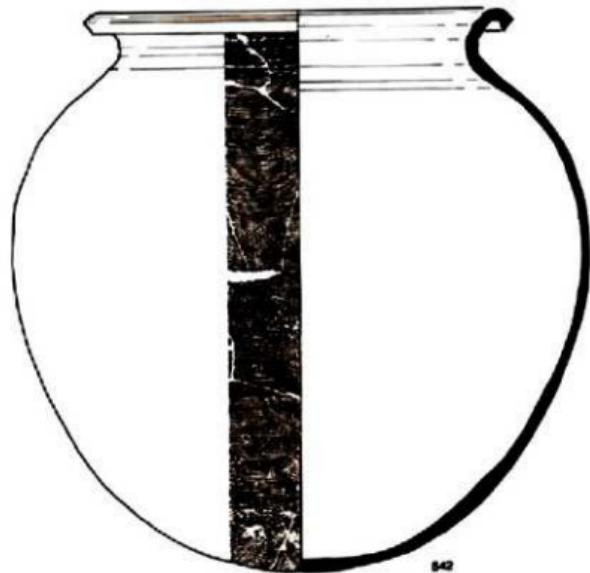
図版五九 遺物実測図（30号）



図版六〇 遺物実測図（30号）



541

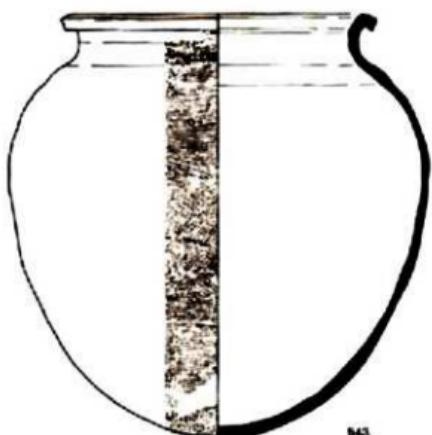


542

灰褐色砂

0 30mm

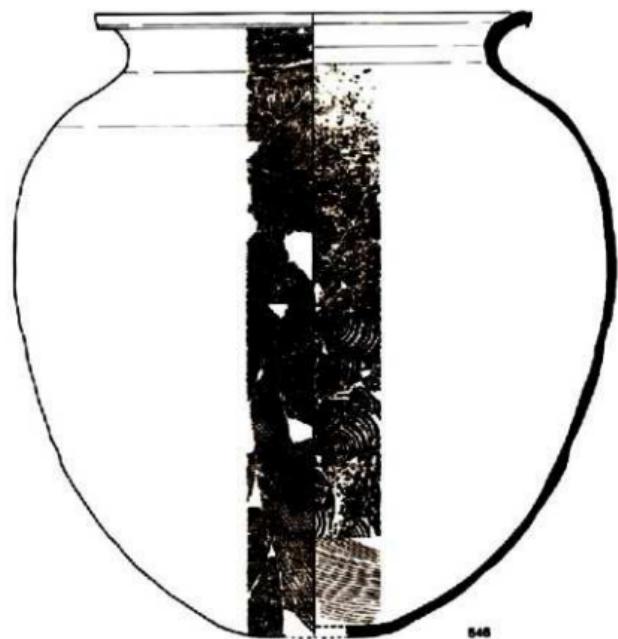
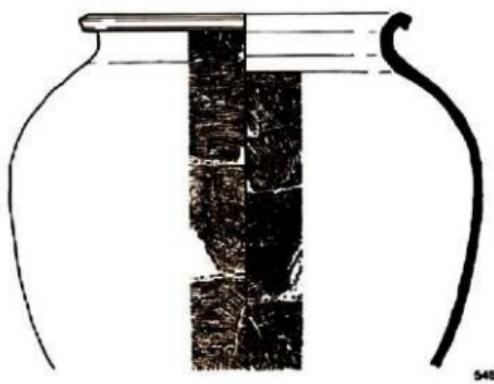
図版六一 遺物実測図 (30号)



灰褐色砂



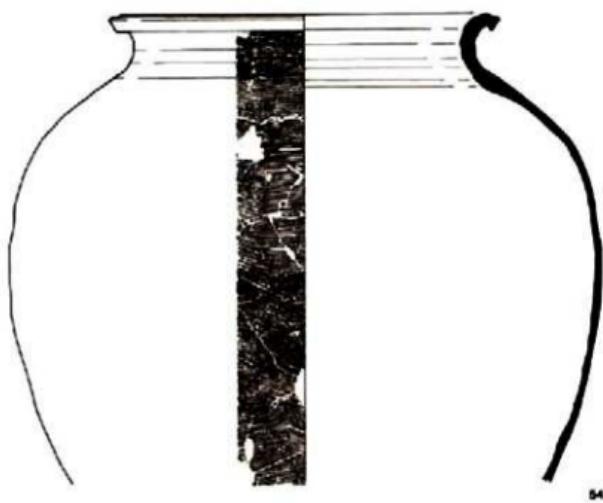
図版六二　遺物実測図（30号）



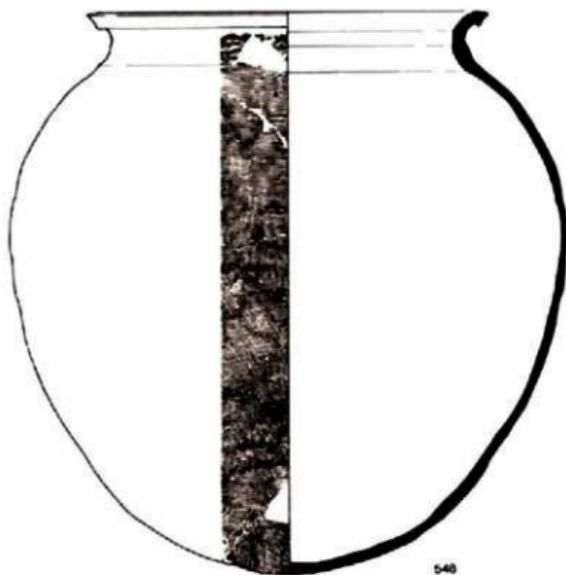
灰褐色砂

0 30mm

図版六三 遺物実測図（30号）



547

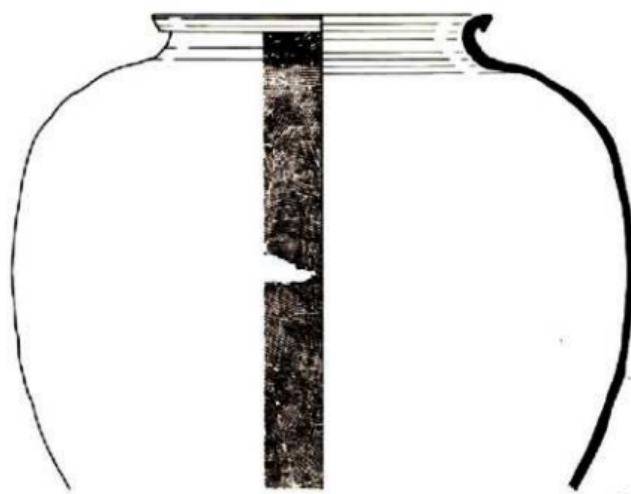


548

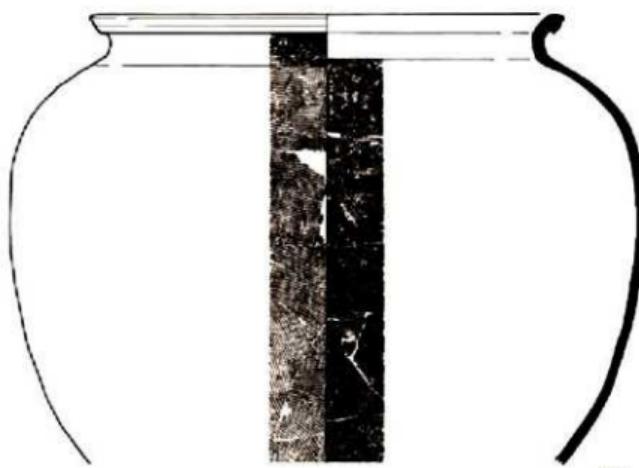
灰褐色砂

0 30cm

図版六四 遺物実測図（30号）



549

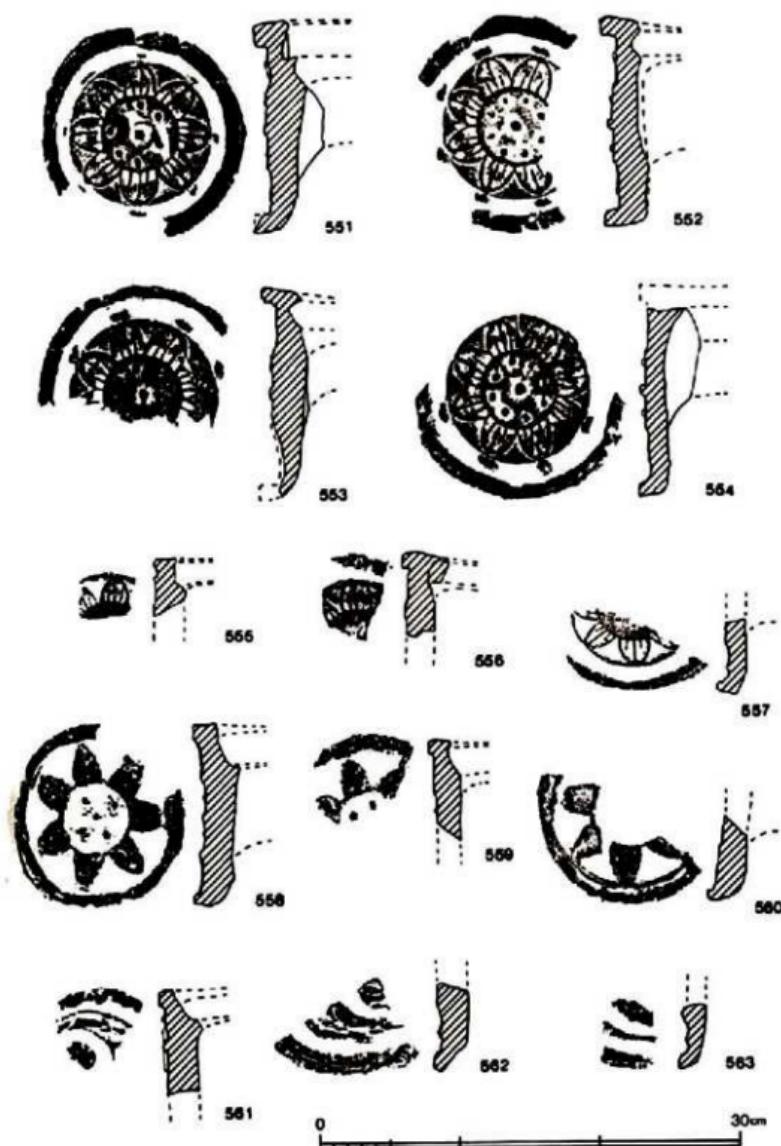


550

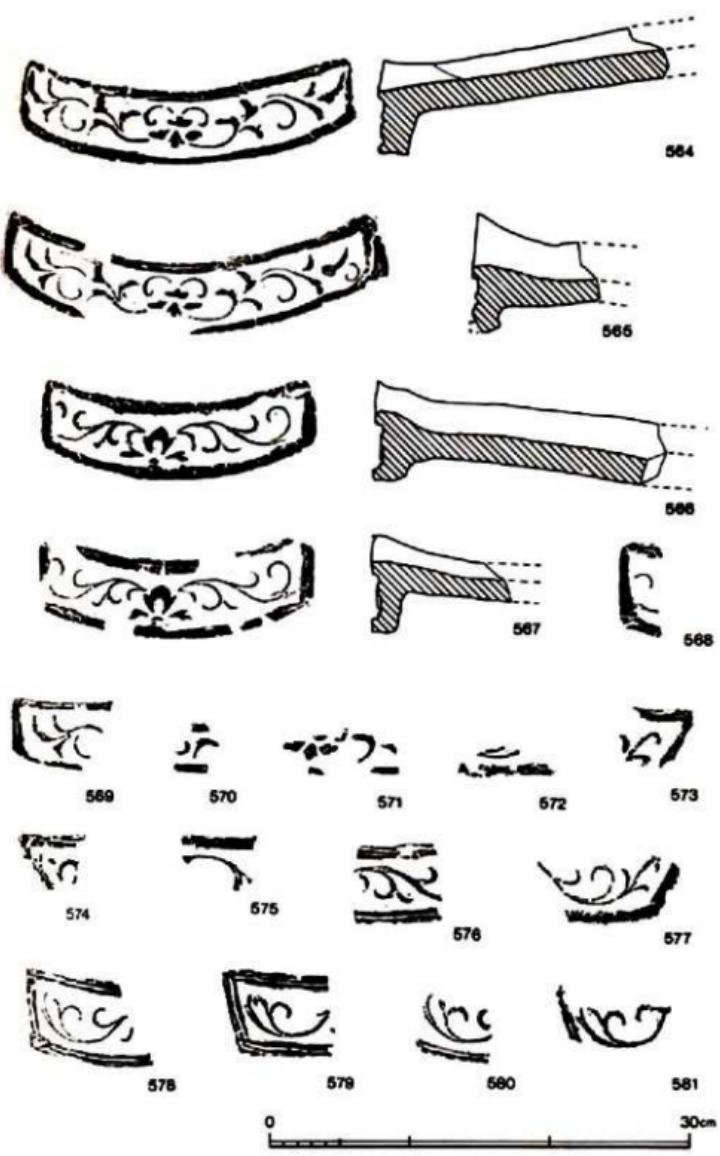
灰褐色砂

0 30mm

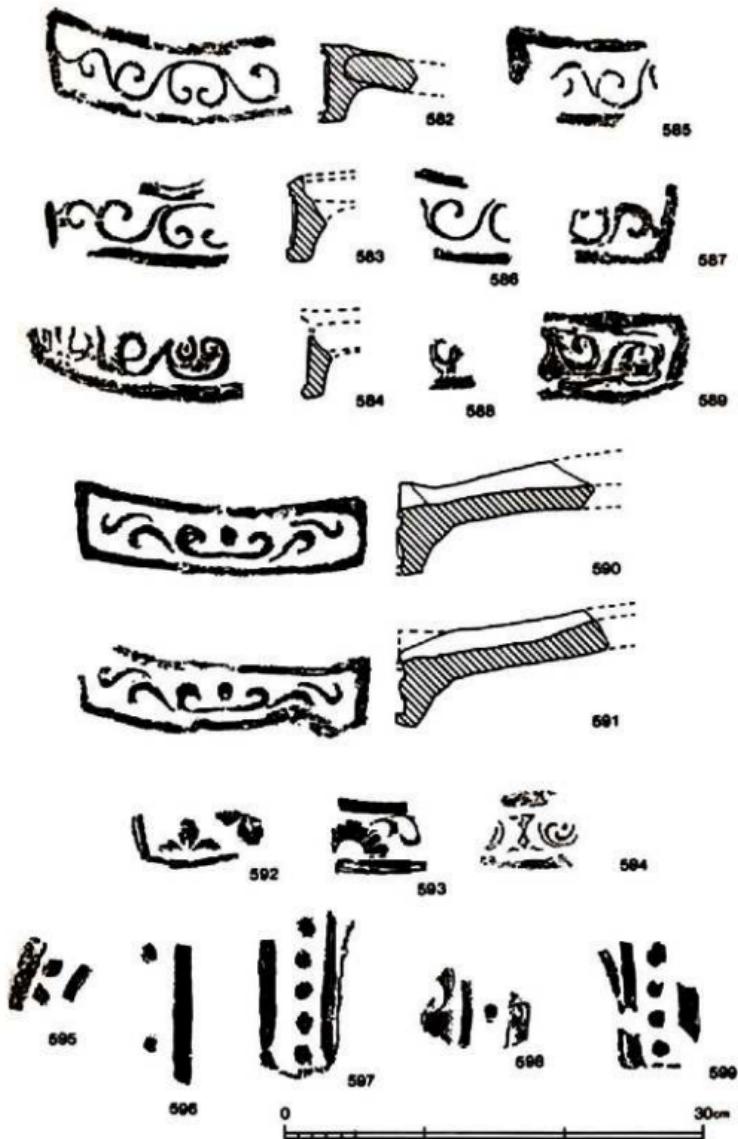
図版六五 遺物実測図（瓦1）



図版六六 遺物実測図（瓦2）



図版六七 遺物実測図（瓦3）



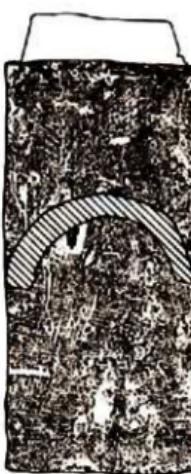
図版六八 遺物実測図（瓦4）



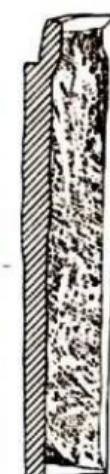
600



601



602



603





604



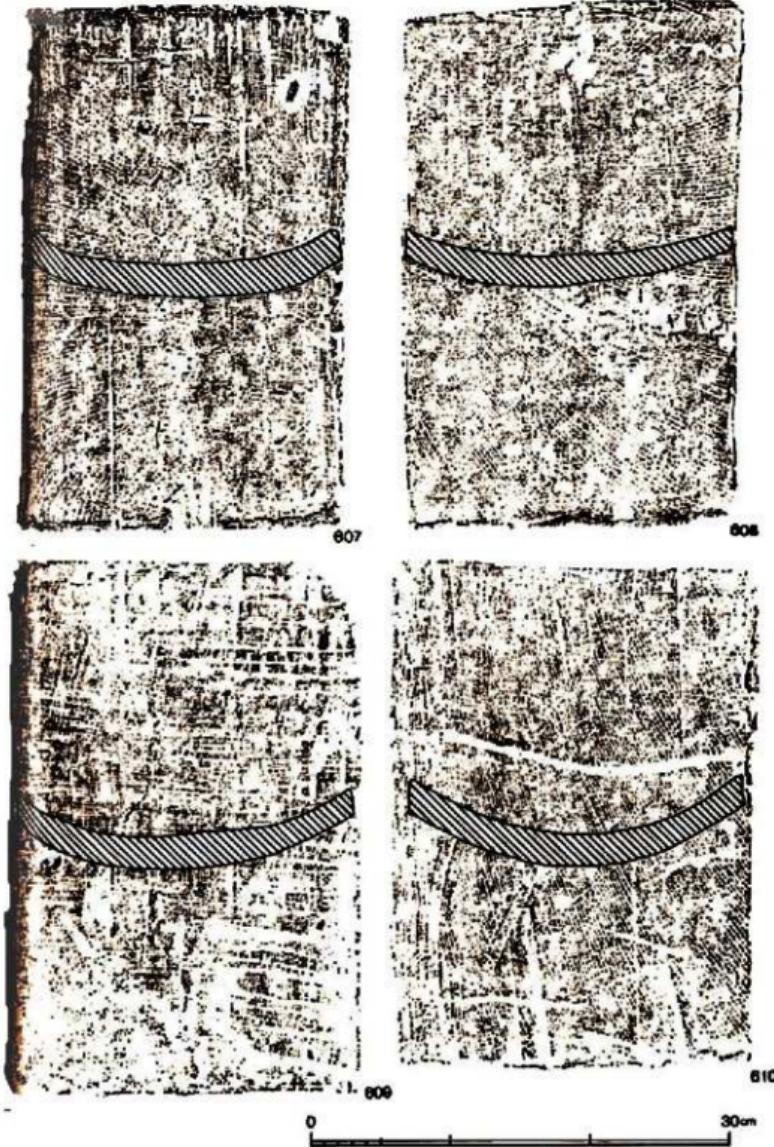
605



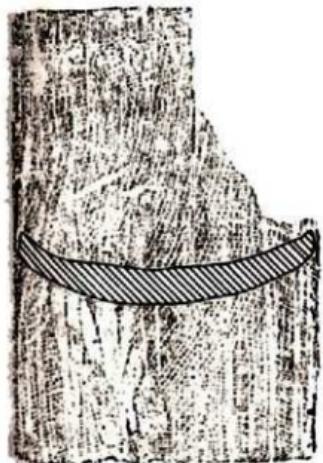
606



図版七〇 遺物実測図（瓦6）



図版七一 遺物実測図（瓦7）



611



612



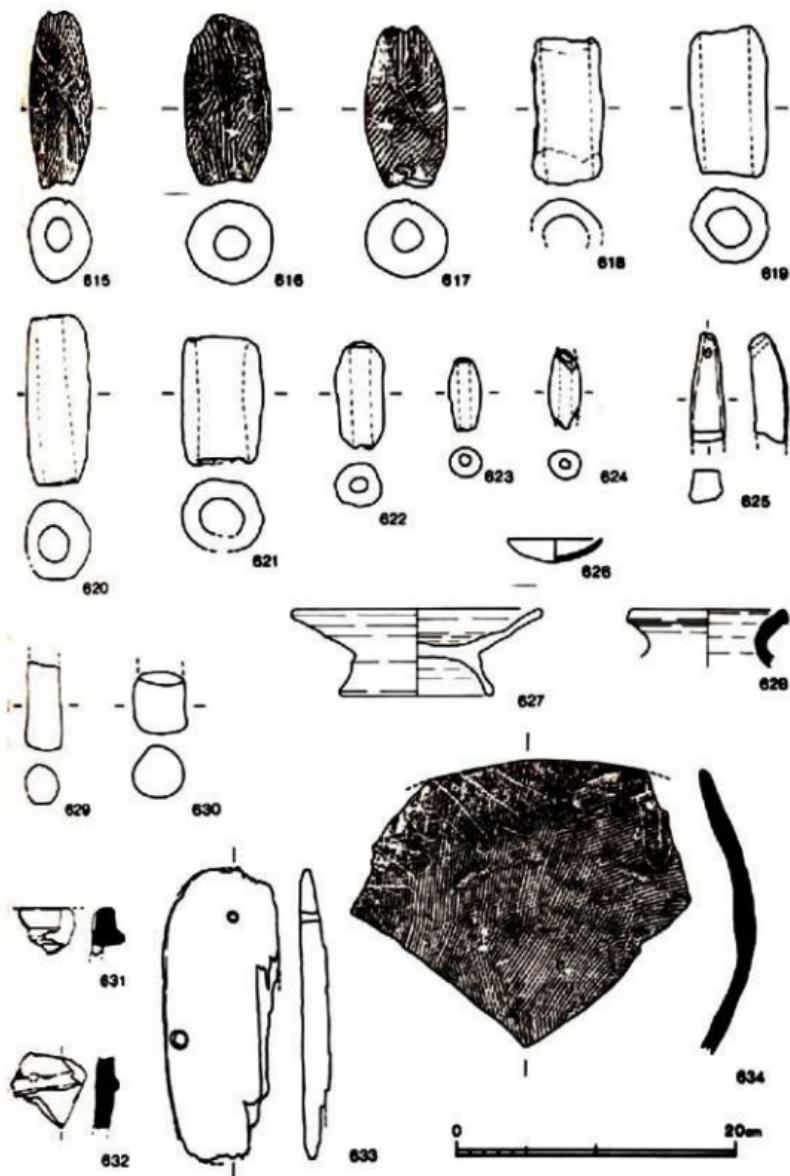
613



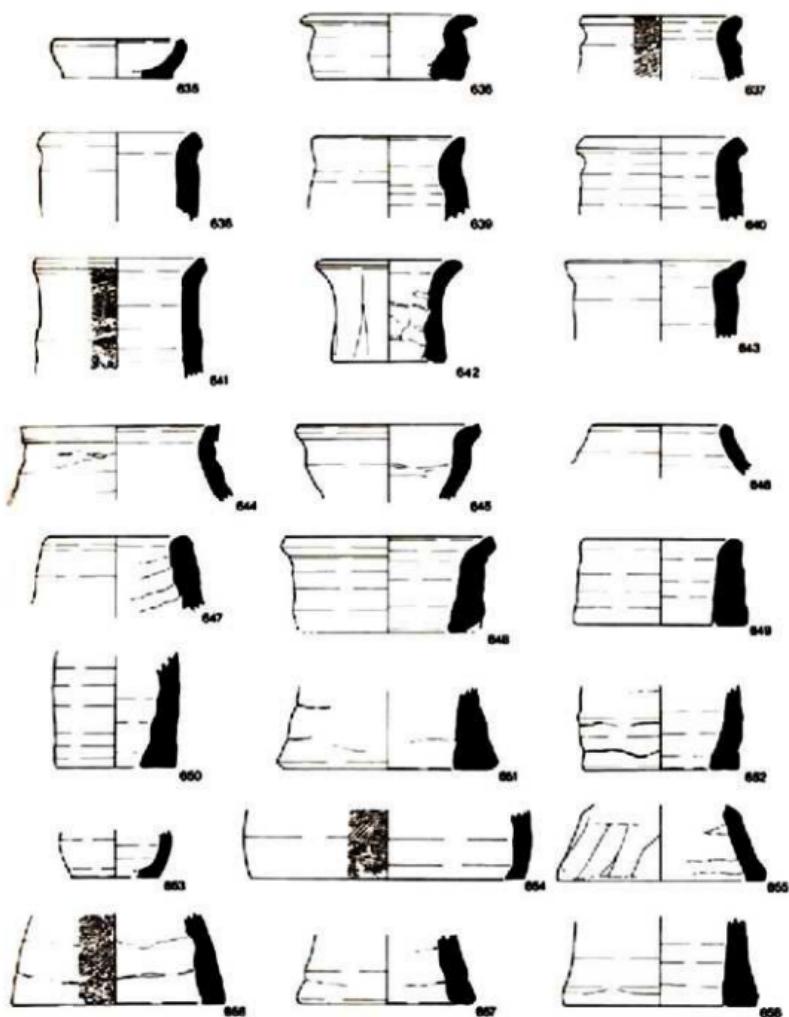
614



図版七二 遺物実測図（土錘・その他）

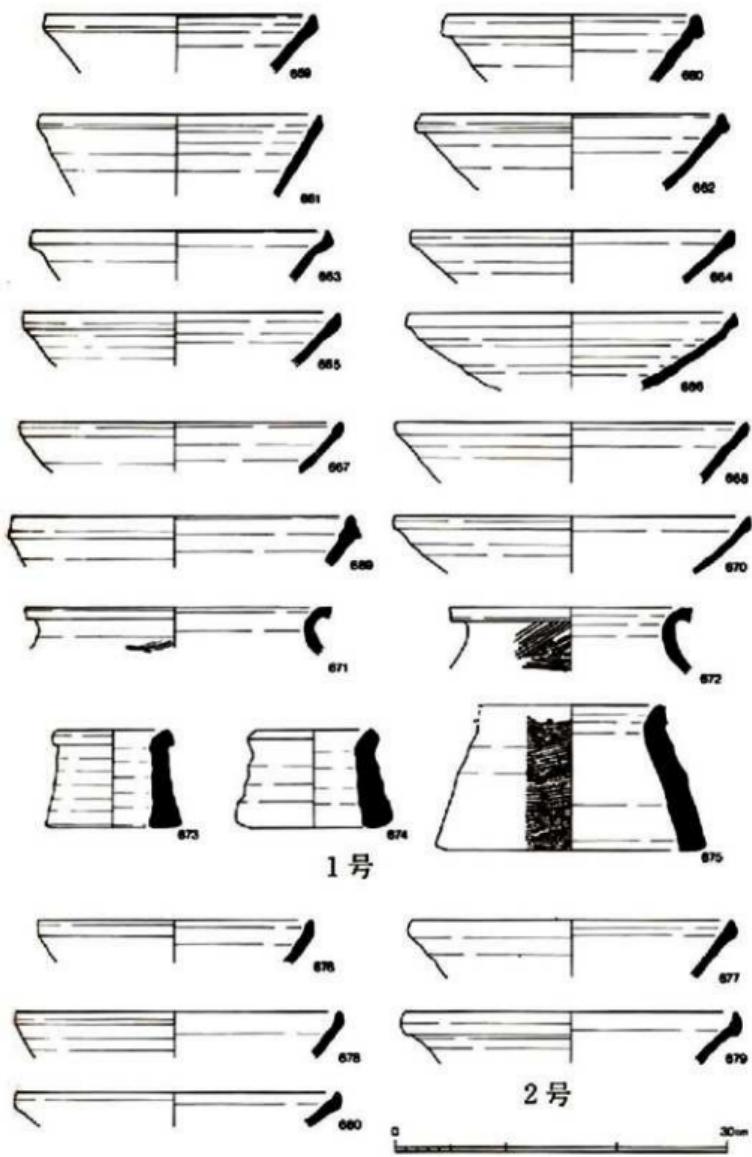


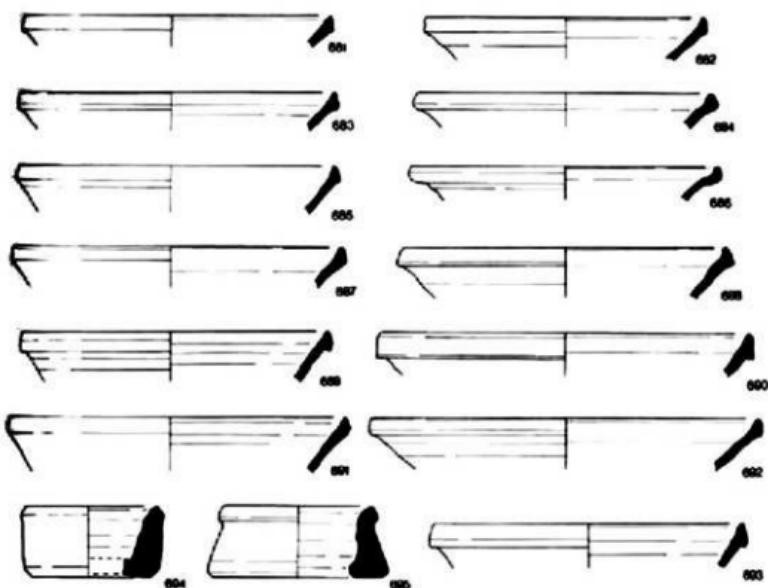
図版七三 遺物実測図（焼き台）



0 30mm

図版七四 遺物実測図（1号・2号）





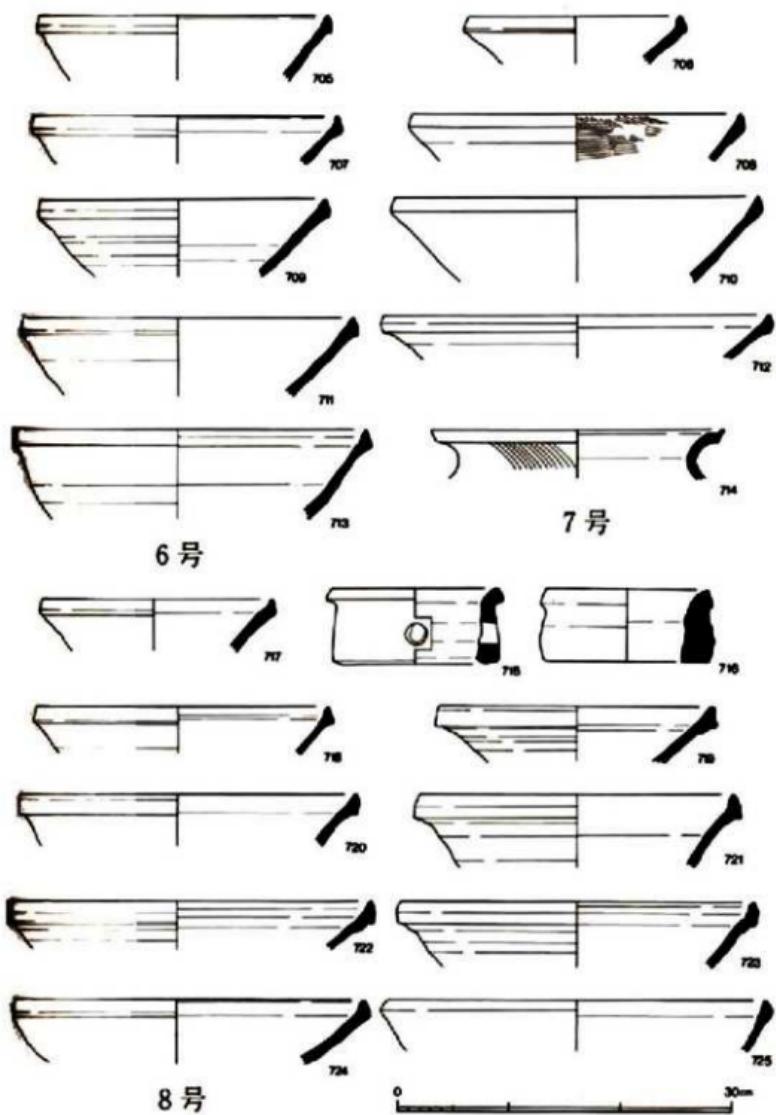
3号

4号

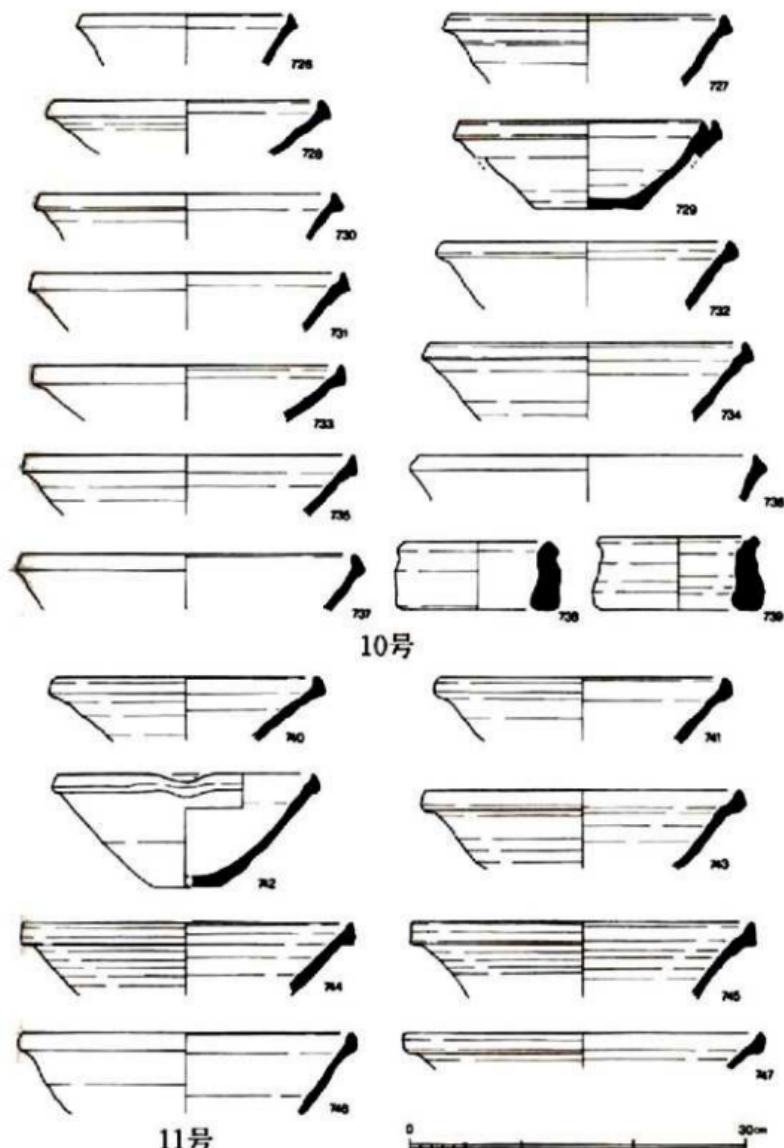
5号



図版七六 遺物実測図（6号・7号・8号）

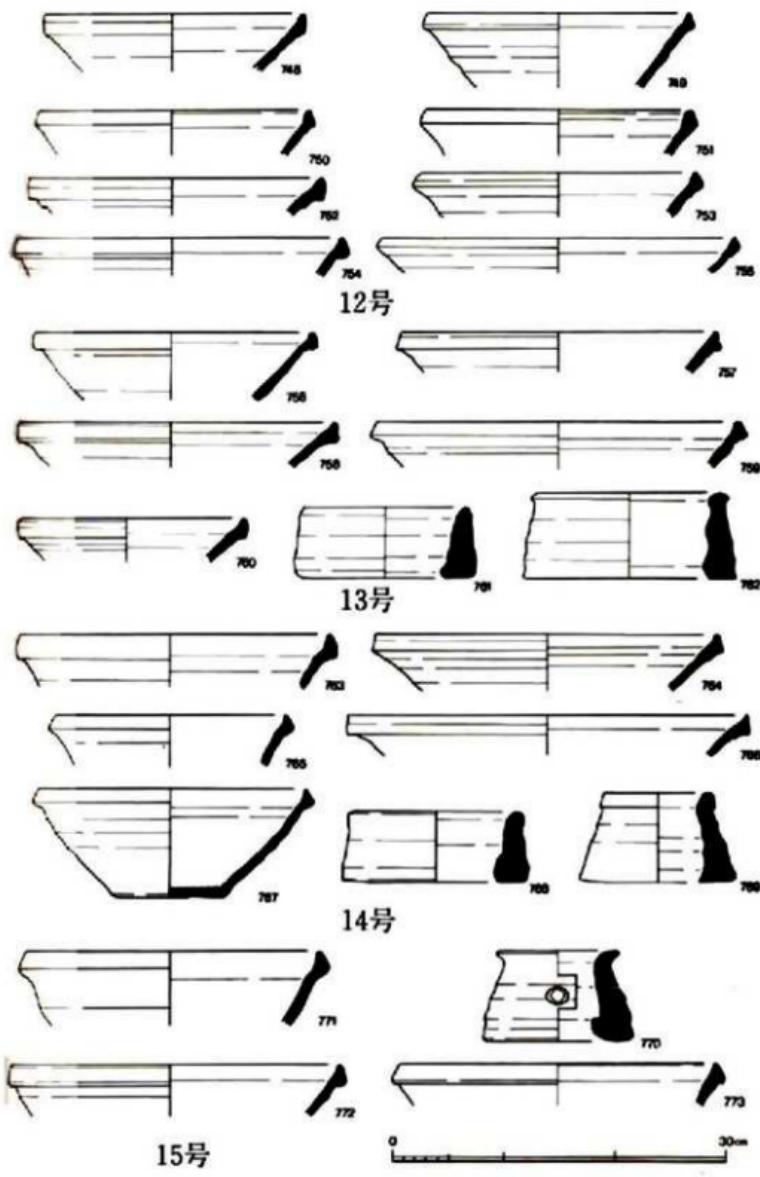


図版七七 遺物実測図（10号・11号）



図版七八

遺物実測図（12号・13号・14号・15号）



776

775

776

777

778

779

17号

780

781

782

783

784

785

786

787

788

789

790

18号

19号

794

793

795

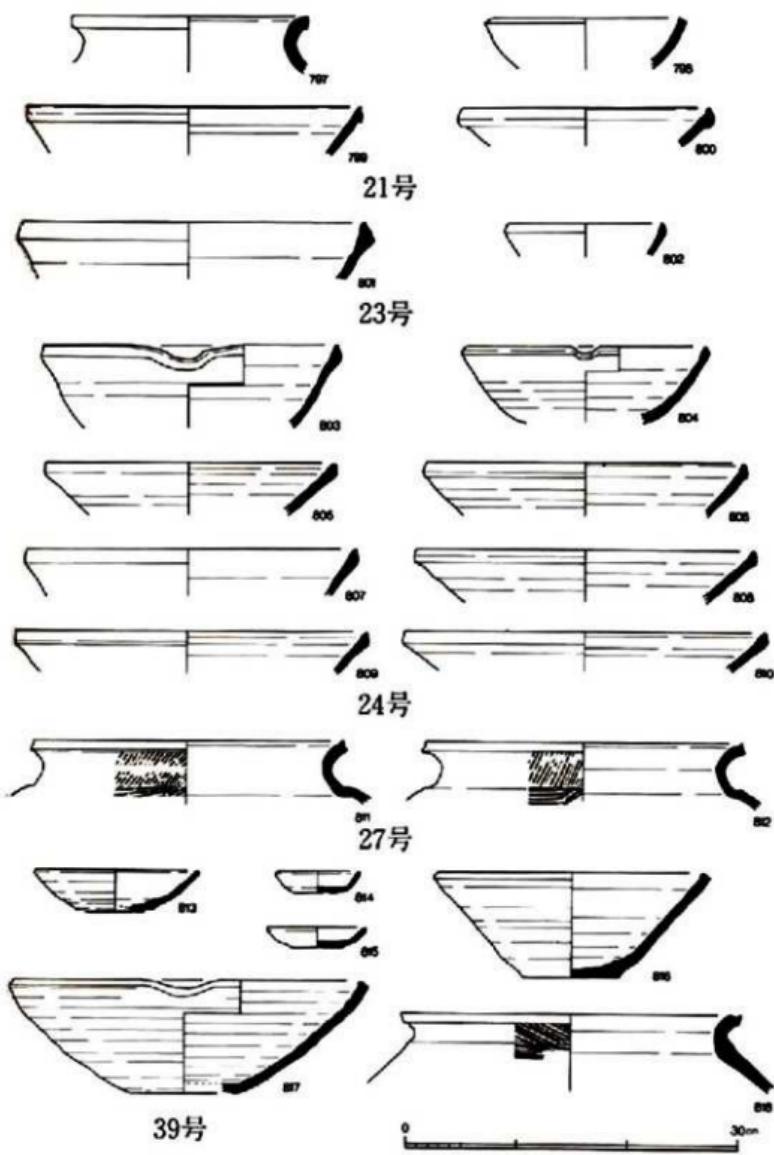
20号

796

30cm

図版八〇

遺物実測図（21号・23号・24号・27号・39号）





調査区（皿池から）



調査前西側斜面（東から）



調査前東側斜面（西から）



調査後西側斜面（東から）



38・29号窯全景（西から）



29号窯近景（西から）



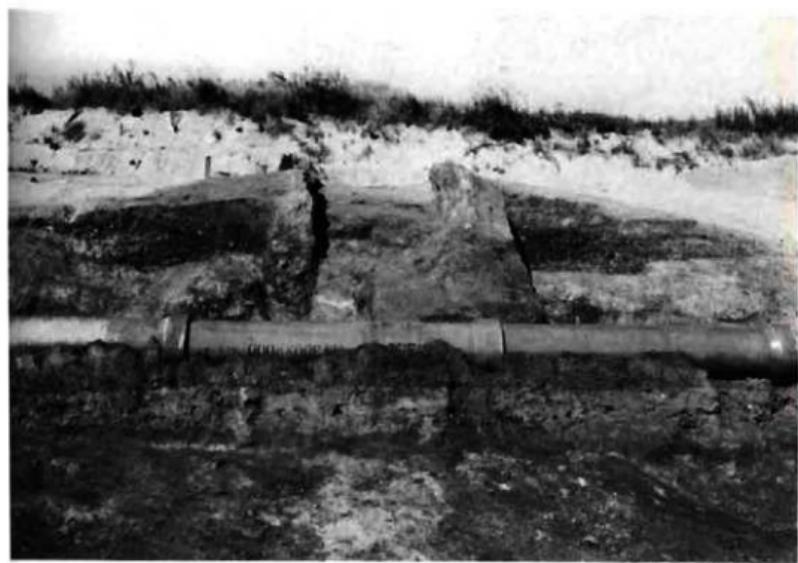
32号窯全景（東から）



33号窯全景（東から）



22号窯全景（東から）



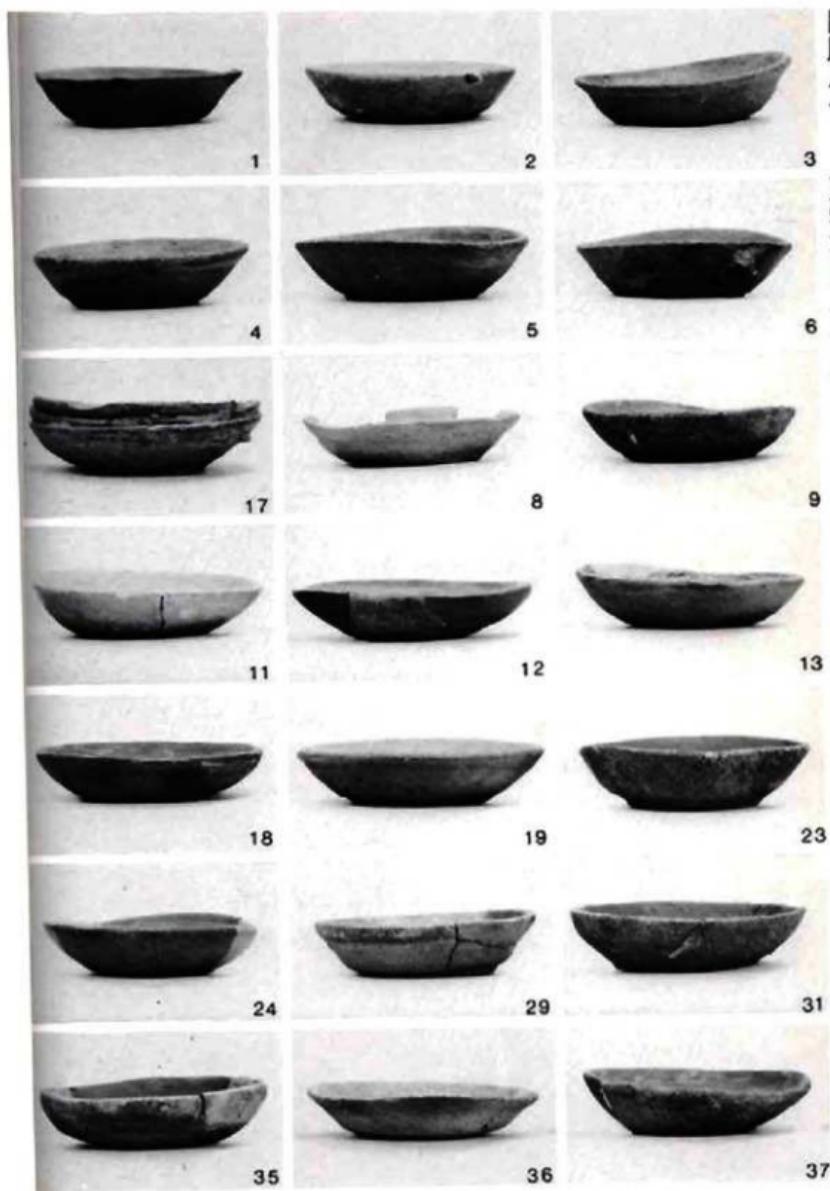
22号窯全景（東から）

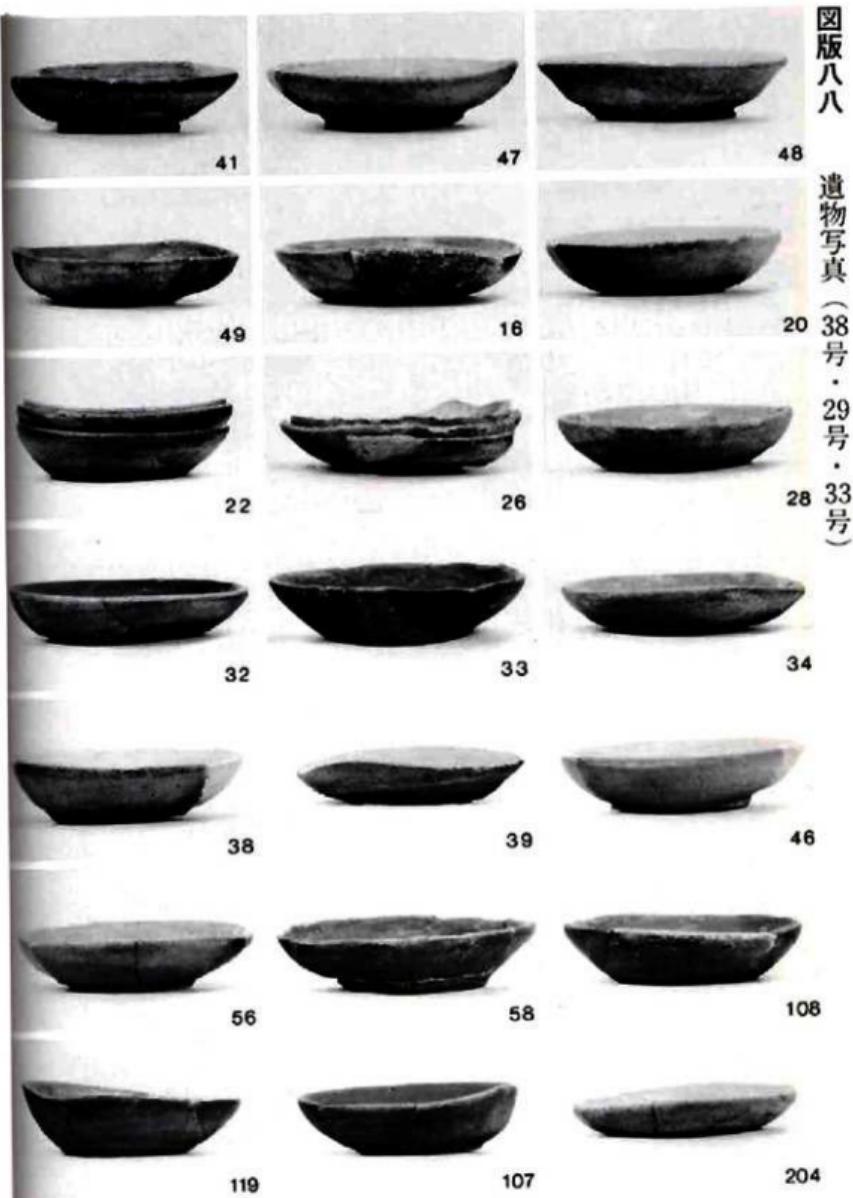


30号窯全景（東から）



30号窯近景（東から）







10



92



59



62



63



64



65



66



67



68



69



72



73



76



77



80



79



104



106



103



111



110



115



139



145



141



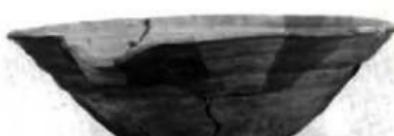
149



153



147



150



123



125



133



132



127



129



134



135



136



137



159



157



160



174



169



175



168



176



179



178



181



182



152



154



180



155



183



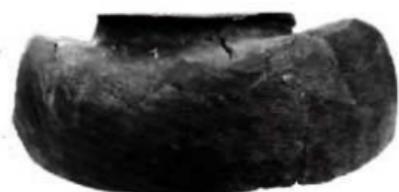
156



161



184



187



191



192



188



189



207



208



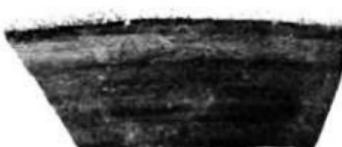
197



194



195



193



199



198



196



200



201



206



202



203



212



211



205



218



217



219



218



220



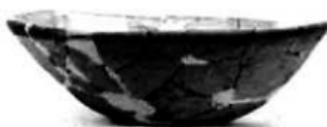
229



230



232



231



292



293



294



328



223



221



224



226



237



239



240



241



245



255

圖版一〇〇 遺物写真（22号）



250



249



254



243



252



247



244



257



261



262

図版一〇一 遺物写真 (22号)



342



344



335



346



330



331



338



336



329



339

図版一〇二 遺物写真（22号）



267



268



271



272



274



269

図版一〇三 遺物写真（22号）



270



273



278



285



286



284

図版一〇四 遺物写真（22号）



275



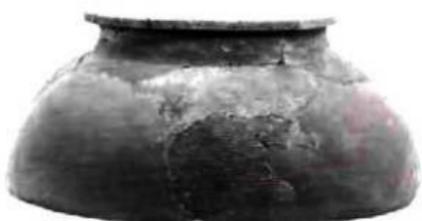
277



278



279



280



281



282

図版一〇五 遺物写真（22号）



311



318



314



303



363



364



圖版一〇六 遺物写真（22号）



349



359



358



367



356



353

図版一〇七 遺物写真（30号分）



370



371



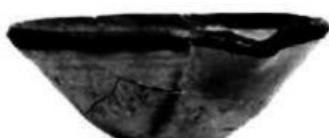
372



375



374



385



382



383



381



384

図版一〇八 遺物写真 (30号)



387



389



396



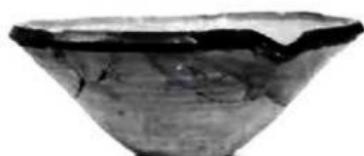
388



386



393



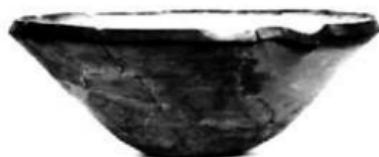
397



394

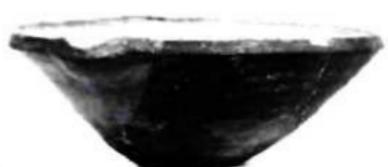


391



405

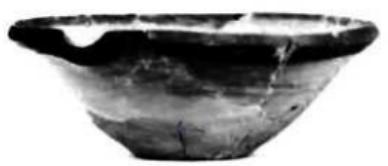
図版一〇九 遺物写真（30号）



392



420



402



414



410



429



422



424



425



431

図版一〇 遺物写真（30号）



437



442



440



439



446



454



449



451



455



452

圖版一一
遺物寫真（30号）



458



379



376

369



530

368



378

526

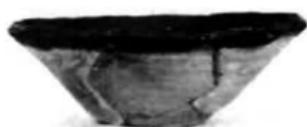


380



528

図版一二 遺物写真（30号）



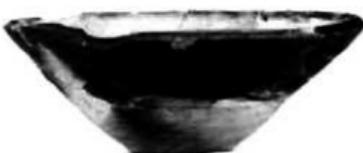
461



464



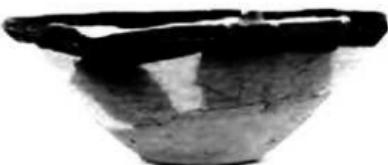
465



460



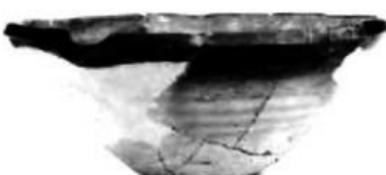
473



470



471



472

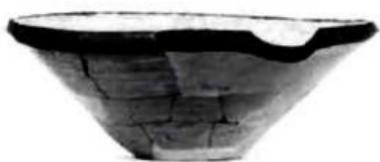


468



485

図版一三 遺物写真（30号）



480



479



491



481



497



474



477



492



488



499

図版一一四 遺物写真（30号）



500



495



494



496



498



531



532



535



533



536

図版一五 遺物写真（30号）



435



436



434



503



504



505

圖版一一六 遺物寫真（30号）



512



513



515



516



514



517

圖版一一七 遺物写真（30号）



511



502



508



509

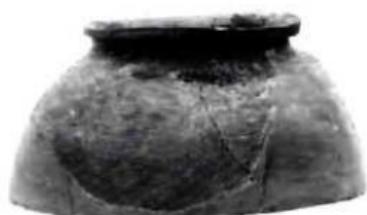


510



506

圖版一一八 遺物写真（30号）



537



540



541



542



543



544

圖版一九 遺物寫真（瓦1）



551



552



553



554



558



582

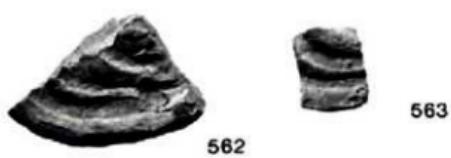


583



584

図版一二〇 遺物写真（瓦2）



578

579

581

圖版二二 遺物寫真（瓦3）



585

589

593



586

569

571

592

580



577

576

573

575

594

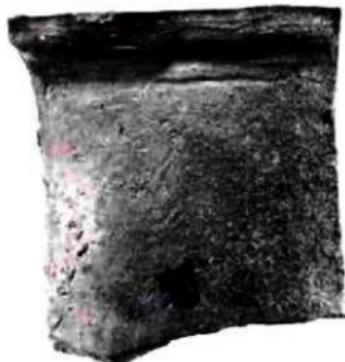
572

圖版二二一 遺物寫真（瓦4）



566

590





564



図版一二四 遺物写真（瓦6）



565



595

596

597

598

599

図版一二五 遺物写真（瓦7）



600



601

図版一二六 遺物写真（瓦8）



602



603



図版一二七 遺物写真（瓦9）



604



606

図版一二八 遺物写真（瓦10）



608



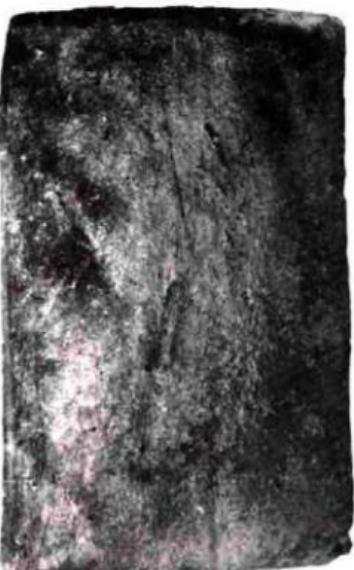
607



図版一二九 遺物写真（瓦11）



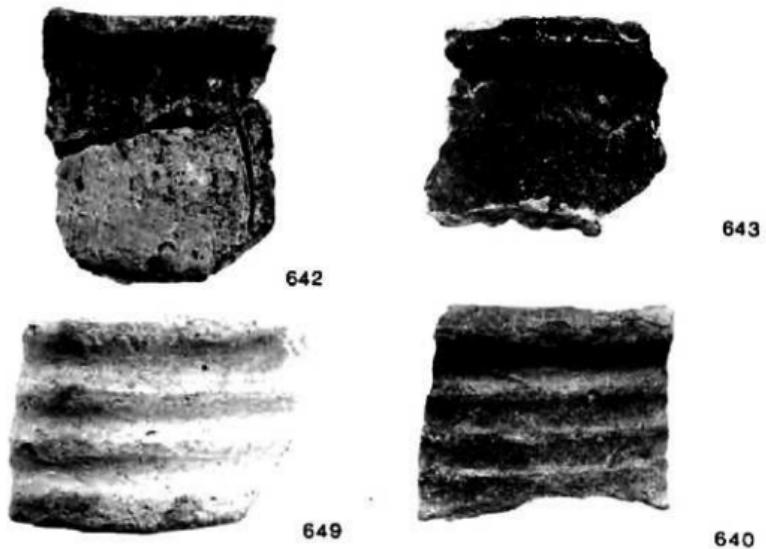
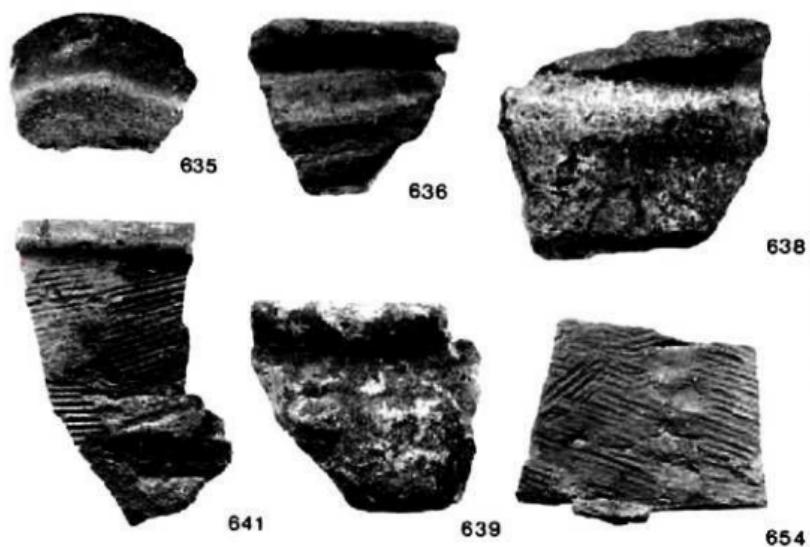
613

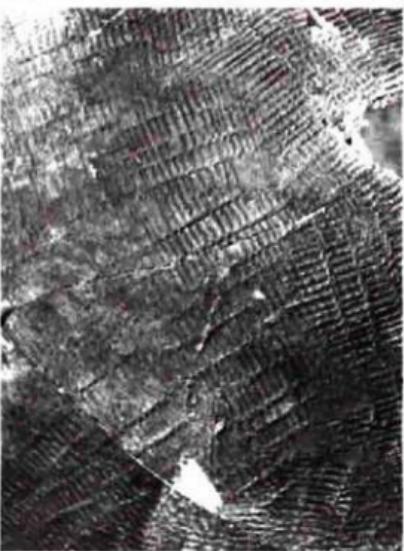
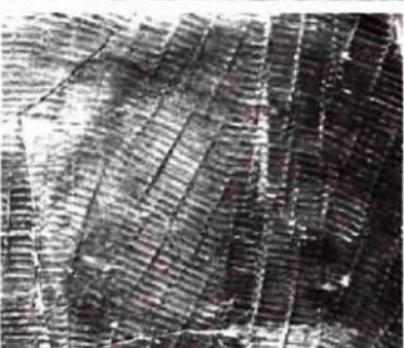
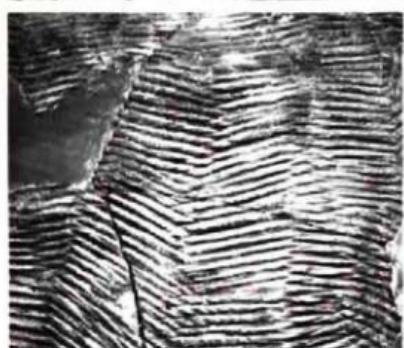
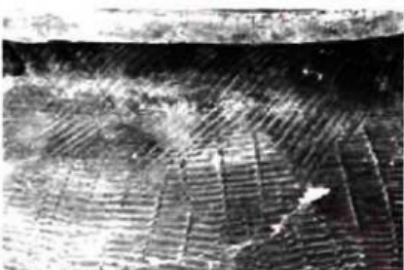
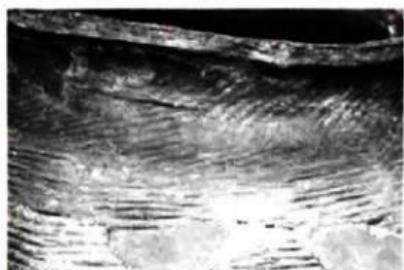


614



図版一三〇 遺物写真（焼き台）



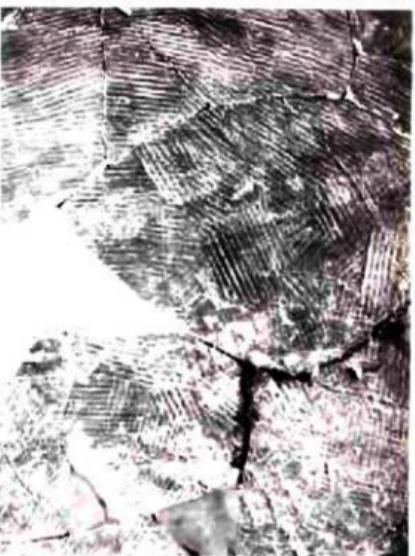
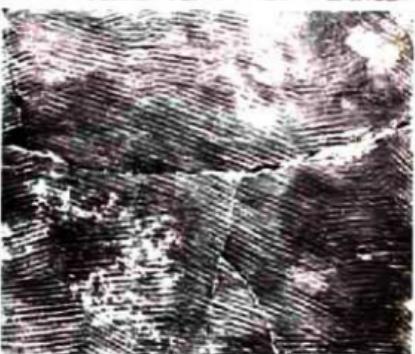
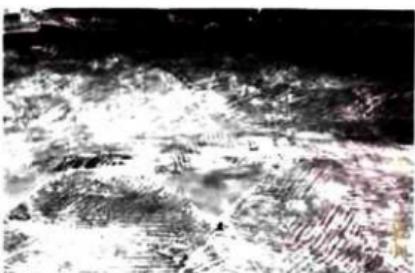


左 231-1 231-5 頭部・脚部・底部

右 231-2 231-6 頭部・脚部・底部

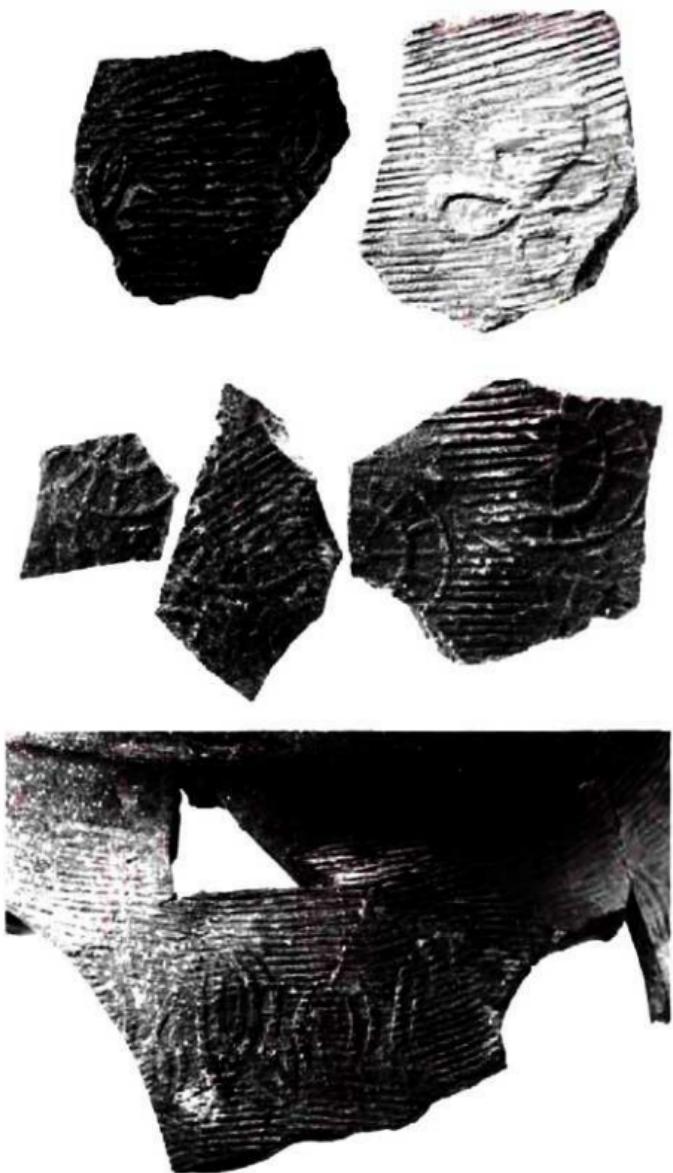


左 274 (上から) 頭部、胴部、底部



右 544 (上から) 頭部、胴部、底部

図版一三三 遺物写真（壓印印文）



図版一三四 遺物写真（費押印文・上鍾）



図版一三五 遺物写真（特殊遺物・10号・14号）



634



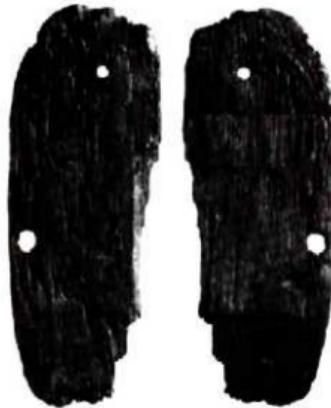
634



627



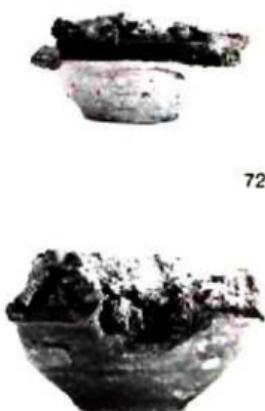
631



633



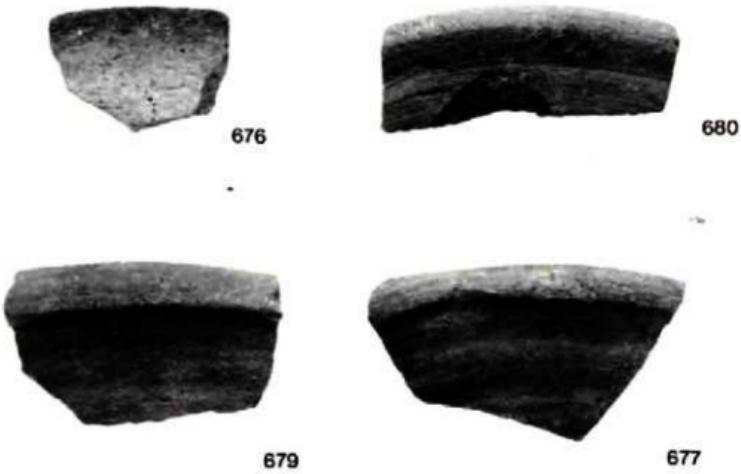
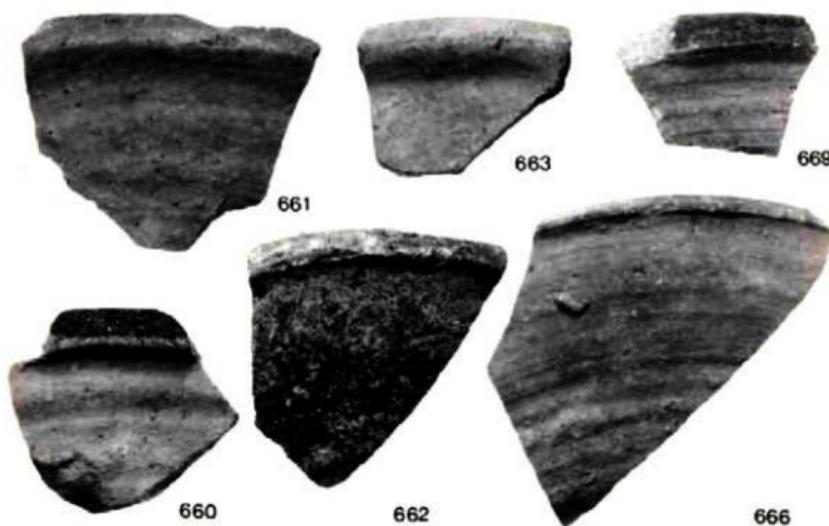
625



729

767

図版一三六 遺物写真（1号・2号）



図版一三七 遺物写真（3号・4号・5号）



693



688



696



682



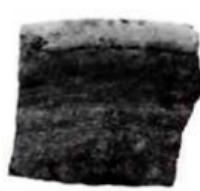
689



686



692



691



687



702



698



700



701



699



704

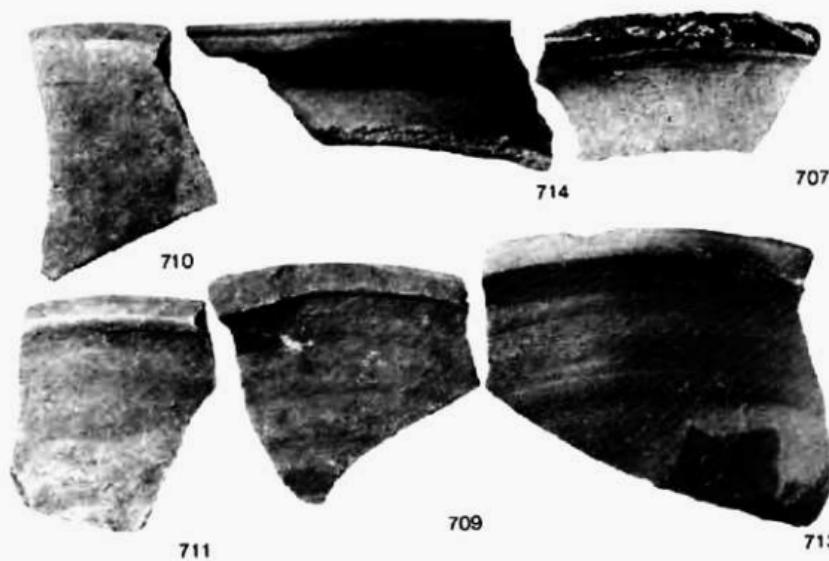


697



703

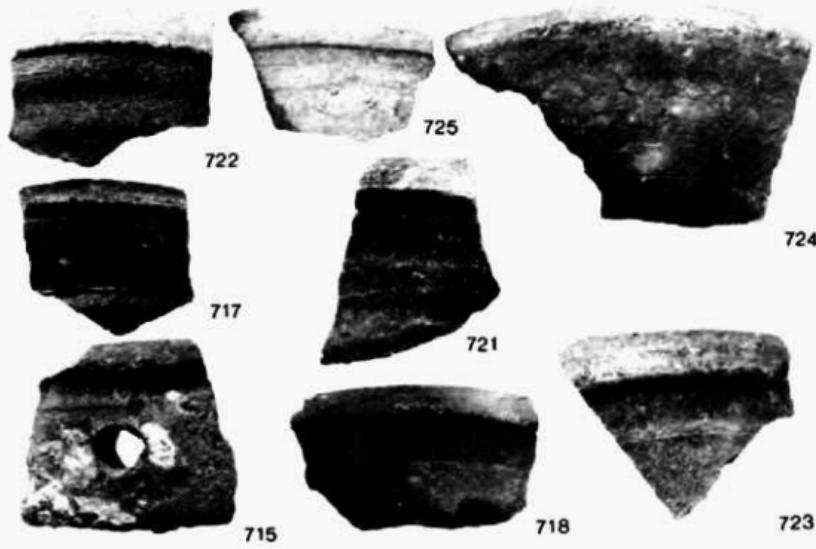
図版一三八 遺物写真（6号・7号・8号）



711

709

712

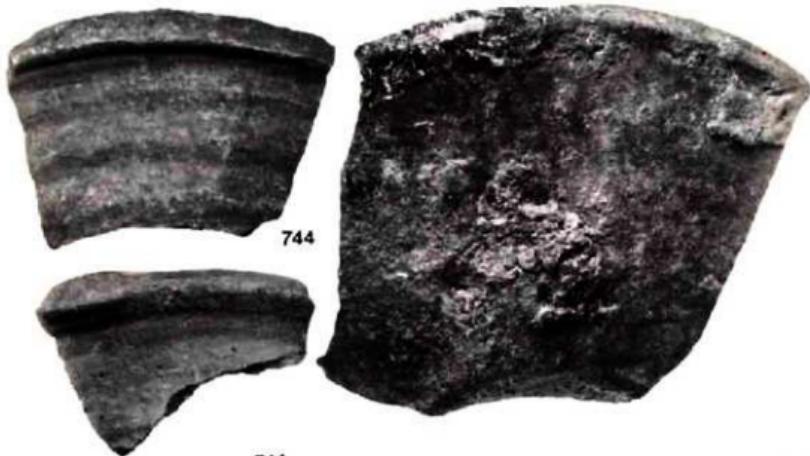


715

718

723

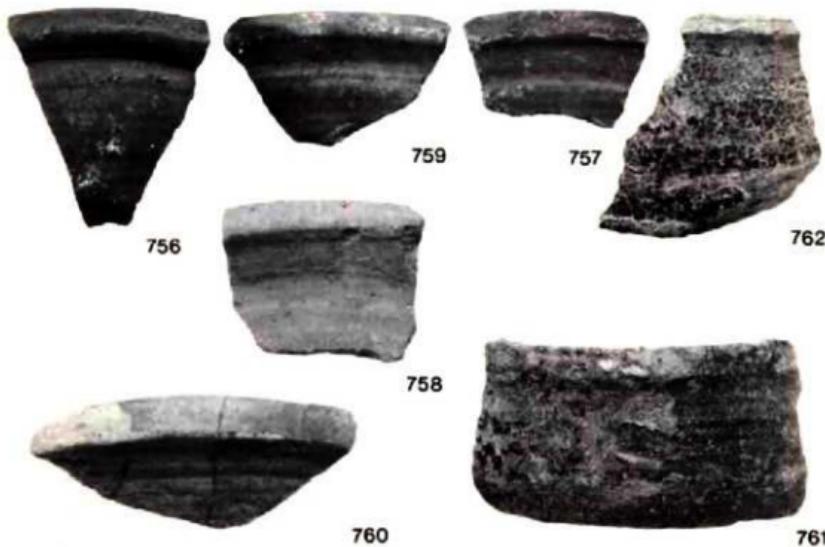
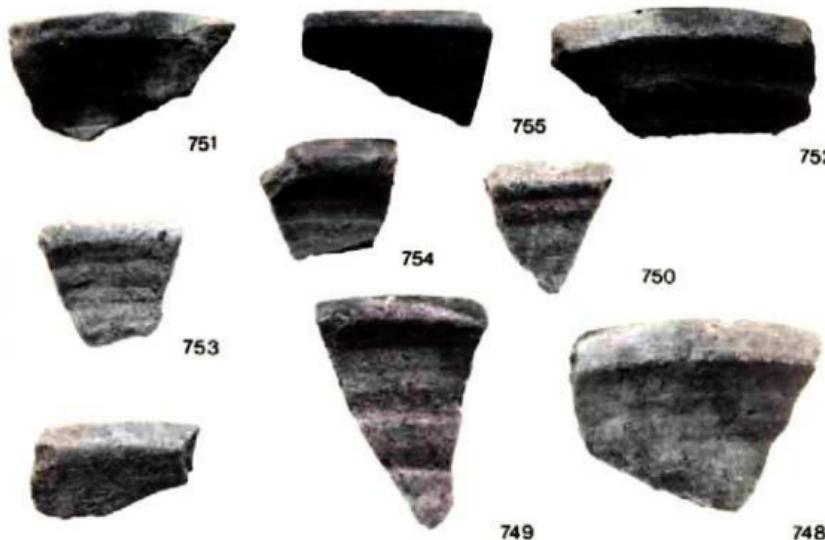
図版一三九 遺物写真（10号・11号）



741

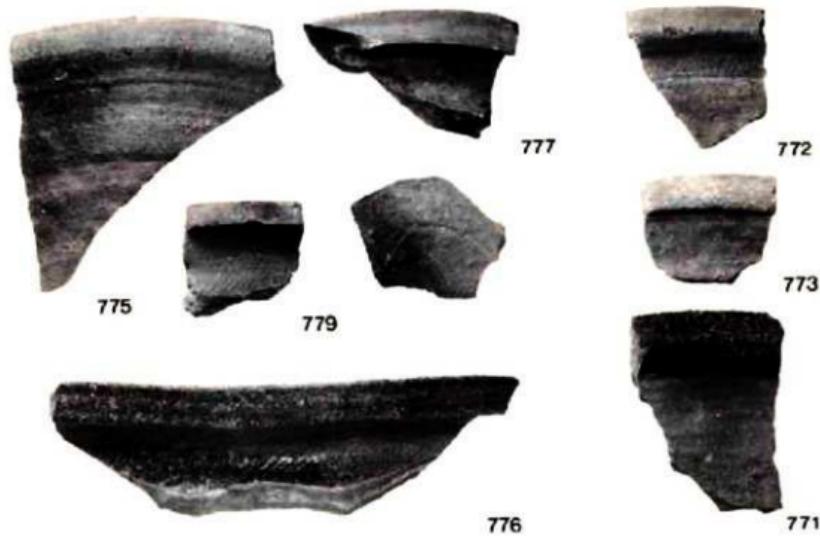
742

図版一四〇 遺物写真（12号・13号）



図版一四一

遺物写真（14号・15号・17号）



図版一四二

遺物写真

(18号・19号・20号・21号・23号)



787

783

789



788

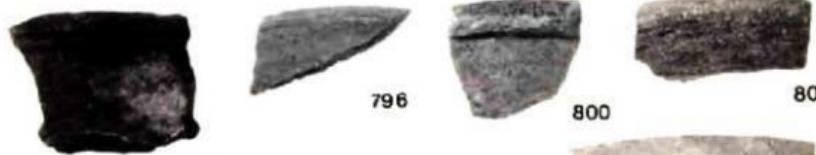
786

793



791

792



794

796

800

802



798



799



801



795



797

図版一四三 遺物写真 (24号・27号・39号)



804

812



803

809

806



818



図版一四四 遺物写真（海あがり鉢）



1



4



5



6



7



8



9



10



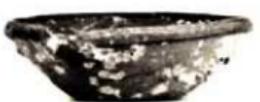
11



12



13



14



15



16

魚住古窯跡群

(図版編)

昭和58年3月31日発行

編集発行 兵庫県教育委員会
印刷 三ツ輪印刷工業株式会社